

博士課程修了者調査 2011:
我が国の博士課程における
研究指導・教育に関する調査研究

2012年12月

文部科学省 科学技術政策研究所

第1調査研究グループ

加藤 真紀 鐘ヶ江 靖史

茶山 秀一

RESEARCH MATERIAL No.217

Doctoral Graduates Survey 2011: Analysis on Research Training and Education in Doctoral Programs in Japanese University

December 2012

Maki Kato, Yasushi Kanegae, Hidekazu Chayama
1st Policy-Oriented Research Group
National Institute of Science and Technology Policy (NISTEP)
Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT)
Japan

本報告書の引用を行う際には、出典を明記願います。

博士課程修了者調査 2011: 我が国の博士課程における研究指導・教育に関する調査研究

加藤真紀 鐘ヶ江靖史 茶山秀一

文部科学省 科学技術政策研究所 第1調査研究グループ

要旨

本報告書は、大学院博士課程での研究指導の実態や課題の把握を目的とし2011年度に59大学を対象に年2回実施した調査の結果を取りまとめたものである(回答者数2,636人、有効回答率21.9%)。まず組織的に複数の教員から博士論文作成の日常的な指導を受けた者は約7割であり、彼らは研究能力を身につけたと考える割合や、大学院における満足度が高いことが明らかとなった。次に、自然科学系では人文・社会系よりも指導教員が博士論文のテーマ決定に積極的に関わることが示された。博士論文のテーマ決定に学生が積極的に関わる場合に、研究能力を身につけたと考える割合が多く、論文テーマの決定に指導教員が積極的に関わる場合に、サービスとしての大学院の満足度を高く評価する学生の割合が多い。また大学院(修士・博士)の授業のうち履修して良かったと思う授業が6割以上を占めると回答した学生は3割以下に留まることが示された。

Doctoral Graduates Survey 2011: Analysis on Research Training and Education in Doctoral Programs in Japanese University

Maki KATO, Yasushi KANEGAE, Hidekazu CHAYAMA

1st Policy-Oriented Research Group, National Institute of Science and Technology Policy (NISTEP), MEXT

ABSTRACT:

This report analyses the results of a survey that was conducted with the aim of understanding of the conditions of research guidance and education in doctoral programs, targeting 59 universities and implemented twice during fiscal year 2011. Data were collected on 2,636 doctoral graduates (rate of valid response is 21.9%). The results showed that seven of every ten respondents received regular systematic dissertation guidance from multiple advisors; they felt that they had acquired research skills more, and were highly satisfied with educational services of their graduate schools. The results also showed research advisors to be more actively involved in decisions on the topic of the dissertations in the natural sciences than in the humanities and social sciences. A larger percentage of students who were involved in deciding the topic of their dissertations actively felt that they had acquired research skills, and a larger percentage of students whose faculty advisors were involved in this decision actively were highly satisfied with their graduate schools. Additionally, the percentage of students who were highly satisfied 60 % or more with the classes they took in graduate school was below 30%.

目次

1. 調査実施の目的と手法	1
2. 回答者の属性	4
3. 博士課程への進学に関する意識	10
3.1 博士課程への進学を決めた時期	10
3.2 博士課程に進学した理由	12
3.3 博士課程への進学を決めた際に懸念した事項	17
4. 博士論文のテーマ決定	22
4.1 博士論文のテーマと分野	22
4.2 博士論文のテーマについて指導教員との間で合意をした時期	23
4.3 博士論文のテーマ決定への指導教員の関わり方	24
4.4 博士論文のテーマ決定と研究能力を身につけた度合いや修学の満足度等との関連	27
5. 博士論文の作成プロセス	34
5.1 博士課程修了の要件を知った時期	34
5.2 博士課程修了の要件を知った経路	38
5.3 博士論文を作成する際のメンバー	40
5.4 博士論文作成のプロセス管理	41
5.5 博士論文作成のプロセス管理と研究能力を身につけた度合いや修学の満足度等との関連	42
6. 博士論文の指導体制	47
6.1 研究室への所属と規模	47
6.2 博士論文の作成を日常的に指導した教員数	50
6.3 複数教員による博士論文作成の指導と研究能力を身につけた度合いや修学の満足度等との関連	52
6.4 複数教員による博士論文作成の日常的な指導の詳細	57
7. 大学院での研究活動や就職活動に対して影響を受けた者	63
7.1 専攻内での学生同士の自発的な議論	63
7.2 自身の研究や就職活動および将来の進路に対する影響の範囲	65
8. 大学院での修学に対する評価	71
8.1 指導教員に対する評価	71
8.2 大学院での授業や研究に対する評価	73
8.3 学位論文審査への認識	79
8.4 大学院での修学を通じて良かった点・不満だった点	80
8.5 大学院での修学を通じて身につけた研究能力	84
8.6 大学院での修学に価値があると思う度合い	87
9. 結果と考察	90
謝辞	92
調査業務の分担	92
参考資料	93
参考資料 1 博士論文テーマの分野と所属	93
参考資料 2 博士論文のテーマ決定とプロセス管理との関連	94

参考資料 3	自身の研究や就職活動および将来の進路に有益な影響を受けた者の所在	103
参考資料 4	調査依頼状	107
参考資料 5	質問票(日本語)	110
参考資料 6	質問票(英語)	145
参考資料 7	設問の回答率一覧	177
参考資料 8	アンケート単純集計データ一覧	180

図表目次

図表 1	対象学生へのアンケート周知方法	2
図表 2	本調査の回答者数(設置者別)	2
図表 3	調査対象大学でのアンケート回答者数	3
図表 4	博士区分(分野別)	4
図表 5	分野内訳(大分類)	4
図表 6	分野内訳(中分類)	5
図表 7	博士課程在籍時の学生種別(分野別)	5
図表 8	性別(分野別)	6
図表 9	性別(学生種別)	6
図表 10	国籍(分野別)	6
図表 11	博士課程修了後の就職予定(学生種別)	7
図表 12	博士課程修了後の就職予定(一般学生・分野別)	7
図表 13	博士課程修了後の進路(学生種別)	8
図表 14	博士課程修了後の進路(一般学生・分野別)	8
図表 15	博士課程修了後の国内所属機関(一般学生・分野別)	9
図表 16	博士課程への進学を決めた時期(学生種別)	10
図表 17	博士課程への進学を決めた時期(一般学生・分野別)	10
図表 18	博士課程への進学を決めた時期と課程修了後の進路(一般学生・職種別)	11
図表 19	博士課程への進学を決めた時期(社会人学生・分野別)	11
図表 20	博士課程への進学を決めた時期(留学生・分野別)	12
図表 21	博士課程へ進学した理由	12
図表 22	博士課程へ進学した理由(学生種別)	13
図表 23	博士課程へ進学した理由の順位	13
図表 24	博士課程へ進学した理由の順位(一般学生)	14
図表 25	博士課程へ進学した最も当てはまる理由(一般学生・分野別)	15
図表 26	博士課程へ進学した最も当てはまる理由と課程修了後の進路(一般学生・職種別)	15
図表 27	博士課程へ進学した理由の順位(社会人学生)	16
図表 28	博士課程へ進学した理由の順位(留学生)	16
図表 29	博士課程への進学を決めた際に懸念した事項	17
図表 30	博士課程への進学を決めた際に懸念した事項(学生種別)	17
図表 31	博士課程への進学を決めた際に懸念した事項の順位	18
図表 32	博士課程への進学を決めた際に懸念した事項の順位(一般学生)	18
図表 33	博士課程への進学を決めた際に最も懸念した事項(一般学生・分野別)	19
図表 34	博士課程への進学を決めた際に懸念した事項の順位(社会人学生)	20
図表 35	博士課程への進学を決めた際に最も懸念した事項(社会人学生・分野別)	20
図表 36	博士課程への進学を決めた際に懸念した事項の順位(留学生)	21
図表 37	博士論文のテーマに類する分野と博士課程での所属分野(大分類)	22
図表 38	博士論文のテーマとして選択した分野に占める所属専攻数の割合(中分類)	23
図表 39	博士論文のテーマについて指導教員と合意した時期(分野別)	23
図表 40	博士論文のテーマについて指導教員と合意した時期(学生種別)	24

図表 41	博士論文のテーマ決定への指導教員の関わり方(分野別)	24
図表 42	博士論文のテーマ決定への研究施設や研究室のテーマ方針の影響(分野別)	25
図表 43	博士論文のテーマ決定への研究施設や研究室のテーマ方針の影響がある場合の内訳	25
図表 44	博士論文のテーマ決定への指導教員の関わり方と研究施設や研究室のテーマ方針の影響	26
図表 45	博士論文のテーマ決定への指導教員の関わり方とテーマの合意時期	26
図表 46	博士論文のテーマ決定への指導教員の関わり方と博士論文に関連する分野数	27
図表 47	博士論文のテーマ決定と「自身や他者の発見を批判的に評価できる能力」を身につけたと考える度合い	28
図表 48	博士論文のテーマ決定と「自身の研究を専門分野の知識体系に位置づけることができる能力」を身につけたと考える度合い	28
図表 49	博士論文のテーマ決定と「専門分野の議論を批判的に理解し自身の仮説を明確に表現する能力」を身につけたと考える度合い	29
図表 50	博士論文のテーマ決定と「授業や論文指導など提供されたサービス自体」として大学院の価値があると思う度合い	30
図表 51	博士論文のテーマ決定と「自分自身に身につけたもの」として大学院の価値があると思う度合い	30
図表 52	博士論文のテーマ決定と「10年後の将来」において大学院の価値があると思う度合い	31
図表 53	大学院での修学を通じて良かった点と博士論文のテーマ決定	32
図表 54	大学院での修学を通じて不満だった点と博士論文のテーマ決定	32
図表 55	博士論文のテーマ決定と博士課程での主たる指導教員の教育・研究指導への評価	33
図表 56	博士課程修了の要件(投稿論文数、投稿先学術誌等)を知った時期(学生種別)	34
図表 57	博士課程修了の要件(投稿論文数、投稿先学術誌等)を知った時期(一般学生・分野別)	34
図表 58	博士課程修了の要件(投稿論文数、投稿先学術誌等)を知った時期(社会人学生・分野別)	35
図表 59	博士課程修了の要件(投稿論文数、投稿先学術誌等)を知った時期(留学生・分野別)	35
図表 60	博士課程修了の要件(取得単位数)を知った時期(学生種別)	36
図表 61	博士課程修了の要件(取得単位数)を知った時期(一般学生・分野別)	36
図表 62	博士課程修了の要件(取得単位数)を知った時期(社会人学生・分野別)	37
図表 63	博士課程修了の要件(取得単位数)を知った時期(留学生・分野別)	37
図表 64	博士課程修了の要件を知った経路(学生種別)	38
図表 65	博士課程修了の要件を知った経路(一般学生・分野別)	38
図表 66	博士課程修了の要件を知った経路(社会人学生・分野別)	39
図表 67	博士課程修了の要件を知った経路(留学生・分野別)	39
図表 68	博士論文作成の際の調査や研究を進める体制(分野別)	40
図表 69	博士論文作成の際の調査や研究を複数人で進める際のメンバーの所属	40
図表 70	博士論文作成のプロセス管理	41
図表 71	博士論文作成のプロセス管理の有無と博士号の取得(分野別)	41

図表 72	博士論文作成のプロセス管理への指導教員の関わり方(分野別)	42
図表 73	博士論文作成のプロセス管理への指導教員の関わり方と「自身や他者の発見を批判的に評価できる能力」を身につけたと考える度合い	43
図表 74	博士論文作成のプロセス管理への指導教員の関わり方と「自身の研究を専門分野の知識体系に位置づける能力」を身につけたと考える度合い	43
図表 75	博士論文作成のプロセス管理への指導教員の関わり方と「専門分野の議論を批判的に理解し自身の仮説を明確に表現する能力」を身につけたと考える度合い	44
図表 76	博士論文作成のプロセス管理への指導教員の関わり方と「授業や論文指導など提供されたサービス自体」として大学院の価値があると思う度合い	44
図表 77	博士論文作成のプロセス管理への指導教員の関わり方と「自分自身に身についたもの」として大学院の価値があると思う度合い	45
図表 78	博士論文作成のプロセス管理への指導教員の関わり方と「10年後の将来」において大学院の価値があると思う度合い	45
図表 79	指導教員の博士論文作成のプロセス管理への関わり方と博士課程での主たる指導教員の教育・研究指導に対する評価	46
図表 80	研究室への所属	47
図表 81	研究室の在籍人数(課程・学生種別)	47
図表 82	研究室の博士学生人数に対する無回答率(学生種別)	48
図表 83	研究室の学生数(分野別)	48
図表 84	研究室の教員人数	49
図表 85	研究室の教員人数(分野別)	49
図表 86	博士論文の作成を日常的に指導した教員数	50
図表 87	博士論文の作成を日常的に指導した教員のうち主たる指導教員の所属	50
図表 88	博士論文の作成を日常的に指導した教員のうち論文審査をした教員数(分野別)	51
図表 89	博士論文の審査のみを担当した教員数	51
図表 90	博士論文作成を日常的に指導した教員に占める論文審査をした教員数と審査のみを担当した教員数	51
図表 91	複数教員による博士論文作成の日常的な指導状況	52
図表 92	複数教員による博士論文作成の日常的な指導状況(分野別)	52
図表 93	複数教員による博士論文作成の指導と「自身や他者の発見を批判的に評価できる能力」を身につけたと考える度合い	53
図表 94	複数教員による博士論文作成の指導と「自身の研究を専門分野の知識体系に位置づけることができる能力」を身につけたと考える度合い	53
図表 95	複数教員による博士論文作成の指導と「専門分野の議論を批判的に理解し自身の仮説を明確に表現する能力」を身につけたと考える度合い	54
図表 96	複数教員による博士論文作成の指導と「授業や論文指導など提供されたサービス自体」として大学院の価値があると思う度合い	54
図表 97	複数教員による博士論文作成の指導と「自分自身に身についたもの」として大学院の価値があると思う度合い	55
図表 98	複数教員による博士論文作成の指導と「10年後の将来」において大学院の価値があると思う度合い	55

図表 99	複数教員による博士論文作成の指導と大学院での修学を通じて良かった点	56
図表 100	複数教員による博士論文作成の指導と大学院での修学を通じて不満だった点	57
図表 101	複数指導教員制度と論文作成の指導が行われた場の位置づけ	57
図表 102	複数指導教員制度の有無と制度の活用(分野別)	58
図表 103	複数指導教員制度の論文作成への影響	58
図表 104	複数指導教員制度を活用するメリットとデメリット	59
図表 105	博士論文作成の指導形式(分野別)	60
図表 106	博士論文作成の指導形式と頻度	61
図表 107	博士論文作成の指導が行われた場の重複	61
図表 108	博士論文作成の指導が行われた場の重複(分野別)	62
図表 109	学生が他の教員等からアドバイスを求めることに対する指導教員の後押し	62
図表 110	学生同士の自発的な議論の有無	63
図表 111	学生同士の自発的な議論と研究室の者からの研究への有益な影響	63
図表 112	学生同士の自発的な議論と研究室の者からの研究への有益な影響(研究室に複数の学生が所属する場合)	64
図表 113	学生同士の自発的な議論と「授業や論文指導など提供されたサービス自体」として大学院の価値があると思う度合い	64
図表 114	学生同士の自発的な議論と「自分自身の身についたもの」として大学院の価値があると思う度合い	64
図表 115	学生同士の自発的な議論と「10年後の将来」において大学院の価値があると思う度合い	65
図表 116	研究室に所属する博士一般学生の数と学生同士の自発的な議論	65
図表 117	自身の研究に対して有益な影響を受けた者の所属(学生種別)	66
図表 118	自身の研究に対して有益な影響を受けた者の所属(一般学生・分野別)	66
図表 119	自身の研究に対して有益な影響を受けた者の範囲(一般学生)	67
図表 120	就職活動に対して有益な影響を受けた者の所属(学生種別)	68
図表 121	就職活動に対して有益な影響を受けた者の所属(一般学生・分野別)	68
図表 122	就職活動に対して有益な影響を受けた者の範囲(一般学生)	69
図表 123	将来の進路に対して有益な影響を受けた者の所属(学生種別)	69
図表 124	将来の進路に対して有益な影響を受けた者の所属(一般学生・分野別)	70
図表 125	将来の進路に対して有益な影響を受けた者の範囲(一般学生)	70
図表 126	博士課程での主たる指導教員の教育・研究指導の評価(学生種別)	71
図表 127	博士課程での主たる指導教員の教育・研究指導の評価(分野別)	71
図表 128	主たる指導教員との対立や軋轢の有無(学生種別)	72
図表 129	主たる指導教員との対立や軋轢の有無(分野別)	72
図表 130	主たる指導教員との対立や軋轢と指導教員の教育・研究指導に対する評価	73
図表 131	大学院で履修した授業と研究を重視する度合い(学生種別)	73
図表 132	大学院で履修した授業と研究を重視する度合い(分野別)	74
図表 133	大学院で履修した授業のうち履修して良かったと思う授業の割合(学生種別)	74
図表 134	大学院で履修した授業のうち履修して良かったと思う授業の割合(分野別)	75
図表 135	大学院で履修した授業のうち履修して良かったと思う授業の割合と授業と研究を重視す	

	る度合い.....	75
図表 136	大学院で履修した授業のうち良かったと思う授業の割合と「自身や他者の発見を批判的に評価できる能力」を身につけたと考える度合い.....	76
図表 137	大学院で履修した授業のうち良かったと思う授業の割合と「自身の研究を専門分野の知識体系に位置づけることができる能力」を身につけたと考える度合い.....	76
図表 138	大学院で履修した授業のうち良かったと思う授業の割合と「専門分野の議論を批判的に理解し自身の仮説を明確に表現する能力」を身につけたと考える度合い.....	77
図表 139	大学院で履修した授業のうち良かったと思う授業の割合と「授業や論文指導など提供されたサービス自体」として大学院の価値があると思う度合い.....	77
図表 140	大学院で履修した授業のうち良かったと思う授業の割合と「自分自身に身につけたもの」として大学院の価値があると思う度合い.....	78
図表 141	大学院で履修した授業のうち良かったと思う授業の割合と「10年後の将来」において大学院の価値があると思う度合い.....	78
図表 142	履修して良かった授業の内容.....	79
図表 143	学位論文の審査の厳正さ(学生種別).....	79
図表 144	学位論文の審査の厳正さ(一般学生・分野別).....	80
図表 145	大学院での修学を通じて良かった点.....	80
図表 146	大学院(修士課程)での修学を通じて良かった点(学生種別).....	81
図表 147	大学院(博士課程)での修学を通じて良かった点(学生種別).....	81
図表 148	大学院での修学を通じて不満だった点.....	82
図表 149	大学院(修士課程)での修学を通じて不満だった点(学生種別).....	83
図表 150	大学院(博士課程)での修学を通じて不満だった点(学生種別).....	83
図表 151	「自身や他者の発見を批判的に評価できる能力」を身につけたと考える度合い.....	84
図表 152	「自身の研究を専門分野の知識体系に位置づけることができる能力」を身につけたと考える度合い.....	84
図表 153	「専門分野の議論を批判的に理解し自身の仮説を明確に表現する能力」を身につけたと考える度合い.....	85
図表 154	「自身や他者の発見を批判的に評価できる能力」を身につけたと考える度合いと査読付き筆頭著者論文数.....	85
図表 155	「自身の研究を専門分野の知識体系に位置づけることができる能力」を身につけたと考える度合いと査読付き筆頭著者論文数.....	86
図表 156	「専門分野の議論を批判的に理解し自身の仮説を明確に表現する能力」を身につけたと考える度合いと査読付き筆頭著者論文数.....	86
図表 157	「授業や論文指導など提供されたサービス自体」として大学院の価値があると思う度合い(学生種別).....	87
図表 158	「授業や論文指導など提供されたサービス自体」として大学院の価値があると思う度合い(分野別).....	87
図表 159	「自分自身に身につけたもの」として大学院の価値があると思う度合い(学生種別).....	88
図表 160	「自分自身に身につけたもの」として大学院の価値があると思う度合い(分野別).....	88
図表 161	「10年後の将来」において大学院の価値があると思う度合い(学生種別).....	89
図表 162	「10年後の将来」において大学院の価値があると思う度合い(分野別).....	89

参考図表目次

参考図表 1	博士論文のテーマに類する分野と所属分野(中分類)	93
参考図表 2	博士論文のテーマ決定別に見た論文作成のプロセス管理	94
参考図表 3	博士論文のテーマ決定と論文作成のプロセス管理の方法の組み合わせ	95
参考図表 4	博士論文のテーマ決定・プロセス管理(分野別)	95
参考図表 5	博士論文のテーマ決定・プロセス管理	96
参考図表 6	博士論文のテーマ決定・プロセス管理(研究指導への教員が関わった度合い)と博士 号の有無	96
参考図表 7	博士論文のテーマ決定・プロセス管理と研究を受けた範囲	97
参考図表 8	博士論文のテーマ決定・プロセス管理と「自身や他者の発見を批判的に評価できる能 力」を身につけたと考える度合い	98
参考図表 9	博士論文のテーマ決定・プロセス管理と「自身の研究を専門分野の知識体系に位置 づけることができる能力」を身につけたと考える度合い	98
参考図表 10	博士論文のテーマ決定・プロセス管理と「専門分野の議論を批判的に理解し自身の 仮説を明確に表現する能力」を身につけたと考える度合い	99
参考図表 11	博士論文のテーマ決定・プロセス管理と研究実施体制	99
参考図表 12	博士論文のテーマ決定・プロセス管理と査読付筆頭著者論文数	100
参考図表 13	博士論文のテーマ決定・プロセス管理と学位の有無(分野別)	101
参考図表 14	査読付き筆頭著者論文数(分野別)	102
参考図表 15	自身の研究に対して有益な影響を受けた者の所在	103
参考図表 16	自身の研究に対して有益な影響を受けた者の所在(一般学生・分野別)	104
参考図表 17	自身の研究に対して有益な影響を受けた者の所在と国内学会発表数	104
参考図表 18	就職活動に対して有益な影響を受けた者の所在	105
参考図表 19	就職活動に対して有益な影響を受けた者の所在(一般学生・分野別)	105
参考図表 20	将来の進路に対して有益な影響を受けた者の所在	106
参考図表 21	将来の進路に対して有益な影響を受けた者の所在(一般学生・分野別)	106

概要

科学技術政策研究所は、2010年度と2011年度の2度にわたり我が国の博士課程修了者を主な対象として調査を行った。このうち2010年度の調査を基に、修学と経済状況(調査資料206)や就職意識・活動(調査資料212)に関する報告書を公表した。本報告書は、2011年度の調査を基に、博士課程修了者が受けた研究指導と教育に関する分析結果を取りまとめたものである。

1. 調査の目的と手法

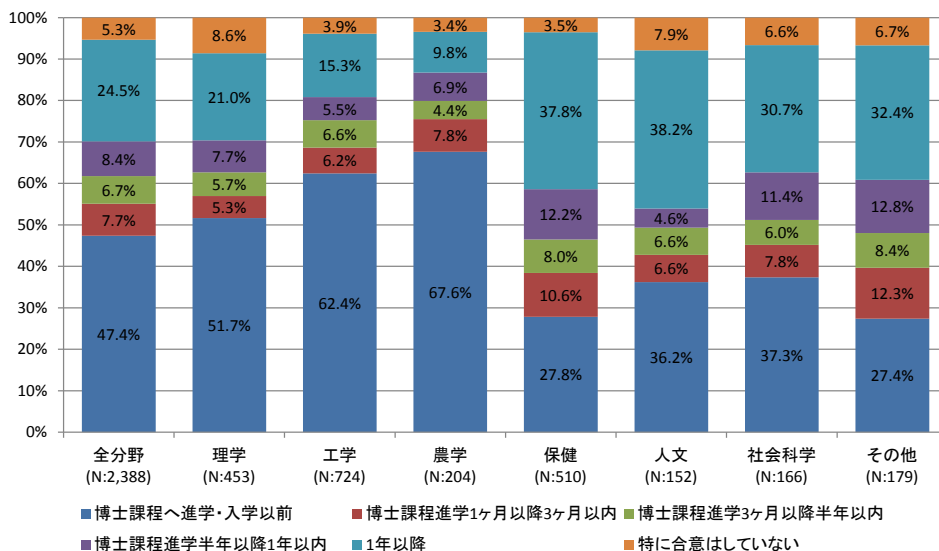
博士課程修了者が社会の多様な場で活躍するために、大学院には高い専門性と幅広い視野を備え、優れた研究・開発能力を持つ人材を養うことが求められている。科学技術政策研究所は、大学院博士課程での研究指導や教育の実態把握を主な目的として、国内の比較的規模が大きい59大学を対象に2011年度の主に9月と3月の2回にわたり調査を実施した(2011年度の学校基本調査によれば、本調査が対象とした大学の修了者は2010年度的全博士課程修了者のうち74.5%を占める)。回答者数(博士課程修了者と満期退学者を含む)は2,636人だった(有効回答率21.9%)。以下では各設問の無回答者を除いた結果を示す。

2. 博士論文のテーマ決定

2.1 博士学生が博士論文のテーマについて指導教員と合意した時期を見ると、工学と農学分野では進学以前の者が6割を超え、保健や「その他」分野では進学以降の者が6割を超える。

博士論文のテーマについて指導教員と合意した時期を見ると(概要図表1)、全分野では博士課程への進学・入学以前と以降がほぼ半数ずつを占める。分野別に見ると、工学や農学分野では進学・入学以前に合意した者が6割を超え、保健や「その他」では進学以降に合意した者が6割を超える。保健、人文、社会科学、「その他」の4分野では、進学後1年以降に合意した者が3割を超える。

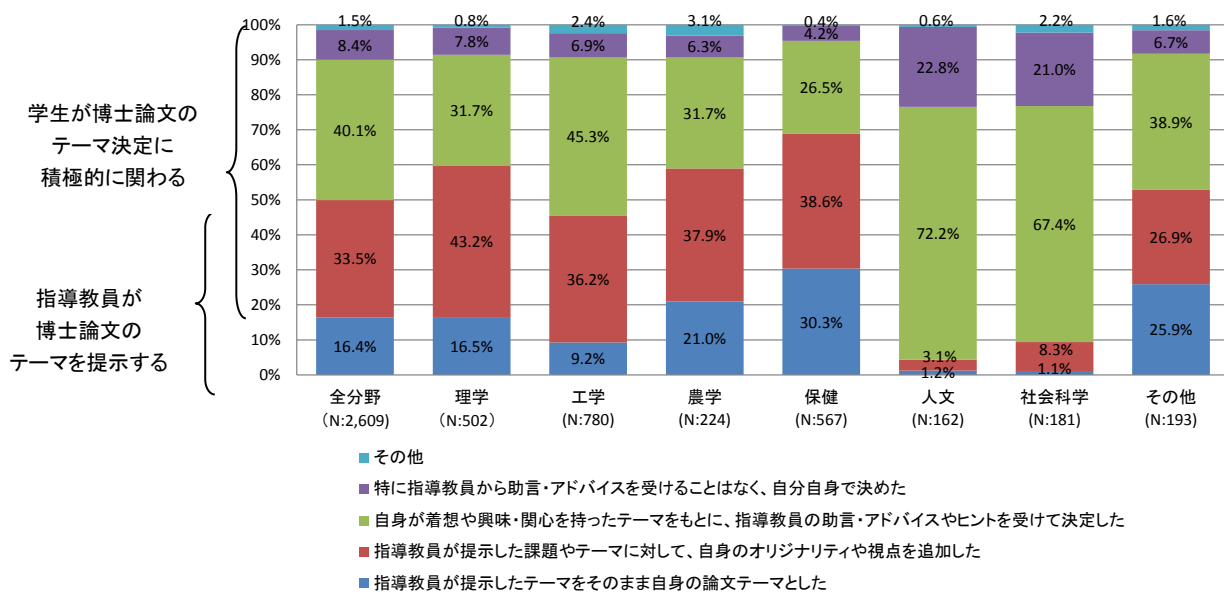
概要図表 1 博士論文のテーマについて指導教員と合意した時期(分野別)



2.2 自然科学系では、人文・社会系よりも指導教員が博士論文のテーマを提示する割合が高い。

博士論文のテーマは、学生と指導教員の間で決まると考えられる。博士論文のテーマを決める過程での学生と指導教員の関わり方を分野別に見ると(概要図表 2)、自然科学系では、指導教員が博士論文のテーマを提示した割合が多く、最も多い保健分野で約7割、最も少ない工学でも5割弱を占める。一方、人文・社会科学では学生自身が着想や興味・関心を持ったテーマをもとに教員からのアドバイスを受けて決定した者が最も多く約7割であり、指導教員から助言を受けずに決めた者が2割強を占める。指導教員の関わり方が分野間で大きく異なるのは、博士論文のテーマ決定に研究設備等が影響を与えるためと考えられる。

概要図表 2 博士論文のテーマ決定への指導教員の関わり方(分野別)

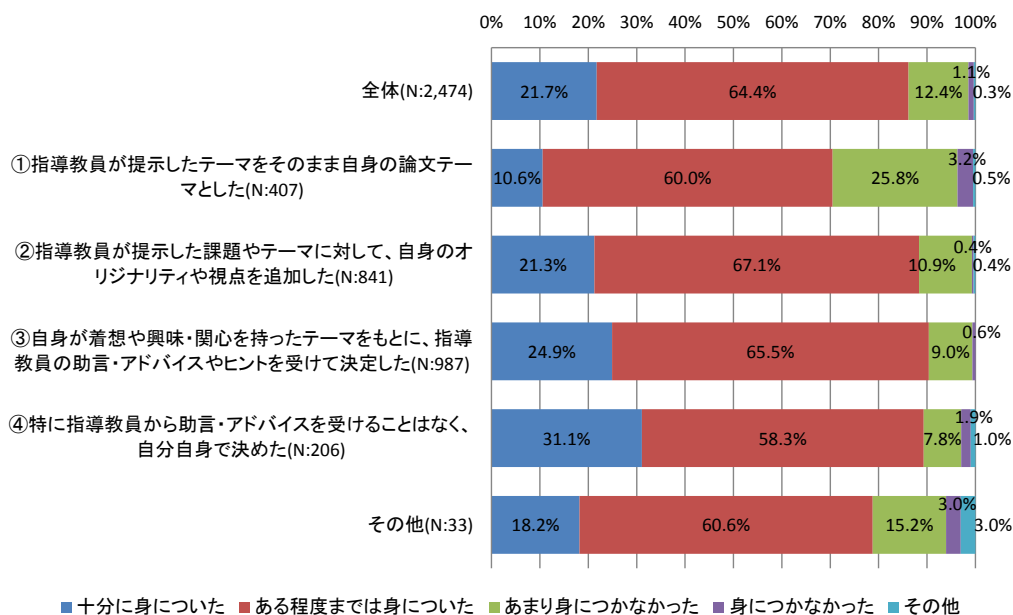


2.3 博士論文のテーマ決定に積極的に関わった学生は、研究能力を身につけたと自己評価する割合が高い。

本調査では、大学院での修学を通じて3種類の研究能力(「自身や他者の発見を批判的に評価できる」、「自身の研究を専門分野の知識体系に位置づけることができる」、「専門分野の議論を批判的に理解し、自身の仮説を明確に表現する」)を身につけたと学生自身が考える程度を聞いた。

このうち、自身の仮説を明確に表現する能力を身につけたと考える割合とテーマの決定方法との関係を見ると(概要図表 3)、自分自身でテーマを着想したり教員が提示したテーマに対して自身のアイデア・視点を追加したりするなど積極的にテーマ決定に関わった学生のうち(図中②、③、④)、同能力を身につけたと考える割合(「十分に身についた」と「ある程度までは身についた」の合計)は9割程度を占めた。一方、指導教員が提示したテーマをそのまま受け入れた学生(図中①)の同割合は約7割であり、約2割低くなっている。このような傾向は、他の2つの研究能力についても同様である。

概要図表 3 博士論文のテーマ決定と「専門分野の議論を批判的に理解し自身の仮説を明確に表現する能力」を身につけたと考える度合い



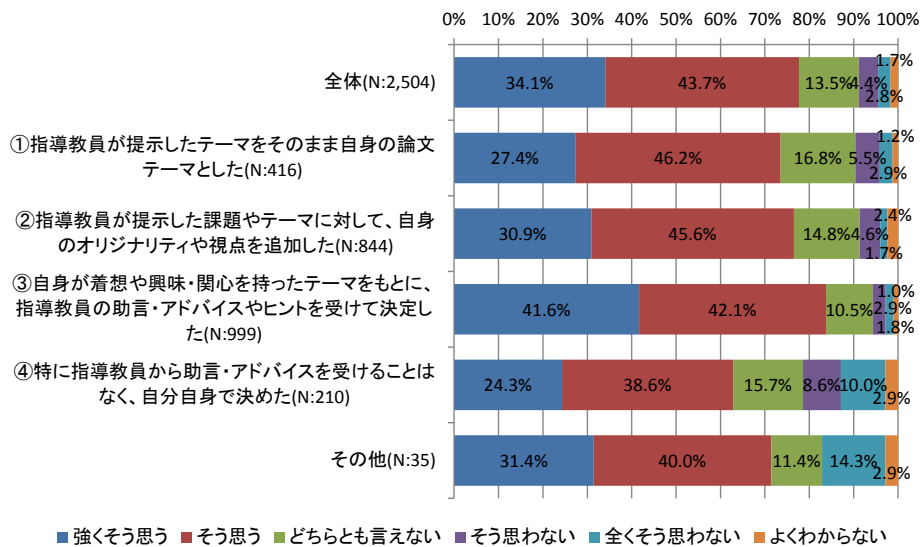
2.4 博士論文のテーマ決定に指導教員が積極的に関わったと答える学生は、大学院で提供されたサービスの満足度を高く評価する。

本調査では、博士学生にとって大学院での修学に価値があると思う度合い(修学に対する満足度)を「授業や論文指導など提供されたサービス自体」として、「自分自身の身についたもの」として、「10年後の将来」においての3点で尋ねた。

このうち授業や論文指導など提供されたサービス自体としての大学院の満足度と博士論文のテーマ決定の方法との関係を見たところ(概要図表 4)、指導教員が論文テーマの提示や助言・アドバイスをするなど論文のテーマ決定に積極的に関わった場合(図中①、②、③)に、大学院での修学に満足する割合(「強くそう思う」と「そう思う」の合計)は7割から8割を占め、指導教員が積極的に関わらなかった場合(図中④)と比べて約1割から2割高くなっている。

「授業や論文指導など提供されたサービス自体」以外の指標では、指導教員と学生の双方が積極的にテーマ決定に関わった場合に、どちらかが積極的に関わらない場合と比べて満足度が高くなっている。

概要図表 4 博士論文のテーマ決定と「授業や論文指導など提供されたサービス自体」として大学院の価値があると思う度合い

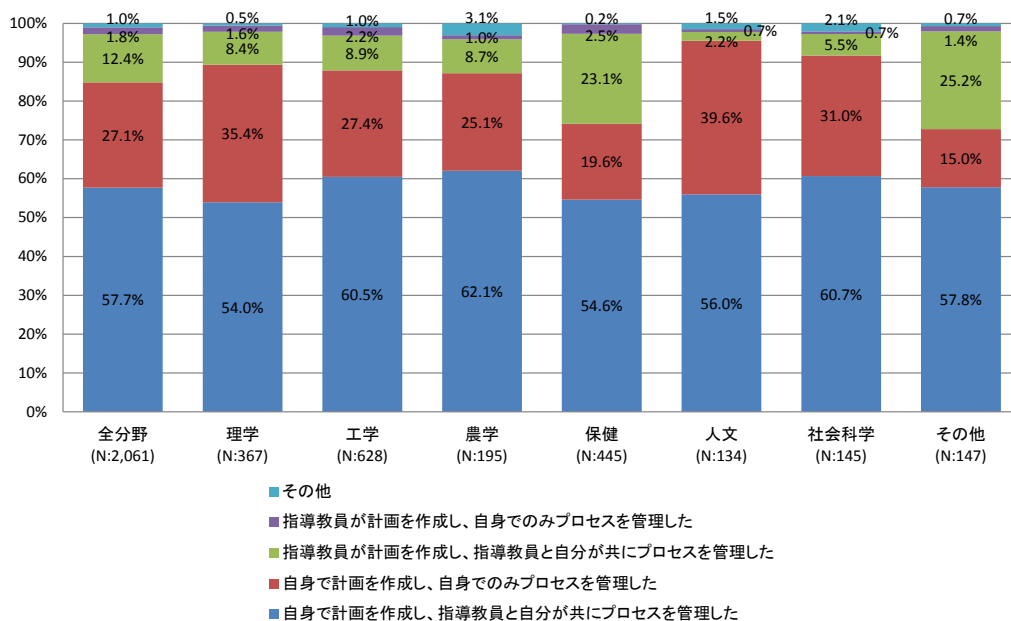


3. 博士論文作成のプロセス管理(スケジュール作成・進捗管理)

博士論文を作成するためのプロセス管理(スケジュール作成・進捗管理)は、学生と教員が共同する割合が6割近くを占め、分野間でほとんど変わらない。

博士論文を作成するために学生自らプロセス管理に携わったのは81.4%である。ここでの指導教員の関わり方を見ると(概要図表5)、学生が自身で計画を作成し教員と共にプロセス管理をした割合が最も多く、全分野では57.7%を占める。ただし分野間でほとんど変わらない。指導教員がスケジュールを作成した割合は「その他」で26.6%、保健で25.6%と多く、人文では2.9%と少ない。

概要図表 5 博士論文作成のプロセス管理への指導教員の関わり方(分野別)

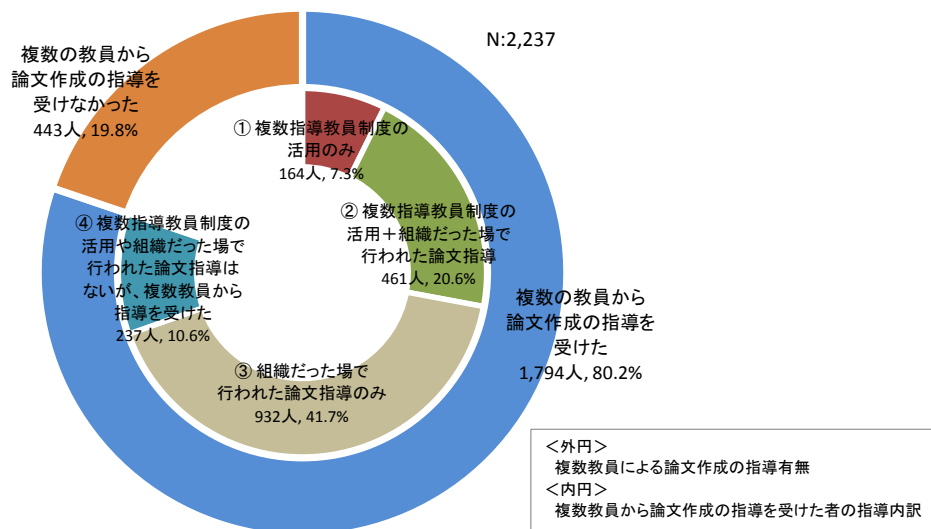


4. 複数教員による博士論文作成の日常的な指導

4.1 博士論文作成のための日常的な指導において、およそ7割の学生が複数の教員から組織的な指導を受けている。

博士論文の作成過程において、複数指導教員により論文指導を受ける制度(複数指導教員制度)の活用や、複数研究室・専攻・研究科によるミーティング・ゼミ・報告会など組織だった場での論文指導を通じて、複数教員から博士論文作成の日常的な指導を組織的に受けた者は学生の約7割に上る(概要図表6 ①、②、③)。なお、回答者全体のうち、複数指導教員制度を活用した者は27.9%(図中①+②)、組織だった場で行われた論文指導を受けた者は62.3%(図中②+③)を占める。

概要図表 6 複数教員による博士論文作成の日常的な指導状況

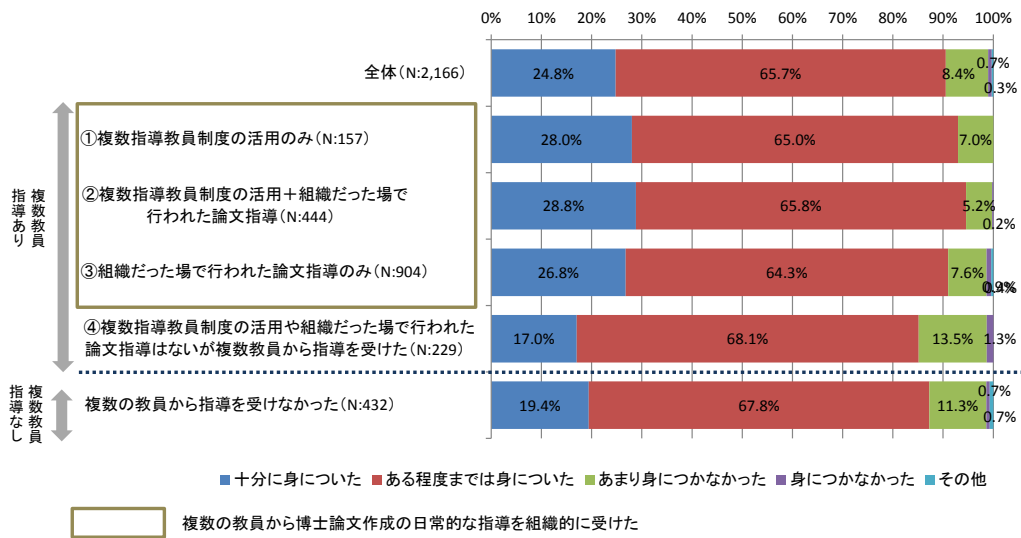


4.2 複数教員による論文指導を組織的に受けた者は、大学院での修学を通じて研究能力を修得したと考える割合や、大学院での修学に対する満足度が高い。

大学院での修学を通じて身につけた3つの研究能力(2.3参照)のうち、自身や他者の発見を批判的に評価できる能力を身につけたと考える割合は、(4.1に関連して)複数教員による博士論文指導との関係を見た(概要図表7)。複数教員による論文作成の指導を組織的に受けた者(図中①、②、③)は、同能力を身につけたと考える割合(「十分身についた」と「ある程度までは身についた」の合計)が9割以上を占める。他方、組織的ではないが複数教員から論文作成指導を受けた者(図中④)や、複数教員から論文作成指導を受けなかった者は、同能力を身につけたと考える割合が8割程度に留まり、「十分に身についた」と考える割合も約1割低くなっている。自身や他者の発見を批判的に評価できる能力以外の研究能力についてもおおよそ同様の傾向が見られた。

また、大学院での修学に対する満足度(2.4参照)と複数教員による論文指導との関係を見たところ、複数教員による組織的な論文指導を受けた者は、いずれの指標においても大学院での修学に対する満足度が高くなっている。

概要図表 7 複数教員による博士論文作成の指導と「自身や他者の発見を批判的に評価できる能力」を身につけたと考える割合

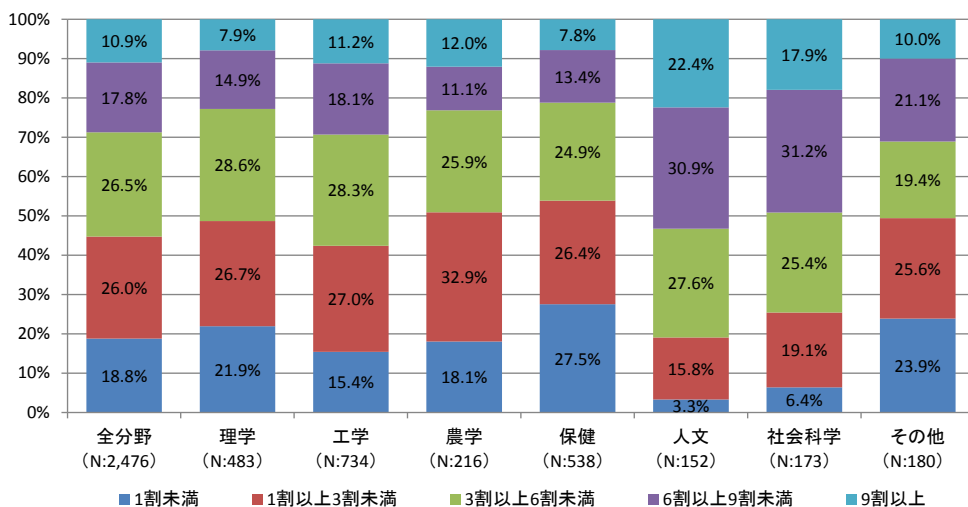


5. 大学院(修士・博士)の授業の満足度

5.1 大学院(修士・博士)の授業のうち履修して良かったと思う授業が6割以上を占めると回答した学生は3割以下に留まる。

大学院(修士・博士)で履修して良かったと思う授業の割合を見ると(概要図表 8)、6割以上と回答した者は約3割に留まる。分野別に見ると、履修して良かったと思う授業割合が3割未満と低い者は、人文分野では約2割、社会科学では3割未満なのに対して、自然科学系4分野では4割から5割と倍程度に上る。なお、履修して良かったと思う授業には、専門分野の知的好奇心を満足する内容や、専門領域を超えて幅広い視野を得られる内容が多く含まれた。

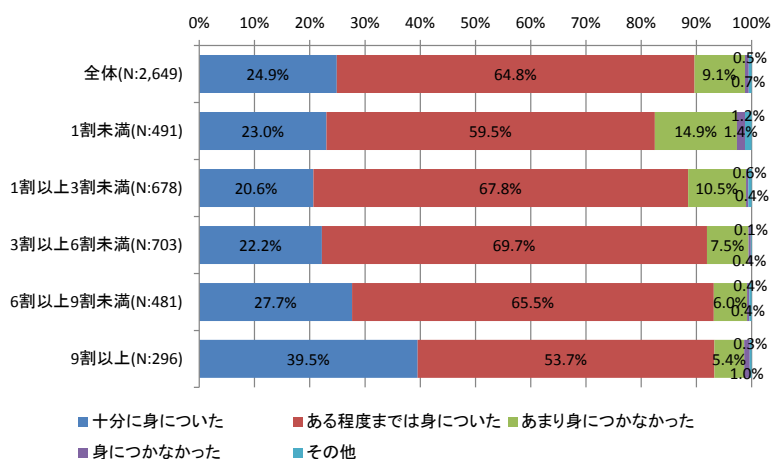
概要図表 8 大学院で履修した授業のうち履修して良かったと思う授業の割合(分野別)



5.2 大学院で履修して良かったと思う授業割合が多い者は、研究能力を身につけたと考える割合が高い傾向にある。

大学院で履修して良かったと思う授業割合と「自身や他者の発見を批判的に評価できる能力」を身につけたと考える割合との関係を見た(概要図表 9)。全体では約 9 割の者が同能力を身につけた(「十分身についた」と「ある程度までは身についた」の合計)と考えているが、履修して良かったと思う授業割合が 1 割未満と少ない者(全体の約 2 割)では同能力を身につけたと考える割合は 8 割強である。同能力が「十分身についた」と考える者に着目すると、履修して良かったと思う授業が 9 割以上と回答した者の割合は 4 割近いのに対して、履修して良かったと思う授業が 6 割未満と回答した者は半分の約 2 割程度に留まる。なお他の 2 つの研究能力(2.3 参照)でも同様の傾向が見られた。大学院での修学への満足度(2.4 参照)との関係を見ると、授業の満足度が高い場合に 3 つの満足度も高くなる傾向が示された。

概要図表 9 大学院で履修した授業のうち良かったと思う授業の割合と「自身や他者の発見を批判的に評価できる能力」を身につけたと考える割合



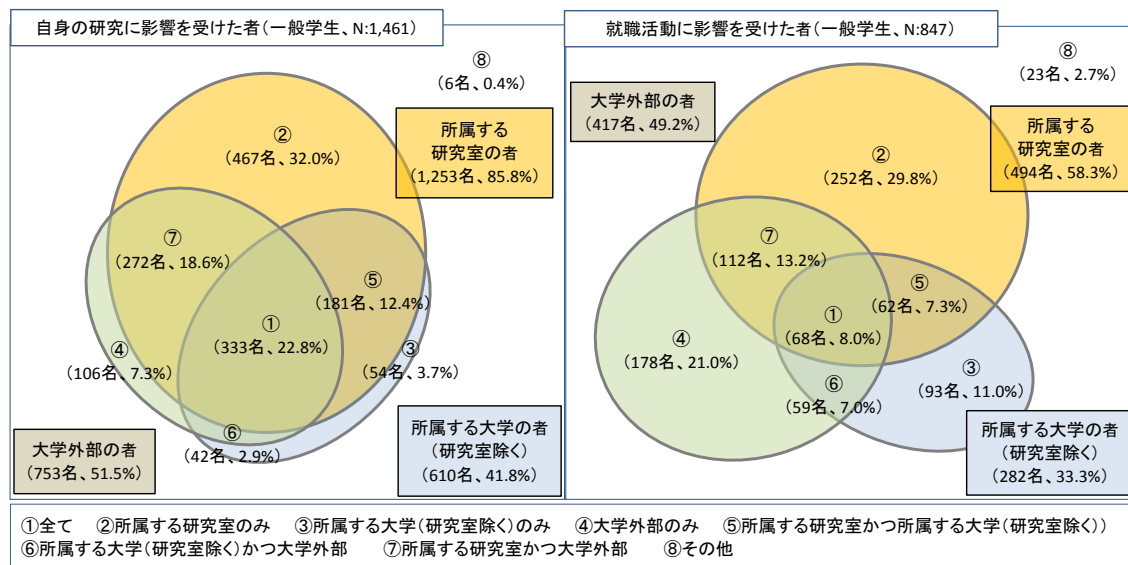
6. 研究活動や就職活動における社会的つながり

一般学生のうち、自身の研究に対して研究室から有益な影響を受けたと考える者は 8 割以上を占め、就職活動は研究室以外のみから有益な影響を受けたと考える者が 4 割を占める。

回答者のうち一般学生(社会人学生と留学生を除く学生)について、自身の研究や就職活動に対して有益な影響を受けた範囲を見た(概要図表 10)。自身の研究に対しては所属する研究室から影響を受けた(図中①+②+⑤+⑦)と考える者の割合は 8 割以上に上り、所属する研究室以外のみから影響を受けた者は 13.9%(図中③+④+⑥)に留まる。一方、就職活動に関して、研究室以外のみから影響を受けた割合は 39.0%(同)と高く、うち 4 割程度は民間企業や公的研究機関に所属する者から影響を受けている。博士課程在籍時に研究室に所属していた者のみに回答を限定しても、この傾向はほぼ変わらない。

なお、設問の自由回答では、自身の研究に対する有益な影響としては研究内容や進め方に関する情報提供や示唆を受けたこと、就職活動に対する有益な影響の内容としては課程修了後の進路を考えるきっかけを得たことなどが述べられている。

概要図表 10 一般学生が自身の研究および就職活動に対して影響を受けた者の範囲



7. 結論と考察

近年の大学院では高い専門性とともに幅広い視野を備えた人材を育成するために、複数の教員が博士論文の作成を指導することが重要だと考えられている。今回の調査では、博士論文の作成指導を日常的に受ける中で、複数指導教員制度や研究室合同のゼミなどの組織的な取り組みによって複数教員から指導を受けていた学生はおよそ7割に上った。彼らは、このような指導を受けなかった者よりも研究能力を身につけたと自己評価する割合が多く、大学院が提供するサービスへの満足度も高くなっている。今後とも学生が複数の教員から組織的に指導を受ける制度や場を整備し、活用することが求められる。

博士論文のテーマ決定に関して、指導教員が提示したテーマをそのまま受け入れるのではなく、学生がテーマを着想したり教員が提示したテーマに対して自身のアイデア・視点を追加したりするなど積極的に関わる場合には、研究能力を身につけたと自己評価する割合が多くなる。また、指導教員がテーマ案の提示や助言・アドバイスをするなど論文テーマの決定に積極的に関わる場合には、大学院が提供したサービスに対する満足度が高くなる。学生が大学院に満足し研究能力を身につけるためには、博士論文のテーマ決定に指導教員と学生が共に関わる重要なことが明らかになった。もっとも本調査は学生の視点を調査したものであり、教育側の視点を踏まえることで、より総合的に研究指導の成果を把握できると考えられる。

大学院ではコースワークの充実が求められている。今回の調査は学生の評価のみに着目した結果を示しているが、大学院の授業のうち履修して良かったと思う割合が6割以上を占めると回答した学生は3割以下に留まった。大学院で履修した授業の満足度は、自然科学系よりも人文・社会系で高いことから、学問分野の特性もあるため一概には言えないが、自然科学系においては授業の改善も重要な課題であると考えられる。

1. 調査実施の目的と手法

本調査は、2011年度に日本国内の大学院において博士課程(博士課程(後期)と一貫制を含む。以降は博士課程と表記)を修了した者(博士号取得者と満期退学者および見込みを含む。以降、博士課程修了者と称す)に対して、在学時の研究経験、修了後の進路選択方法や進路をインターネットにより直接尋ねる形で実施したものである¹。

本調査は、博士課程時の研究テーマの選定や指導体制、大学院で修得した研究能力や修学の満足度等を博士課程修了者に尋ねることによって、大学院で受けた研究・教育の実態を明らかにし、成果(身につけたと考えられる能力など)との関連を明らかにすることを目的とする。

調査名

博士課程修了者の教育・研究と進路に関する調査

調査主体

文部科学省 科学技術政策研究所 第1調査研究グループ

調査期間

2011年9月～10月、2012年2月～3月

調査対象者の抽出

対象大学の選定・アンケート調査の周知

対象大学は、2002年度から2006年度の間年平均で博士課程修了者を50人以上輩出した日本国内の大学(59大学)である²。アンケート調査では、各大学の学長及び研究科長等に対して、書面にて依頼状(参考資料4を参照)を送付すると同時に、各大学で博士課程学生の実質的な連絡先(日常的に使用するe-mailアドレス等)を把握する担当部門・部署(以下、担当窓口)に対して対象学生への周知および調査票の配付等を依頼した(調査票は参考資料5、参考資料6を参照のこと)³。

対象学生への調査協力の依頼

本アンケート調査の主な対象者は、2011年度(2011年4月～2012年3月)に博士課程を修了した者と満期退学をした学生である。ただし、博士課程の修了が確定する時期より調査の実施時期が前である場合が多いため、大学を通じた調査の協力依頼は博士課程3年次以上に在籍している学生に対して行い、依頼状の中で2011年度に博士課程を修了する(見込みを含む)者を対象とする旨周知した。

対象学生への周知方法は図表1に示すように、大きく6つに分類される。

¹ 博士課程を「満期退学」又は「単位取得後退学」した者は博士課程修了者ではないため正確には博士課程修了者等となるが、本報告書では便宜上博士課程修了者と称す。

² 個々の大学における博士課程修了者数は「我が国の博士課程修了者の進路動向調査」(文部科学省科学技術政策研究所、NSTEP REPORT 126、2009年3月)のデータより算出した。

³ 担当窓口は大学で1つの場合と研究科毎に異なる場合が混在する。

図表 1 対象学生へのアンケート周知方法

1	大学が発行したメールアドレスに送付
2	学生が個別に取得しているメールアドレスに配信
3	指導教員や各研究室の管理者(教授・事務)にメールで送付し、学生に転送
4	印刷した依頼状を学内掲示版に貼付
5	印刷した依頼状を各研究室に配付
6	学内ポータルサイト等対象学生が確認する WEB サイトに掲示

周知方法は大学・研究科で異なるが、全対象大学・研究科のおよそ 3 割は複数の方法で学生への周知を行っている。実際にとられた周知方法として最も多かったものは「1.大学が発行したメールアドレスに送付」であり、全対象研究科の約 1/3 が実施した周知方法である。以下、「2.学生が個別に取得しているメールアドレスに配信」する方法(全対象大学・研究科のおよそ 1/4)や、「6.学内ポータルサイト等対象学生が確認する WEB サイトに掲示」する方法(全対象大学・研究科のおよそ 1/5)である。

調査票の回答方法

調査票は当該学生が WEB 上で入力し、回答終了後に自動的に回収する形式を採った。使用言語は留学生等に配慮し日本語版と英語版の 2 通りを作成した。

調査票への回答は、担当窓口を通じて学生に配布された依頼状に記載されている URL にアクセスした後、アンケート調査画面にログインをしてから回答に進む形式を採った。なお、ログイン時には二重回答や成りすましを防ぐために設定したアンケート ID(大学別に設定)と調査コード(研究科別に設定)の入力を求めた。

回答数

調査の有効回答者数は計 2,847 人であり、博士課程修了者(満期退学者を含む)2,636 人と論文博士 211 人で構成される。分析の主な対象者は博士課程修了者である。なお、2011 年度の学校基本調査によれば、本調査が対象とした大学の修了者は 2010 年度の全博士課程修了者のうち 74.5%を占める⁴。回答者数の内訳を図表 2 に、各調査対象大学での回答者数を図表 3 に示す。

図表 2 本調査の回答者数(設置者別)

調査対象数 設置者	機関数	2011年度調査の回答者数	
		うち課程博士	うち論文博士
国立大学	39	2,326	166
公立大学	5	84	5
私立大学	15	437	40
合計	59	2,847	211

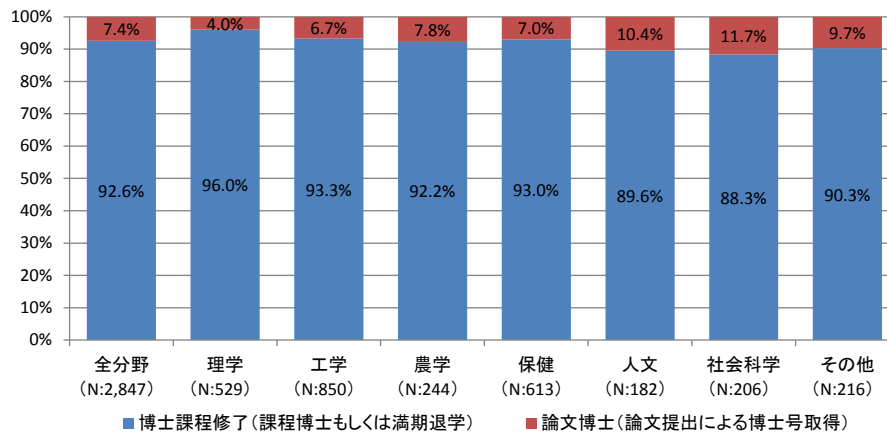
⁴ 学校基本調査(平成 23 年度)によると 2010 年度の博士課程修了者(平成 23 年 3 月修了)は 15,892 人、学校基本調査(平成 24 年度速報)では 2011 年度の博士課程修了者等の合計は 16,248 人である。

2. 回答者の属性

博士区分

回答者は課程修了者が大多数を占め、論文博士は 7.4%に相当する。論文博士が占める割合は社会科学分野で 11.7%と最も多く、次いで人文が 10.4%と多い。

図表 4 博士区分(分野別)



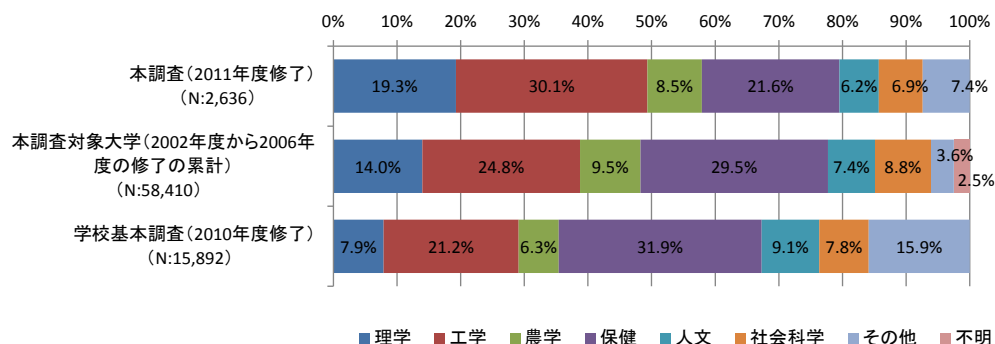
※全分野には、論文博士(211人)の回答者のうち分野が不明な者(7人)が含まれる。

以降では、博士課程在籍時の教育・研究に関する質問が主となることから、課程修了者(課程博士および満期退学者)を対象に分析を行う。

分野

本調査の回答者は、工学、保健、理学分野の占める割合が高い(順に 30.1%、21.6%、19.3%)。なお、既存調査を基に調査対象大学の 2002 年度から 2006 年度の累積値と比較すると、本調査の対象者の分野は工学と理学で各 5 ポイント以上多く、保健で約 8 ポイント少ない⁵。学校基本調査(2010 年度修了)と比較するとその差はさらに大きい。

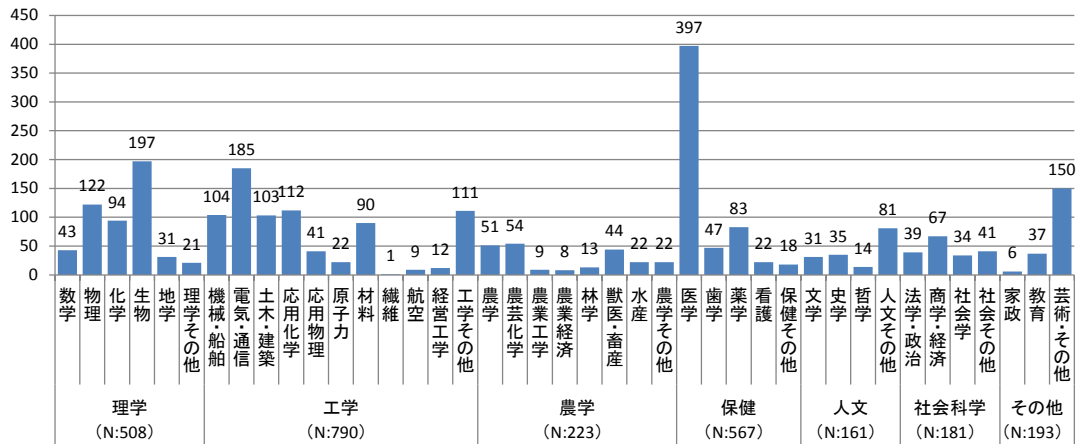
図表 5 分野内訳(大分類)



⁵「我が国の博士課程修了者の進路動向調査」(文部科学省科学技術政策研究所、NSTEP REPORT 126、2009 年 3 月)

分野内訳を中分類で見ると、保健分野のうち医学(397人)と最も多く、理学の生物(197人)、工学の電気・通信(185人)と続く。

図表 6 分野内訳(中分類)

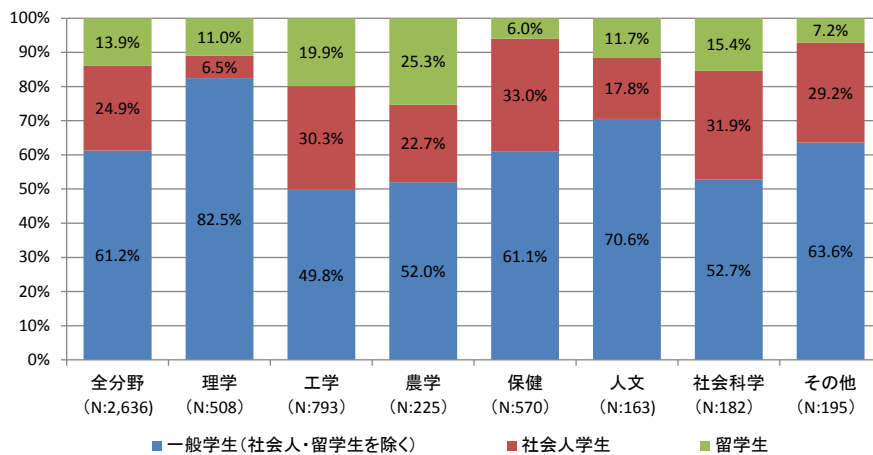


注: 分野内訳(大分類)に回答した者のうち、分野内訳(中分類)には回答していない13人を除く。

学生種別

回答者の学生種別は、社会人学生と留学生を除いた一般学生の割合が61.2%を占める。分野別では、一般学生の占める割合は理学分野で82.5%と最も高く、次いで人文が70.6%と高い。社会人学生が占める割合は、保健、社会科学、工学の3分野が高く、いずれも3割を超える(順に33.0%、31.9%、30.3%)。

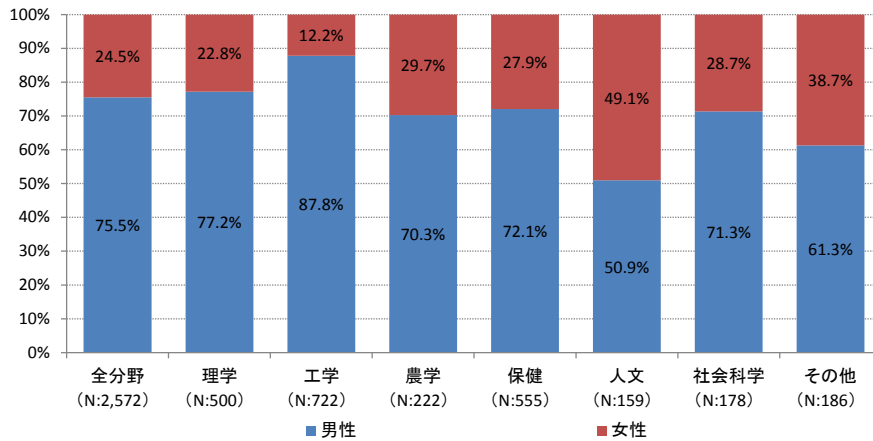
図表 7 博士課程在籍時の学生種別(分野別)



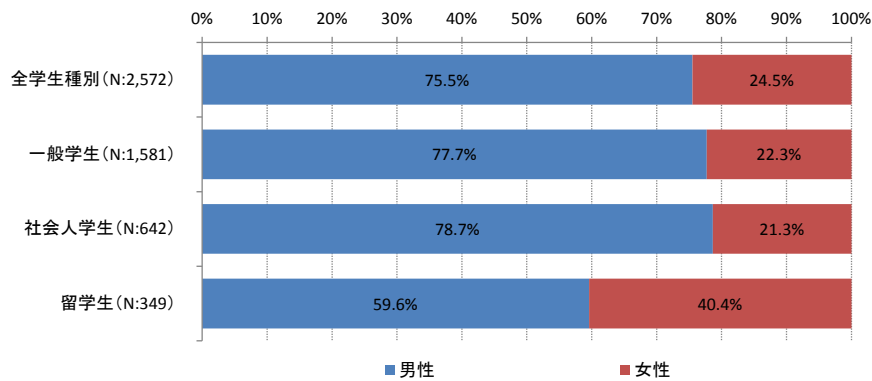
性別

回答者のおよそ3/4を男性が占める。分野別に見ると、工学分野では他の分野と比較して男性が占める割合が高く9割近くであるのに対し、人文は男女の比率がほぼ半々である。また、性別を学生種別で見ると、留学生の女性割合はおよそ4割であり一般学生や社会人学生の倍近くに上る。

図表 8 性別(分野別)



図表 9 性別(学生種別)

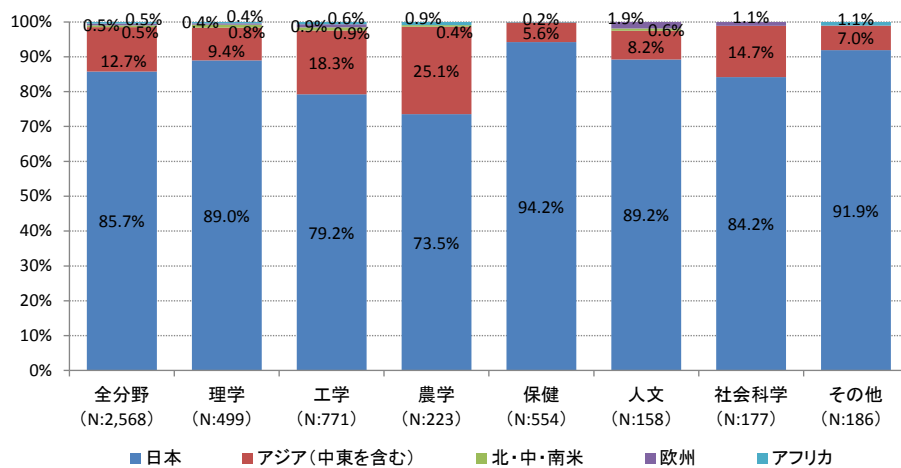


国籍

回答者のうち日本国籍を持つ者は全体の 85.7%を占める。外国籍を持つ学生が占める割合は農学分野が 26.5%と最も高く、次いで工学(20.8%)、社会科学(15.8%)と続く。

留学生の国籍はアジア(中東を含む)の割合が最も多く、全分野では留学生のうちアジア(中東を含む)の者がおよそ9割に上る。

図表 10 国籍(分野別)

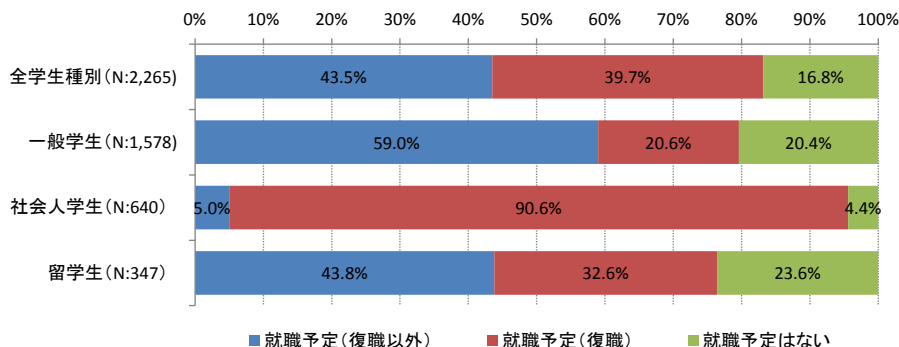


博士課程修了後の進路

博士課程修了後の就職予定

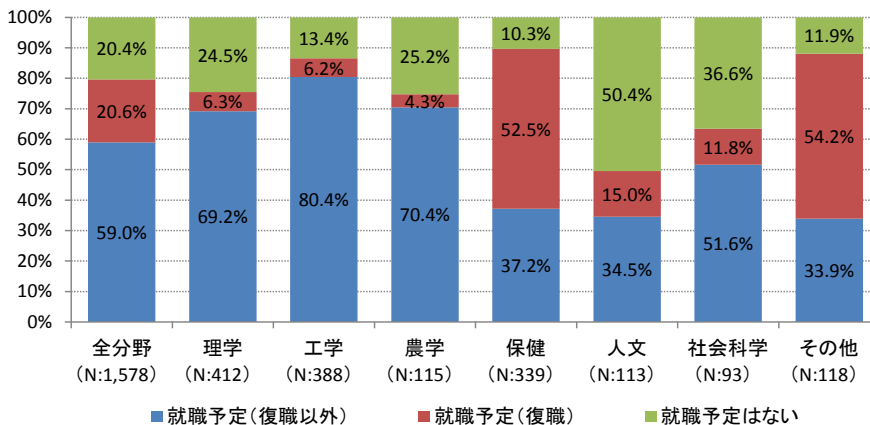
回答者のうち 83.2%は博士課程修了後に就職を予定している(復職を含む)。復職予定の割合は、一般学生では 20.6%であり、社会人学生は 90.6%に上る。

図表 11 博士課程修了後の就職予定(学生種別)



図表 11 に関連して一般学生の就職予定について分野別に見ると、復職を含む就職予定の割合が高いのは保健と「その他」分野であり、各 89.7%、88.1%に上る。これら 2 分野は復職者の割合が多くそれぞれ 52.5%、54.2%である。一方、人文と社会科学の 2 分野では、就職予定の割合が他の 5 分野と比べてそれぞれ 49.5%、63.4%と低い。

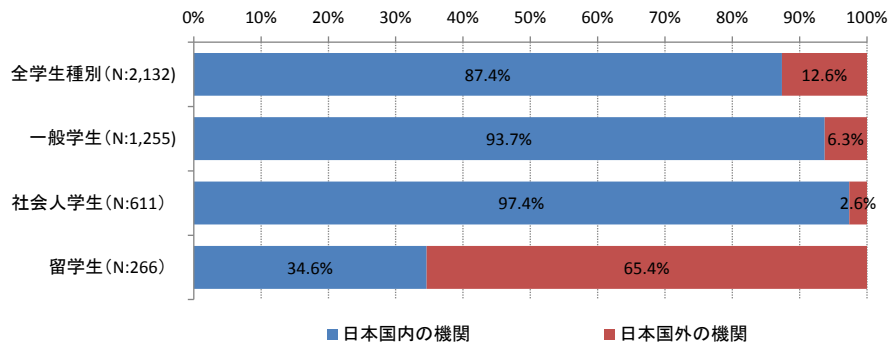
図表 12 博士課程修了後の就職予定(一般学生・分野別)



博士課程修了後の進路(国内外の別)

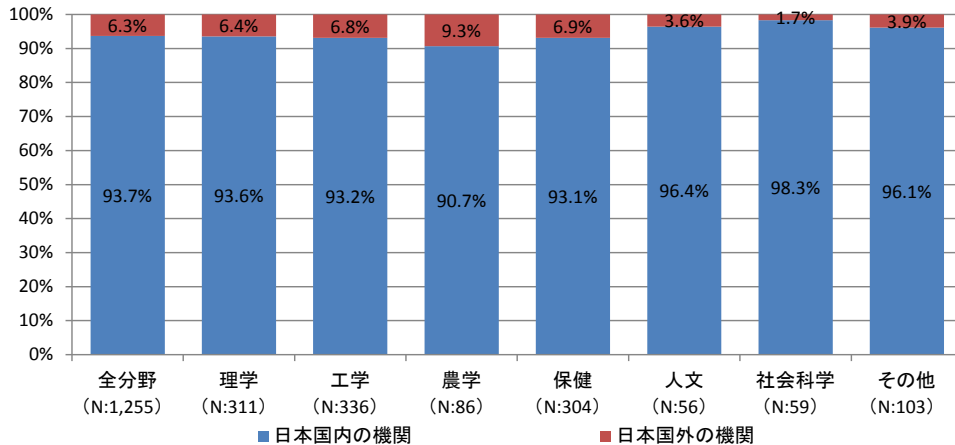
博士課程修了後に就職を予定している者のうち、87.4%の学生が日本国内の機関での就職を予定している。学生種別に見ると、一般学生と社会人学生のうち国内機関に就職する者は各 93.7%と 97.4%と多数を占めるが、留学生は 34.6%と約 1/3 に留まる。

図表 13 博士課程修了後の進路(学生種別)



上記のうち一般学生について就職先機関の国内外の別を分野別に見ると、自然科学系 4 分野では日本国外の機関に就職する割合が高く理学・工学・保健の 3 分野では 6% 台、農学分野では 9.3% を占める。一方、人文・社会科学系分野では、人文 3.6%、社会科学 1.7% と低い。

図表 14 博士課程修了後の進路(一般学生・分野別)



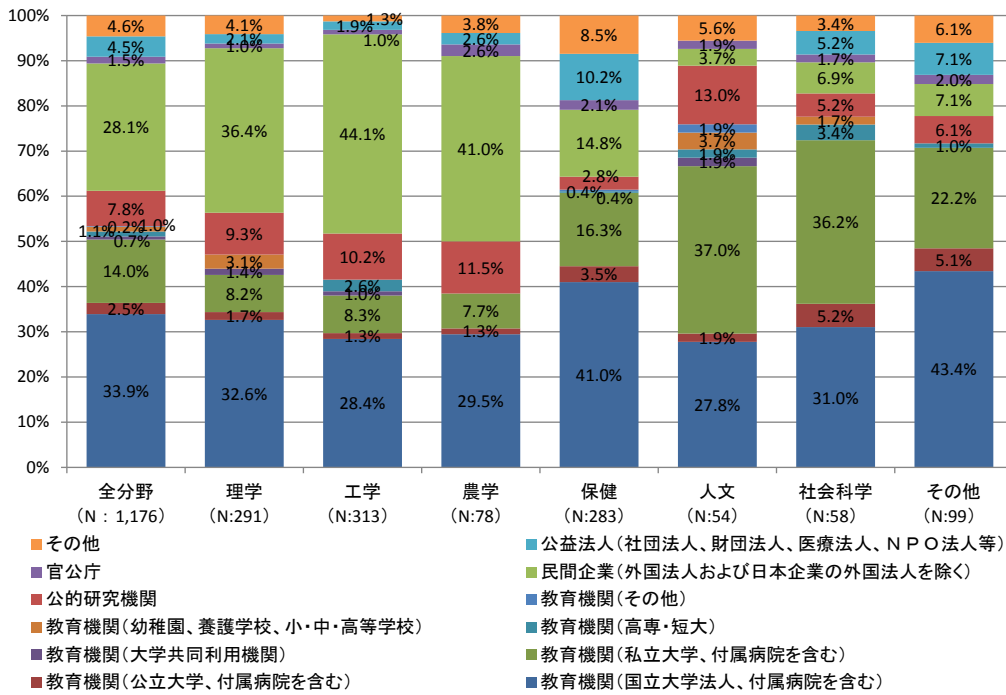
一般学生の博士課程修了後の所属機関(国内)

一般学生のうち、博士課程修了後に日本国内の教育機関(大学等)に就職する者の割合は 52.2% であり、ほぼ半数を占める(国立大学法人(附属病院を含む)33.9%、私立大学(附属病院を含む)14.0%)⁶。国内の民間企業へ就職する者は 28.1% である。

ただし分野別に見ると、博士課程修了後の所属機関は大きく異なる。工学や農学分野では国内の民間企業に就職する割合が高いが(各 44.1%、41.0%)、人文、社会科学や「その他」の 3 分野では民間企業に就職する割合がそれぞれ 3.7%、6.9%、7.1% と低い。

⁶ 教育機関(大学等)には国立大学法人、公立大学、私立大学、大学共同利用機関、高専・短大の 5 機関を含む。

図表 15 博士課程修了後の国内所属機関(一般学生・分野別)

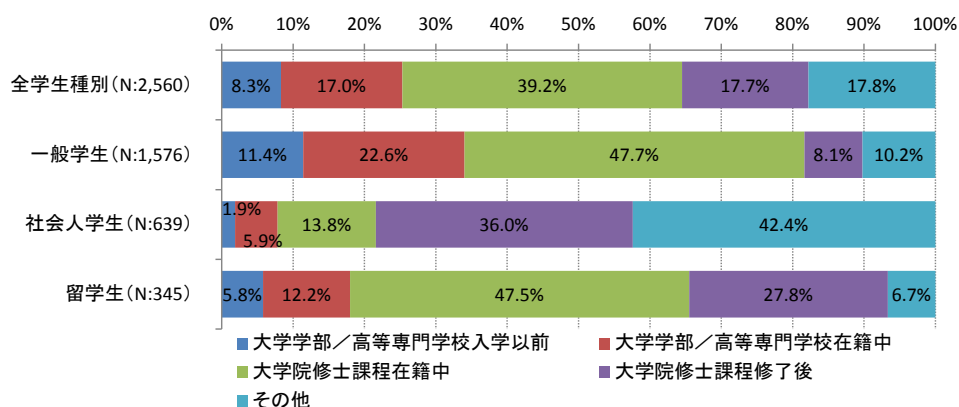


3. 博士課程への進学に関する意識

3.1 博士課程への進学を決めた時期

回答者のうちおよそ 4 割は、大学院修士課程在籍中に博士課程への進学を決めている。ただし学生種別で見ると、一般学生や留学生では大学院修士課程在籍中に進学を決めた割合がおよそ半数を占めるのに対し、社会人学生は大学院修士課程修了後とその他の 2 つが占める割合が多く、大学院修士課程在籍時に進学を決めた割合は 1 割程度である。社会人学生のうち、進学を決めた時期をその他と回答した者の自由回答では、進学を決めた時期として社会人として勤務をしている時期と述べていた者が多く見られた。

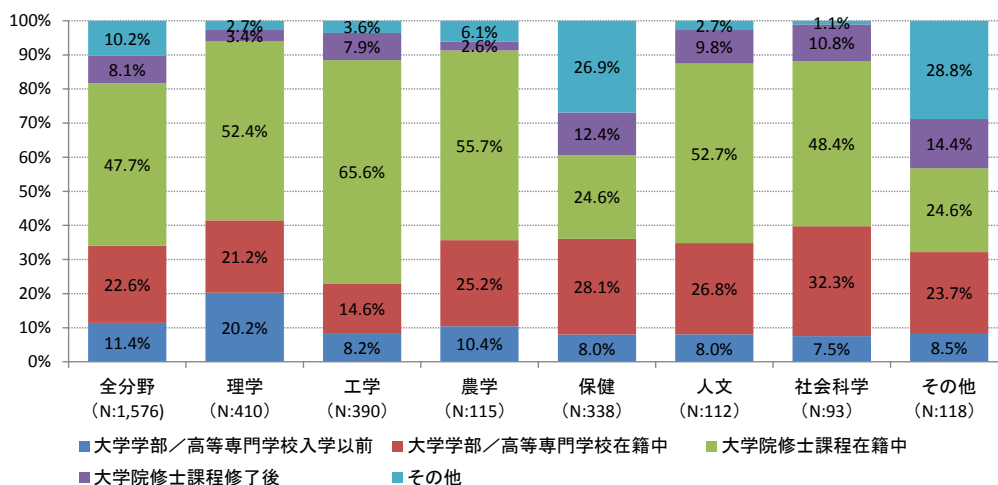
図表 16 博士課程への進学を決めた時期(学生種別)



<一般学生>

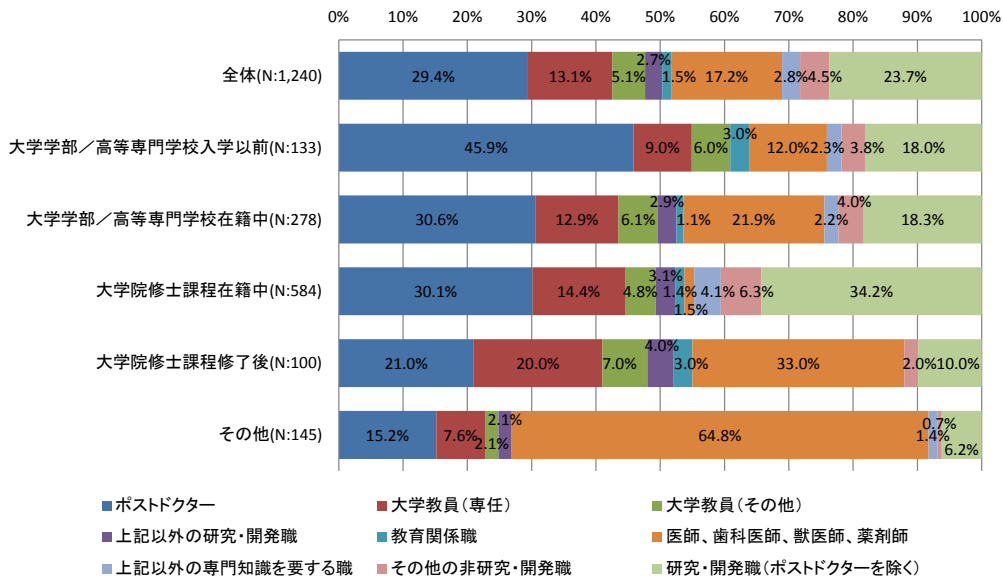
一般学生が博士課程への進学を決めた時期を分野別に見ると、理学、工学、農学、人文、社会科学の 5 分野は大学院修士課程在籍中に博士課程への進学を決めた者の占める割合が多いが、保健と「その他」の 2 分野では、進学を決めた時期をその他と回答した割合が多い。保健と「その他」の 2 分野では、社会人経験を経てから一般学生として博士課程に進学した者の割合が多いと考えられる。

図表 17 博士課程への進学を決めた時期(一般学生・分野別)



博士課程への進学決定時期と進路(職種)との関係を見ると、進学決定時期が大学学部/高等専門学校入学以前と早い場合に、ポストドクターになる比率が45.9%を占め、他の進学決定時期と比較して多い。これは、研究者になることを希望した者が早い時点で博士課程への進学を決め、まずはポストドクターになる傾向があると推察される。修士課程在籍中など比較的遅い時期に博士課程進学を決定した者は、主に民間企業での研究・開発職(ポストドクター以外)になる率が34.2%であり、それ以前の段階で進学を決めた者の割合と比較して倍程度となっている。

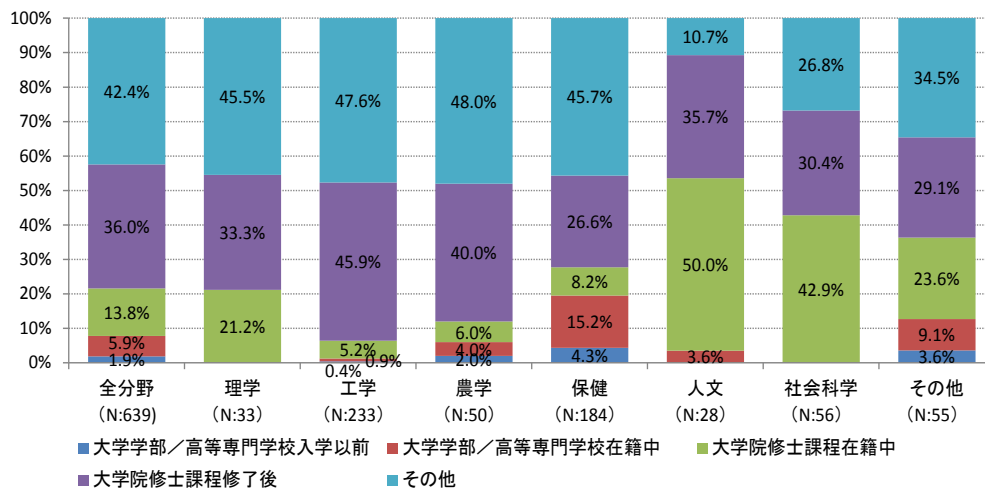
図表 18 博士課程への進学を決めた時期と課程修了後の進路(一般学生・職種別)



<社会人学生>

社会人学生が博士課程への進学を決めた時期を分野別に見ると、人文と社会科学の2分野は大学院修士課程在籍中に博士課程進学を決めていた者の割合が多い。自然科学系4分野では、進学を決めた時期をその他と回答した割合が半数程度を占める。

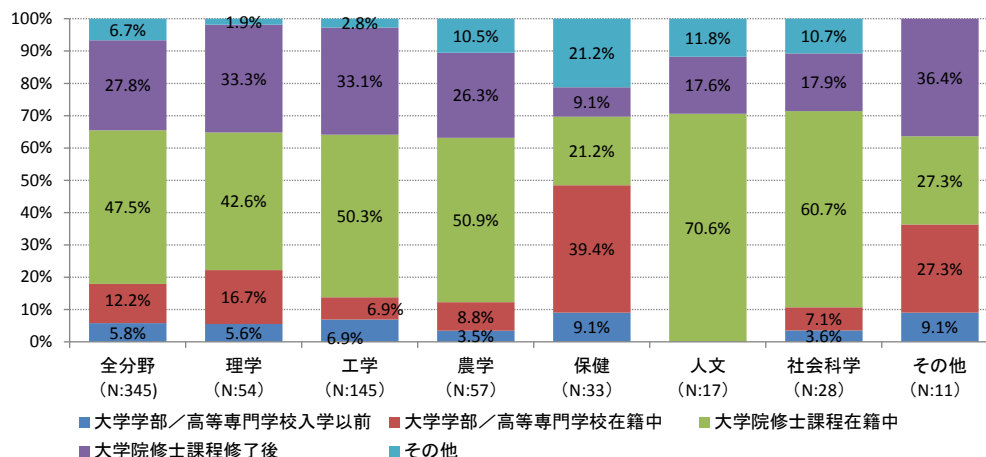
図表 19 博士課程への進学を決めた時期(社会人学生・分野別)



<留学生>

留学生が博士課程への進学を決めた時期を分野別に見ると、保健と「その他」分野以外は大学院修士課程在籍中に進学を決めた者が多い。保健では大学学部/高等専門学校在籍中に博士課程への進学を考えていた者の割合が39.4%と多く、次いでその他の時期と回答した者が21.2%である。

図表 20 博士課程への進学を決めた時期(留学生・分野別)

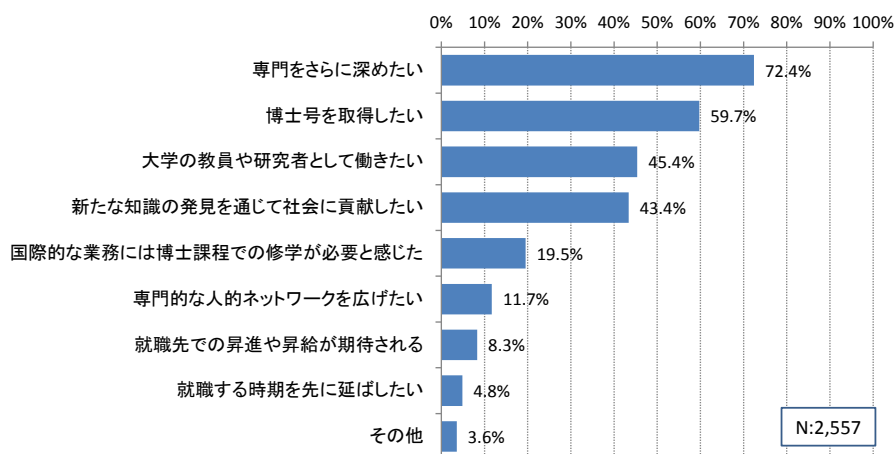


3.2 博士課程に進学した理由

博士課程へ進学した理由(複数回答)

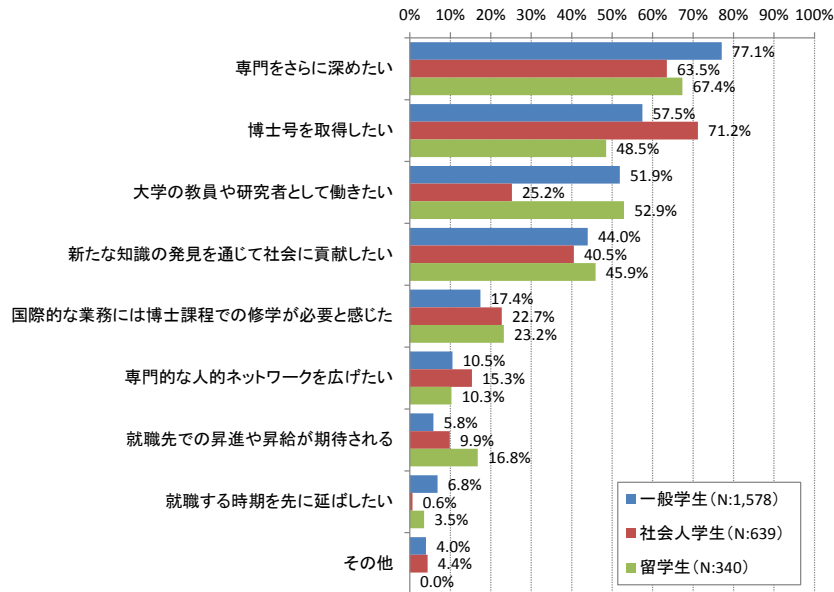
博士課程へ進学した理由としては、「専門をさらに深めたい」(72.4%)、「博士号を取得したい」(59.7%)を選んだ者が多く、「国際的な業務には博士課程での修学が必要と感じた」や「専門的な人的ネットワークを広げたい」という理由を挙げた者は少ない。

図表 21 博士課程へ進学した理由



博士課程へ進学した理由を学生種別で見ると、「専門をさらに深めたい」と回答した者の割合はどの学生種別でも多い。社会人学生は博士号の取得自体を目的としている割合が多く、一般学生と留学生では大学教員や研究者として働くことを挙げた者が多い。

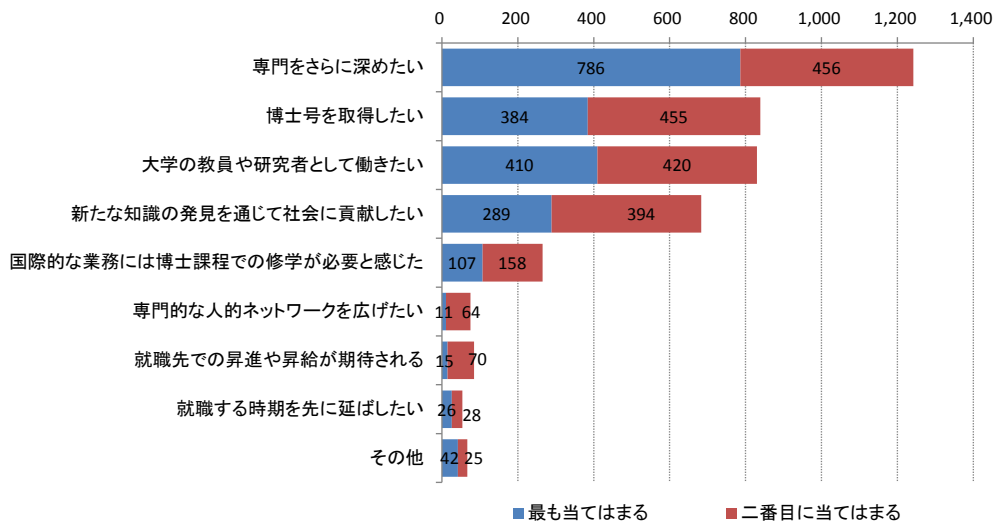
図表 22 博士課程へ進学した理由(学生種別)



博士課程へ進学した理由の順位

図表 21 で博士課程への進学理由として挙げられた選択肢について、進学理由として最も当てはまるもの、二番目に当てはまるものを見ると、最も当てはまる理由として「専門をさらに深めたい」を挙げた回答者が多く、次いで「大学の教員や研究者として働きたい」、「博士号を取得したい」と続く。二番目に当てはまる理由は「専門をさらに深めたい」、「博士号を取得したい」、「大学の教員や研究者として働きたい」、「新たな知識の発見を通じて社会に貢献したい」と回答した者が多い。

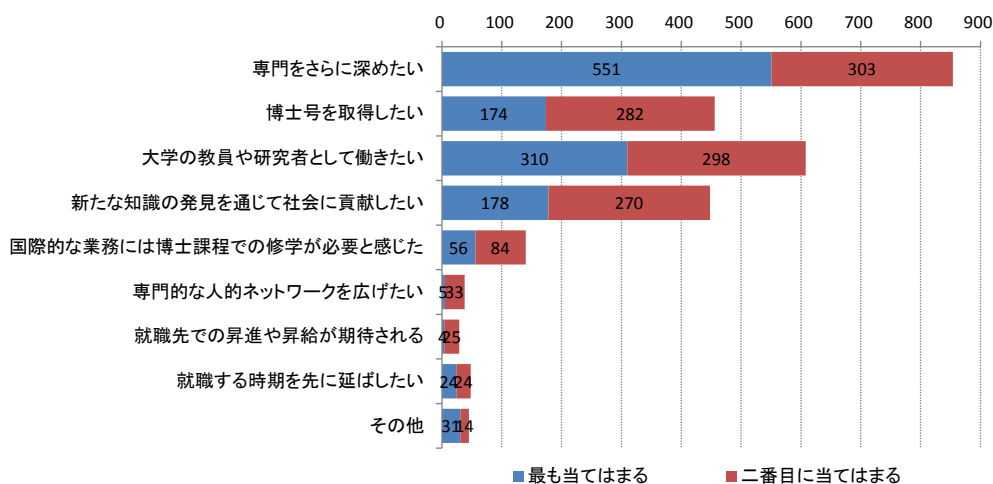
図表 23 博士課程へ進学した理由の順位



＜一般学生＞

一般学生が博士課程へ進学した理由として最も当てはまる理由は「専門をさらに深めたい」が最も多く、次いで「大学の教員や研究者として働きたい」が多い。二番目に当てはまる理由は「専門をさらに深めたい」、「大学の教員や研究者として働きたい」、「博士号を取得したい」、「新たな知識の発見を通じて社会に貢献したい」と回答した者が多く、回答数にはほとんど差がみられない。

図表 24 博士課程へ進学した理由の順位(一般学生)

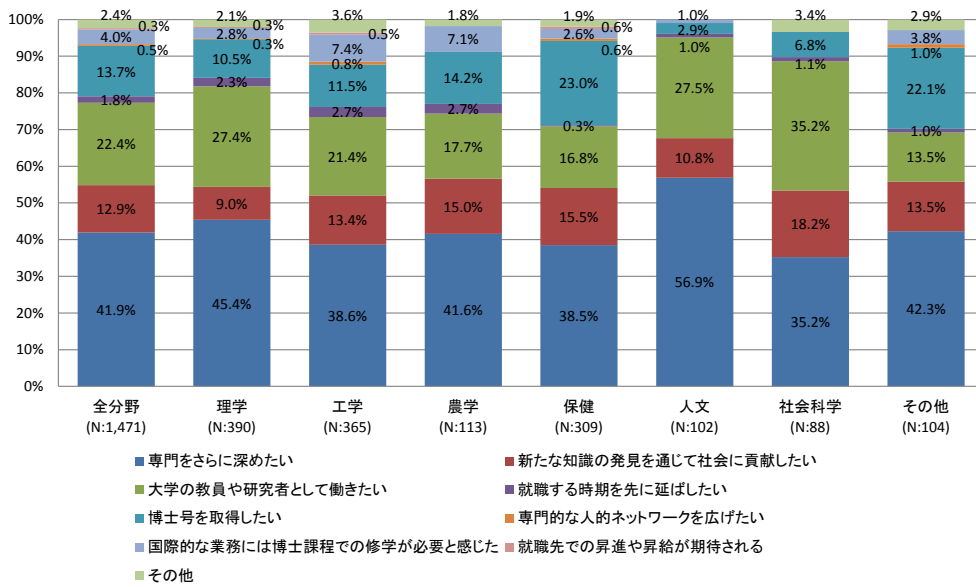


博士課程へ進学した理由として最も当てはまる理由(一般学生・分野別)

一般学生は課程修了後に就職を予定する者が6割近くいる。分野別に就職予定の状況は異なるため(図表 11 参照)、就職が最も当てはまる進学理由とどの程度関係しているのかを一般学生のみを対象に分析した。一般学生が博士課程に進学した理由のうち最も当てはまるものは、全分野合計では「専門をさらに深めたい」が41.9%と最も多く、「大学の教員や研究者として働きたい」が22.4%と続く。「新たな知識の発見を通じて社会に貢献したい」は12.9%、「博士号を取得したい」は13.7%である。

分野別に見ると、人文分野では「専門をさらに深めたい」という理由が他分野よりも多く56.9%を占める。自然科学系では「博士号を取得したい」という理由が一番少ない理学で10.5%、一番多い保健で23.0%なのに対して、人文・社会科学系では少なく人文2.9%、社会科学6.8%である。「大学の教員や研究者として働きたい」という理由は、社会科学35.2%、人文27.5%、理学27.4%の順に多い。

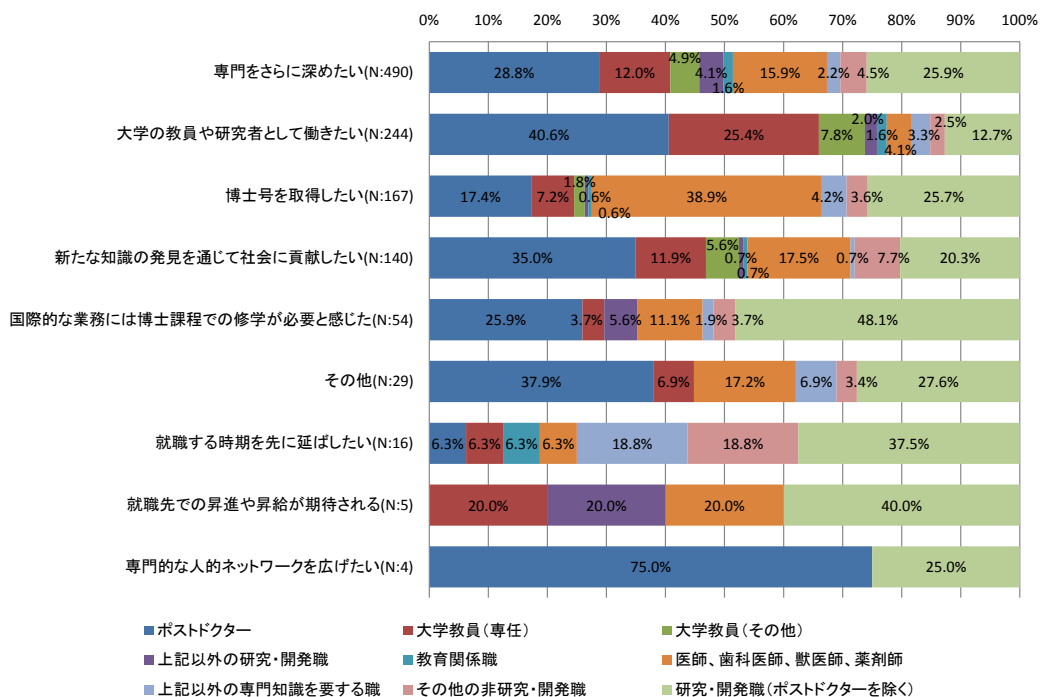
図表 25 博士課程へ進学した最も当てはまる理由(一般学生・分野別)



博士課程へ進学した最も当てはまる理由と課程修了後の進路(一般学生・職種別)

博士課程へ進学した理由別に課程修了後の進路を見ると、大学の教員や研究者として働きたいと考えて進学した者のうち 40.6%はポストドクターに、25.4%は大学教員になっている。「博士号を取得したい」という理由から進学した者は 38.9%が医師や歯科医師に、25.7%が民間等での研究開発職に就いている。「国際的な業務には博士課程での修学が必要と感じた」ために博士課程に進学した者の 48.1%は民間等での研究開発職に就いている。進学理由と職業の結びつきが示唆される。

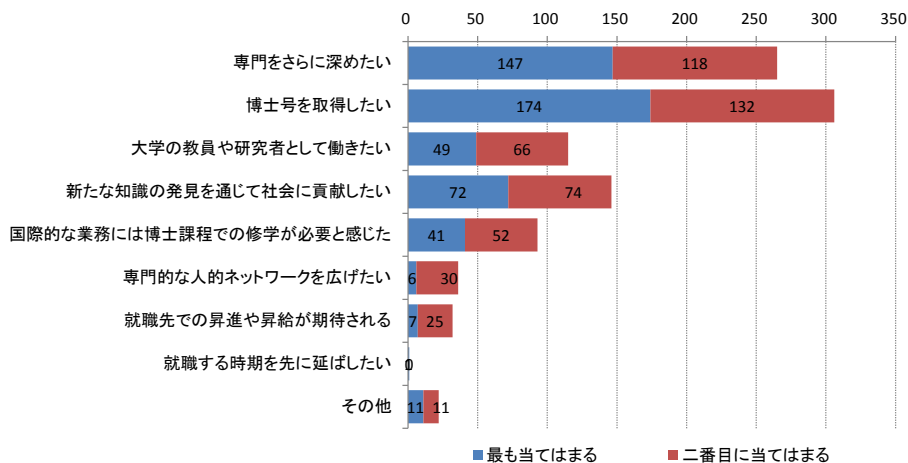
図表 26 博士課程へ進学した最も当てはまる理由と課程修了後の進路(一般学生・職種別)



<社会人学生>

社会人学生が博士課程へ進学した理由として最も当てはまるものは「博士号を取得したい」であり、次いで「専門をさらに深めたい」が多い。二番目に当てはまる理由についてもこれら2つの理由を挙げた者が多く、博士号の取得や自身の専門の深化が主要な目的となっている。

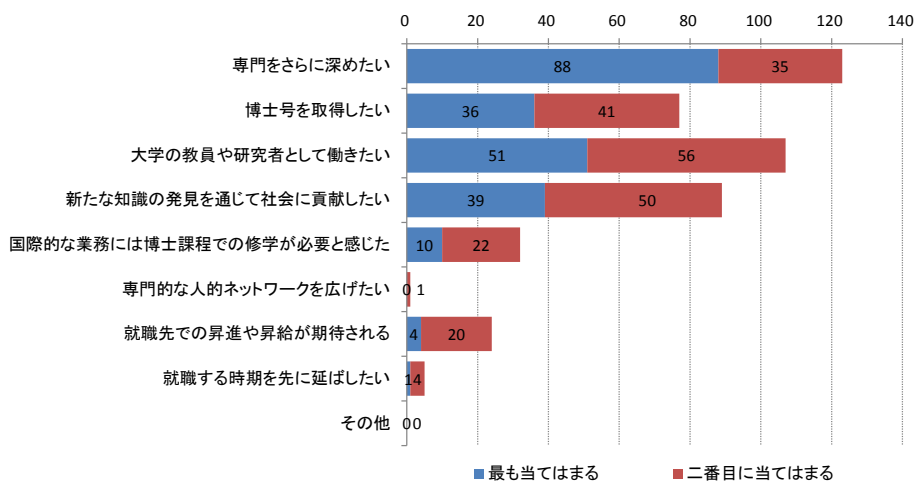
図表 27 博士課程へ進学した理由の順位(社会人学生)



<留学生>

留学生が博士課程へ進学した理由として最も当てはまるものは、「専門をさらに深めたい」であり、次いで「大学の教員や研究者として働きたい」である。二番目に当てはまる理由は「大学の教員や研究者として働きたい」が多く、次いで「新たな知識の発見を通じて社会に貢献したい」と続く。留学生が博士課程へ進学した理由は、一般学生とおおよそ似た傾向を示す。

図表 28 博士課程へ進学した理由の順位(留学生)

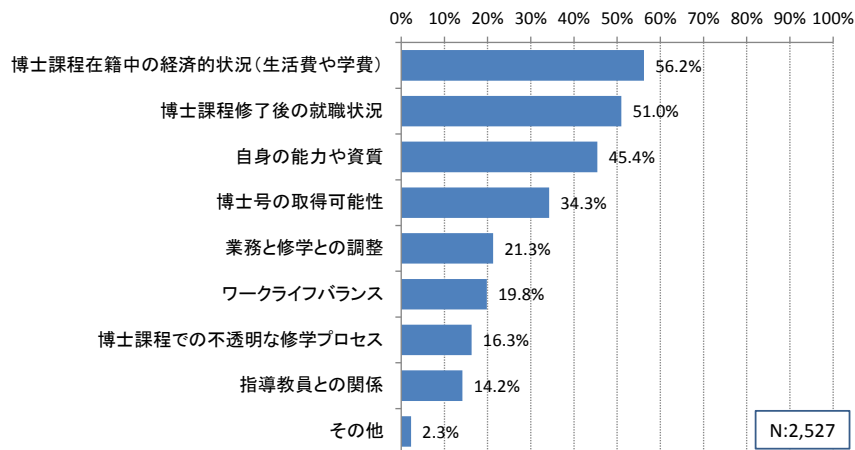


3.3 博士課程への進学を決めた際に懸念した事項

博士課程への進学の際に懸念した事項(複数回答)

博士課程への進学を決めた際に懸念した事項は「博士課程在籍中の経済的状況(生活費や学費)」(56.2%)、「博士課程修了後の就職状況」(51.0%)、「自身の能力や資質」(45.4%)が多い。

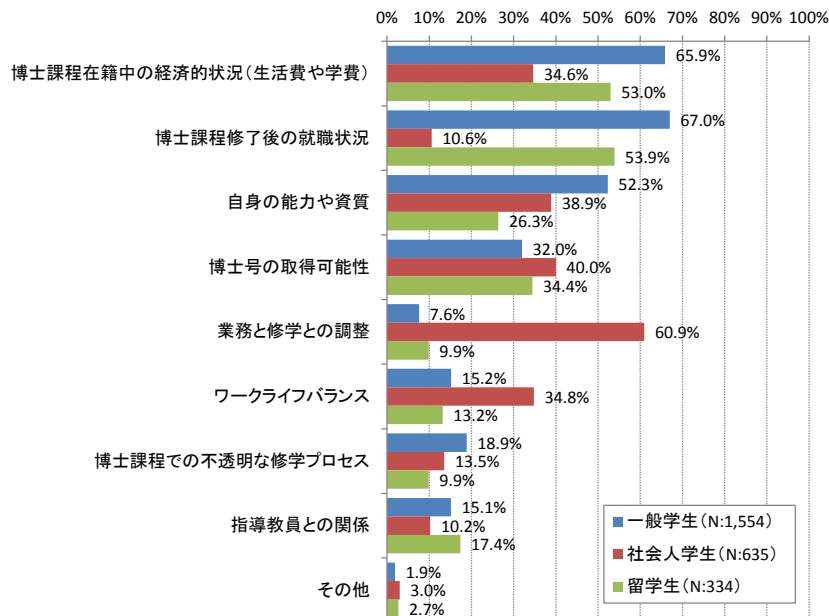
図表 29 博士課程への進学を決めた際に懸念した事項



以下、博士課程進学の際に懸念した事項を示した図表では、項目の並びは図表 29 に基づく。

博士課程への進学を決めた際に懸念した事項は学生種別によって異なる。一般学生や留学生は「博士課程在籍中の経済的状況(生活費や学費)」や「博士課程修了後の就職状況」を挙げた割合が多いのに対して、社会人学生は「業務と修学との調整」を挙げた割合が多い。

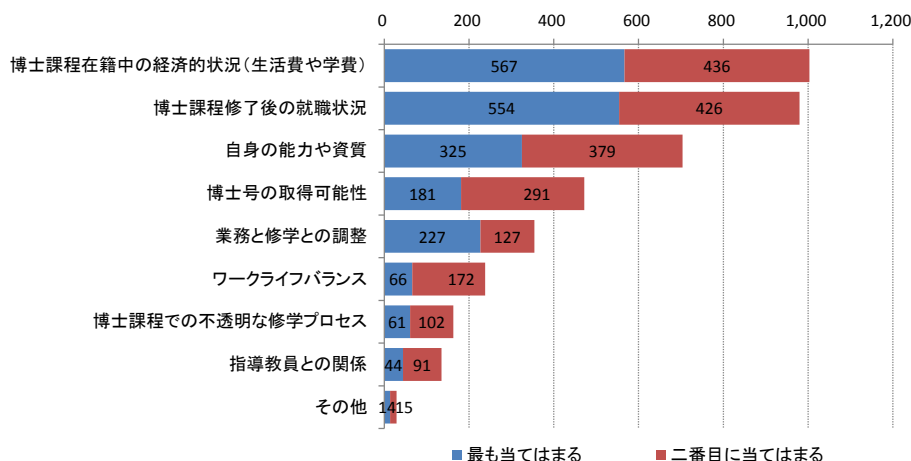
図表 30 博士課程への進学を決めた際に懸念した事項(学生種別)



博士課程への進学を決めた際に懸念した事項の順位

博士課程への進学する際に最も懸念した事項と二番目に懸念した事項を見ると、最も懸念した点(図表 31 青部分)は「博士課程在籍中の経済的状況(生活費や学費)」と「博士課程修了後の就職状況」がほぼ同程度で挙げられている。二番目(図表中 赤部分)もこれら 2 つがほぼ同程度で挙げられており、博士課程進学における大きな懸念点である。

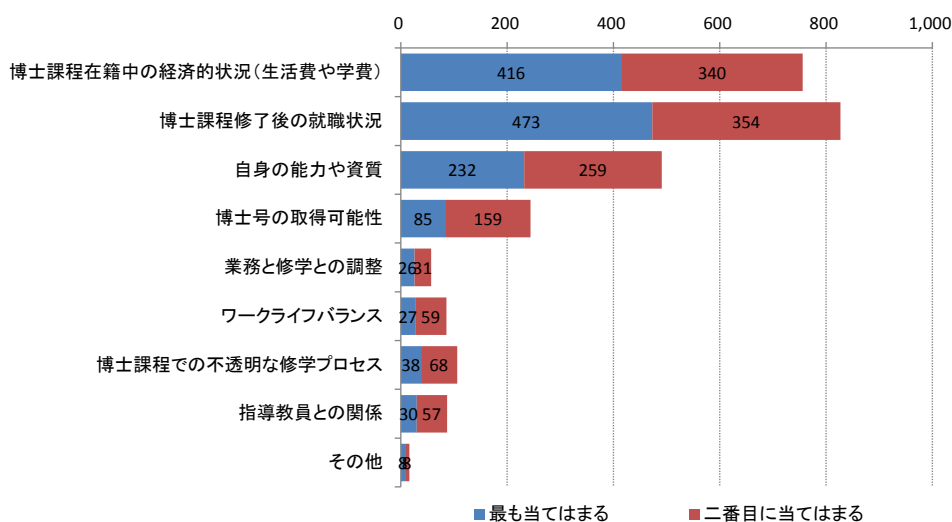
図表 31 博士課程への進学を決めた際に懸念した事項の順位



<一般学生>

一般学生が博士課程進学時に最も懸念していた事項は、「博士課程修了後の就職状況」であり、次いで「博士課程在籍中の経済的状況(生活費や学費)」である。

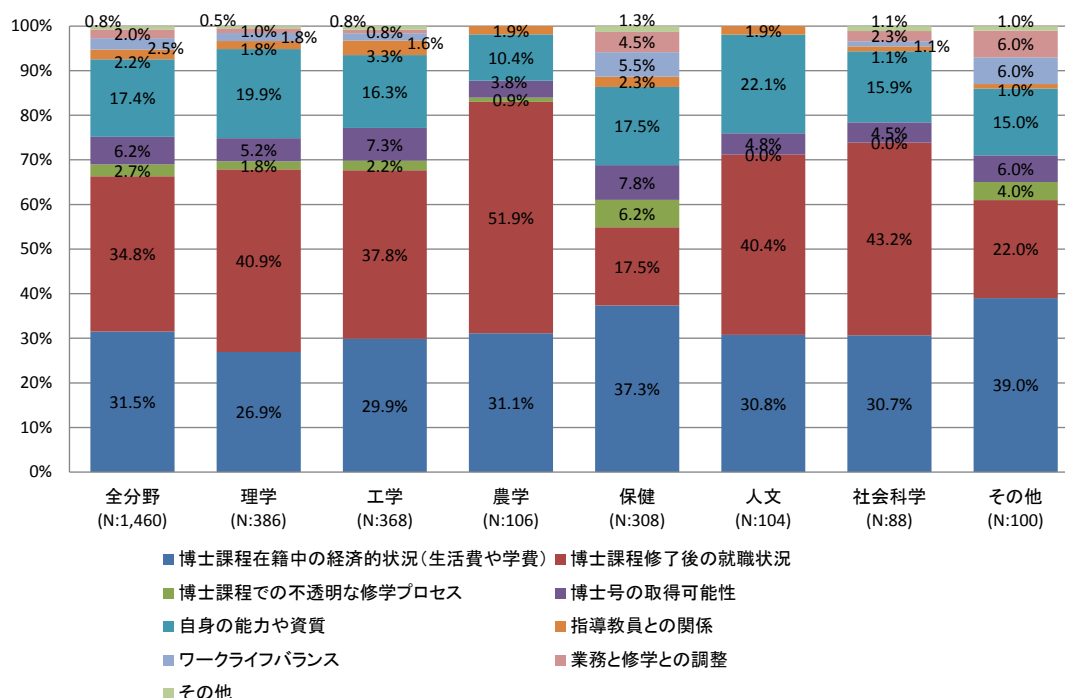
図表 32 博士課程への進学を決めた際に懸念した事項の順位(一般学生)



博士課程への進学を決めた時点で最も懸念した事項を分野別に見ると、理学、工学、人文、社会科学の4分野では回答者が懸念した内容はほぼ同じである。農学は博士課程修了後の就職状況への懸念が51.9%であり、全分野と比べて17.1ポイント高い。一方、保健では博士課程修了後の就職状況への懸念は17.5%と全分野の約半分であるのに対して、ワークライフバランスや博士課程での不透明な修学プロセスに対する懸念が他の6分野よりも若干多い。

これまでの博士課程修了者の進路に関する調査結果からは、自然科学系と比較して人文や社会科学では就職が厳しいことや、自然科学系の中でも工学分野では比較的就職状況が良いことが示されてきた。また博士号の取得率は自然科学系では8割を超えるが人文・社会科学系では5割以下など分野によって異なることが示されてきた。しかし理学、工学、人文、社会科学の回答者が持つ懸念の内容はほとんど同じであることから、分野別の特徴をある程度把握した上で進学を決定している可能性が考えられる。

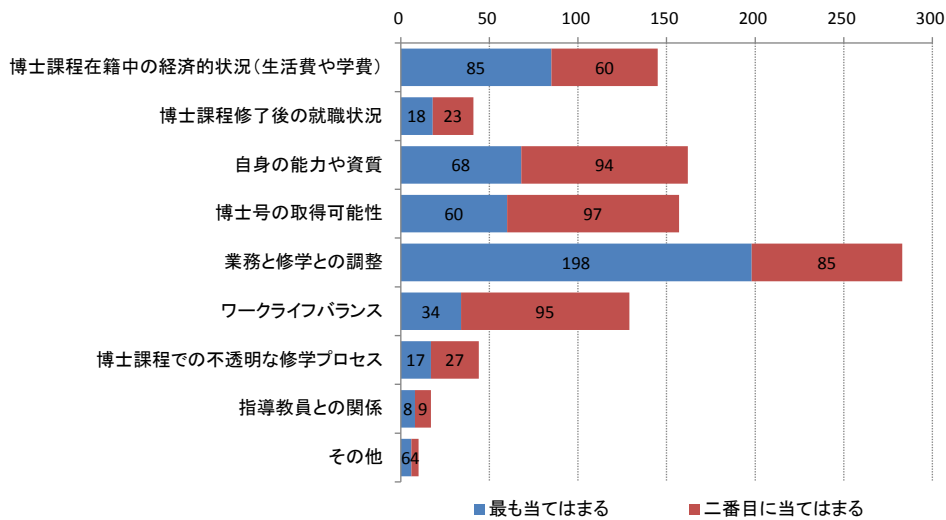
図表 33 博士課程への進学を決めた際に最も懸念した事項(一般学生・分野別)



<社会人学生>

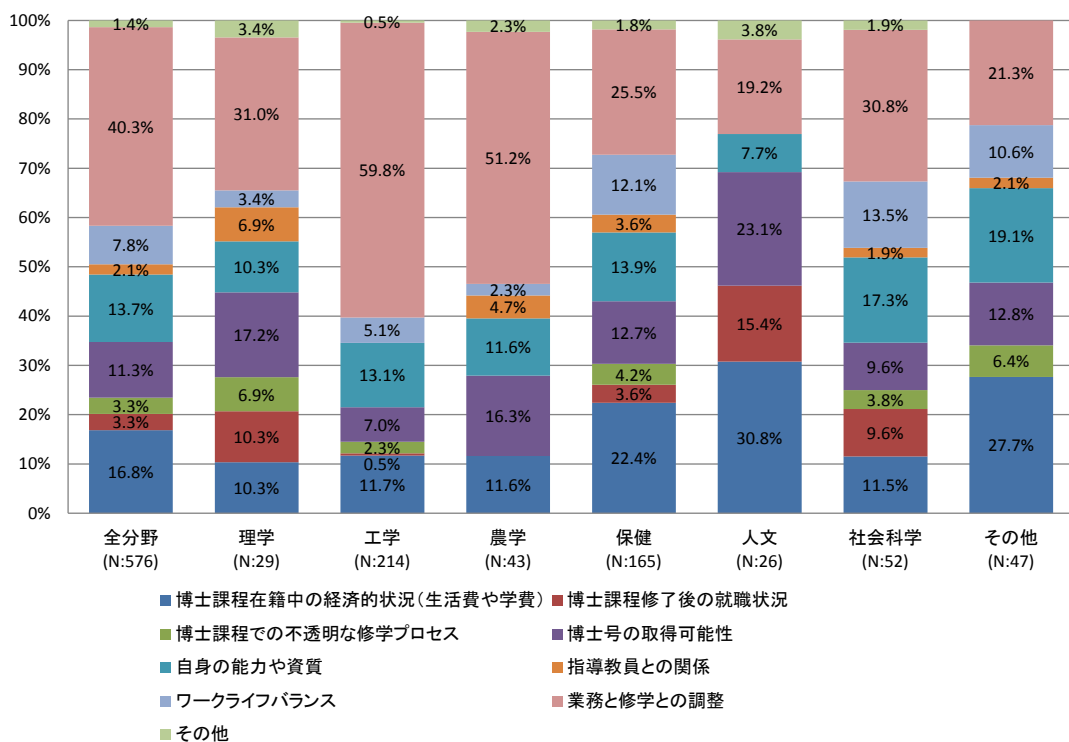
社会人学生が博士課程への進学を決めた際に懸念した事項は一般学生とは大きく異なり、最も懸念した事項は「業務と修学との調整」が圧倒的に多い。二番目に懸念した事項は「博士号の取得可能性」、「ワークライフバランス」、「自身の能力や資質」と続き、それぞれの選択肢を挙げた人数はほぼ同程度である。

図表 34 博士課程への進学を決めた際に懸念した事項の順位(社会人学生)



社会人学生が博士課程への進学を決めた際に最も懸念した事項を分野別に見ると、工学と農学分野は「業務との調整」が過半(工学では 59.8%、農学では 51.2%)であり、人文(19.2%)や保健(25.5%)および 30%程度の理学や社会科学の倍程度に上る。社会人学生でも、経済状況が懸念事項として挙げられており、人文では 30.8%、保健では 22.4%、「その他」は 27.7%である。また人文では 15.4%、理学、社会科学では 10%程度が「博士課程修了後の就職状況」を最も懸念した事項として挙げている。

図表 35 博士課程への進学を決めた際に最も懸念した事項(社会人学生・分野別)

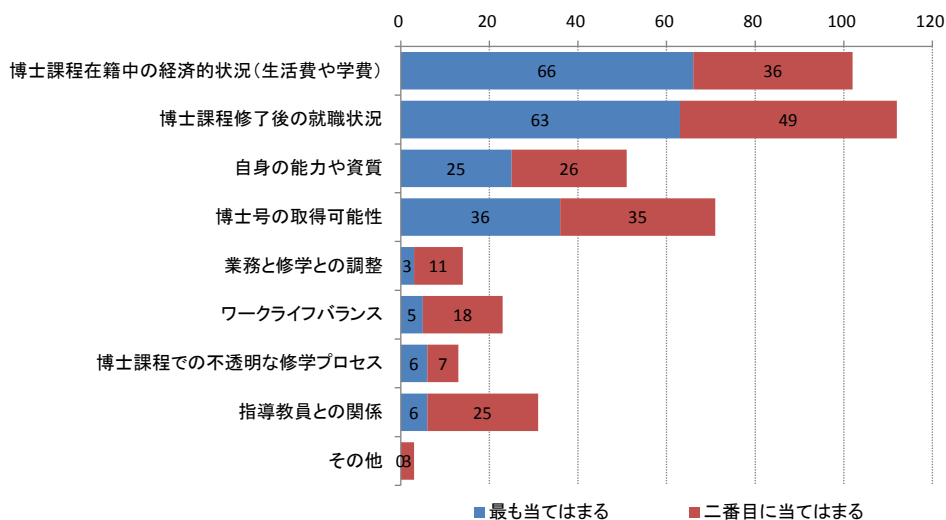


<留学生>

留学生が博士課程進学時に最も懸念していた事項は「博士課程在籍中の経済的状況(生活費や学費)」と「博士課程修了後の就職状況」であり、二番目に当てはまる事項にもこの2点を挙げた者が多い。

なお、一般学生は「博士号の取得可能性」よりも「自身の能力や資質」を懸念事項として挙げた者が多いのに対して、留学生は逆であり「博士号の取得可能性」を懸念点として挙げた者が多い点が特徴的である。

図表 36 博士課程への進学を決めた際に懸念した事項の順位(留学生)



4. 博士論文のテーマ決定

4.1 博士論文のテーマと分野

イノベーションの創造には複数の異なる専門分野の融合等が資すると考えられるため、博士課程では専門分野の枠にとらわれない独創性を持った人材を育成することが求められている。そこで、博士論文の分野融合がどの程度進んでいるのか、博士課程の所属分野と博士論文で扱ったテーマが属する分野との関連を見た(図表 37)。なお、分野の捉え方には議論があるが、ここでは中分類(総務省「科学技術研究調査報告」での専門別分類を参照)を用いた。この結果、最も多い工学分野では43.1%、最も少ない保健でも20.7%、全体では約3割(32.2%)の学生が複数分野に関係する論文を作成していた。分野間の組み合わせに関しては、例えば理学を専攻した回答者は、保健や工学など比較的近い分野に関連したテーマを扱っていたことが分かる(中分類によるクロス表は参考図表 1 を参照)。

複数分野に関連した研究テーマを扱う場合には、これに対応した指導体制が求められる。日常的に複数の指導教員に師事した者(45.7%)のうち約3割(27.8%)は、教員の専門分野が複数であるとしている。

図表 37 博士論文のテーマに類する分野と博士課程での所属分野(大分類)

論文分野 博士分野	理学	工学	農学	保健	人文	社会科学	その他	複数分野に関連する論文を書いた人数割合	複数分野に関連する論文を書いた者の分野数平均
理学(N:508)	584	62	10	65	3	1	1	29.1%	2.5
工学(N:793)	230	1075	17	48	5	22	12	43.1%	2.8
農学(N:225)	86	16	249	26	0	8	2	40.9%	2.8
保健(N:570)	94	12	5	608	6	6	10	20.7%	2.5
人文(N:163)	2	2	1	3	186	21	36	33.1%	2.7
社会科学(N:182)	19	13	7	7	20	203	17	28.6%	3.0
その他(N:195)	38	10	5	124	15	17	77	22.6%	3.2

例：理学分野の内訳(中分類)

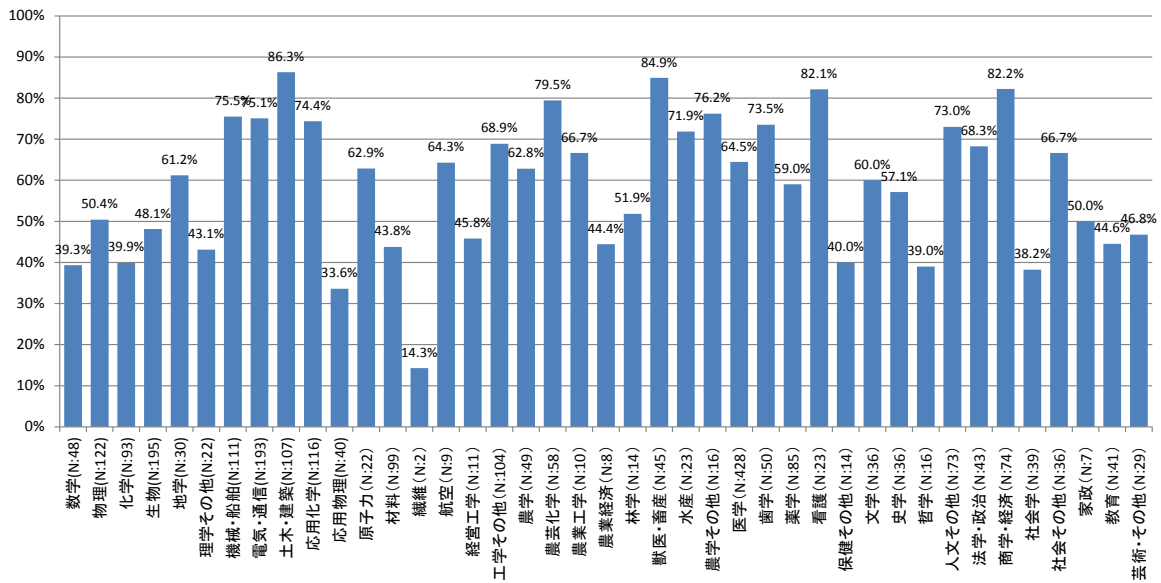
論文分野 博士分野	数学	物理	化学	生物	地学	理学 その他
数学(N:43)	43	3	0	2	0	0
物理(N:122)	11	121	4	5	2	2
化学(N:94)	0	9	90	11	1	0
生物(N:197)	2	5	13	189	1	1
地学(N:31)	1	5	3	1	30	1
理学その他(N:21)	4	2	0	4	0	18

注1:上記図中のピンクは、博士の分野と論文の分野が同じであり博士分野別に見た時に最も多い分野。水色は2番目に多く、薄緑色は3番目に多く選択されている分野を表す。

注2:上記図では、中分類で見た結果をまとめたため、所属分野のN数よりも多い。

博士論文のテーマとして特定の分野を選択した人数に対して、回答者が所属する分野の人数の割合を図表 38 に示す。ここでは、値が小さいほど他の専攻を学ぶ者が同分野をテーマとしている割合が高いことを意味する。上図でも示されたように理学分野では比較的値が低く、逆に値が高いのは、順に土木・建築(86.3%)、獣医・畜産(84.9%)、商学・経済(82.2%)、看護(82.1%)である。

図表 38 博士論文のテーマとして選択した分野に占める所属専攻数の割合(中分類)

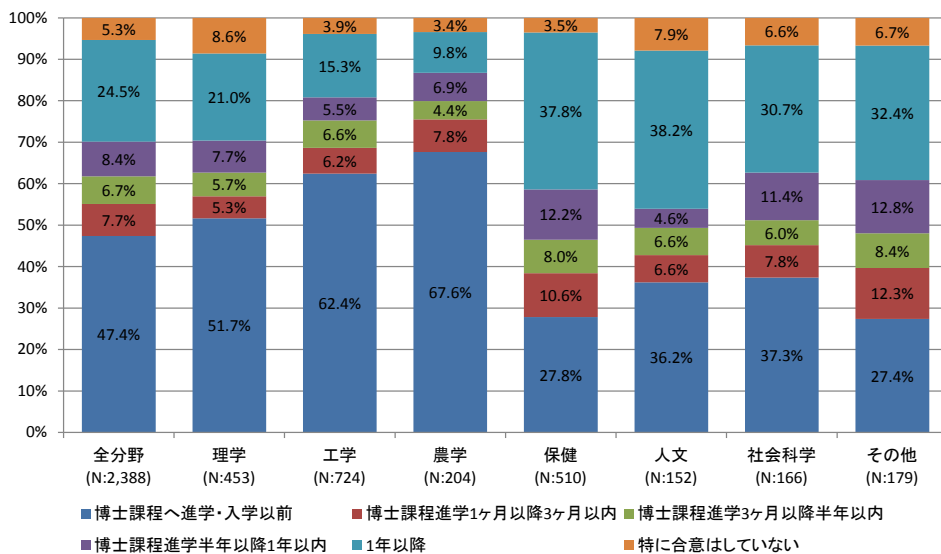


4.2 博士論文のテーマについて指導教員との間で合意をした時期

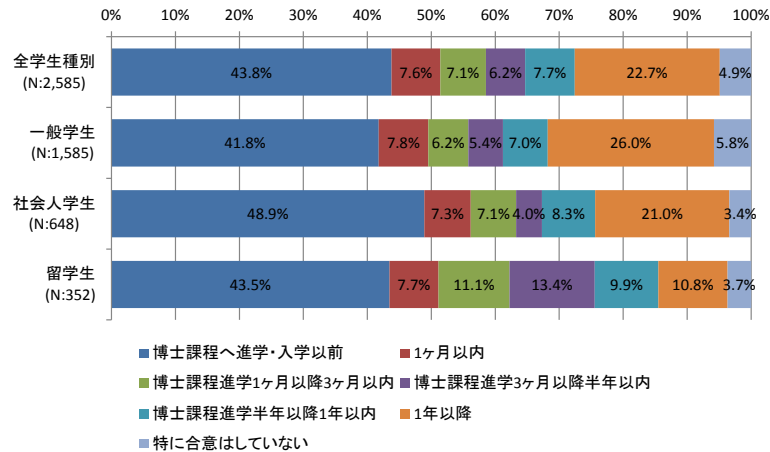
博士論文のテーマについて指導教員と合意した時期を見ると(図表 39)、全分野では博士課程への進学・入学以前と以降がほぼ半数ずつを占める。分野別に見ると、工学や農学分野では進学・入学以前に合意した者が6割を超え、保健や「その他」では進学以降に合意した者が6割を超える。保健、人文、社会科学、「その他」の4分野では、進学後1年以降に合意した者が3割を超える。

博士課程進学後のテーマ決定時期を学生種別で見ると(図表 40)、博士課程への進学・入学以前の割合は社会人学生で48.9%であり、一般学生41.8%および留学生43.5%よりも若干多い。一般学生および社会人学生は博士課程へ進学・入学した1年以降に合意した者が20%を超え(各26.0%、21.0%)、留学生のほぼ倍以上である。

図表 39 博士論文のテーマについて指導教員と合意した時期(分野別)



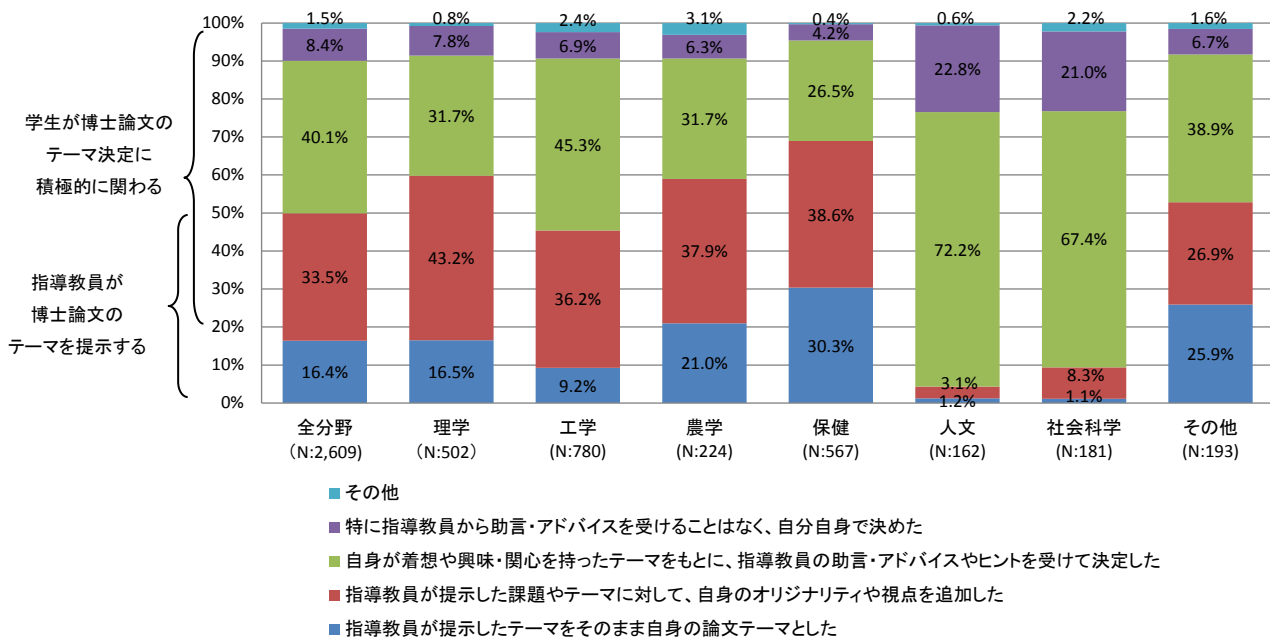
図表 40 博士論文のテーマについて指導教員と合意した時期(学生種別)



4.3 博士論文のテーマ決定への指導教員の関わり方

博士論文のテーマは、学生と指導教員の間で決まると考えられる。博士論文のテーマを決める過程での学生と指導教員の関わり方を分野別に見ると、自然科学系では、指導教員が博士論文のテーマを提示した割合が多く、最も多い保健分野で約7割、最も少ない工学でも5割弱を占める。一方、人文・社会科学では学生自身が着想や興味・関心を持ったテーマをもとに教員からのアドバイスをを受けて決定した者が最も多く約7割であり、指導教員から助言を受けずに決めた者が2割強を占める。指導教員の関わり方が分野間で大きく異なるのは、博士論文のテーマ決定に研究設備等が影響を与えるためと考えられる。なお、博士論文テーマ決定の経緯をその他と回答した者の自由記述には、企業等の勤務先で行っている研究や共同研究のテーマの活用、指導教員以外から提示されたテーマの使用などが含まれる。

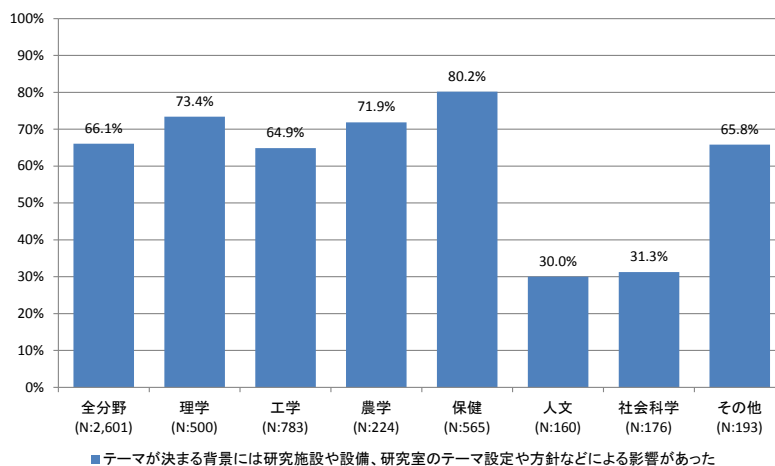
図表 41 博士論文のテーマ決定への指導教員の関わり方(分野別)



博士論文のテーマ決定への研究施設や設備および研究室のテーマ設定や方針などの影響

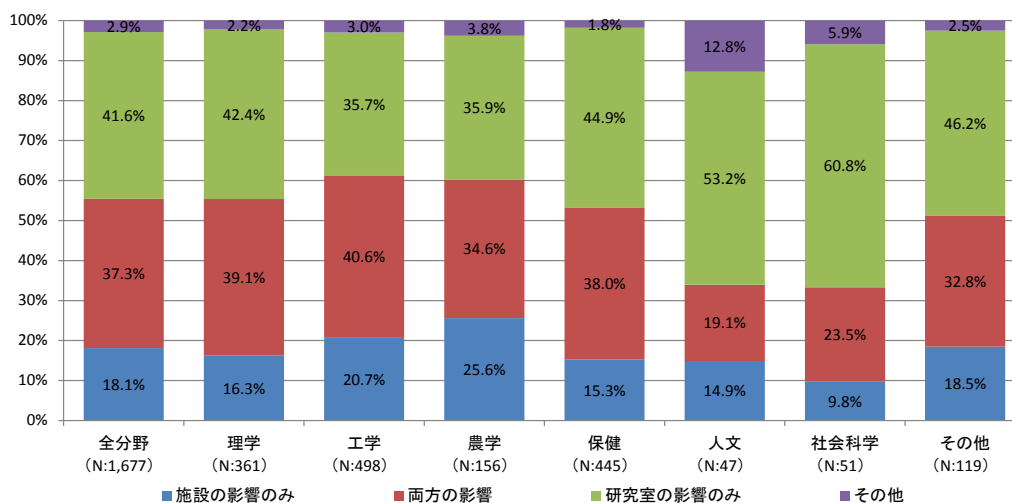
全分野で見ると、博士論文のテーマが決まる背景には研究施設や設備および研究室のテーマ設定や方針などの影響があったと答えた割合は 66.1%である。自然科学系と人文・社会科学系の間には大きな違いがあり、自然科学系では最も低い工学分野で 64.9%、最も高い保健で 80.2%なのに対して、人文・社会科学系は約 3 割(人文 30.0%、社会科学 31.3%)と半分以下である。

図表 42 博士論文のテーマ決定への研究施設や研究室のテーマ方針の影響(分野別)



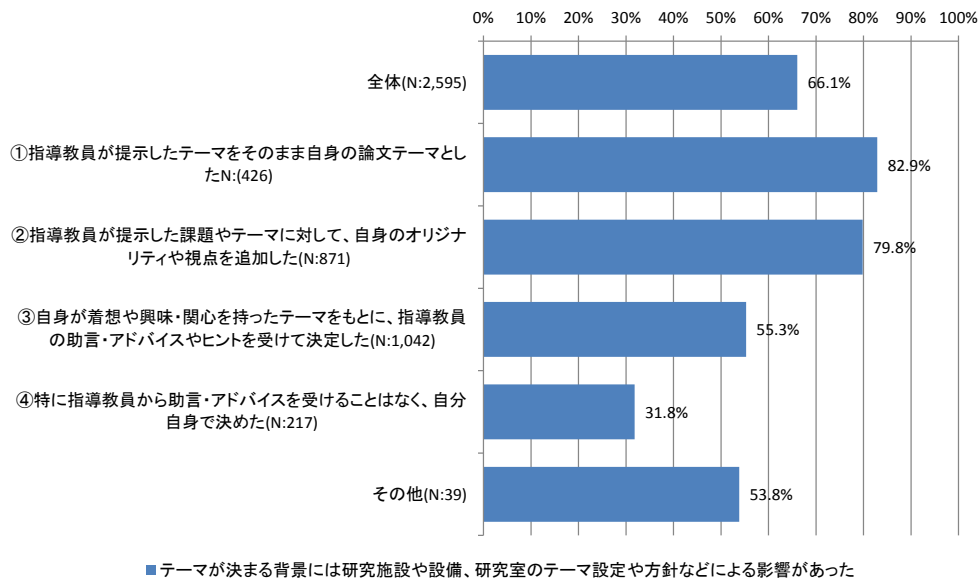
研究のための施設や整備の影響があった場合の内容を聞いたところ、研究室のテーマ設定や方針の影響のみである者は 41.6%、施設・設備と研究室のテーマ設定や方針の両方である者が 37.3%、施設・設備の影響のみである者は 18.1%だった。分野別に見ると、自然科学系は人文・社会科学系と比べて施設の影響を挙げる割合が多い。なお自由記述には、研究室や指導教員等の研究費、勤務先の研究テーマとの関連、3 年以内に博士号が取れるような現実性、研究室のスタッフや先輩の残したテーマ、共同研究(と公開できる内容)などが挙げられており、留学生の場合は出身国でのニーズや応用可能性などが挙げられた。

図表 43 博士論文のテーマ決定への研究施設や研究室のテーマ方針の影響がある場合の内訳



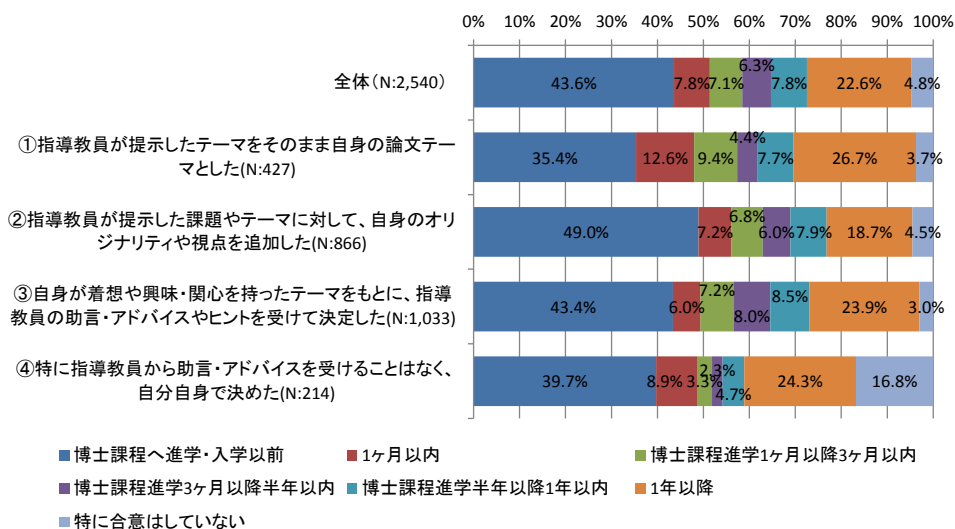
博士論文のテーマ決定と、研究施設や設備および研究室のテーマ設定や方針による影響の関係を見たところ、指導教員がテーマを提示した場合(図中①、②)は、テーマ決定の背景には設備や研究室のテーマの影響があったと考える割合が多く約 80%を占める。自身の着想をもとにして教員からアドバイスを得た場合(図中③)は 55.3%、アドバイス等を受けなかった場合(図中④)は 31.8%に留まる。

図表 44 博士論文のテーマ決定への指導教員の関わり方と研究施設や研究室のテーマ方針の影響



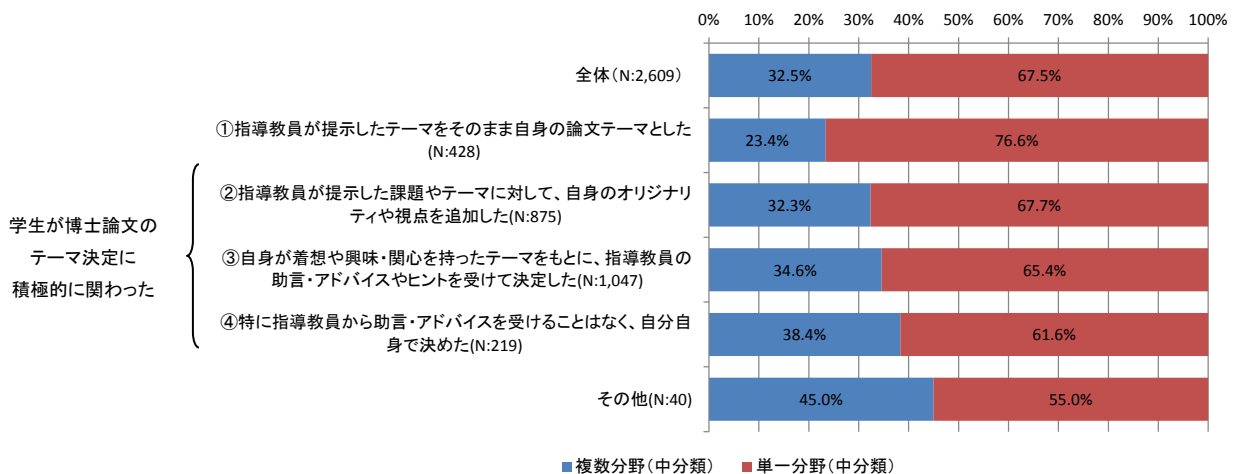
博士論文のテーマ決定への指導教員と学生の関わり方とテーマの合意時期との関係を見ると、博士課程へ進学・入学以前に合意していた者の割合は、指導教員と学生が共同した場合に多く(図中②49.0%、③43.4%)、指導教員もしくは学生のどちらかのみが積極的に関わった場合に少ない(①35.4%、④39.7%)。

図表 45 博士論文のテーマ決定への指導教員の関わり方とテーマの合意時期



博士論文のテーマは、学生と指導教員の間で決まることや、学生は新たな分野融合に挑戦する可能性が高いと考えられることから、博士論文のテーマ決定への学生と教員の関わり方と博士論文が含む分野(中分類)の数との関連を見た(図表 46)。学生が博士論文のテーマ決定に積極的に関わった場合(図中②、③、④)に、複数分野に関連する論文数は3割を超え、積極的に関わらない場合(図中①)と比べて約10ポイント高いことが示された。

図表 46 博士論文のテーマ決定への指導教員の関わり方と博士論文に関連する分野数



4.4 博士論文のテーマ決定と研究能力を身につけた度合いや修学の満足度等との関連

博士論文のテーマ決定と大学院での修学を通じて身につけた研究能力の度合い

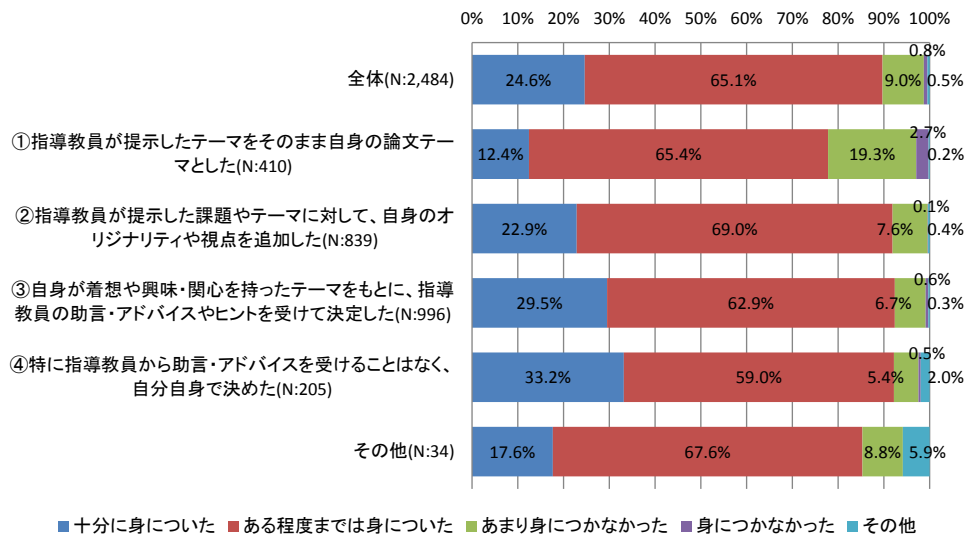
本調査では、大学院での修学を通じて3種類の研究能力(「自身や他者の発見を批判的に評価できる」、「自身の研究を専門分野の知識体系に位置づけることができる」、「専門分野の議論を批判的に理解し自身の仮説を明確に表現する」)を身につけたと学生自身が考える程度を聞いた⁷。

全体を見ると、どの能力についても回答者の約90%は身につけたと考えている。しかし博士論文テーマの決定への指導教員の関わり方によって、身につけたと考える能力の度合いには差異が認められる。自分自身でテーマを着想したり教員が提示したテーマに対して自身のアイデア・視点を追加したりするなど積極的にテーマ決定に関わった学生では(図中②、③、④)、同能力を身につけたと考える割合(「十分に身についた」と「ある程度までは身についた」の合計)は9割程度を占めた。一方、指導教員が提示したテーマをそのまま受け入れた学生(図中①)の同割合は7割から8割程度であり、1、2割程度低くなっている。

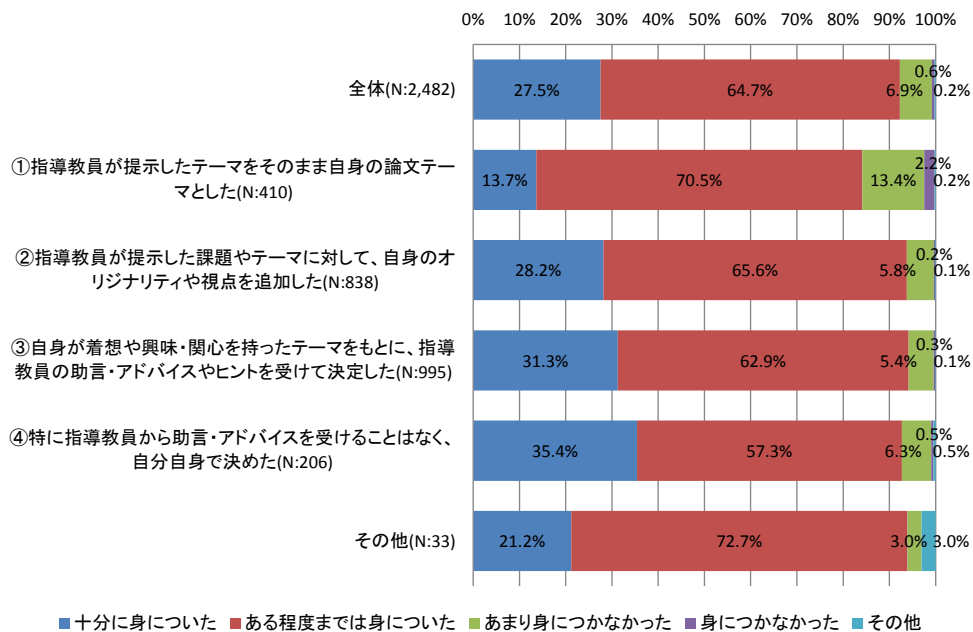
この結果からは、博士論文のテーマ決定への関わり方が、学生が身につけたと考える研究能力の度合いに影響を与えること、そして学生による何らかのインプットがあった場合に身につけたと考える能力の度合いが高いことが示されている。

⁷ これらの能力は、英国の Vitae が発表した Researcher Development Framework を参考とした。
<http://www.vitae.ac.uk/researchers/428241/Researcher-Development-Framework.html>

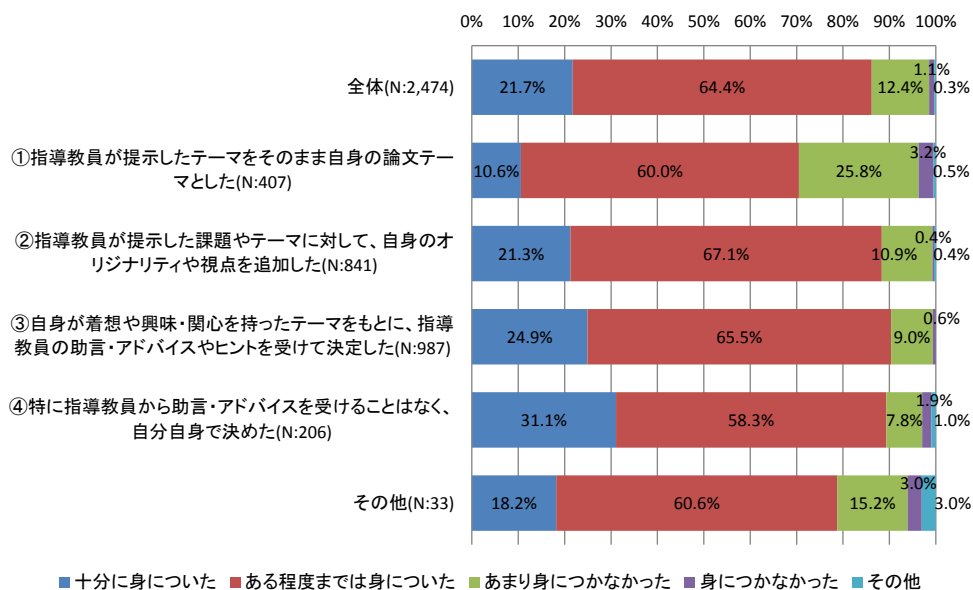
図表 47 博士論文のテーマ決定と「自身や他者の発見を批判的に評価できる能力」を身につけたと考える度合い



図表 48 博士論文のテーマ決定と「自身の研究を専門分野の知識体系に位置づけることができる能力」を身につけたと考える度合い



図表 49 博士論文のテーマ決定と「専門分野の議論を批判的に理解し自身の仮説を明確に表現する能力」を身につけたと考える度合い



博士論文のテーマ決定と大学院での修学の満足度

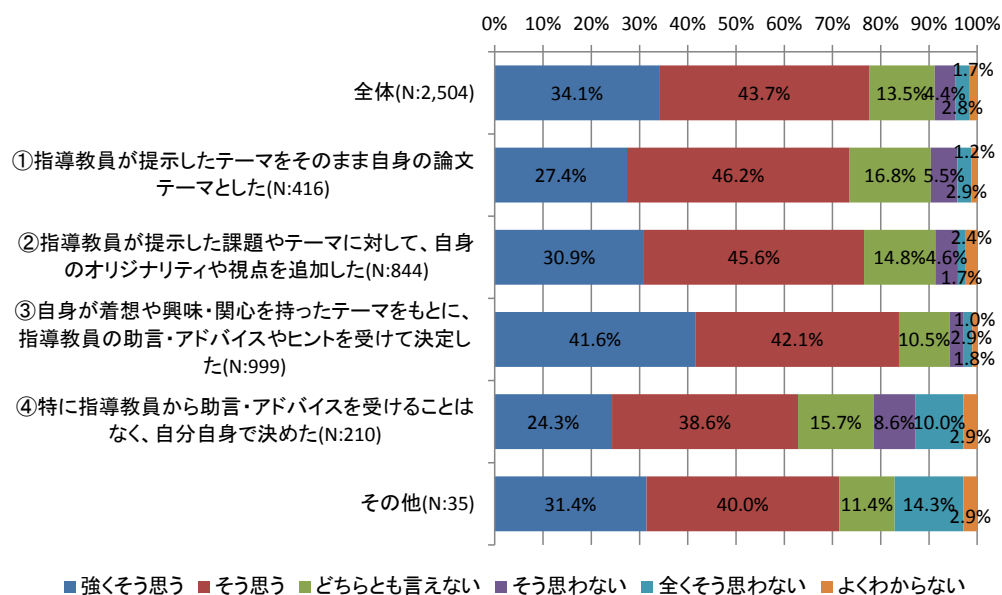
本調査では、博士学生にとって大学院での修学に価値があると思う度合い(修学に対する満足度)を「授業や論文指導など提供されたサービス自体」として、「自分自身の身についたもの」として、「10年後の将来」においての3点で尋ねた。

授業や論文指導など提供されたサービス自体としての大学院の満足度と博士論文のテーマ決定への関わり方との関係を見たところ(図表 50)、指導教員が論文テーマの決定に関わった場合(図中①、②、③)に、大学院での修学に満足する割合(「強くそう思う」と「そう思う」の合計)は7割から8割を占め、指導教員が積極的に関わらなかった場合(図中④)と比べると約1割から2割高い。大学院修学への満足度が特に高い(「強くそう思う」と回答した)者に着目すると、学生自身のアイデアをもとに指導教員のアドバイスを受けてテーマを決めた者(図中③)の割合が最も高く41.6%であり、指導教員が積極的に関わらず学生自身で決めた場合(図中④)の割合は24.3%に留まる。

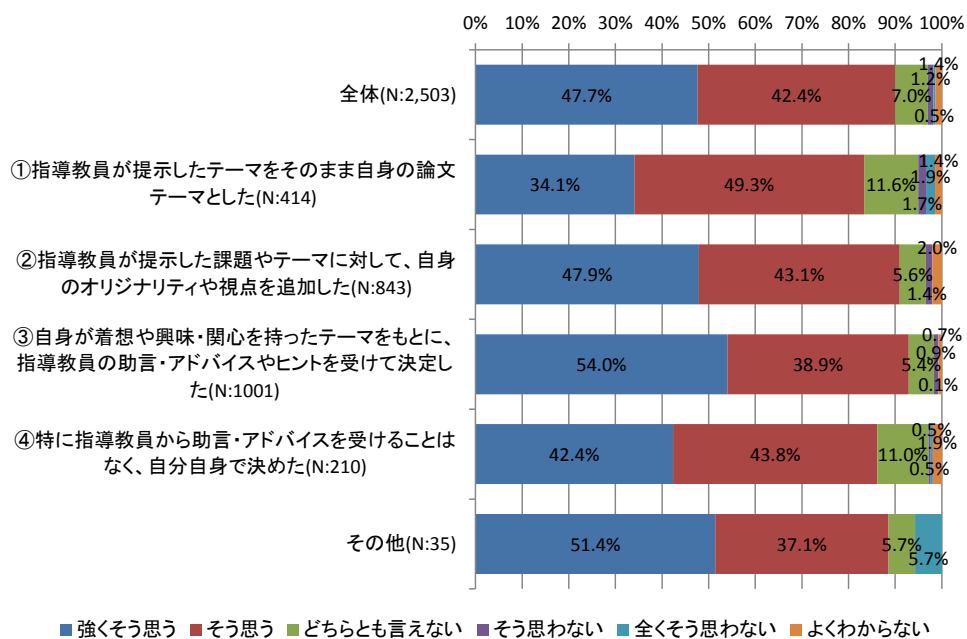
また、「授業や論文指導など提供されたサービス自体」以外の満足度(「自分自身の身についたもの」として、「10年後の将来」において)では、指導教員と学生の双方が共にテーマ決定に積極的に関わった場合(図中②、③)に、どちらかが積極的に関わらなかった場合(図中①、④)と比べて若干ではあるが満足度が高い傾向が示された。

このように大学院の修学での満足度は満足度の内容により、博士論文のテーマ決定との関わり方の関係が異なるが、総じて教員と学生が共同してテーマを決定した場合に評価が高いという点では一致していることが分かる。

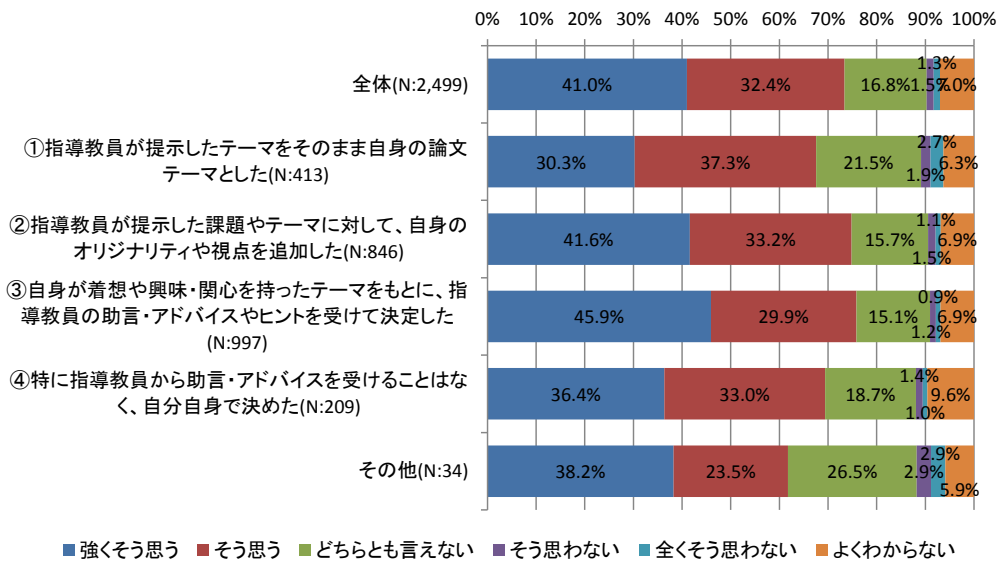
図表 50 博士論文のテーマ決定と「授業や論文指導など提供されたサービス自体」
として大学院の価値があると思う度合い



図表 51 博士論文のテーマ決定と「自分自身に身についたもの」として大学院の価値
があると思う度合い



図表 52 博士論文のテーマ決定と「10年後の将来」において大学院の価値があると思う度合い

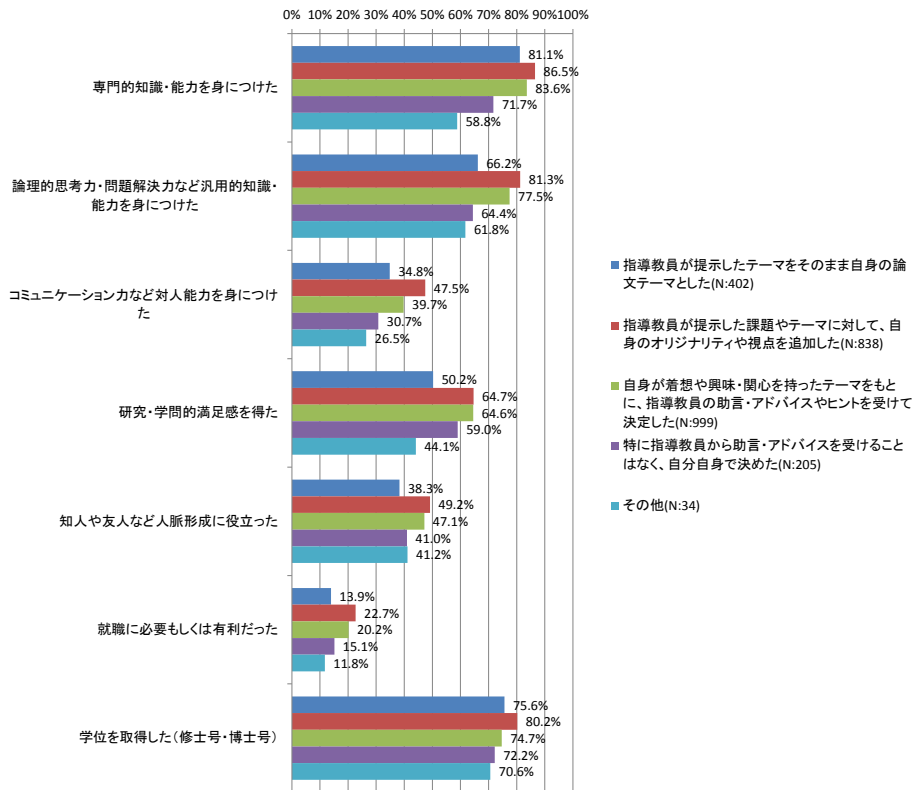


博士論文のテーマ決定と大学院での修学を通じて良かった点・不満だった点

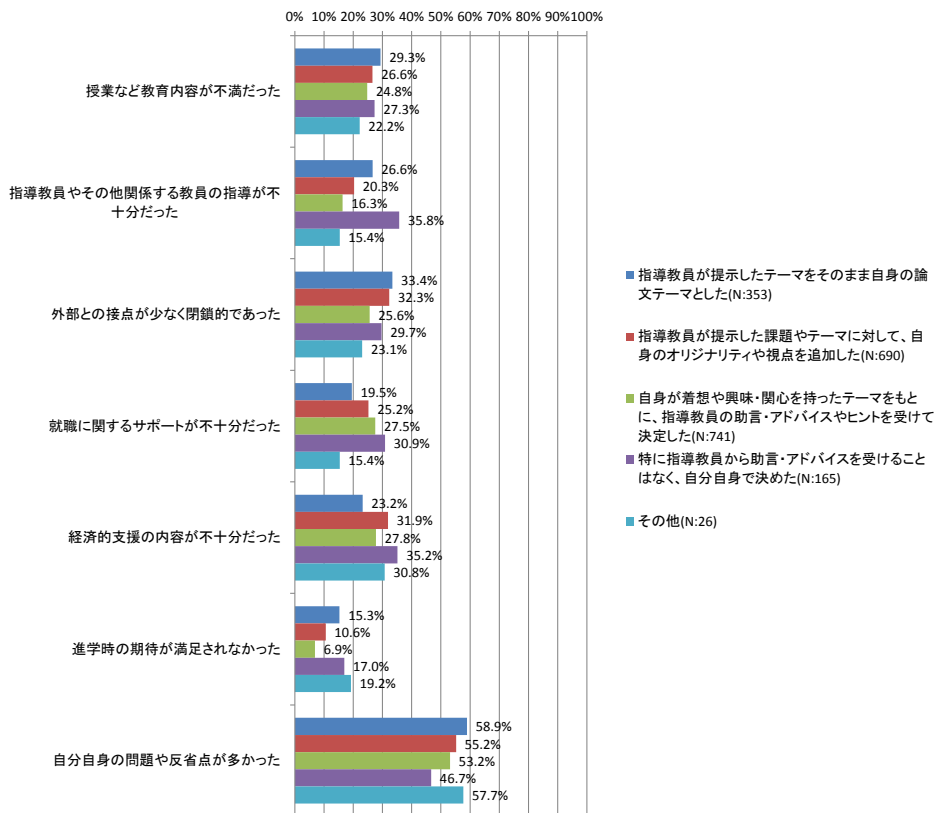
大学院での修学を通じて良かった点と博士論文のテーマ決定との関係を見た(図表 53)。全体的な傾向として、まず学生と指導教員の双方が積極的にテーマ決定に関わった場合に、そうでない場合と比較して満足度が高いことが分かる。この点は特に論理的思考力・問題解決力など汎用的知識・能力を身につけた割合に顕著に示されている。テーマ決定に学生と指導教員のいずれかが積極的に関わらなかった者のうち、指導教員からアドバイス等を受けることなくテーマを決めた者は、他のテーマ決定の関わり方を経た者よりも特に能力の獲得を低く評価している。指導教員が提示したテーマをそのまま自分のテーマとした者は、特に研究・学問的満足感を得たことを、学生と教員の双方が積極的にテーマ決定に関わった場合より約 15 ポイント低く、自分で決定した者よりも 10 ポイント低く評価している。

次に大学院を通じて不満だった点と、博士論文のテーマ決定の関係を見た(図表 54)。教育や研究指導、進学時の期待に関しては、学生と指導教員が共同で積極的にテーマに関わった場合に、そうでない場合と比較して不満と感じていた割合が低い。一方、指導教員からアドバイス等を受けなかった場合は、指導教員からの指導に不満を感じる割合が多く 35.8% に上り、テーマを提示された場合よりも約 10 ポイント、学生と教員が積極的に関わって決めた場合よりも約 15 ポイント高い。

図表 53 大学院での修学を通じて良かった点と博士論文のテーマ決定



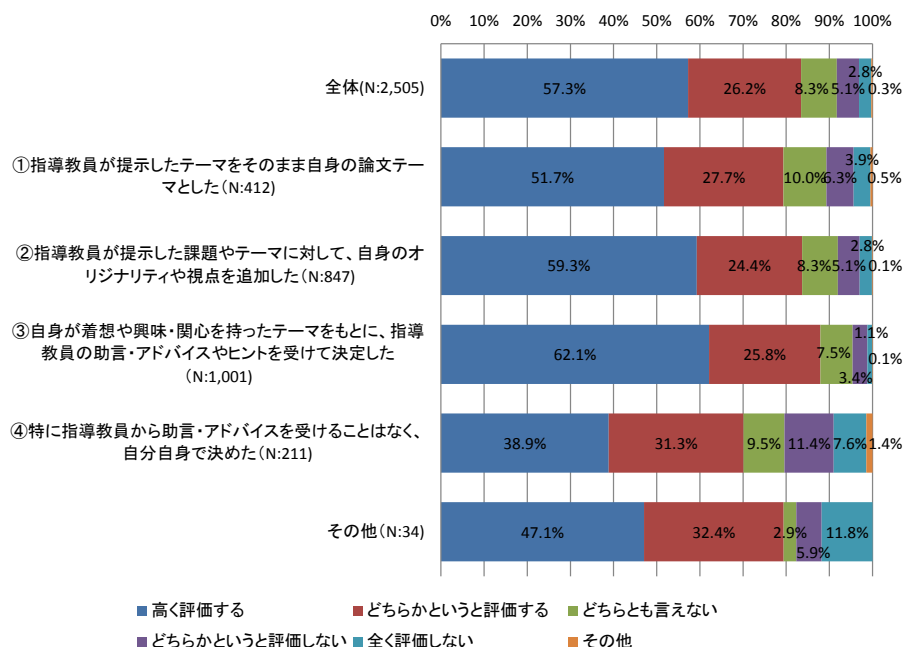
図表 54 大学院での修学を通じて不満だった点と博士論文のテーマ決定



博士論文のテーマ決定と博士課程での主たる指導教員の教育・研究指導への評価

博士論文のテーマ決定への学生と教員の関わり方は指導関係の一端を表していると考えられる。そこで博士論文のテーマ決定と博士課程での主たる指導教員の教育・研究指導に対する評価の関係を見た(図表 55)。指導教員からアドバイス等を受けることなく学生自身がテーマを決めた場合(図中④)は、指導教員が積極的に関わった場合(図中①、②、③)と比較して、指導教員を高く評価する割合(「高く評価する」と「どちらかという評価する」の合計)が低く(70.2%)、評価しない割合(「どちらかという評価しない」と「全く評価しない」の合計)が高い(19.0%)。他方、教員が積極的に関わった場合に教員を評価する割合は約 8 割から 9 割、評価しない割合は 1 割程度と高い。教員の積極的な関わりがあった場合でも、学生自身が着想や興味・関心を持ったテーマをもとに指導教員の助言やヒントを得て決定した者(図中③)は、指導教員が提示したテーマをもとにした者(図中①、②)と比較して、教員を高く評価する割合が 87.9%と若干多く、低く評価する割合が 4.5%と約半分となっている。

図表 55 博士論文のテーマ決定と博士課程での主たる指導教員の教育・研究指導への評価



5. 博士論文の作成プロセス

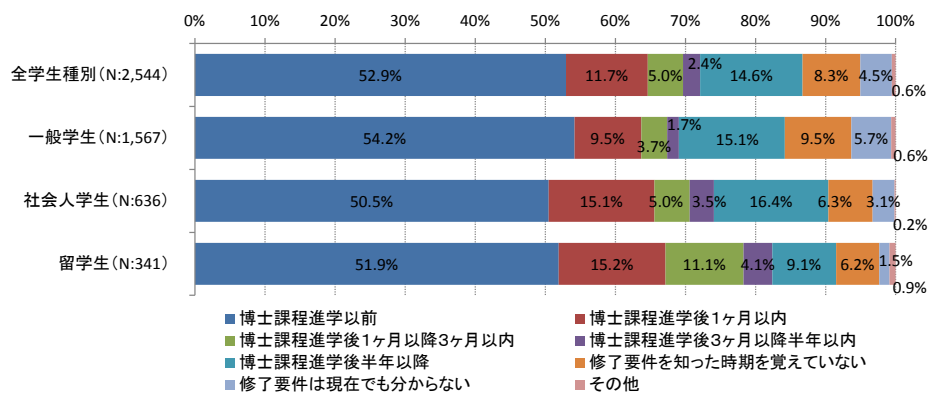
以下では、博士論文の作成プロセスについて示す。なお、プロセス管理と前章のテーマ決定との関連については参考資料2を参照のこと。

5.1 博士課程修了の要件を知った時期

投稿論文数、投稿先学術誌等

おおよそ半数(52.9%)は博士課程進学以前から博士課程修了の要件(投稿論文数、投稿先学術誌等)を把握しているが、14.6%の学生は博士課程進学後半年以降に把握している。学生種別によって要件を知った時期に大きな差は見られない。

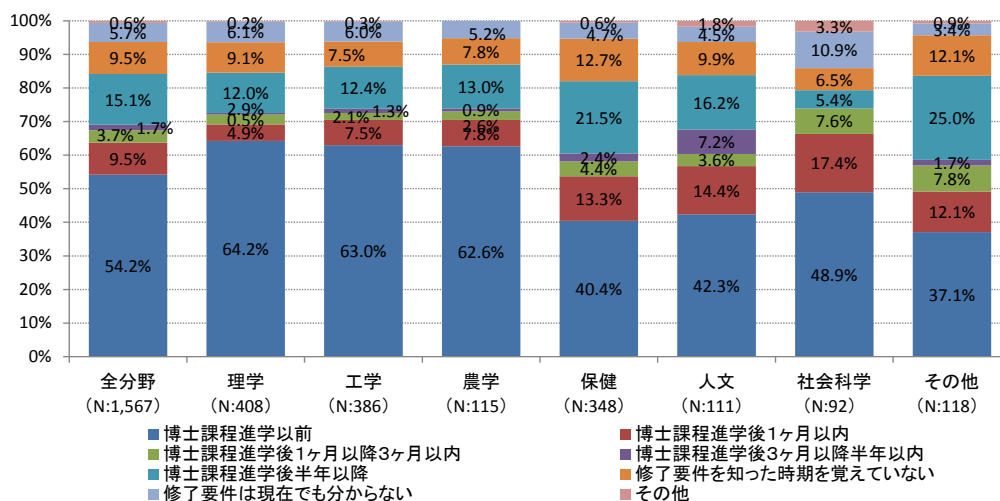
図表 56 博士課程修了の要件(投稿論文数、投稿先学術誌等)を知った時期(学生種別)



<一般学生>

一般学生が博士課程修了の要件(投稿論文数、投稿先学術誌等)を知った時期を分野別に見ると、理学、工学、農学の3分野では、博士課程進学以前に修了要件を把握していた者の割合が6割を超える。一方、保健、人文、社会科学、「その他」の4分野では、博士課程進学以前に修了要件を把握していた割合が5割以下と低く、保健と「その他」では進学半年以降が2割を超える(各21.5%、25.0%)。

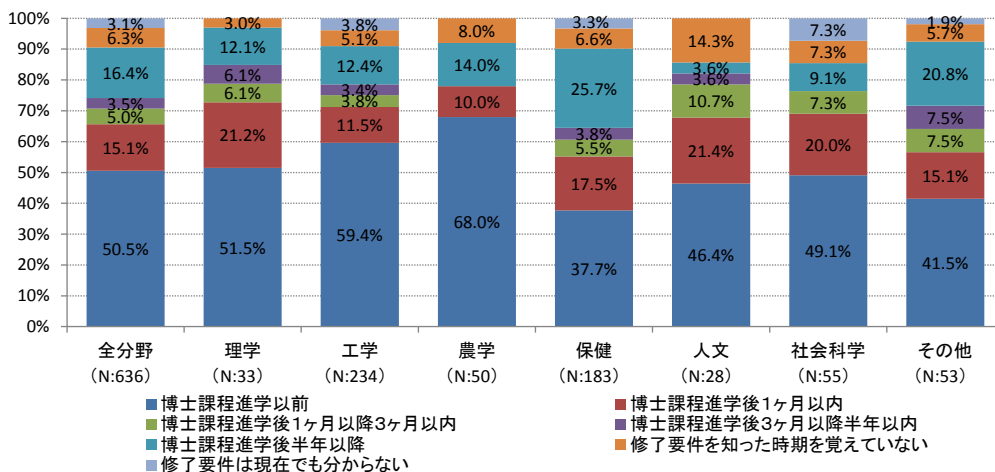
図表 57 博士課程修了の要件(投稿論文数、投稿先学術誌等)を知った時期(一般学生・分野別)



<社会人学生>

社会人学生が博士課程修了の要件(投稿論文数、投稿先学術誌等)を知った時期を分野別に見ると、農学と工学分野では、博士課程進学以前に知った割合が高い傾向にある(各 68.0%、59.4%)。

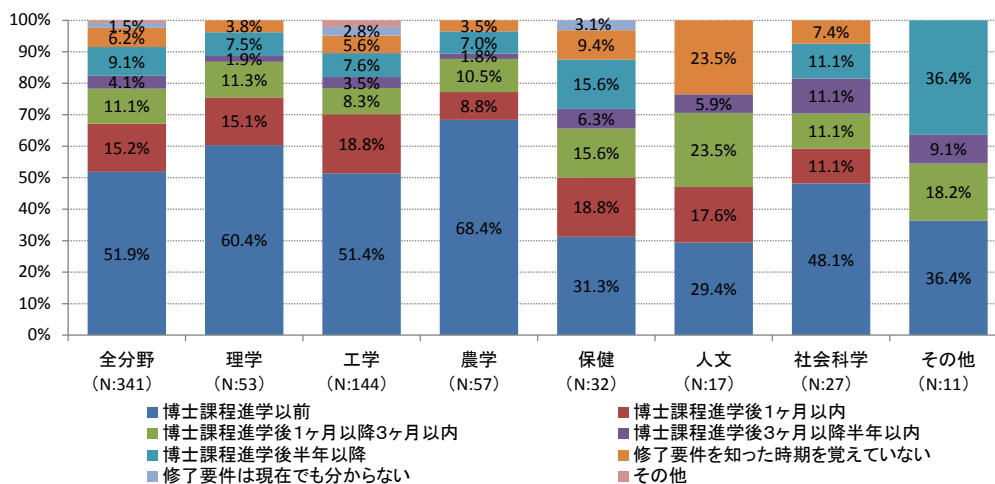
図表 58 博士課程修了の要件(投稿論文数、投稿先学術誌等)を知った時期(社会人学生・分野別)



<留学生>

留学生が博士課程修了の要件(投稿論文数、投稿先学術誌等)を知った時期は、保健、人文、「その他」の3分野では、博士課程進学以前に修了要件を把握していた者の割合が低い。一般学生や社会人学生が修了要件を知った時期と比較してもおおよそ似かよった傾向を示している。

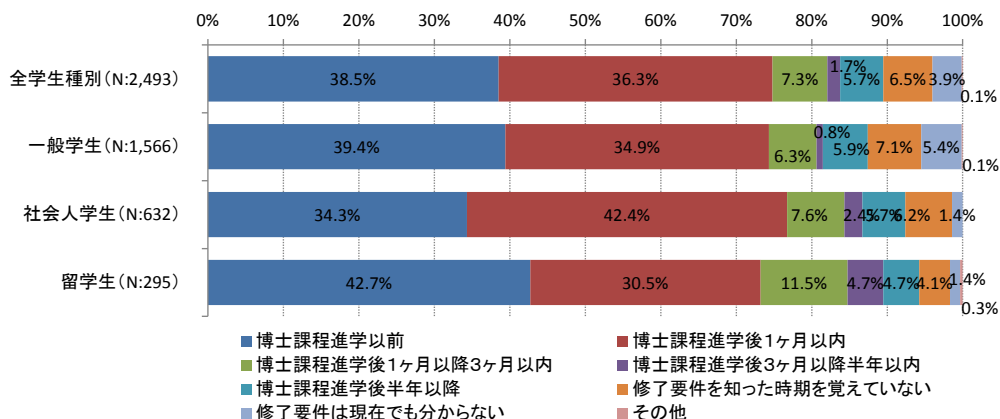
図表 59 博士課程修了の要件(投稿論文数、投稿先学術誌等)を知った時期(留学生・分野別)



取得単位数

博士課程修了の要件(取得単位数)を知った時期を見ると、博士課程進学以前に把握していた者の割合は 38.5%、博士課程進学後 1 ヶ月以内に知った者の割合が 36.3%であり、おおよそ 7 割の回答者は博士課程進学 1 ヶ月以内のうちに取得単位数を把握していたことが分かる。学生種別間で大きな違いは見られない。投稿論文数や投稿先学術誌等(図表 56 参照)と比べ、博士課程に進学してから要件を把握した者が占める割合が高い。

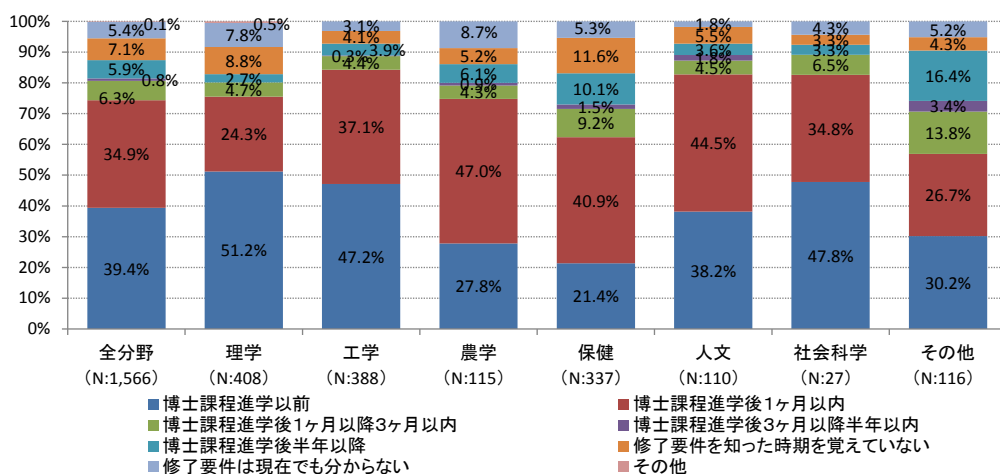
図表 60 博士課程修了の要件(取得単位数)を知った時期(学生種別)



<一般学生>

一般学生が博士課程の修了要件(取得単位数)を知った時期を見ると、理学、工学、社会科学の 3 分野では博士課程進学以前に知った割合が 5 割前後を占め(各 51.2%、47.2%、47.8%)、農学、保健、「その他」の 3 分野では博士課程進学前から知っていた者の割合が低く、2 割から 3 割である(各 27.8%、21.4%、30.2%)。

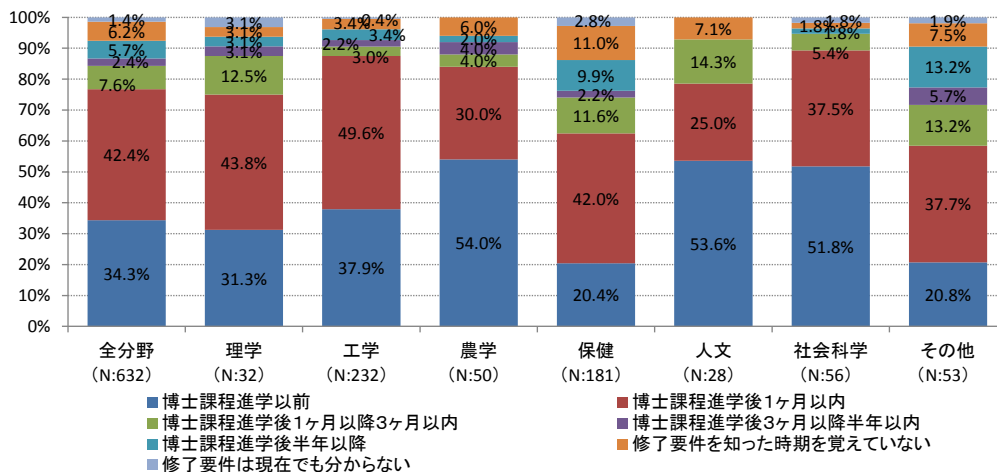
図表 61 博士課程修了の要件(取得単位数)を知った時期(一般学生・分野別)



<社会人学生>

社会人学生が博士課程修了の要件(取得単位数)を知った時期を見ると、農学と人文、社会科学分野では、博士課程進学以前に知った割合が高い傾向にある(各 54.0%、53.6%、51.8%)。保健と「その他」では、博士課程進学以前に知った割合が低く約 2 割に留まる(各 20.4%、20.8%)。

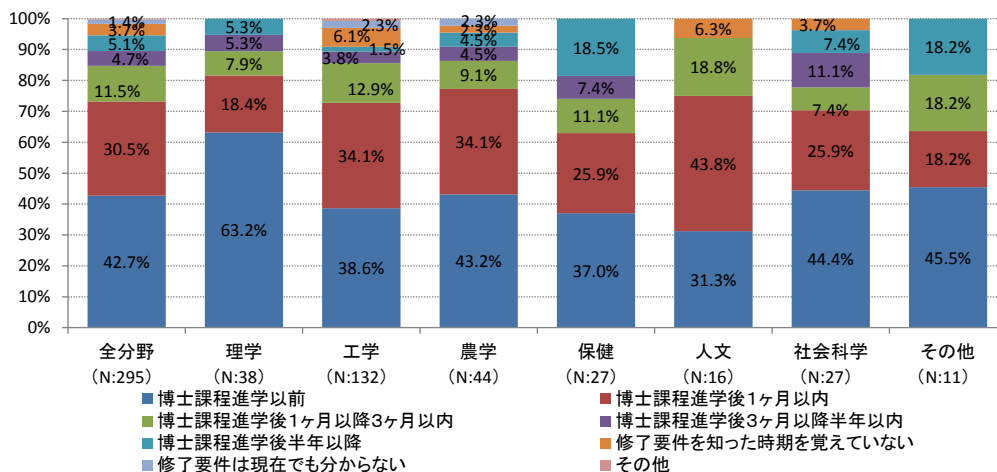
図表 62 博士課程修了の要件(取得単位数)を知った時期(社会人学生・分野別)



<留学生>

留学生が博士課程修了の要件(取得単位数)を知った時期を見ると、理学分野では博士課程進学以前に修了要件を把握していた者の割合が 63.2%であり、全分野合計の 42.7%と比べて高い。

図表 63 博士課程修了の要件(取得単位数)を知った時期(留学生・分野別)

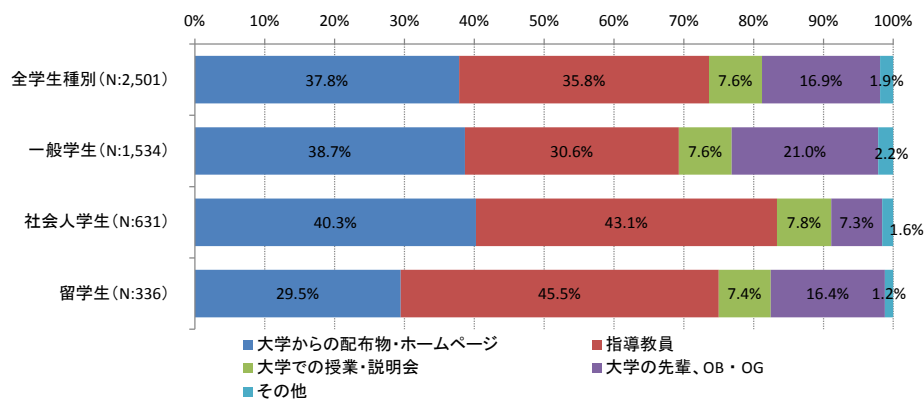


5.2 博士課程修了の要件を知った経路

博士課程を修了するために必要な要件を知った経路を見ると、大学からの配布物・ホームページと回答した者の割合が 37.8%、指導教員を通じて知った割合が 35.8%である。

学生種別では、一般学生と社会人学生(国籍が日本の者が 99.1%を占める)は大学からの配布物やホームページから要件を知った者の占める割合は 4 割程度であり(各 38.7%、40.3%)、留学生は 3 割程度である(29.5%)。また、一般学生が指導教員から知った割合は約 3 割なのに対して(30.6%)、社会人学生と留学生は約 4 割である(各 43.1%、45.5%)。大学の先輩や OB・OG を通じて知った割合は、一般学生では 21.0%だが、社会人はその約 1/3 に留まる。なお、博士課程修了の要件を知った経路をその他と回答した者の中には、「大学の教育担当者への問い合わせ」や「研究室のメンバー、同級生」等を挙げた者が多く見られた。

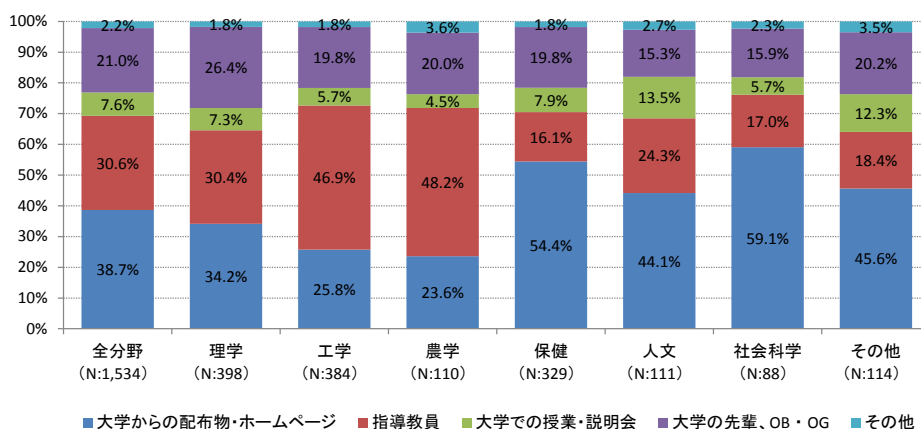
図表 64 博士課程修了の要件を知った経路(学生種別)



<一般学生>

一般学生が博士課程修了の要件を知った経路は分野間で違いが見られる。工学、農学の 2 分野では指導教員から直接要件を知った者の割合が 5 割近く(各 46.9%、48.2%)、他分野よりも 20 から 30 ポイント多い。一方、これら 2 分野は大学からの配布物・ホームページを通じて把握した者の割合が 2 割程度であり(各 25.8%、23.6%)、保健、人文、社会科学、「その他」の 4 分野では 4 割から 6 割近くに上る。

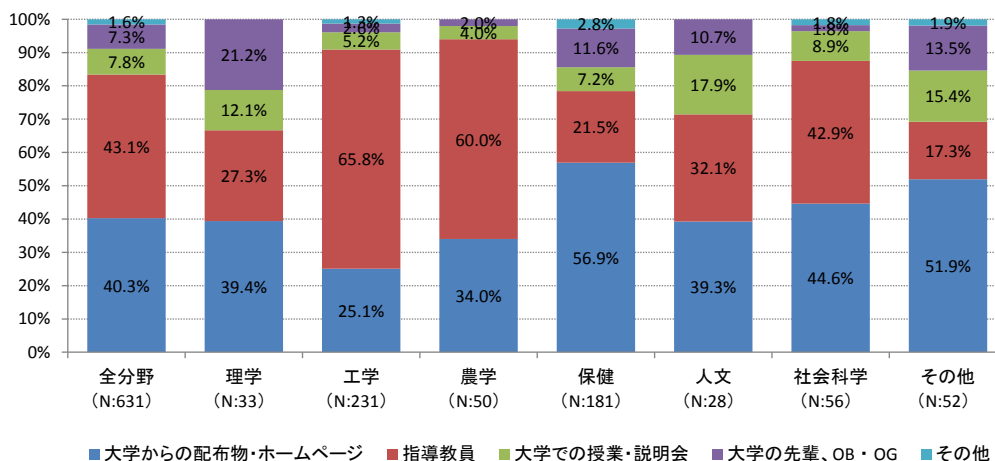
図表 65 博士課程修了の要件を知った経路(一般学生・分野別)



<社会人学生>

社会人学生が博士課程修了の要件を知った経路を分野別に見ると、工学や農学分野では指導教員から直接要件を知った者の割合が6割を超え(各65.8%、60.0%)全分野43.1%と比較して高く、保健や「その他」分野では大学からの配布物・ホームページを通じて把握した者の割合が5割を超えるなど高い(各56.9%、「その他」51.9%)。

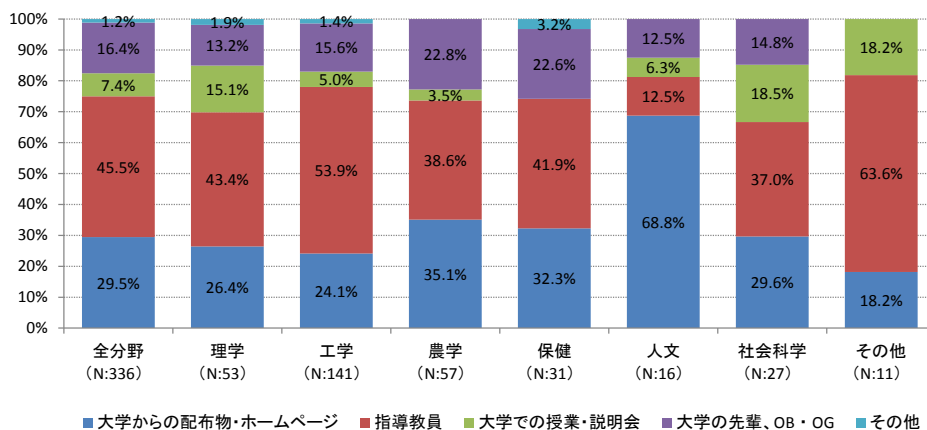
図表 66 博士課程修了の要件を知った経路(社会人学生・分野別)



<留学生>

留学生が博士課程修了の要件を知った経路を分野別に見ると、人文分野では大学からの配布物・ホームページを通じて把握した者の割合が高い(68.8%)が、人文以外の6分野では指導教員から直接要件を知った割合が高い。ただし、人文の回答者数が16人と少ない点に留意する必要がある。

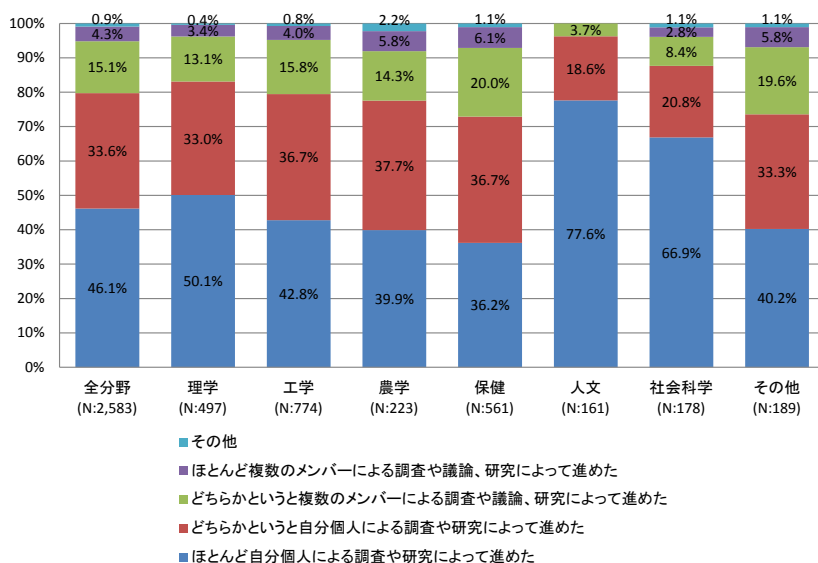
図表 67 博士課程修了の要件を知った経路(留学生・分野別)



5.3 博士論文を作成する際のメンバー

博士論文を作成する際には、個人で進めた（「ほとんど自分個人」と「どちらかという自分個人」の合計）割合は 79.7%であり、チームとして進めた（「ほとんど複数のメンバー」と「どちらかという複数のメンバー」の合計）割合は 19.4%である。自然科学系と人文・社会科学系では傾向が大きく異なっており、自然科学系ではチームとして進めた割合が一番少ない理学分野でも 16.5%、一番多い保健で 26.1%なのに対して、人文では 3.7%、社会科学は 11.2%である。人文・社会科学系ではほとんど自分個人による調査や研究によって博士論文の作成を進めた割合が大きく、人文では 77.6%、社会科学では 66.9%を占める。

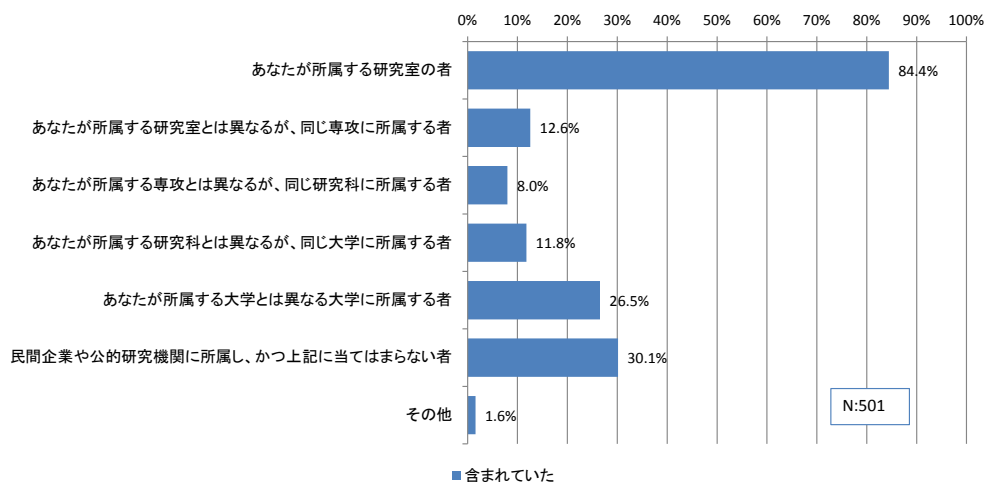
図表 68 博士論文作成の際の調査や研究を進める体制(分野別)



博士論文を作成する際の調査や研究を複数人で進める際のメンバーの所属

博士論文の作成に関する調査や研究を複数人で実施した場合には、研究室の者がメンバーに含まれていた割合は 84.4%であり、次いで民間企業や公的研究期間に所属し大学には所属しない者が 30.1%、他大学に所属する者が 26.5%と多い。

図表 69 博士論文作成の際の調査や研究を複数人で進める際のメンバーの所属

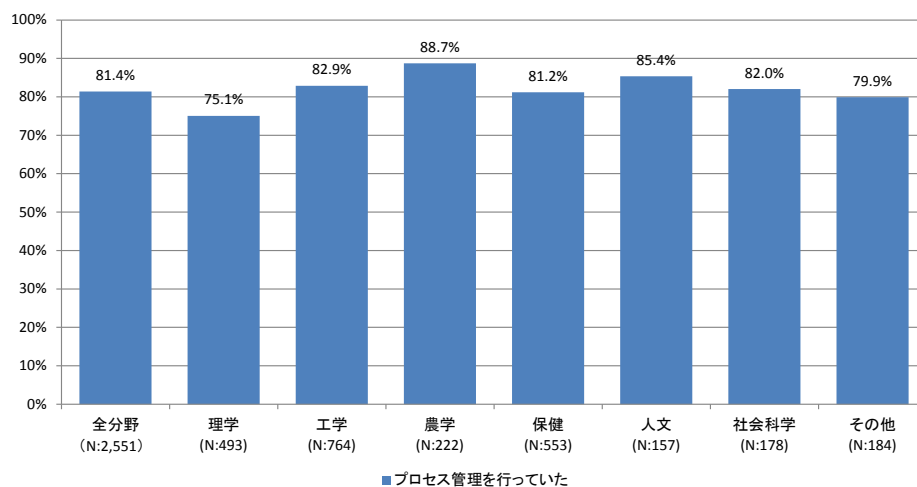


5.4 博士論文作成のプロセス管理

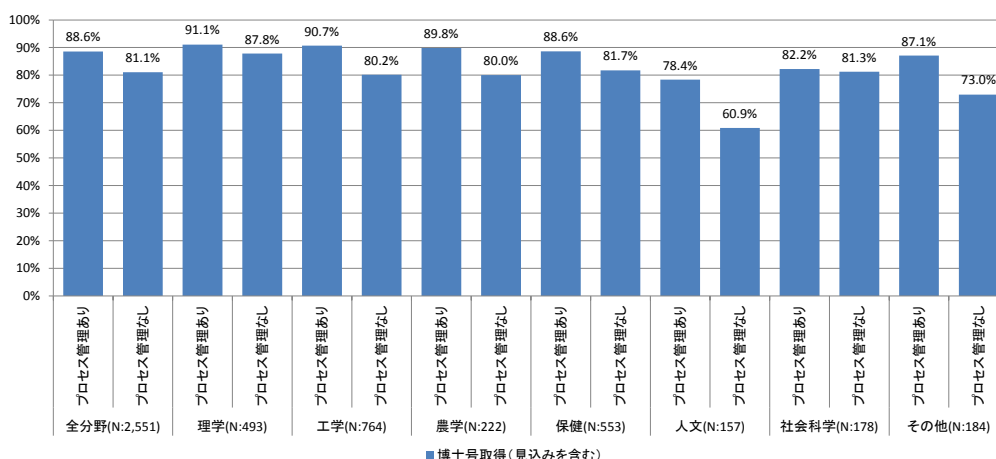
回答者の 81.4%が博士論文作成のためのプロセス管理を行っていた。分野別に見ると、最もプロセス管理を行っていた分野は農学分野(88.7%)であり、最も行っていないのは理学(75.1%)だが、分野間での特徴的な差異はない。

プロセス管理の有無と博士号の取得との関係を見ると(図表 71)、全体ではプロセス管理があった場合の博士号取得割合が 88.6%であり、プロセス管理がなかった場合よりも 7.5 ポイント高い。どの分野もプロセス管理を行っていた場合に博士号取得率が高いが、特に人文分野ではプロセス管理があった場合の博士号取得割合はプロセス管理がなかった場合より 17.5 ポイント高く差が大きい。

図表 70 博士論文作成のプロセス管理



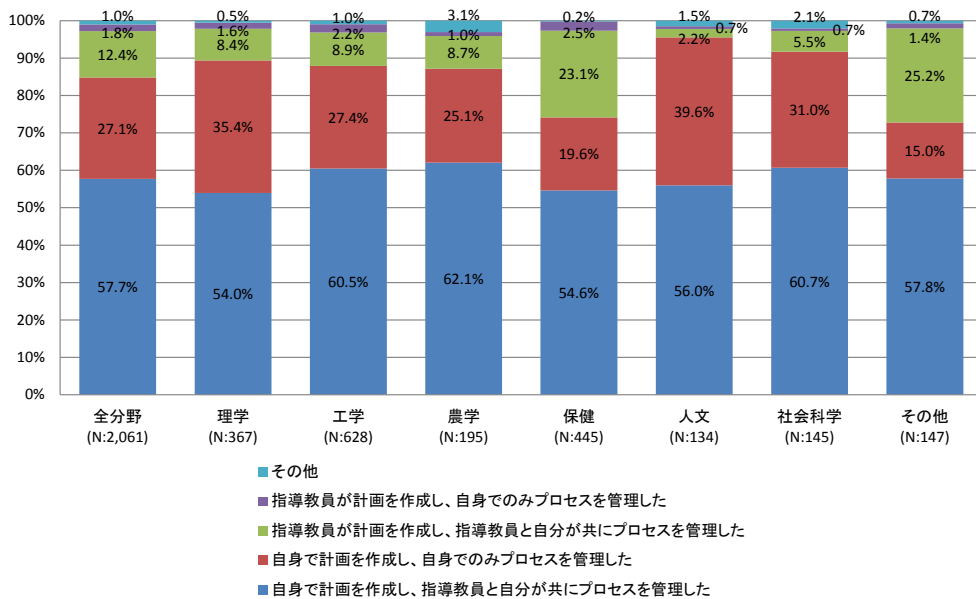
図表 71 博士論文作成のプロセス管理の有無と博士号の取得(分野別)



博士論文作成のプロセス管理を行った者の指導教員のプロセス管理への関わり方を見ると、学生が自身で計画を作成し教員と共にプロセス管理をした割合が最も多く、全分野では 57.7%を占める。ただし分野間でほとんど変わらない。指導教員が計画を作成した割合は「その他」で 26.6%、保健で 25.6%と多く、人文では 2.9%と少ない。

なお、プロセス管理への指導教員の関わりについてその他を選択した者の自由記述には「同じ研究グループ内メンバーで計画」、「指導教員と自分、および学外研究機関の先生が共にプロセスを管理した」、「指導教員以外の助言者(他大学の実質的に指導を受けていた教員や研究員)」など指導教員以外がプロセス管理に関わった例や、「1年次と2年次の中間報告で研究計画の再確認が行われるが、実際には研究計画どおりには進まなかった」など、計画通りに進まなかったことを指摘する記述もあった。

図表 72 博士論文作成のプロセス管理への指導教員の関わり方(分野別)



5.5 博士論文作成のプロセス管理と研究能力を身につけた度合いや修学の満足度等との関連

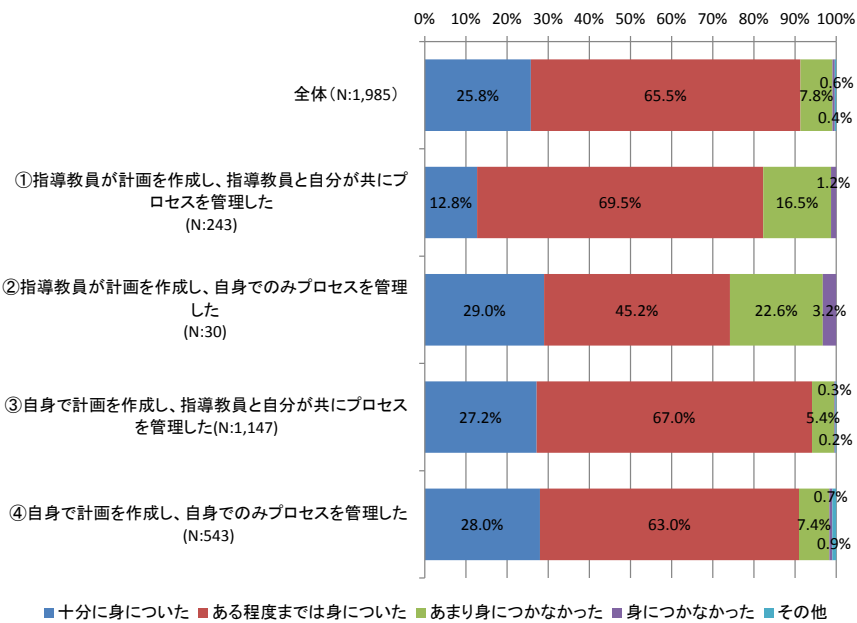
博士論文作成のプロセス管理と大学院での修学を通じて身につけた研究能力の度合い

博士課程での主たる指導教員が博士論文作成のプロセス管理に関わった度合いと大学院での修学を通じて身につけたと考える研究能力の度合いを見た。大学院で身につけたと考える能力としては、博士論文のテーマ決定と同様に「自身や他者の発見を批判的に評価できる」、「自身の研究を専門分野の知識体系に位置づける」、「専門分野の議論を批判的に理解し自身の仮説を明確に表現する」能力の3種類を設定した。全体を見ると、これら3つの能力のいずれについても約90%が身につけたと考えている。しかし、論文作成のプロセス管理への指導教員の関わり方によって身につけたと考える能力の度合いには差異が認められる。指導教員が計画を作成した場合(図中①、②)に、学生自身が計画を作成した場合と比較して、能力を身につけた(「十分身についた」と「身についた」の合計)と考える割合が小さく、身につけなかった(「あまり身につかなかった」と「身につかなかった」)と考える割合が大きい。

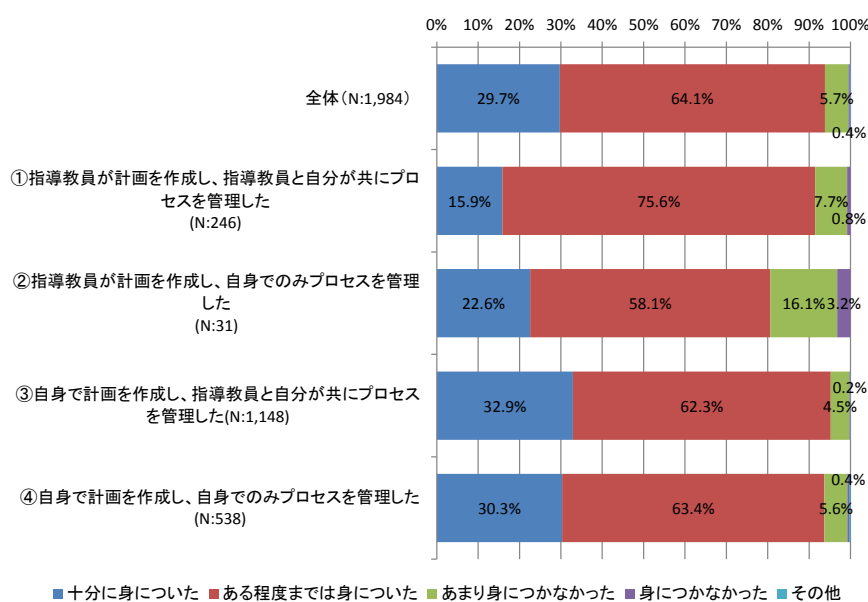
指導教員が計画を作成したと答えた者(図中①、②)のうち、指導教員と学生が共同でプロセス管理をした場合(図中①)は243人であり、学生自身でプロセス管理をした場合(図中②)の30人よりも圧倒的に多い。前者(図中①)は、3つの研究能力のいずれも「十分身についた」と考える割合が①以外のプロセス管理手法の場合における割合よりも小さく、「自身や他者の発見を批判的に評価できる能力」の場合は半数以下に留まる。一方、後者(図中②)の場合は身につけた(「十分身についた」と「身についた」の合計)と考える割合が最も少なく、学生が自身で計画を作成した場合(図中③、④)と比べて2割程度低い。よっ

て、指導教員がプロセス管理の計画を作成した場合、プロセス管理の主体に関わらず、学生が計画を作成した場合に比べて研究能力の獲得能力が低くなると考えられる。博士論文作成のプロセス管理は研究を実施する上で重要な要素ではあるが、例えばプロセス管理そのものを通じて仮説を明確に表現する能力が獲得されることは少ないなど、プロセス管理を行うこと自体が直接3種類の研究能力の獲得につながるとは考えにくい。よってこれらの関連には考察が必要である。

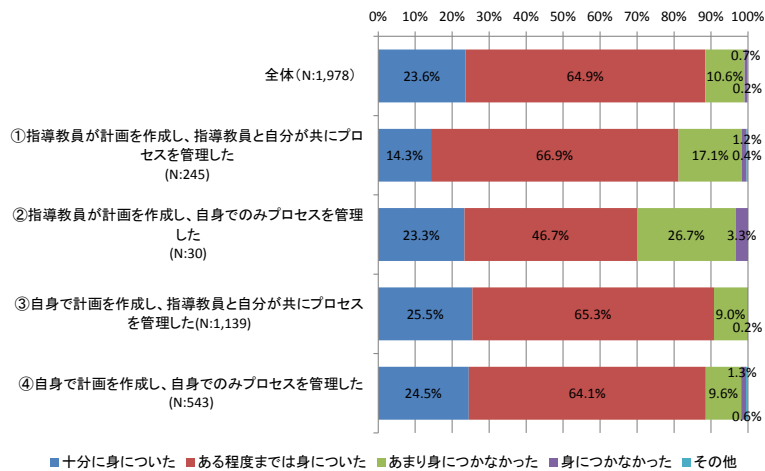
図表 73 博士論文作成のプロセス管理への指導教員の関わり方と「自身や他者の発見を批判的に評価できる能力」を身につけたと考える度合い



図表 74 博士論文作成のプロセス管理への指導教員の関わり方と「自身の研究を専門分野の知識体系に位置づける能力」を身につけたと考える度合い



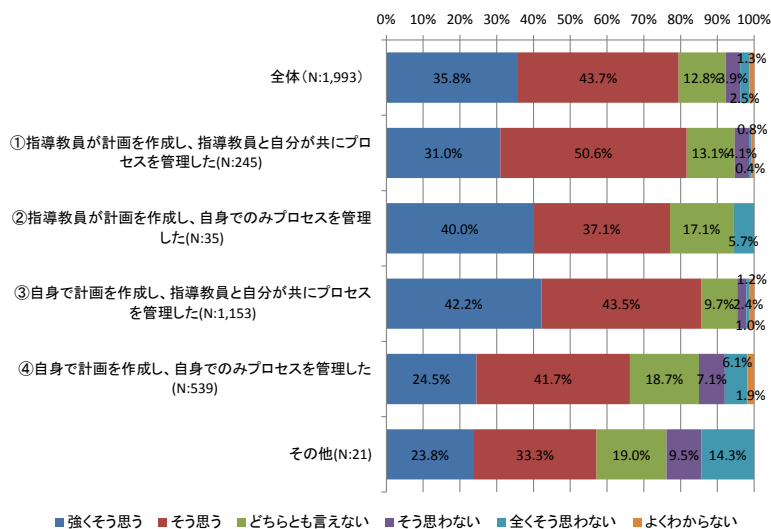
図表 75 博士論文作成のプロセス管理への指導教員の関わり方と「専門分野の議論を批判的に理解し自身の仮説を明確に表現する能力」を身につけたと考える度合い



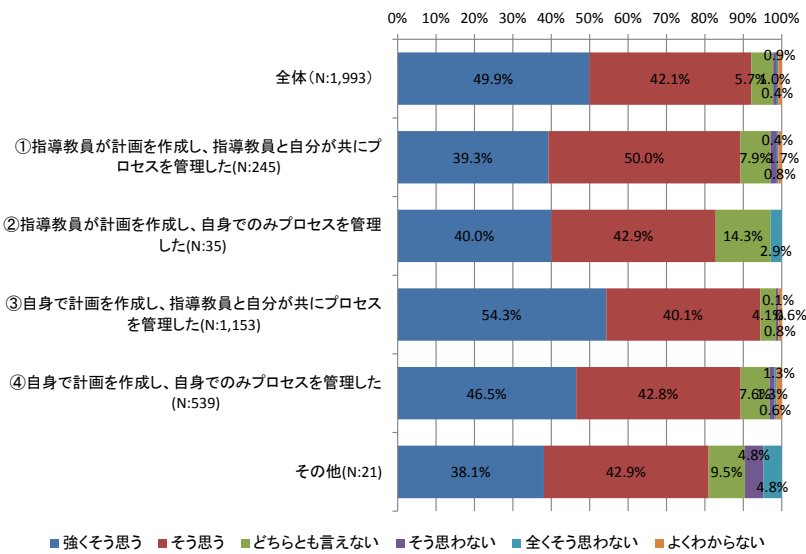
博士論文作成のプロセス管理と大学院での修学の満足度

博士課程での主たる指導教員が博士論文作成のプロセス管理へ関わった度合いと、大学院での修学に価値があると思うか(大学院での修学の満足度)との関係を見た。授業や論文指導など提供されたサービス自体としての大学院への満足度との関係を見ると(図表 76)、指導教員が積極的に関わった場合(図中①、②、③)に満足度が高く(「強くそう思う」と「そう思う」の合計)80%前後である。これに対して、教員が積極的に関わらなかった場合(図中④)の満足度は 66.2%に留まる。自分自身に身についたものとしての満足度を見ると(図表 77)、自身で計画を作成し指導教員と共に管理した場合の満足度が高く 94.4%を占めるのに対して、指導教員が作成し自分で管理した場合は 82.9%と 10ポイント程度低い。10年後の将来における大学院の満足度(図表 78)はほぼ 7割を超えるのに対して、指導教員が計画を作成し学生がプロセス管理をした場合(図中②)には満足度が低く 62.9%に留まる。

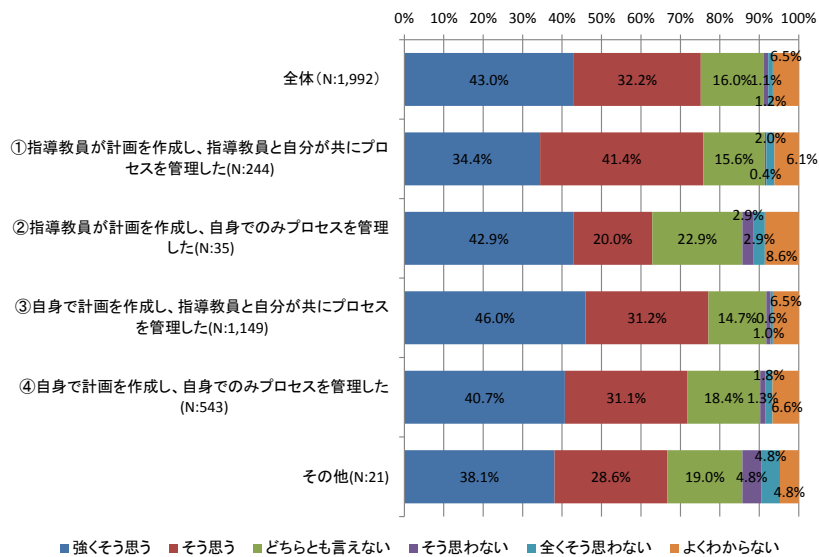
図表 76 博士論文作成のプロセス管理への指導教員の関わり方と「授業や論文指導など提供されたサービス自体」として大学院の価値があると思う度合い



図表 77 博士論文作成のプロセス管理への指導教員の関わり方と「自分自身に身についたもの」として大学院の価値があると思う度合い



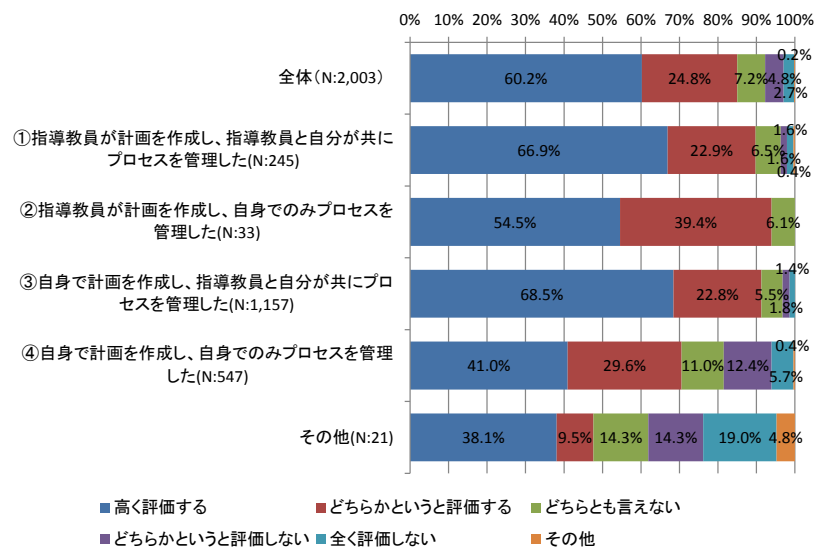
図表 78 博士論文作成のプロセス管理への指導教員の関わり方と「10年後の将来」において大学院の価値があると思う度合い



博士論文作成のプロセス管理と指導教員の教育・研究指導に対する評価

指導教員による博士論文作成のプロセス管理への関わり方と主たる指導教員の教育・研究指導に対する評価との関係を見ると(図表 79)、指導教員がプロセス管理に積極的に関わった場合に、関わらなかった場合よりも指導教員の教育・研究指導を高く評価する。主たる指導教員の教育・研究指導を評価する(「高く評価する」と「どちらか」として評価する)の合計割合は、指導教員がプロセス管理に積極的に関わった場合(図中①、②、③)に約9割であり、積極的に関わらなかった場合(図中④)の70.6%と比較して約20ポイント高い。

図表 79 指導教員の博士論文作成のプロセス管理への関わり方と博士課程での主たる指導教員の教育・研究指導に対する評価

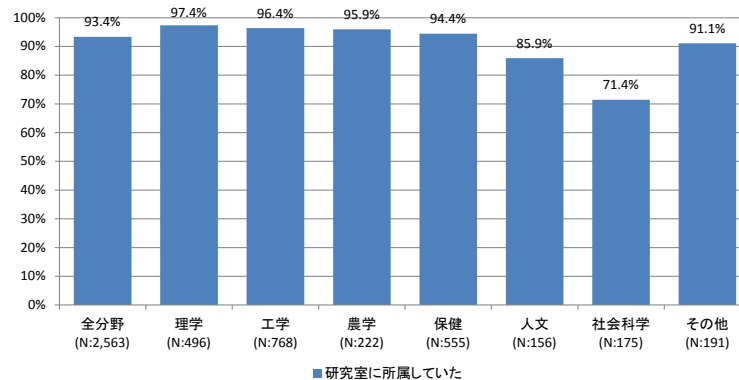


6. 博士論文の指導体制

6.1 研究室への所属と規模

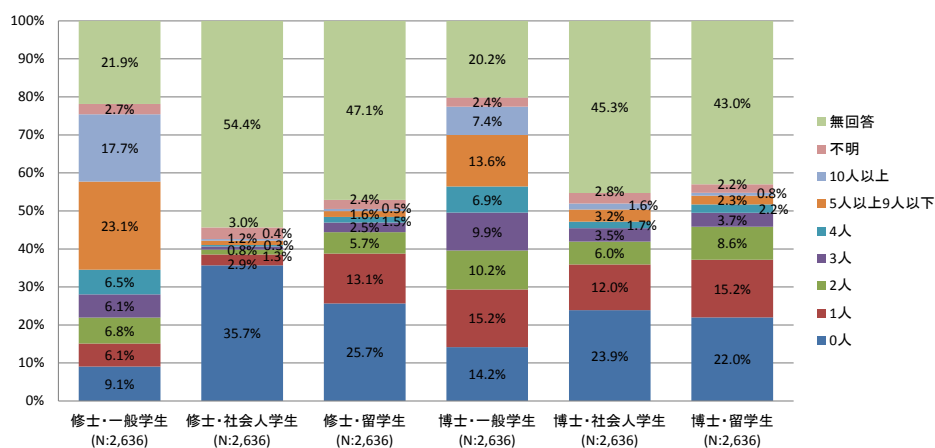
研究室に所属していた者は 93.4%、所属していなかった者は 6.6%である。なお、設問では研究室の定義を「教員の名称の付いた研究室もしくは教員が命名した研究室」とした。分野別に見ると、人文分野では研究室に所属した者が 85.9%、社会科学では 71.4%を占める。これら以外の 5 分野では 90%かそれ以上の者が研究室に所属している。人文・社会科学系で研究室に所属していなかった割合が一定規模存在するのは、研究室が物理的な空間として存在しなかった場合も考えられる。

図表 80 研究室への所属

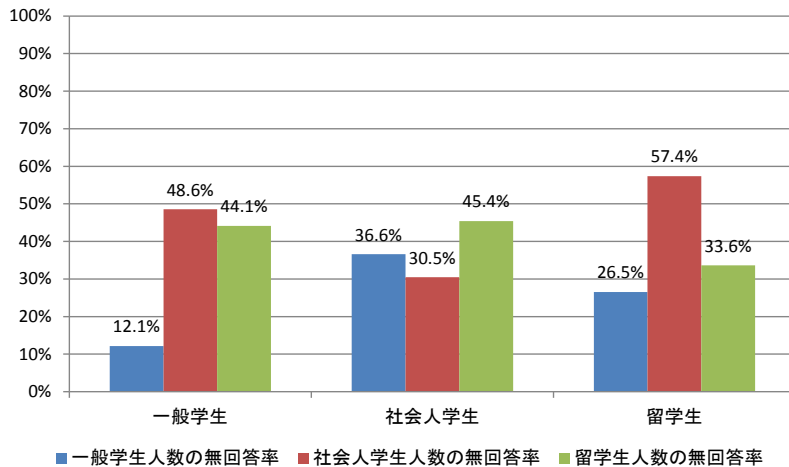


研究室の学生数(回答者自身を含めない)を見ると(図表 81)、修士課程と博士課程の一般学生の人数はばらついており、特に博士では0人から10人以上までが1人刻みで約10%ずつを占める。修士・博士課程共に一般学生と比べて社会人学生や留学生の人数には無回答の割合が多い。無回答は不明とは異なるが、研究室の学生数の回答率を学生種別に見ると(図表 82)、異なる学生種別間では回答率が低い。例えば博士課程の一般学生は、研究室に所属する博士課程の一般学生の人数を答えなかった割合は 12.1%だが、社会人学生や留学生の人数を答えなかった割合は 5 割近い。社会人学生は、中でも留学生の人数に対する無回答率が 45.4%と高い。留学生の場合は社会人学生の数に対する無回答率が 57.4%と高い。このような結果は学生種別間での交流が限定的である可能性が示唆される。

図表 81 研究室の在籍人数(課程・学生種別)

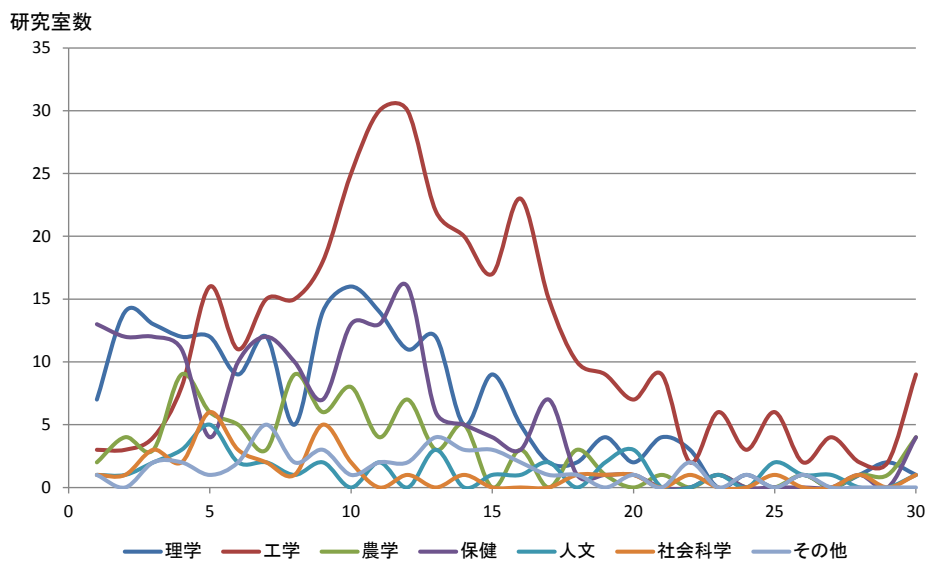


図表 82 研究室の博士学生人数に対する無回答率(学生種別)



研究室の学生数を合計して分野別に見ると、最も規模が大きいのは工学分野であり、逆に小さいのは人文・社会科学である。工学では約 12 人の研究室が最も多い。工学以外の分野では理学や保健がこれに続くが、工学が突出して研究室規模が大きいと考えられる。もっとも本調査では複数の回答者が同一研究室に所属する可能性を排除できないことに留意されたい。

図表 83 研究室の学生数(分野別)



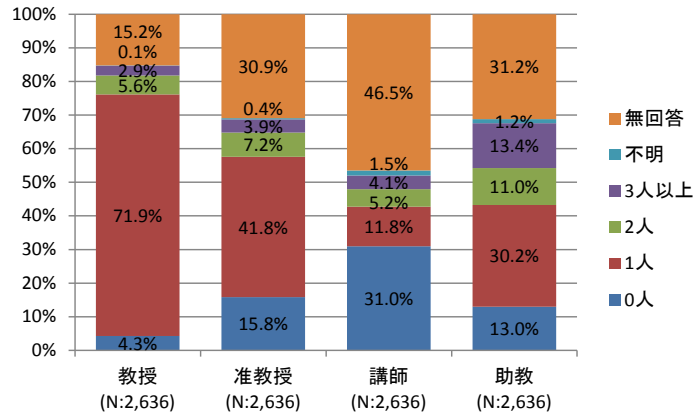
注) 10 人以上は 10 人として計算した。

研究室の教員数を見ると、教授は 1 人である割合が最も多く 71.9%であり、准教授も 1 人である割合が 41.8%である。助教は 1 人が 30.2%と最も多く、2 人、3 人以上もそれぞれ 11.0%、13.4%を占める。

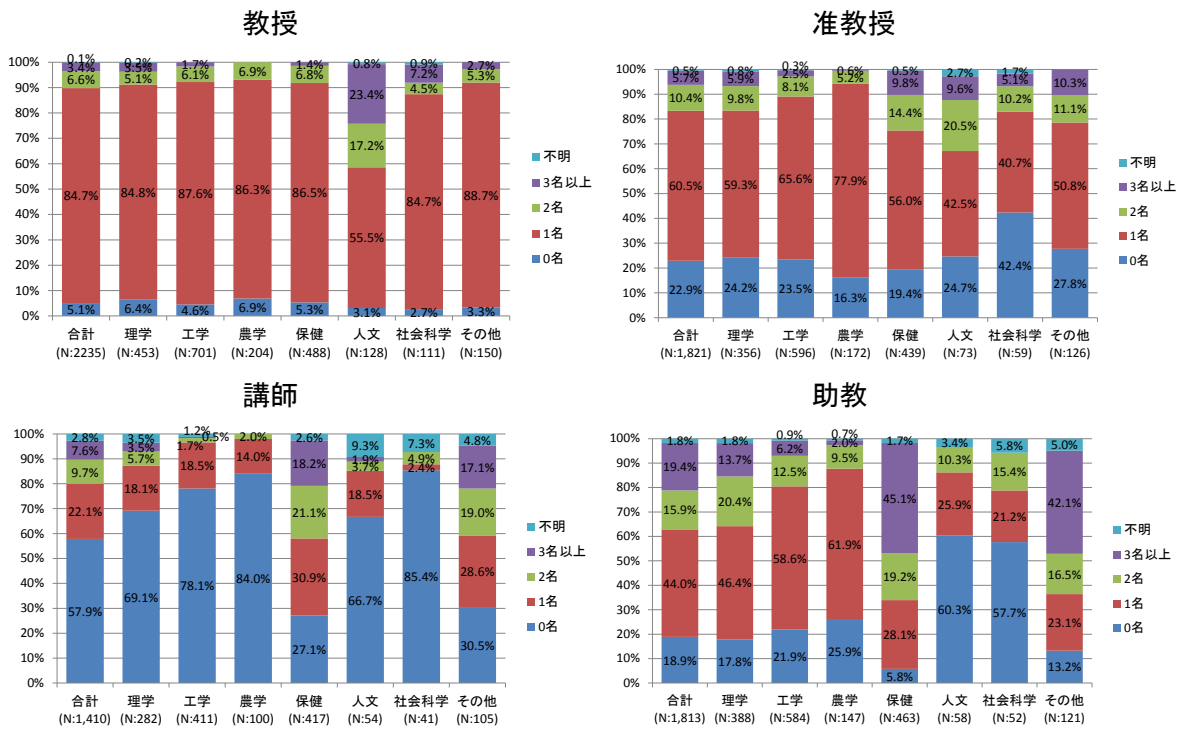
分野別に見ると、まず教授に関しては、人文では複数人の割合が 40.6%と高いのに対して、他の分野は 10%前後である。准教授は分野別に大きな差異は見られない。講師がいる割合は保健で 70.2%、「その他」で 64.7%なのに対して、他の分野は 3 割以下である。助教がいる割合は、保健 92.4%、「その他」

では 81.7%と高く、人文や社会科学ではほぼ 36%なのに対して、他の 4 分野は 70%から 80%である。よって研究室に所属する教員の人数は、理学・工学・農学、保健・「その他」、人文・社会科学の 3 区分で異なる特徴を持つと考えられる。

図表 84 研究室の教員人数



図表 85 研究室の教員人数(分野別)

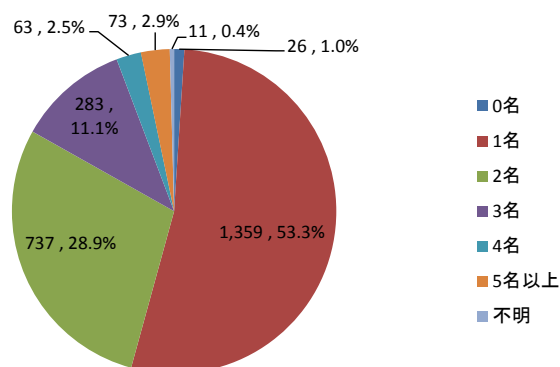


6.2 博士論文の作成を日常的に指導した教員数

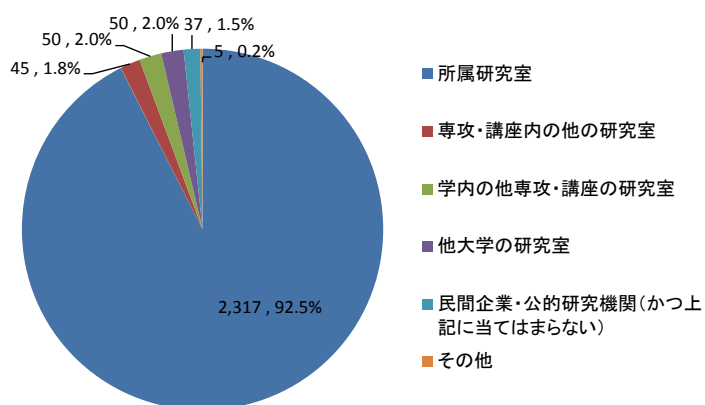
博士論文の作成を日常的に指導した教員の数、1人が最も多く53.3%であり、2人が28.9%と続く(図表86)。博士論文の作成を日常的に指導した教員のうち主たる指導教員の所属は、回答者が所属する研究室が92.5%と大勢を占める(図表87)。

博士論文の作成を日常的に指導した教員のうち、論文審査をした教員数を分野別に見ると(図表88)、0人の割合が分野によって大きく異なり、保健と「その他」分野では各43.6%、26.7%である。この2分野に次ぐ理学が10.6%に留まることから、他の分野と比べて高いことが分かる。保健では約半数の回答者の論文審査に指導教員が加わらないことから、指導教員がいなくても博士論文が審査される体制、すなわち教員の層が厚い可能性が考えられる。

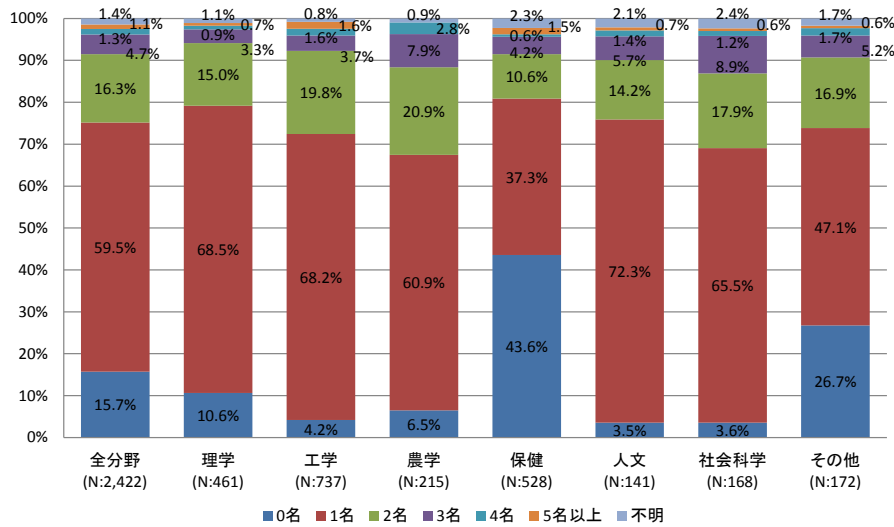
図表 86 博士論文の作成を日常的に指導した教員数



図表 87 博士論文の作成を日常的に指導した教員のうち主たる指導教員の所属

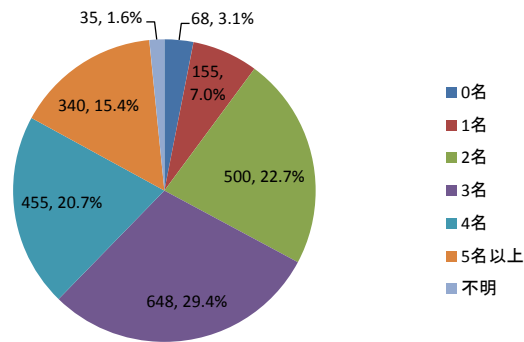


図表 88 博士論文の作成を日常的に指導した教員のうち論文審査をした教員数(分野別)



博士論文の審査のみを担当した教員数は、3人が最も多く29.4%であり、2人22.7%、4人20.7%と続き、5人以上も15.4%を占める。論文審査をした人数を、指導教員のうち論文審査をした人数と博士論文の審査のみを担当した教員数から見ると(図表 90)、指導教員からは1人が参加し、博士論文の審査のみをした教員数は2、3、4人であった学生が300人以上と多いことから、論文の審査を担当した教員は指導教員1人を含めておおよそ3、4、5人程度であると考えられる。

図表 89 博士論文の審査のみを担当した教員数



図表 90 博士論文作成を日常的に指導した教員に占める論文審査をした教員数と審査のみを担当した教員数

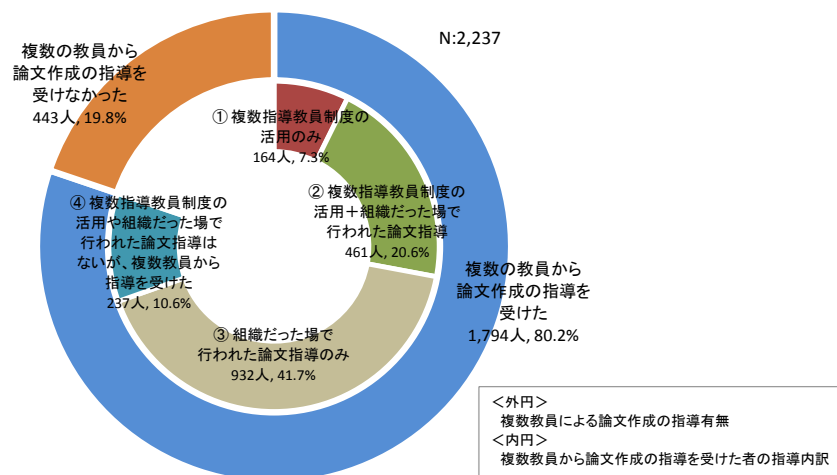
		博士論文指導教員のうち論文審査をした教員数						
		0名	1名	2名	3名	4名	5名以上	不明
博士論文の 審査のみを 担当した教員 の人数	0名	13	39	7	4	0	0	0
	1名	26	47	49	19	4	0	0
	2名	21	335	93	27	2	0	1
	3名	132	355	107	21	0	0	2
	4名	63	307	49	7	11	2	0
	5名以上	62	184	44	15	2	14	3
	不明	4	10	3	1	0	1	14

注) 合計が0の場合の解釈: 自由記述からは、指導教員は制度上存在したが、回答者が実質的な指導や審査があったとは見なさないために指導教員や論文審査をした教員として数えなかったことがうかがえる。

6.3 複数教員による博士論文作成の指導と研究能力を身につけた度合いや修学の満足度等との関連 複数教員による博士論文作成の日常的な指導

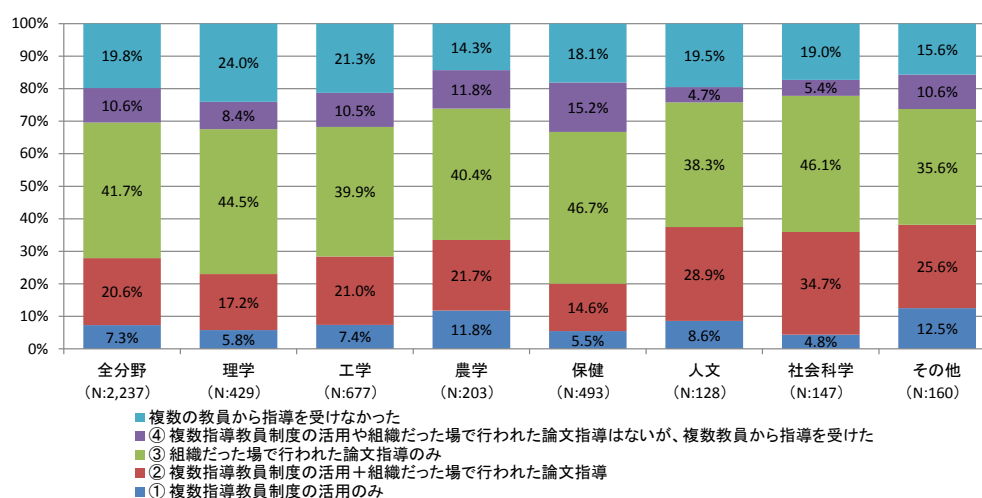
博士論文の作成過程において、複数指導教員により論文指導を受ける制度(複数指導教員制度)の活用や、複数研究室・専攻・研究科によるミーティング・ゼミ・報告会など組織だった場での論文指導を通じて、複数教員から博士論文作成の日常的な指導を組織的に受けた者は学生の約7割に上る(図中①、②、③)⁸。なお、回答者全体のうち、複数指導教員制度を活用した者は27.9%(図中①+②)、組織だった場で行われた論文指導を受けた者は62.3%(図中②+③)を占める。

図表 91 複数教員による博士論文作成の日常的な指導状況



図表 91を分野別に見ると、どの分野もさほど大きく傾向は変わらず7割程度の学生は複数の教員から博士論文作成の日常的な指導を組織的に受けている。また、どの分野にも共通して複数の教員から論文作成の指導を受けなかった者が一定程度の割合を占める。

図表 92 複数教員による博士論文作成の日常的な指導状況(分野別)



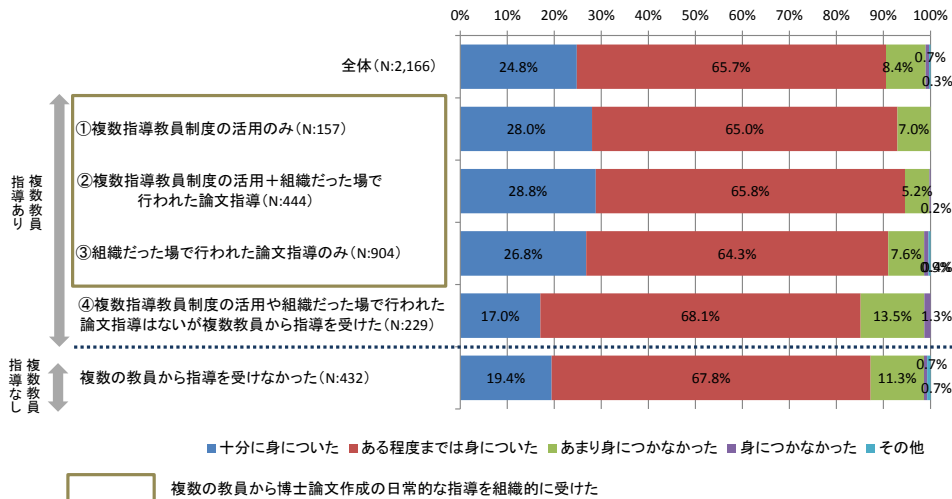
⁸ ここでの博士論文作成の日常的な指導とは、論文審査に至までの博士論文の日常的に行われる作成指導を示す。

複数教員による博士論文作成の日常的な指導と研究能力を身につけたと考える度合い

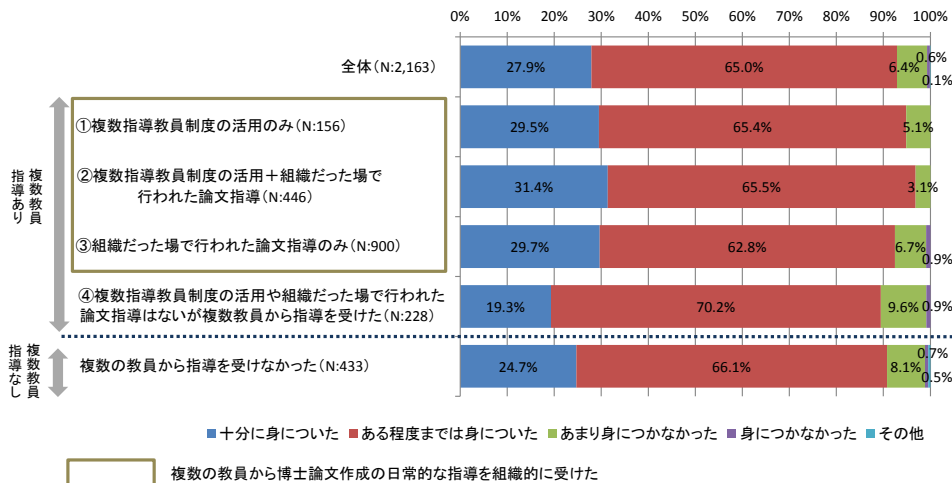
複数教員による博士論文作成の日常的な指導と、大学院での修学で身につけた3つの研究能力(「自身や他者の発見を批判的に評価できる」、「自身の研究を専門分野の知識体系に位置づけることができる」、「専門分野の議論を批判的に理解し自身の仮説を明確に表現する」)の度合いとの関連を見た。

自身や他者の発見を批判的に評価できる能力は、複数教員による論文作成指導を組織的に受けた者(図中①、②、③)では同能力を身につけたと考える割合(「十分身についた」と「ある程度までは身についた」の合計)が9割以上を占める。他方、組織的ではないが複数教員から論文作成指導を受けた者(図中④)や、複数教員から論文作成指導を受けなかった者は、同能力を身につけたと考える割合が8割程度に留まり、「十分に身についた」と考える割合も約1割低くなっている。自身や他者の発見を批判的に評価できる能力以外の研究能力についてもおおよ同様の傾向が見られた。

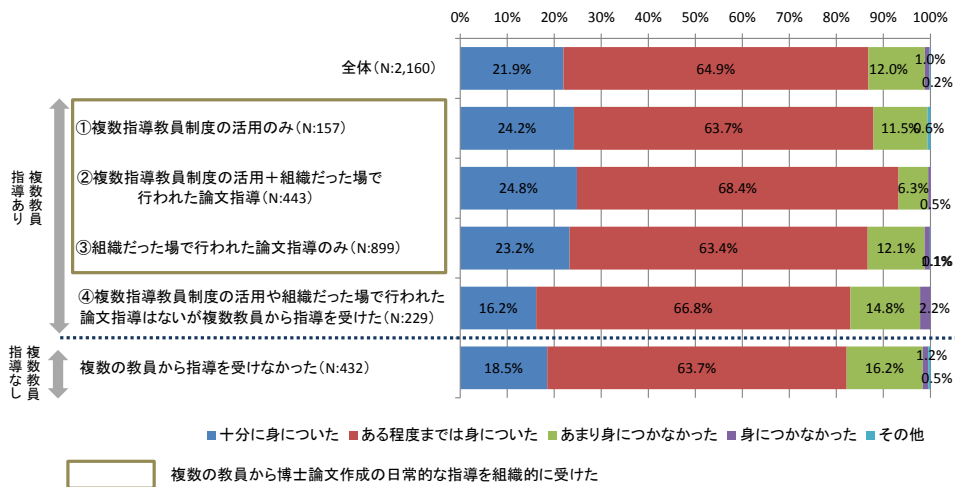
図表 93 複数教員による博士論文作成の指導と「自身や他者の発見を批判的に評価できる能力」を身につけたと考える度合い



図表 94 複数教員による博士論文作成の指導と「自身の研究を専門分野の知識体系に位置づけることができる能力」を身につけたと考える度合い



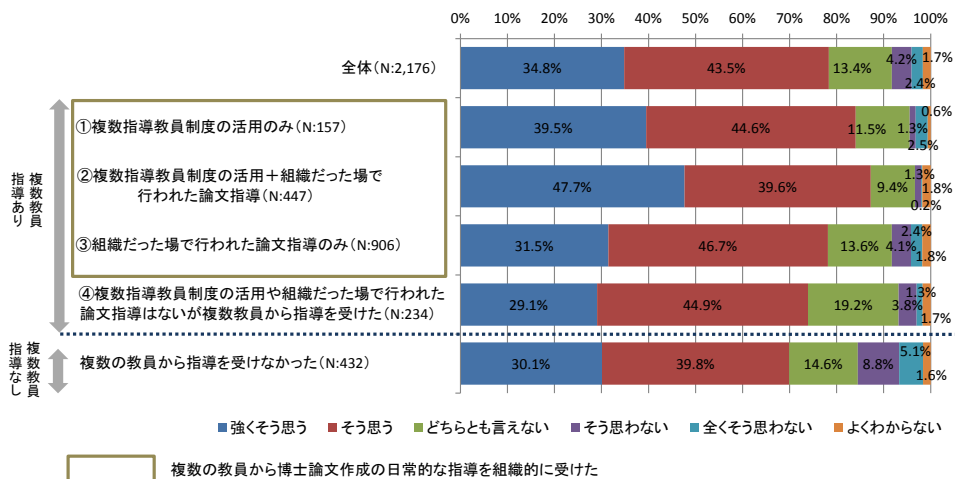
図表 95 複数教員による博士論文作成の指導と「専門分野の議論を批判的に理解し自身の仮説を明確に表現する能力」を身につけたと考える度合い



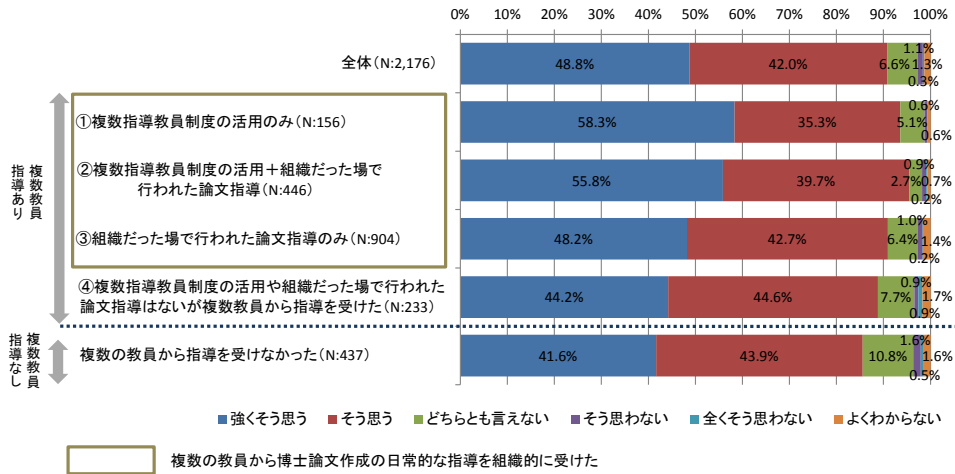
複数教員による博士論文作成の日常的な指導と大学院での修学に対する満足度

複数教員による論文作成の指導と大学院での修学に価値があると思う度合い(修学に対する満足度)との関係を見ると、複数教員から組織的な論文作成指導を受けた者は、いずれの指標においても大学院での修学に対する満足度が高くなっている。授業や論文指導など提供されたサービス自体としての満足度を見ると、複数指導教員制度を活用し、かつ組織だった場で行われた論文指導を受けた者(図中②)の満足度(「強くそう思う」と「そう思う」の合計)が高く、次いで複数指導教員制度の活用のみを行った者(図中①)の満足度が高い。自分自身に身についたものとしての大学院への満足度に関しては、組織的な論文指導を受けた者でも、特に複数指導教員制度を活用した者(図中①、②)の満足度が高く、「強くそう思う」と回答した割合は共に6割に近い。10年後の将来における満足度を見ると、他の選択肢と比べて「よくわからない」と回答した者の割合が多く、満足度に対する顕著な差は見られないが、複数指導教員制度を活用した者(図中①、②)の満足度が高い。

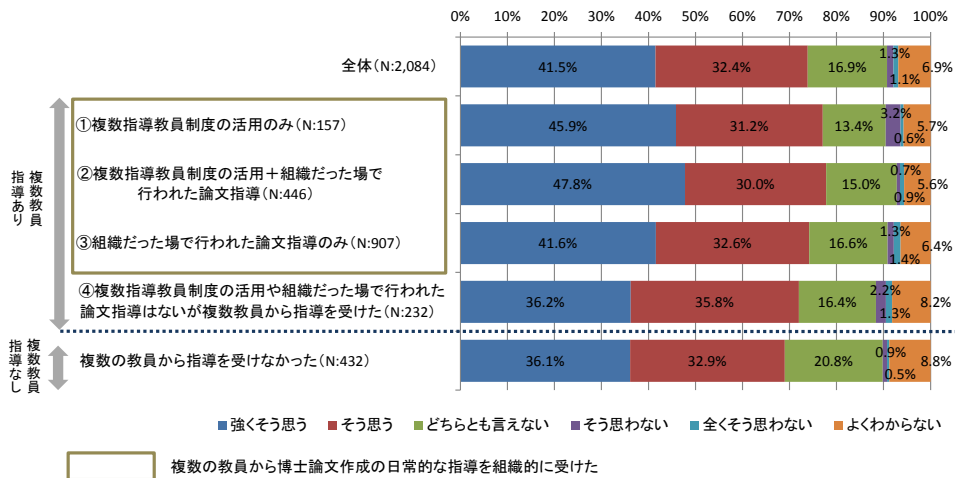
図表 96 複数教員による博士論文作成の指導と「授業や論文指導など提供されたサービス自体」として大学院の価値があると思う度合い



図表 97 複数教員による博士論文作成の指導と「自分自身に身についたもの」として大学院の価値があると思う度合い



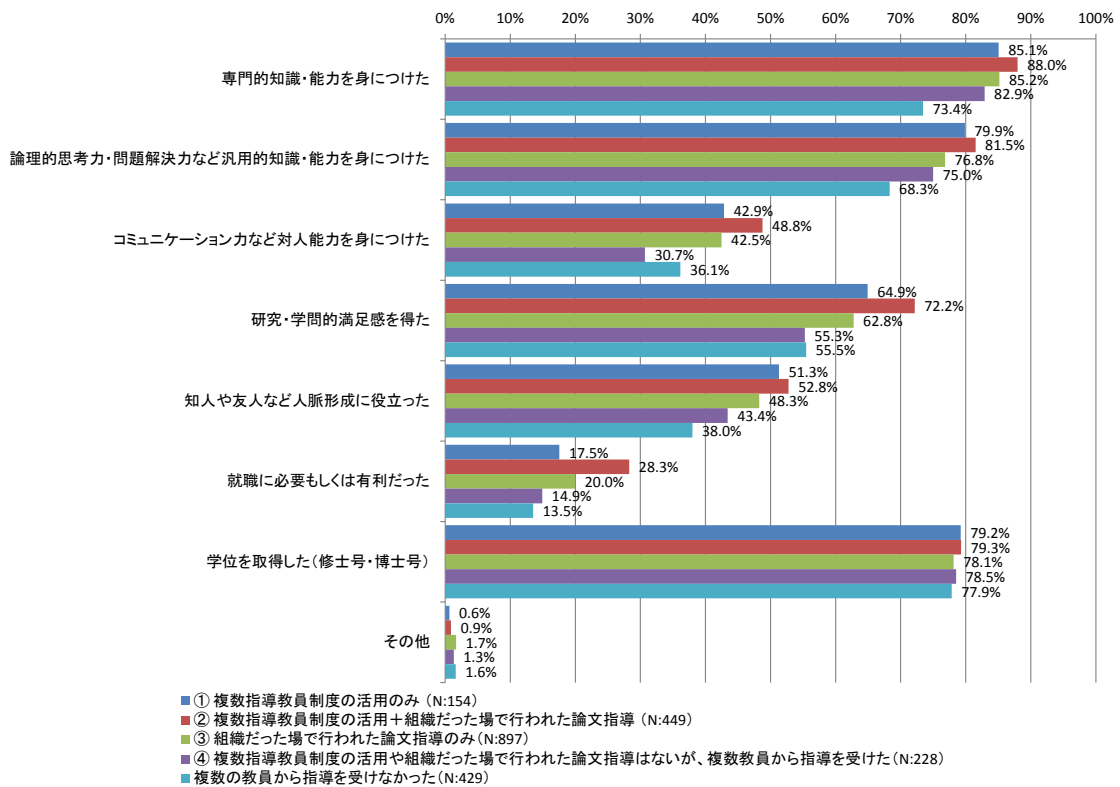
図表 98 複数教員による博士論文作成の指導と「10年後の将来」において大学院の価値があると思う度合い



複数教員による博士論文作成の日常的な指導と大学院での修学を通じた良かった点・不満だった点

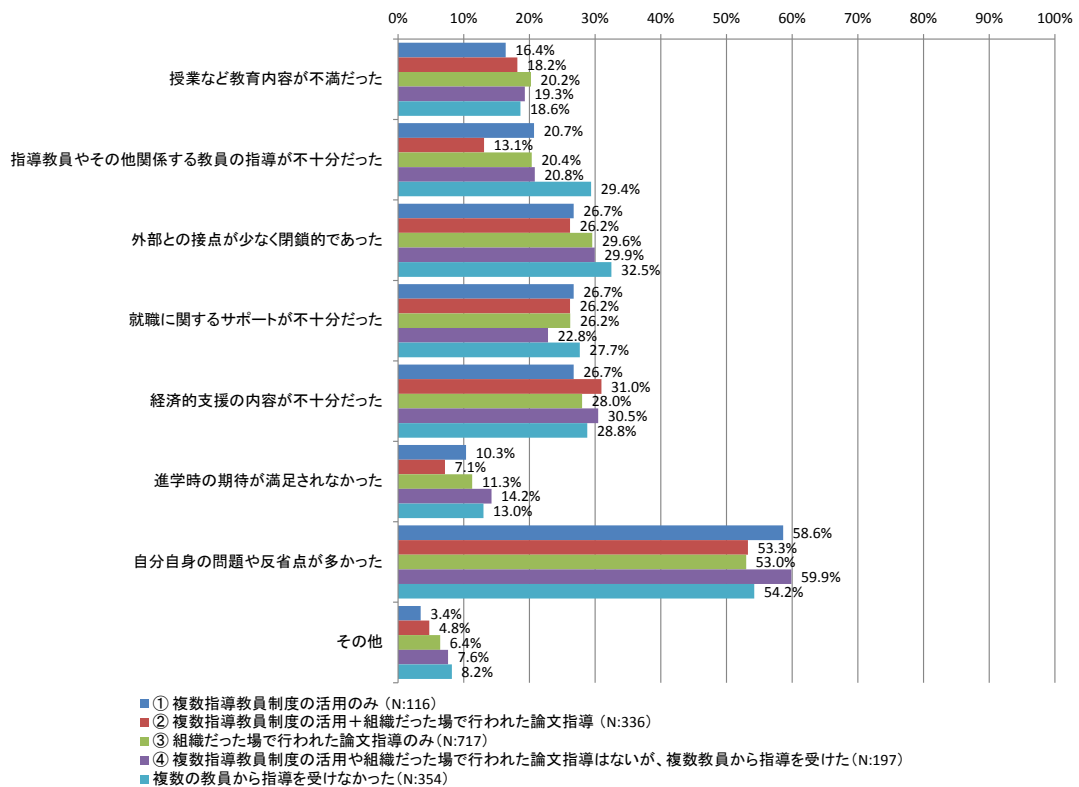
大学院での修学を通じて良かった点と複数教員による論文作成指導との関係を見ると、複数教員から論文作成指導を組織的に受けた者(図中①、②、③)は全ての項目において良かったと評価する率が高い。特に、複数指導教員制度を活用し、かつ組織だった場で行われた論文指導を受けた者(図中②)は、他の形式で複数教員から指導を受けた者と比べて満足度が高い。

図表 99 複数教員による博士論文作成の指導と大学院での修学を通じて良かった点



大学院での修学を通じて不満だった点と複数教員による論文作成指導との関係を見ると、複数教員による指導がなかった者は全体的に各項目に対して不満だった点があると回答する割合が高い。特に「指導教員やその他関係する教員の指導が不十分だった」については、複数教員から指導を受けなかった者はおよそ3割が不満だったと回答したのに対して、複数教員から指導を受けた者(図中①、②、③、④)は2割以下であり、特に複数指導教員制度の活用と組織だった場で行われた論文指導の両方で指導を受けた者(図中②)は13.1%と最も不満を示す割合が低い。

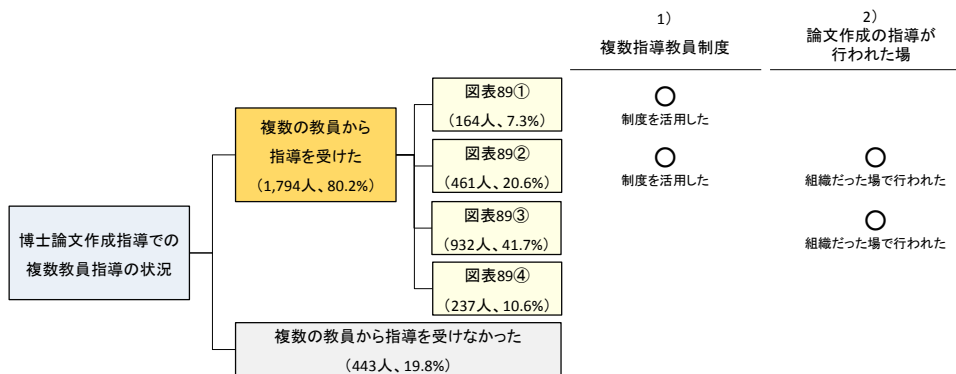
図表 100 複数教員による博士論文作成の指導と大学院での修学を通じて不満だった点



6.4 複数教員による博士論文作成の日常的な指導の詳細

図表 91 では複数教員による博士論文作成の日常的な指導状況を示した。以下では指導状況に関連して、1) 複数指導教員制度 と 2) 論文作成の指導が行われた場 の 2 点に着目して整理する。図表 101 を図表 91 との関連で見ると、図表 101 で 1) 複数指導教員制度を活用した者は、図表 91 内の①もしくは②に該当し、2) 論文作成の指導が組織だった場で行われた者は、図表 91 内の②もしくは③に該当する。

図表 101 複数指導教員制度と論文作成の指導が行われた場の位置づけ

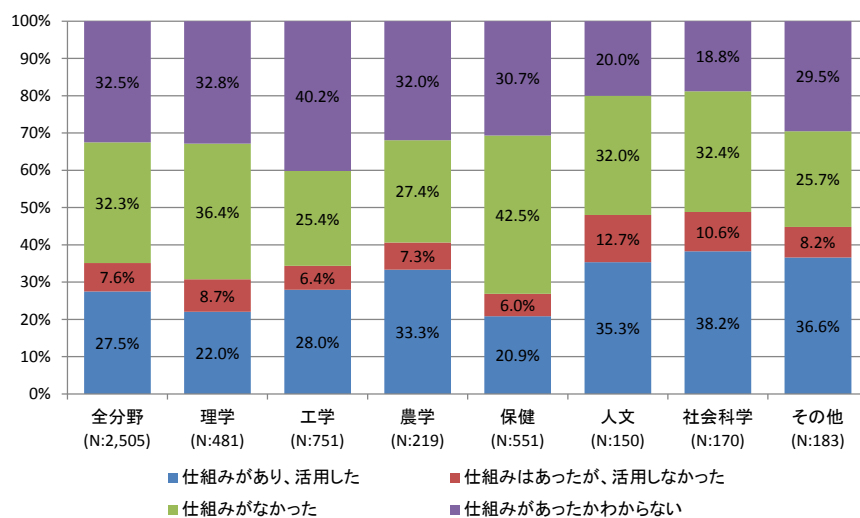


1) 複数指導教員制度

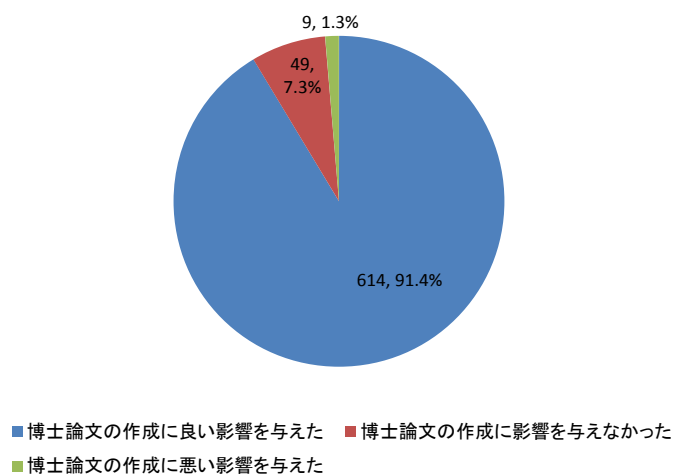
複数指導教員制度の有無と制度の活用状況

博士論文作成の指導を複数の教員から受けるような仕組み(複数指導教員制度)があったと答えた者は全体の35.1%である。制度を活用した(もしくは活用できた)者は27.5%であり、これは図表 91 では①と②に該当する。分野別では、同制度があった割合および活用した者の割合は自然科学系よりも人文・社会科学系で多い。複数指導教員制度を活用した者のうち、博士論文の作成に良い影響を与えたと考える者は91.4%、影響を与えなかったと考える者は7.3%である(図表 103)。

図表 102 複数指導教員制度の有無と制度の活用(分野別)



図表 103 複数指導教員制度の論文作成への影響



複数指導教員制度を活用するメリット・デメリット

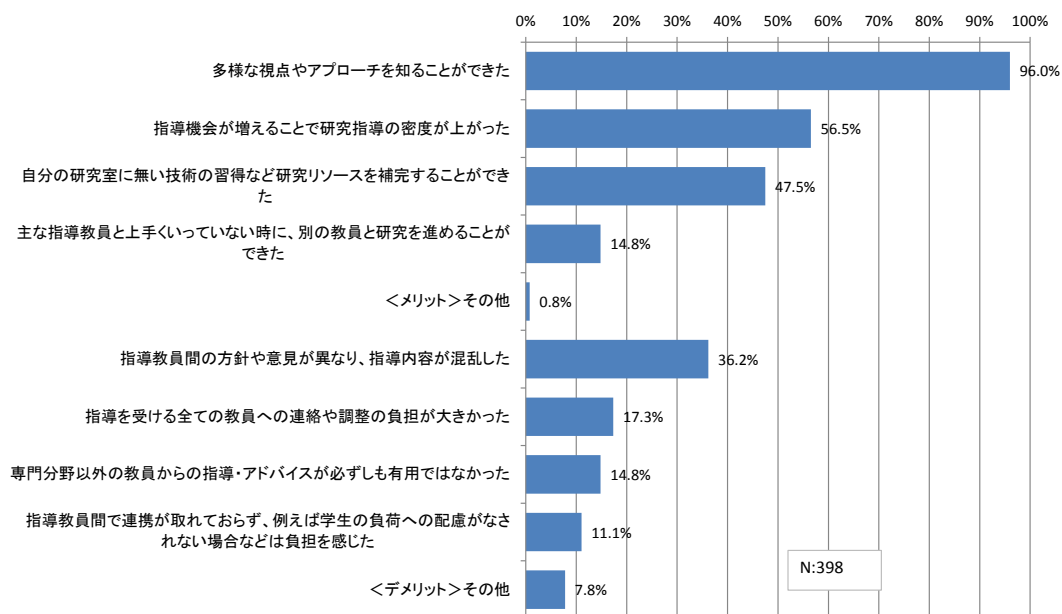
複数指導教員制度を活用して指導を受けることのメリット・デメリットに関して回答した 398 人のうち 96.0%は「多様な視点やアプローチを知ることができた」ことをメリットとしている。これに続くのは「指導機会が増えることで研究指導の密度が上がった」(56.5%)、「自分の研究室に無い技術の習得など研究リソースを補完することが出来た」(47.5%)である。一方でデメリットとしては、「指導教員間の方針や意見が異なり、指導内容が混乱した」(36.2%)が最も多く挙げられている(図表 104)。

なお自由記述では、複数指導教員制度を活用するメリットとして以下が述べられている。

1. 効率的な指導を受ける(指導教員が病休の際に別の教員と研究や論文執筆を進める、それぞれの教員の多忙な時期を避けて指導を受ける)
2. 複数人による相互補完的なメリットがある(指導教員に得意不得意(実験手技や論文作成等)があることや、回答者の研究内容が学際的なため 1 人の教員で全ての領域をカバーできない場合、そして多くの目で見ることによって技術的な穴を埋めるなど、複数人の指導により相互補完が可能となる)
3. 第三者に専門的な研究内容を伝える訓練や学務以外のフォローなど(研究の具体的な内容を把握している指導教員以外の教員に対して説明する事で、研究内容を分かり易く伝える為の訓練が出来たことや、研究指導内容ではなく事務手続き等の指導など)

デメリットは特にないという自由記述が多いが、学生の指導が教員の負担になるという複数の意見や、教員が属するキャンパスが遠いためアクセスが困難なこと、アドバイスの多すぎて研究に反映できないなどが挙げられていた。

図表 104 複数指導教員制度を活用するメリットとデメリット



※ 複数指導教員制度を活用した者の回答のみ

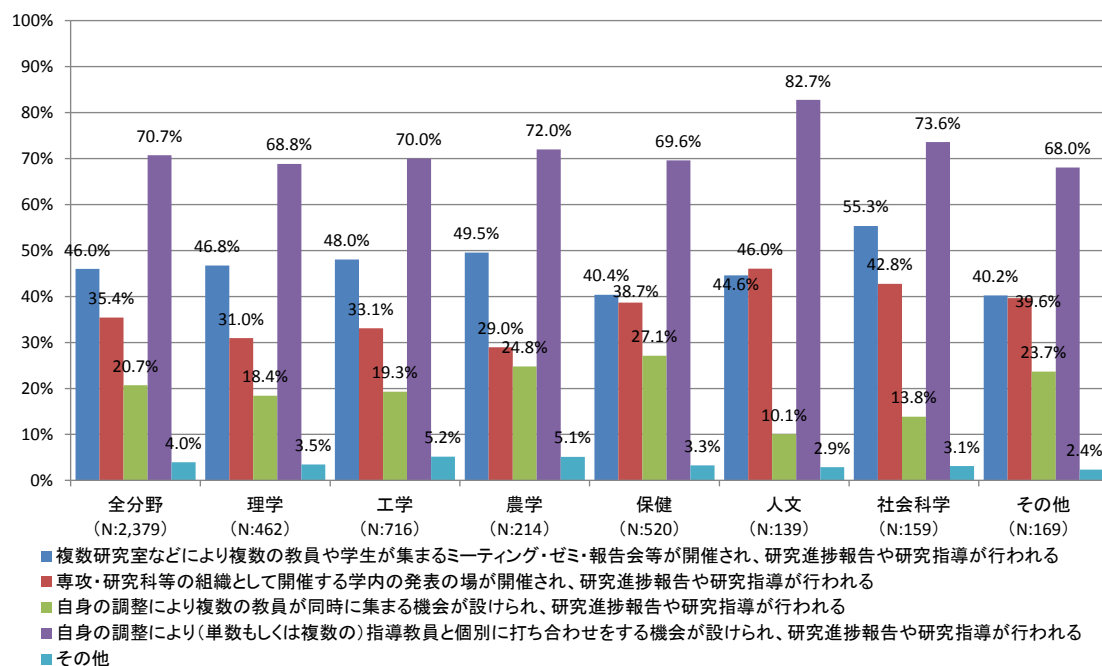
2) 複数教員による博士論文の作成指導が行われた場

博士論文作成の指導形式

博士論文作成の過程における指導形式を見ると、最も多いのは自身の調整により指導教員と個別に打ち合わせる機会を持った者の 70.7%である。次いで、複数研究室などにより複数の教員や学生が集まりミーティング・ゼミ・報告会が開催される割合の 46.0%である。専攻・研究科等の組織としての発表の場も 35.4%が選んでいるため、約 3 分の 1 の回答者はこのような指導を経験している。最も少ないのは学生自身の調整により複数の指導教員が同時に集まる指導形式であり、20.7%である。指導形式としてその他と回答した者の自由記述には、eメール、skype などの手段を用いる、学会の発表時や論文投稿の指導が実質の指導に当たるなどの記述があった。また定期的な個別指導が行われていたケースと、個人で必要時に調整するケースに関する記述があった。

分野別に見ると、特徴的な違いを示す指導形式は学生自身の調整により複数の教員が同時に集まる機会が設けられることであり、人文と社会科学では各 10.1%、13.8%であるのに対して、自然科学系ではより多く、最も多い保健で 27.1%、最も少ない理学でも 18.4%である。人文では個別指導が他分野よりも多く 82.7%であり、社会科学では複数研究室などにより複数の教員や学生が集まりミーティング・ゼミ・報告会が開催される割合が他分野よりも多く 55.3%である。

図表 105 博士論文作成の指導形式(分野別)

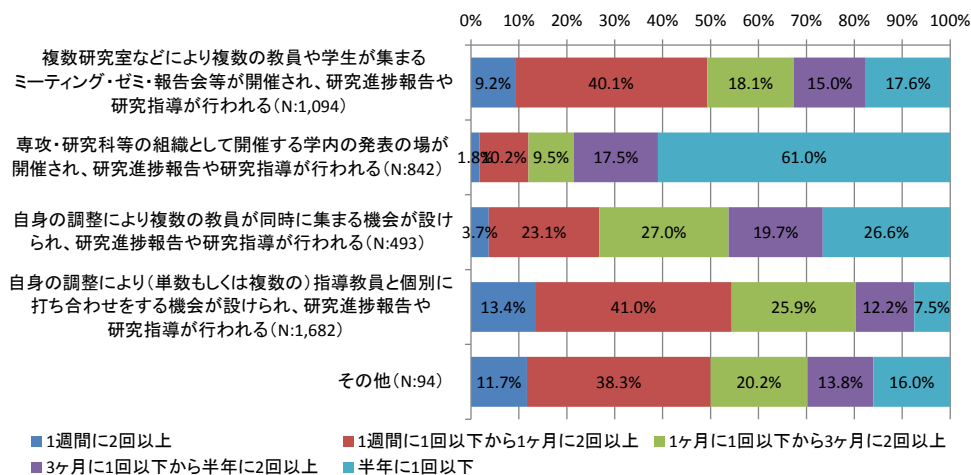


博士論文作成の指導形式別に見た指導頻度

指導頻度が最も多い指導形式は、自身の調整により指導教員と個別に打ち合わせをするものである。1週間に2回以上の高頻度の指導は13.4%、1ヶ月に2回以上の指導は41.0%であり、これらも含めて3ヶ月に2回以上の割合は80.3%である。複数研究室によるミーティング・ゼミ・報告会等の場での指導は若干頻度が下がり同割合は67.4%、自身の調整により複数の教員が同時に集まる場での指導頻度はさ

らに若干下がり 53.8%である。一方、専攻・研究科等の組織として開催される学内の発表の場での指導は半年に1回以下が61.0%であり、他の指導形式と比較して規模が大きく開催頻度が低いと推察される。

図表 106 博士論文作成の指導形式と頻度

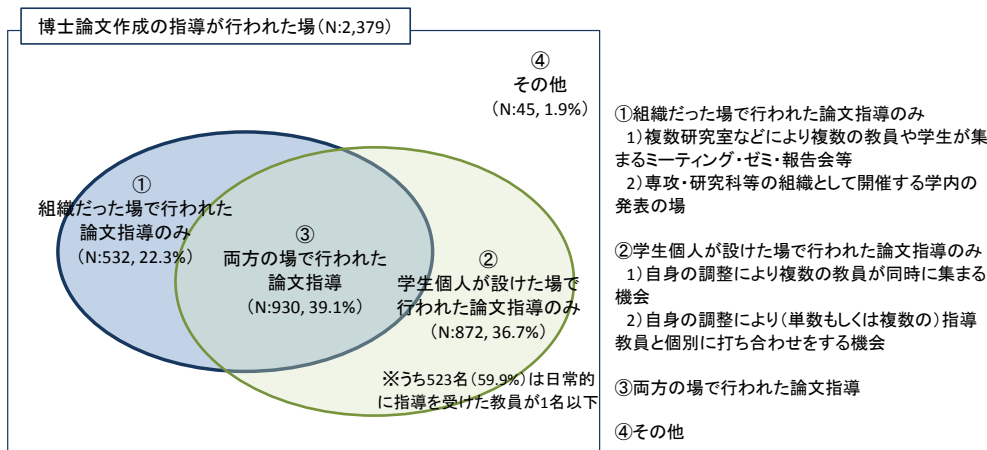


博士論文作成の指導が行われた場

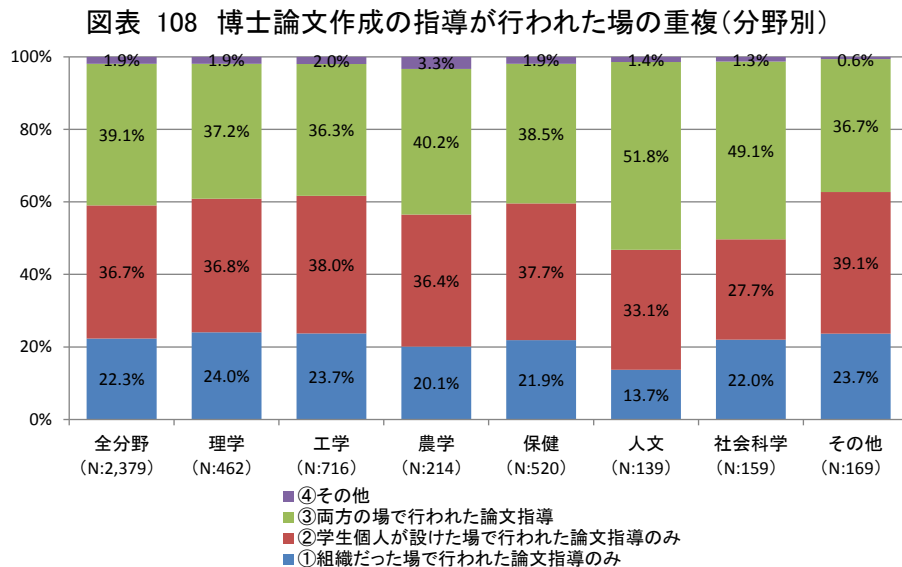
ここでは博士論文作成の指導形式に関連して、指導が行われた場に着目して整理する。論文作成の指導が行われた場は、大きくは「複数研究室や専攻・研究科が集まるように調整され、ミーティング・ゼミ・報告会や学内発表など組織だった場で行われた論文指導(複数教員による指導が前提)」と「学生の調整による指導教員との打ち合わせなど、学生個人が設けた場で行われた論文指導(複数教員による指導が含まれる)」に分けられる。

ミーティング・ゼミ・報告会や学内発表など、組織だった場で行われた指導を受けた者はおよそ6割(図中①+③)に上り、図表 91 では②および③に該当する。一方で、学生個人が設けた場でのみ論文指導を受けた者は36.7%(図中②)であり、図表 91 の①、④および複数の教員から指導を受けなかった者に該当する。複数指導教員制度を活用して指導を受けた者のうち組織だった場での指導を受けていない者(図表 91 ①)は、学生個人が設けた場での論文指導を受けた者(図表 107②)に含まれる。

図表 107 博士論文作成の指導が行われた場の重複



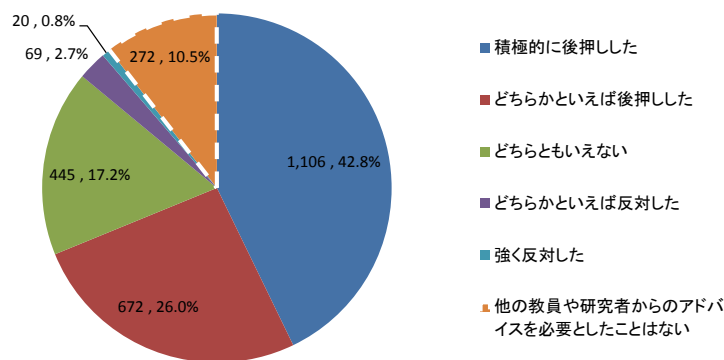
上記を分野別に見ると、人文と社会科学の2分野では自然科学系4分野と比べ、組織だった場で行われた論文指導と学生個人が設けた場で行われた論文指導の両方で博士論文の指導を受けた者の割合が10～15ポイントほど高い。



他の教員や研究者からのアドバイスや助言への主たる指導教員の後押し

回答者が、博士論文の作成を進める上で他の教員や研究者からアドバイスや助言を必要とした際に主たる指導教員はどのように対応したのかを見たところ(図表 109)、他の教員や研究者からのアドバイスを必要としたことは無い者が10.5%であり、回答者の多くは指導教員以外からのアドバイスを求める機会があったことを示している。後押しした(「積極的に後押しした」と「どちらかといえば後押しをした」の合計)が68.8%を占め、反対した(「どちらかといえば反対した」と「強く反対した」の合計)は3.5%である。

図表 109 学生が他の教員等からアドバイスを求めることに対する指導教員の後押し



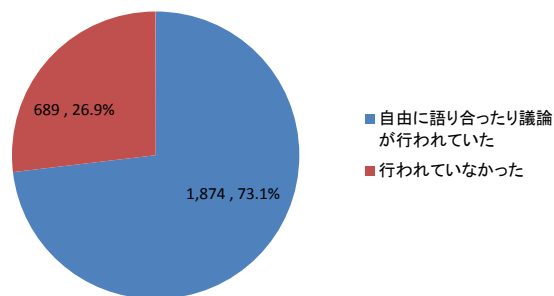
7. 大学院での研究活動や就職活動に対して影響を受けた者

7.1 専攻内での学生同士の自発的な議論

回答者の約7割が、専門的な内容も含めて学生同士が自発的に自由に語り合ったり議論を行ったりすることが専攻内で日常的に行われていたとしている。分野間、男女間、学生種別間、研究大学か否かの違いはほぼ無い。

学生が自発的に自由に語り合ったり議論を行ったりするための工夫や仕組みを尋ねたところ 647 人が回答し、「自然と行われていた」、「議論を促す雰囲気があった」とする回答が多くを占めた。これに続き、お茶を飲むスペースや設備(ソファなど)、ホワイトボードの設置、仕切り(パーティション)が無い、大部屋であるなど設備や、複数の分野の学生およびやる気のある学生が集まることにより議論が行われることが述べられている。タイミングや場所としてはお茶やお昼(ランチミーティング等)などの休憩時・居酒屋が挙げられている。また平日夜の skype の活用や TV 会議システムの利用に言及する回答もあった。

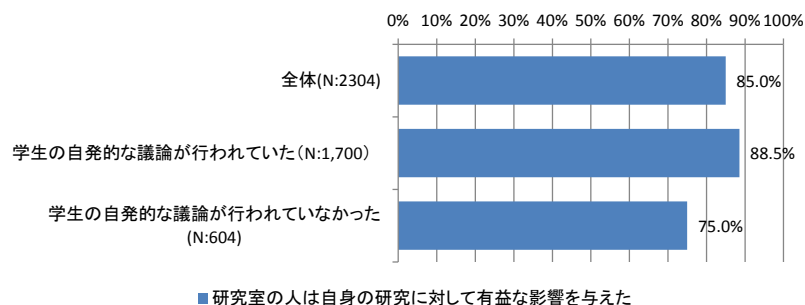
図表 110 学生同士の自発的な議論の有無



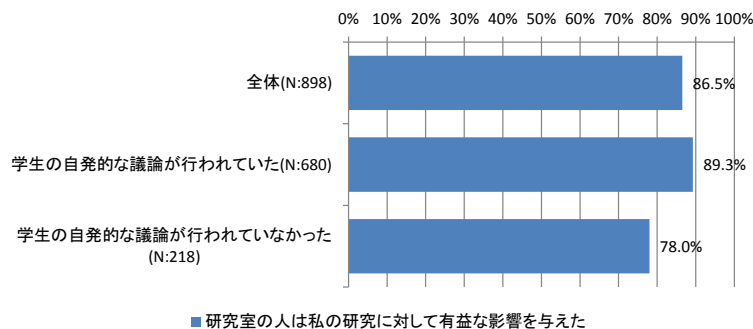
学生同士の自由な議論と自身の研究に対する研究室の者からの影響

学生同士の自発的かつ自由な議論が行われていた場合に 88.5%の回答者が、行われていなかった場合に75.0%の回答者が研究室の人からの自身の研究への有益な影響があったとしている。いずれにしても高い比率であり、研究室の影響は大きく、学生自身の研究に対して学生同士の議論がある程度影響を与えていると考えられる。研究室に複数の学生がいる場合に着目しても同様の傾向が示されている(図表 112)。

図表 111 学生同士の自発的な議論と研究室の者からの研究への有益な影響



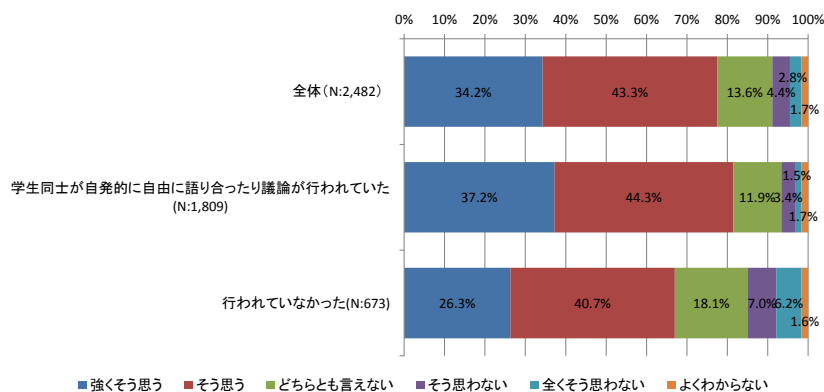
図表 112 学生同士の自発的な議論と研究室の者からの研究への有益な影響(研究室に複数の学生が所属する場合)



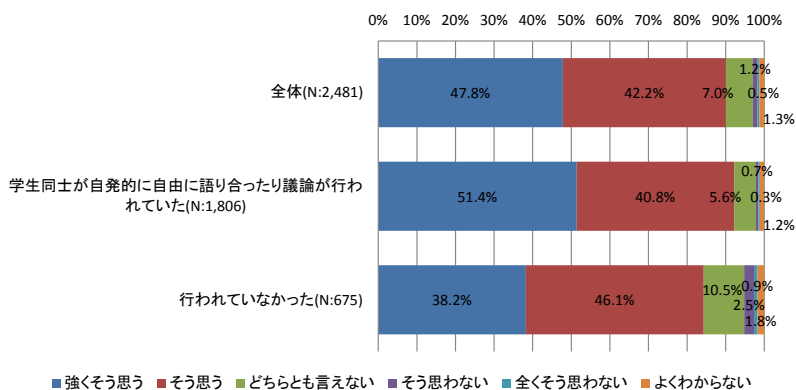
大学院への満足度との関連

学生同士の自発的かつ自由な議論と、大学院に価値があると思う度合い(「授業や論文指導など提供されたサービス自体」として、「自分自身の身についたもの」として、「10年後の将来」においての3点)との関係を見ると、いずれも自発的かつ自由な議論のある方が、満足度が高い者(「強くそう思う」と「そう思う」の合計)の割合が約10ポイントから15ポイント程度高い。

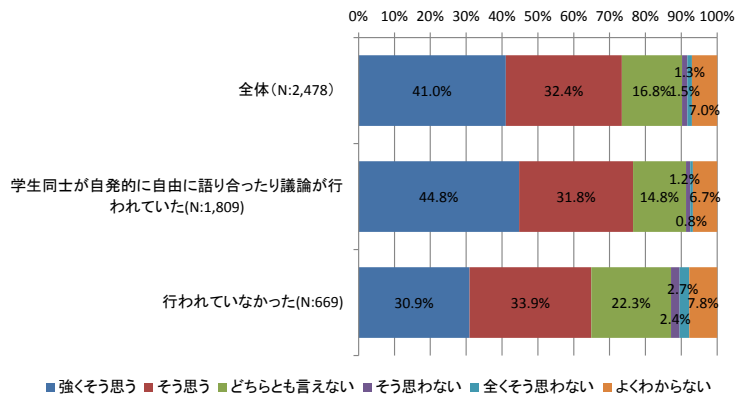
図表 113 学生同士の自発的な議論と「授業や論文指導など提供されたサービス自体」として大学院の価値があると思う度合い



図表 114 学生同士の自発的な議論と「自分自身の身についたもの」として大学院の価値があると思う度合い

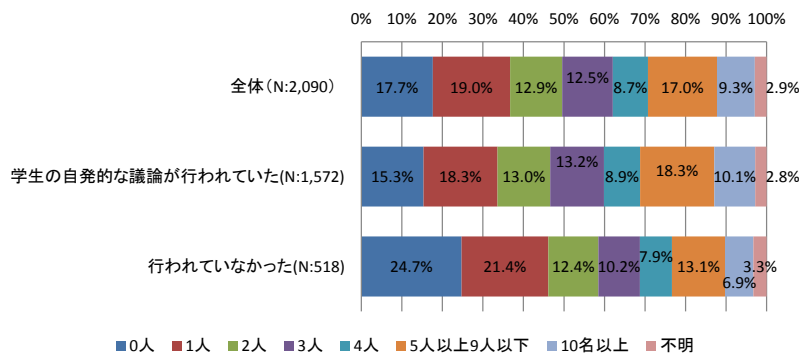


図表 115 学生同士の自発的な議論と「10年後の将来」において大学院の価値があると思う度合い



学生同士の自発的かつ自由な議論が行われていた場合には、研究室に所属する博士課程の一般学生の人数が、議論が行われていない研究室よりも多い傾向がある。接触の機会の多い同水準の学生の存在が自由な議論を促すと考えられる。

図表 116 研究室に所属する博士一般学生の数と学生同士の自発的な議論



7.2 自身の研究や就職活動および将来の進路に対する影響の範囲

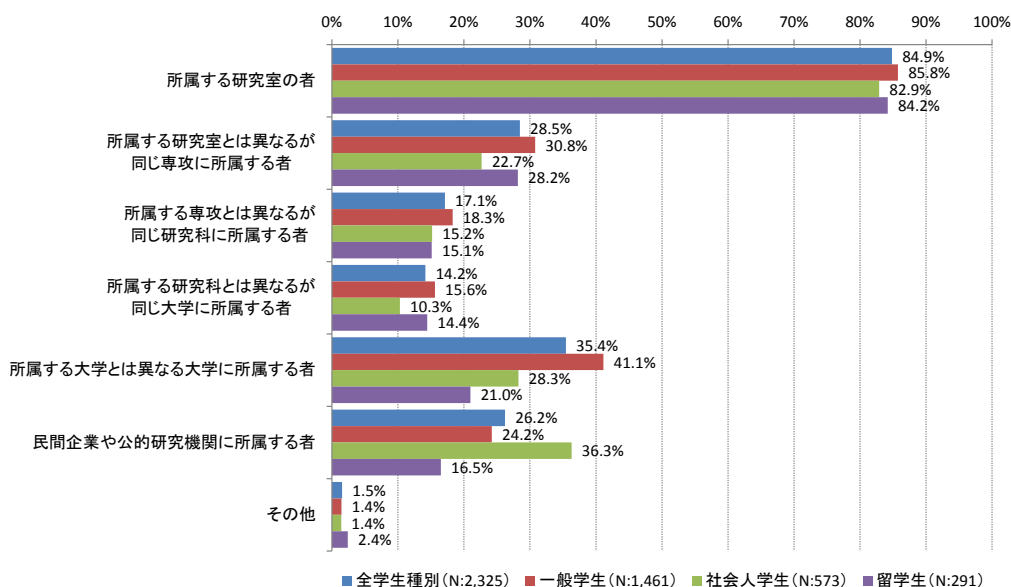
ここでは、自身の研究や就職活動、将来の進路の3点に対して有益な影響を受けた者が所属していた範囲を示す。

自身の研究

博士課程在籍時に、自身の研究に対して有益な影響を受けた者の所属を見たところ、所属する研究室の者と回答した割合が 84.9%と高く、このような傾向はどの学生種別にも共通している。所属する大学内において、研究室以外で影響を受けた者の所在を見ると、所属する研究室とは異なるが同じ専攻に所属する者を挙げた割合が 28.5%と高く、次いで所属する専攻とは異なるが同じ研究科に所属する者、所属する研究科とは異なるが同じ大学に所属する者と続く。学内においては、所属する研究室との距離(範囲)が拡大するにつれて有益な影響を受けた度合いが下がっている。

学生種別では、一般学生は所属する大学とは異なる大学に属する者と回答した割合が 41.1%であり、留学生 21.0%の倍近い。社会人学生は民間企業や公的研究機関に所属する者を挙げた者が 36.3%であり一般学生や留学生よりも 10ポイント以上高い。

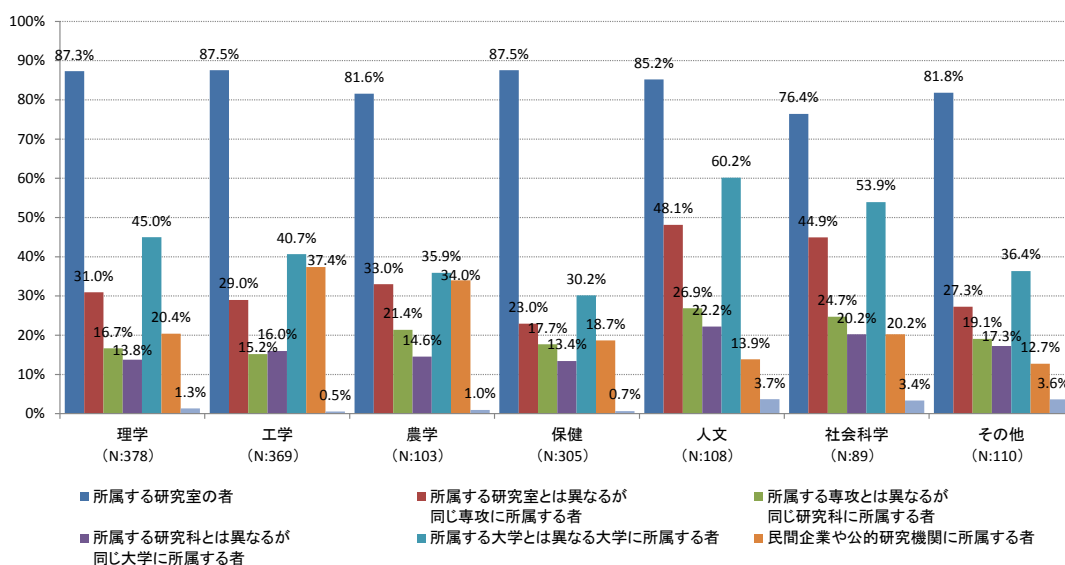
図表 117 自身の研究に対して有益な影響を受けた者の所属(学生種別)



有益な影響を受けた者の重複状況を学生種別や分野別に見た結果を参考資料 3 に示す。ここでは、主に自身の研究および就職活動に有益な影響を受けた者の所属を比較するため、就職活動を行う一般学生について分析した結果を示す。

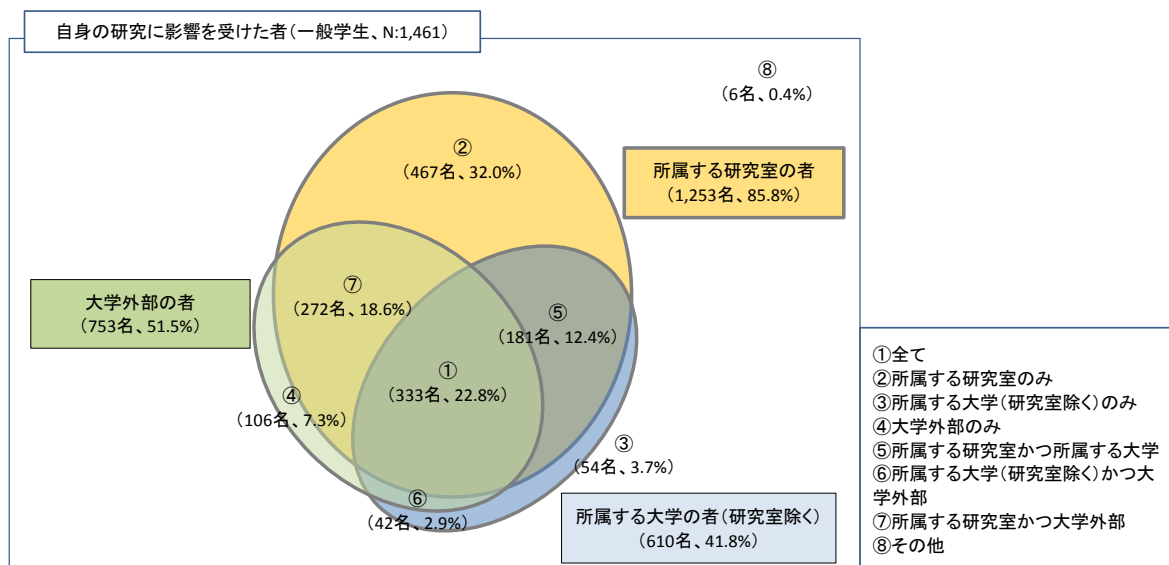
一般学生について、自身の研究に対して有益な影響を与えた者の所属を分野別に見たところ、どの分野でも所属する研究室の者から影響を受けた割合が共通して高い(図表 118)。他の分野と比較して、人文と社会科学の 2 分野では所属する研究室とは異なるが同じ専攻に所属する者の割合がそれぞれ 48.1%、44.9%、所属する大学とは異なる大学に所属する者から影響を受けた割合がそれぞれ 60.2%、53.9%と高い。

図表 118 自身の研究に対して有益な影響を受けた者の所属(一般学生・分野別)



上記に関連して、一般学生のうち自身の研究に対して所属する研究室から影響を受けた(図表 119 中①+②+⑤+⑦)と考える者の割合は 8 割以上に上り、所属する研究室のみから影響を受けた者(図中②)は 32.0%である。所属する研究室以外のみから影響を受けた者は 13.9%(図中③+④+⑥)に留まる。設問の自由回答では、自身の研究に対する有益な影響としては研究内容や進め方に関する情報提供や示唆を受けたことが述べられている。

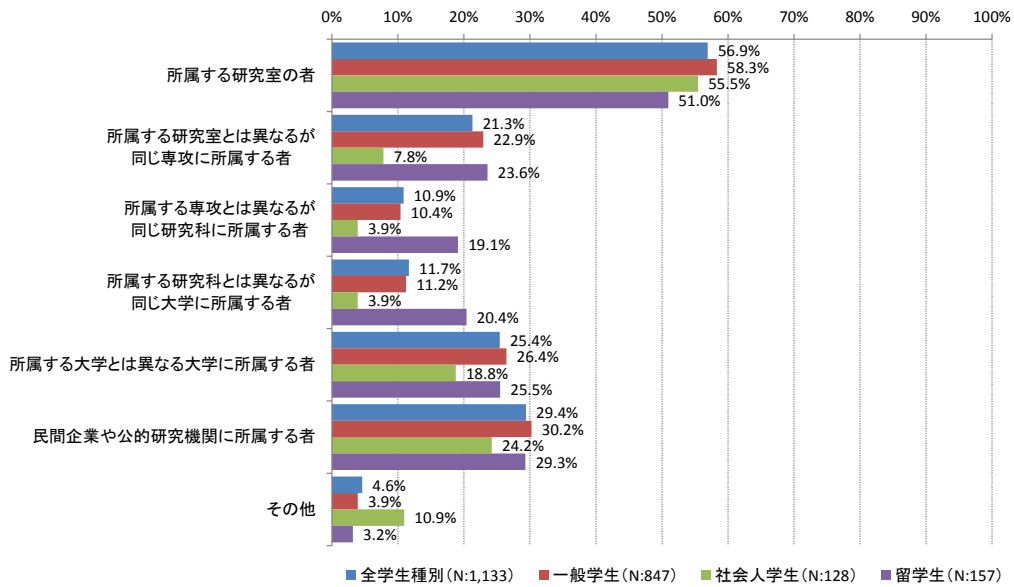
図表 119 自身の研究に対して有益な影響を受けた者の範囲(一般学生)



就職活動

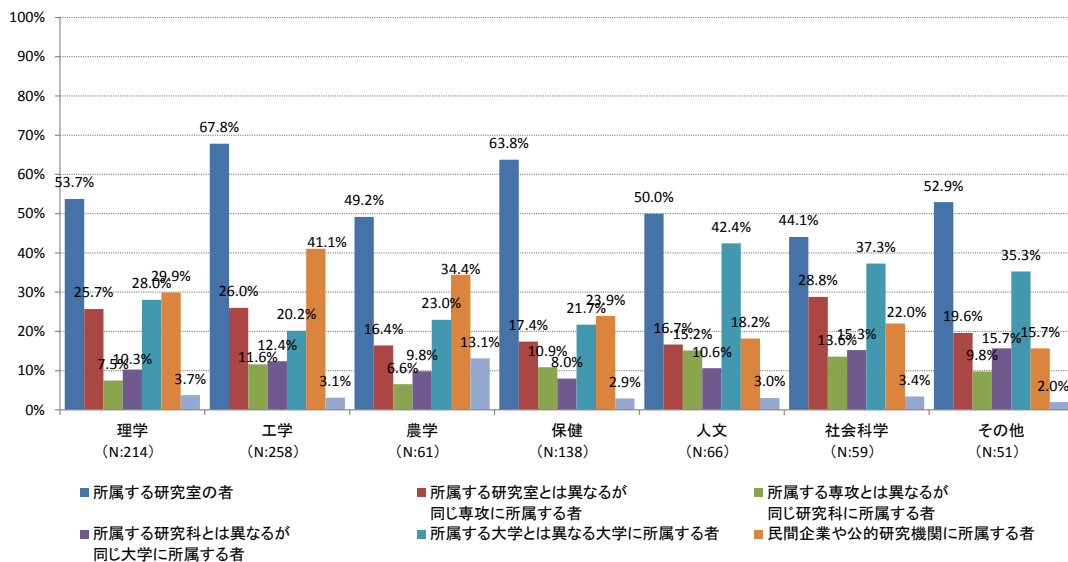
博士課程在籍時において、就職活動に対して有益な影響を受けた者の所属を見たところ、所属する研究室の者と回答した割合が 56.9%と高い。社会人学生は所属する研究室の者を除くと、全体的に一般学生や留学生と比べて影響を受けた率が低い傾向にあり、特に所属する大学(研究室を除く)から影響を受けた率が低い。これは、社会人学生が他の学生種別と比べて大学に持つ人脈の範囲が狭い可能性を示唆する。留学生は、一般学生と似た傾向を示すが、所属する専攻とは異なるが同じ研究科に所属する者の割合が 19.1%と一般学生の倍程度に上っていることが特徴である。

図表 120 就職活動に対して有益な影響を受けた者の所属(学生種別)



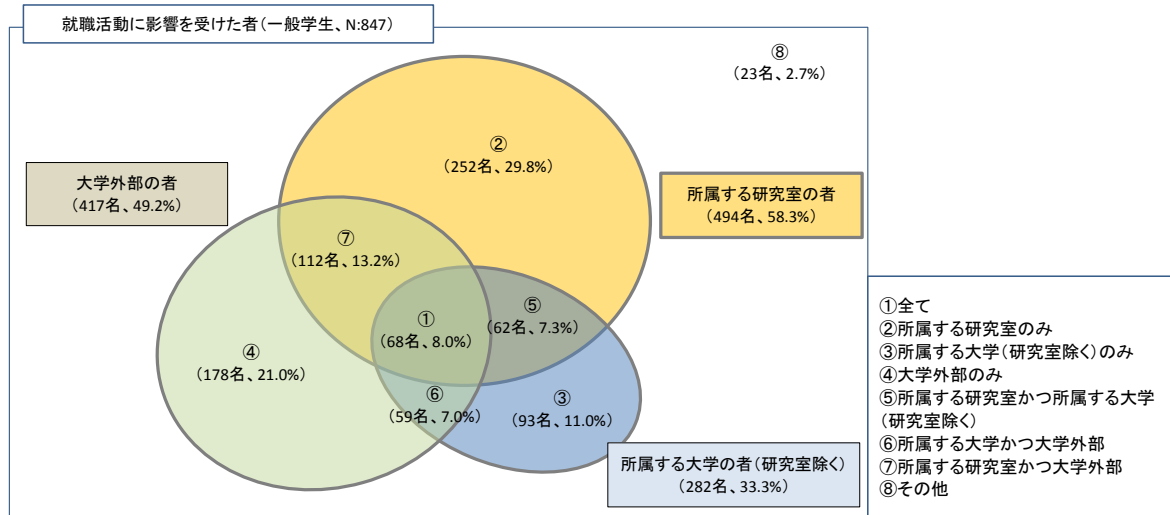
一般学生について、就職活動に有益な影響を受けた者の所属を分野別に見ると、工学と保健の2分野では所属する研究室の者から影響を受けた割合が高い(各 67.8%、63.8%)。また工学や農学では、民間企業や公的研究機関に所属する者から有益な影響を受けた割合が 41.1%および 34.4%と高い。一方、人文、社会科学、「その他」では所属する大学とは異なる大学に所属する者の割合が高い(各 42.4%、37.3%、35.3%)。

図表 121 就職活動に対して有益な影響を受けた者の所属(一般学生・分野別)



一般学生について就職活動に有益な影響を受けた者の所属する範囲を見ると、所属する研究室のみから影響を受けた割合(図中②)は3割程度であり、研究室以外のみから影響を受けた割合が39.0%(図中③+④+⑥)である。なお、研究室以外のみから影響を受けた者のうち4割程度は、民間企業や公的研究機関に所属する方からの影響を受けている。設問の自由回答では就職活動に対する有益な影響の内容としては課程修了後の進路を考えるきっかけなどが述べられている。

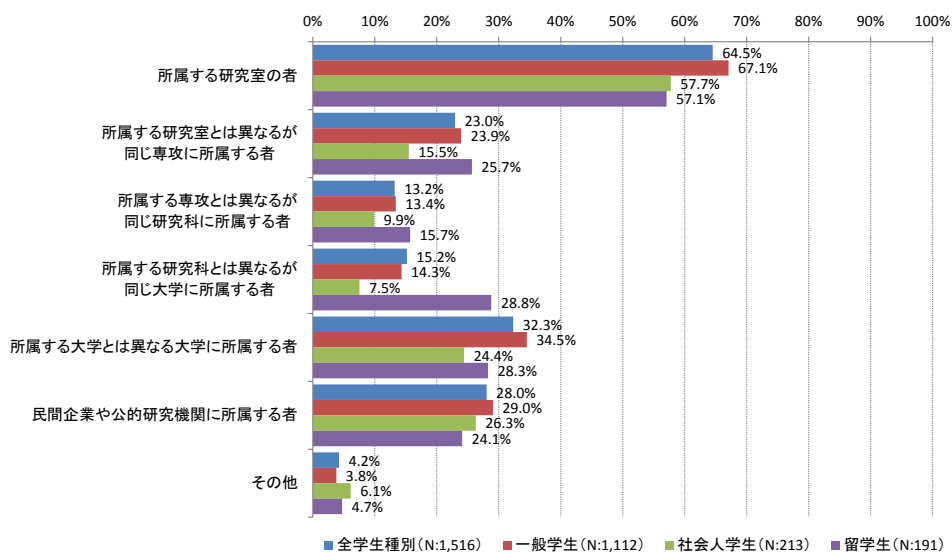
図表 122 就職活動に対して有益な影響を受けた者の範囲(一般学生)



将来の進路

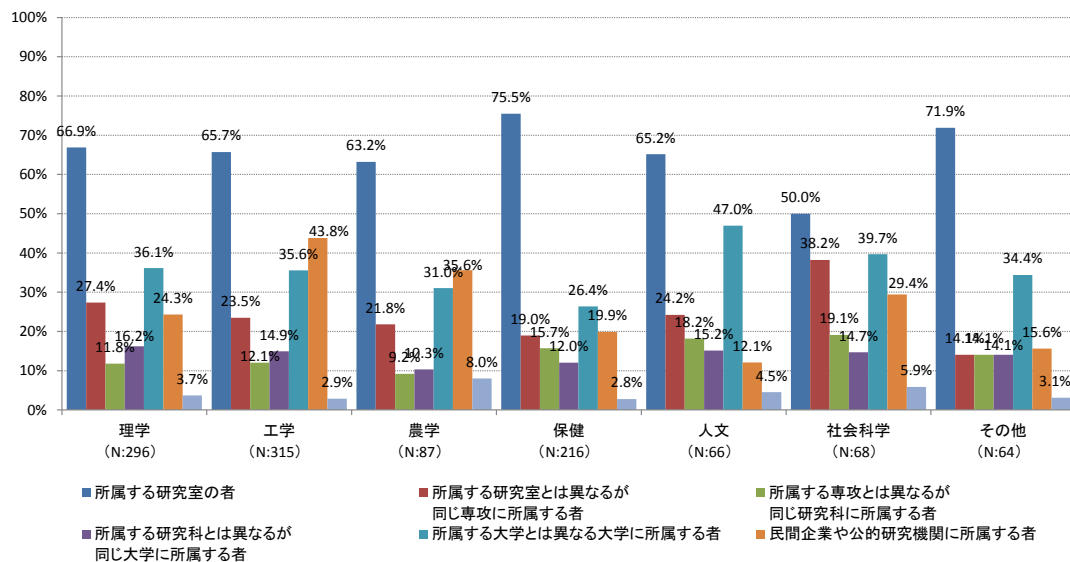
将来の進路に対して影響を受けた者の所属を見ると、所属する研究室の者と回答した割合が64.5%と高く、所属する大学とは異なる大学に所属する者32.3%、民間企業や公的研究機関に所属する者28.0%が続く。学生種別で見ると、一般学生は所属する研究室の者の割合が67.1%と他の学生種別よりも約10ポイント高い。

図表 123 将来の進路に対して有益な影響を受けた者の所属(学生種別)



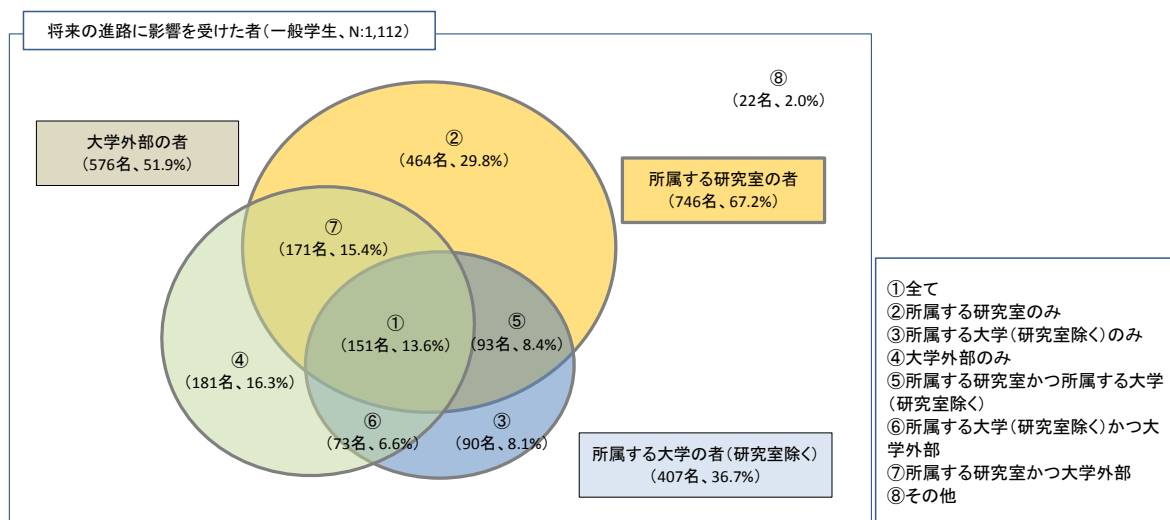
一般学生について、将来の進路に対して有益な影響を受けた者の所属を分野別に見ると、どの分野でも所属する研究室の者から影響を受けたと回答した割合が多い。分野別の傾向は就職活動で有益な影響を受けた者の傾向とほぼ同様である。

図表 124 将来の進路に対して有益な影響を受けた者の所属(一般学生・分野別)



一般学生について、将来の進路に対して有益な影響を受けた者の範囲を見ると、所属する研究室のみから影響を受けた者(図中②)はおよそ3割であり、所属する大学の者(研究室除く)のみから有益な影響を受けた者の割合は8.1%(図中③)である。所属する研究室以外のみから影響を受けた者の割合は31.0%(図中③+④+⑥)である。将来の進路に対して有益な影響を受けた者の重複状況は、就職活動に対して有益な影響を受けた者の重複状況と似通った傾向を示す。

図表 125 将来の進路に対して有益な影響を受けた者の範囲(一般学生)



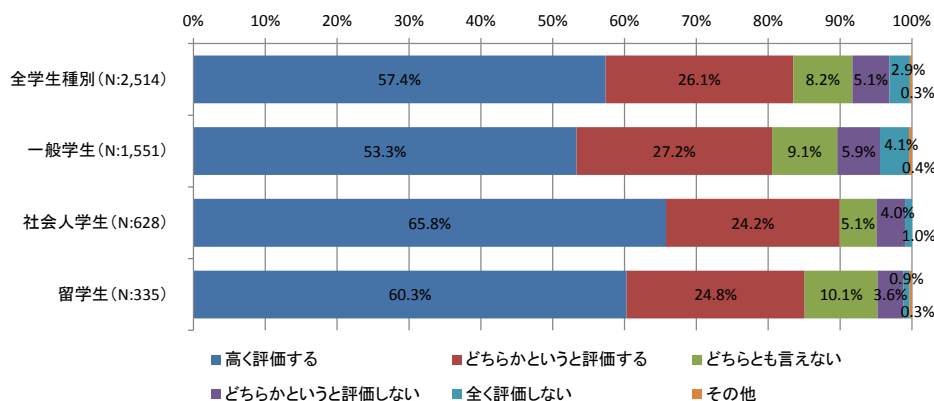
8. 大学院での修学に対する評価

8.1 指導教員に対する評価

指導教員の教育・研究指導

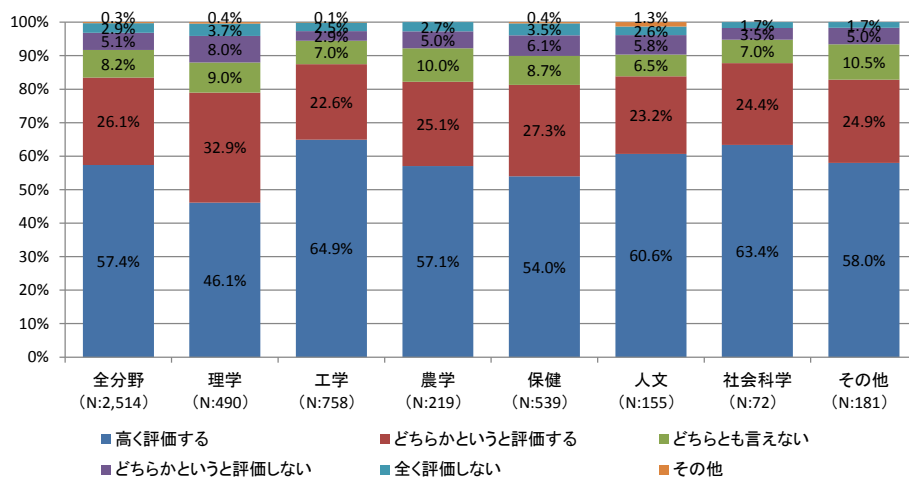
博士課程での主たる指導教員の教育・研究指導に対する評価は、「高く評価する」と回答した者が 57.4%、「どちらかという評価する」が 26.1%であり、8 割以上の学生は指導教員の教育・研究指導を評価している。一般学生では 10.0%が評価しない(「全く評価しない」と「どちらかという評価しない」の合計)と回答しており、社会人学生や留学生の倍以上に上る。なお「全く評価しない」と回答した者の自由回答には、「指導者自身の学術面での能力不足」や「研究指導の放棄、放置」などの理由が挙げられていた。

図表 126 博士課程での主たる指導教員の教育・研究指導の評価(学生種別)



指導教員の教育・研究指導に対する評価を分野別に見ると、評価する(「高く評価する」と「どちらかという評価する」の合計)割合はどの分野でも 80%程度を占める。「高く評価する」に着目すると、最も高い工学分野では 64.9%であり、社会科学 63.4%、人文 60.6%が続く。一方、理学では 46.1%と低い。

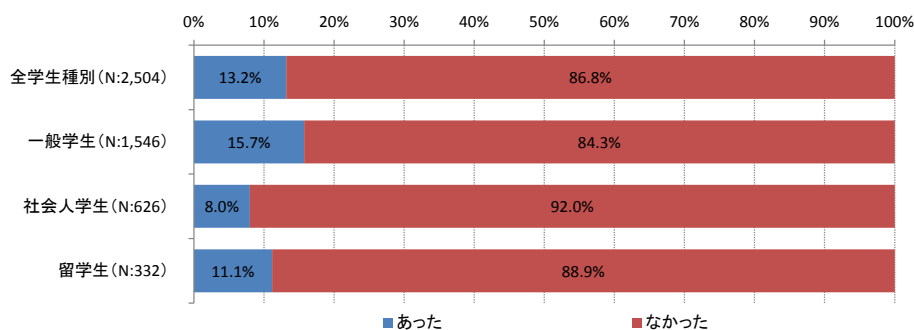
図表 127 博士課程での主たる指導教員の教育・研究指導の評価(分野別)



指導教員との対立・軋轢

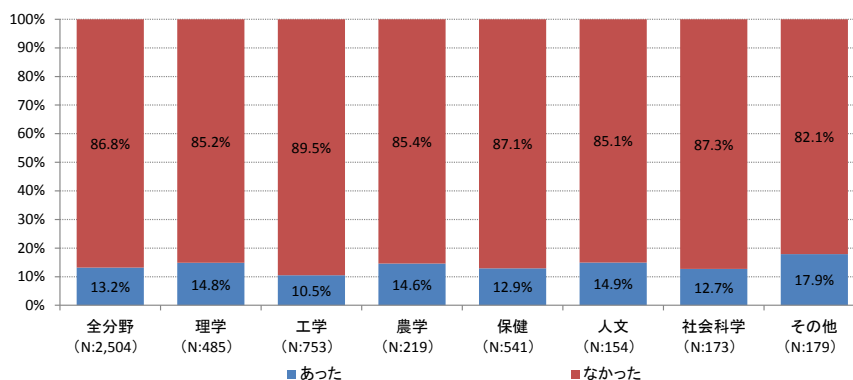
主たる指導教員との対立や軋轢の有無を見たところ、対立や軋轢があったと回答した者の割合は13.2%である。ただし、ここでの対立や軋轢は、研究結果の解釈等の食い違いではなく、双方の研究・教育指導に対する姿勢や態度の違いから指導の継続が困難になった状況を指す。学生種別で見ると、一般学生で対立や軋轢があった者の割合は15.7%であり、他の学生種別(社会人学生8.0%、留学生11.1%)と比較して高い。なお自由記述には、主たる指導教員との対立や軋轢があった場合の対処方法としては「無視、我慢」、「第三者への相談や協力依頼」、「相手とのコミュニケーションや議論を通じた解決」、「自身の能力や研究結果の提示、説明」などが述べられていた。

図表 128 主たる指導教員との対立や軋轢の有無(学生種別)



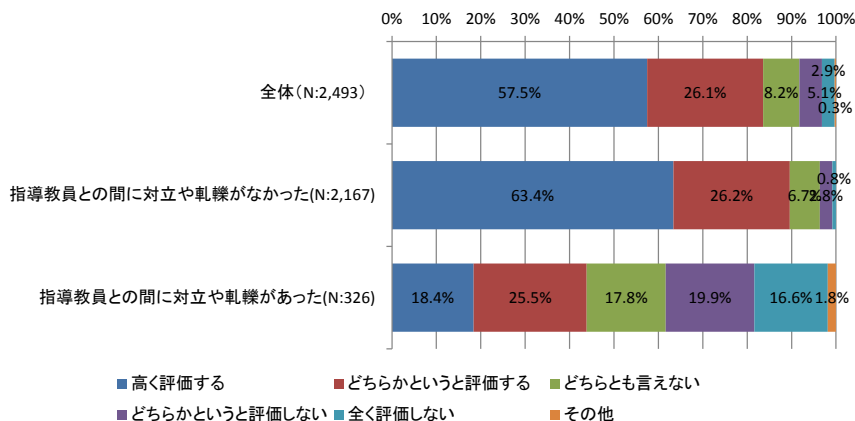
対立や軋轢の有無を分野別に見たところ、分野間での差はほとんど見られない。主たる指導教員との間に対立や軋轢が起きるかどうかは必ずしも分野の影響によるものではなく、どの分野でもある一定程度の割合では起きるものと推察される。

図表 129 主たる指導教員との対立や軋轢の有無(分野別)



主たる指導教員との間に対立や軋轢があった者は、対立や軋轢がなかった者と比較して指導教員への教育・研究指導への評価は低い。ただし、対立や軋轢があった場合でも43.9%の学生は指導教員を肯定的に評価(「高く評価する」と「どちらかという評価する」の合計)している。

図表 130 主たる指導教員との対立や軋轢と指導教員の教育・研究指導に対する評価

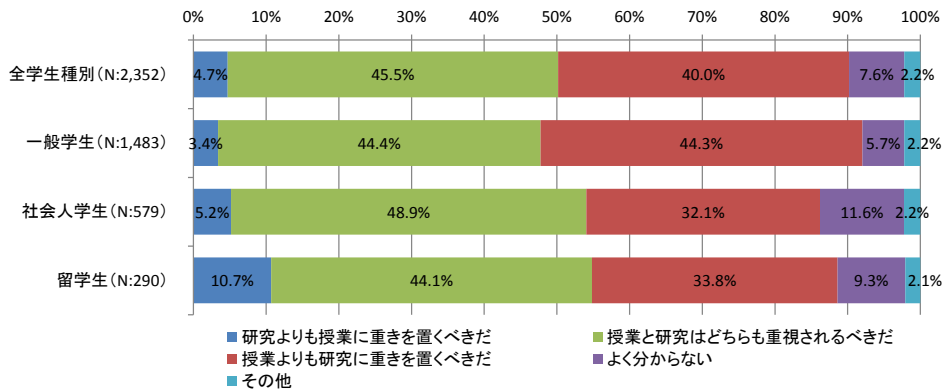


8.2 大学院での授業や研究に対する評価

授業と研究との関係

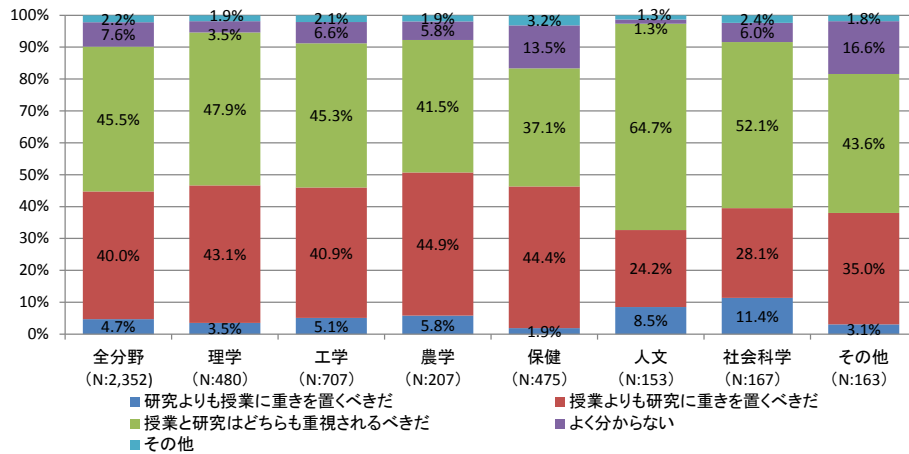
主に大学院修士課程で履修した授業と研究との関係(授業と研究を重視する度合い)については、授業と研究はどちらも重視されるべきだと回答した者が45.5%と最も多く、授業よりも研究に重きを置くべきと回答した割合が40.0%と続く。一方、研究よりも授業に重きを置くべきだと回答した者の割合は4.7%にとどまる。学生種別で見ると、一般学生は社会人学生や留学生よりも、授業よりも研究に重きを置くべきと回答する傾向が見られる。

図表 131 大学院で履修した授業と研究を重視する度合い(学生種別)



分野別に見ると、人文と社会科学の2分野では、授業と研究はどちらも重視されるべきだと回答した者の割合が他の分野と比較して高く、特に人文では64.7%を占める。対して、保健では、授業と研究はどちらも重視されるべきだと回答した割合は37.1%と低い。

図表 132 大学院で履修した授業と研究を重視する度合い(分野別)

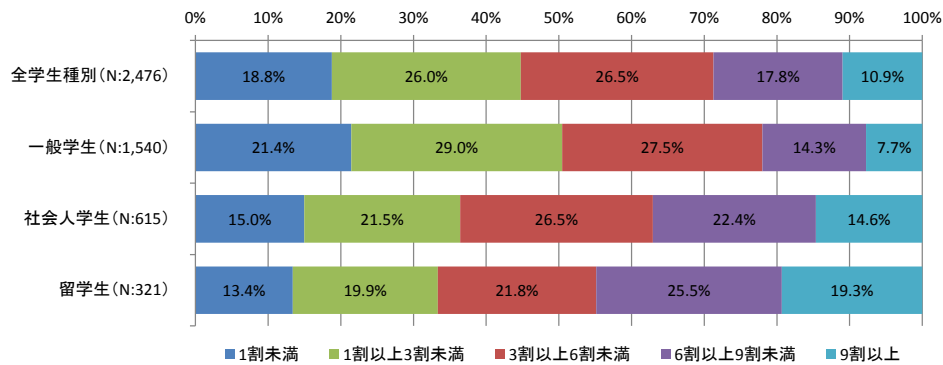


大学院修士・博士課程で履修した授業のうち履修して良かったと思う授業の割合

大学院修士および博士課程で履修した授業のうち、履修して良かったと思う授業の割合を見ると、6割以上と回答した者は約3割(28.7%)に留まり、うち1割未満が18.8%、1割以上3割未満が26.0%である。

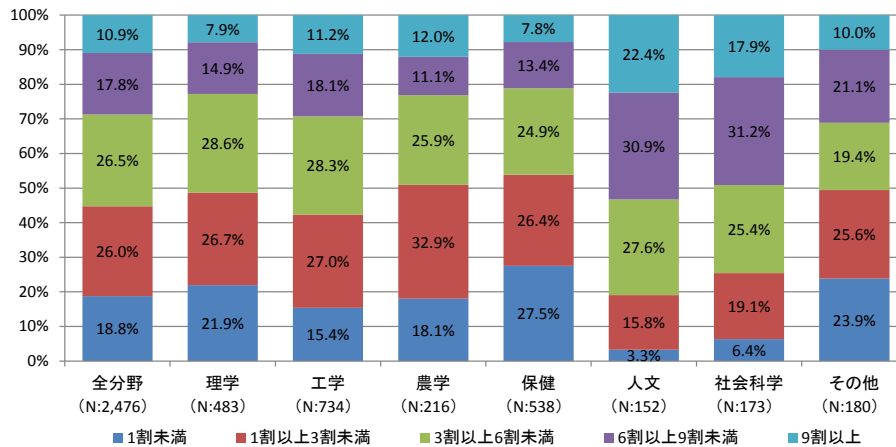
一般学生と比較して社会人学生や留学生では、履修して良かったと思う授業の占める割合が高い。

図表 133 大学院で履修した授業のうち履修して良かったと思う授業の割合(学生種別)



分野別に見ると、履修して良かったと思う授業割合が3割未満と低い者は、人文分野で約2割、社会科学では3割未満なのに対して、自然科学系4分野では4割から5割と倍程度に上る。

図表 134 大学院で履修した授業のうち履修して良かったと思う授業の割合(分野別)

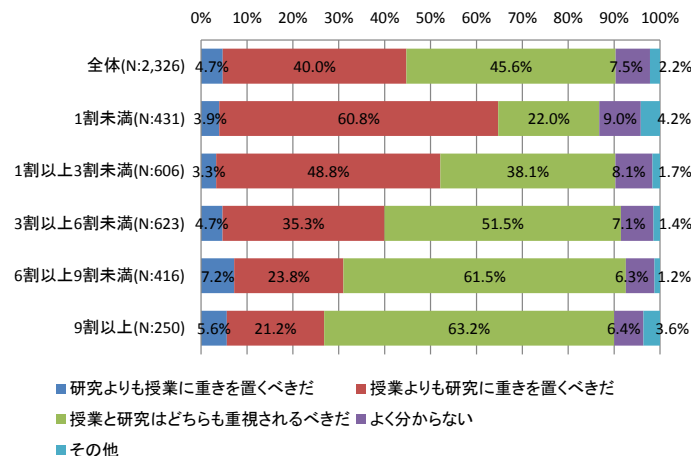


履修して良かったと思う授業の割合と研究と教育とのバランスに対する考え方や評価

研究と教育のどちらを重視するのかという度合いと、履修した授業のうち良かったと思う授業の割合との関係を見たところ(図表 135)、履修して良かったと思う授業の割合が多い者は、授業と研究のどちらも重視すべきだと答える割合が多く、授業よりも研究を重視すべきと答える割合が小さい。具体的には、授業よりも研究に重きを置くべきだと答えた割合は、履修して良かったと思う授業が1割未満と少ない回答者では60.8%であり、同授業が9割以上の者では21.2%である。これに対して、授業と研究はどちらも重視されるべきだと答えた割合は、履修して良かったと思う授業が1割未満と少ない回答者では22.0%であり、同授業が9割以上の者では63.2%である。

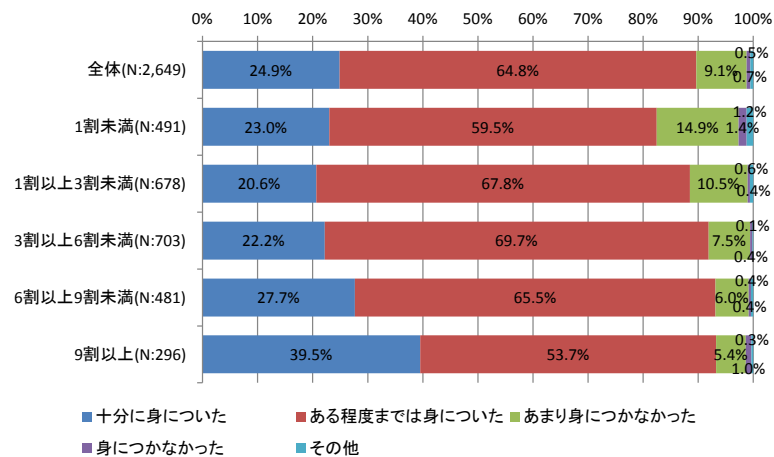
履修して良かったと思う授業が多い場合に、少ない場合と比較して研究に対して授業を高く評価することは当たり前の結果のように考えられる。しかし、大学院の教員や学生が研究を重視する背景には自らが経験した授業が影響している可能性が高く、今後コースワークの改善を図る上で示唆を与える結果と考えられる。

図表 135 大学院で履修した授業のうち履修して良かったと思う授業の割合と授業と研究を重視する度合い

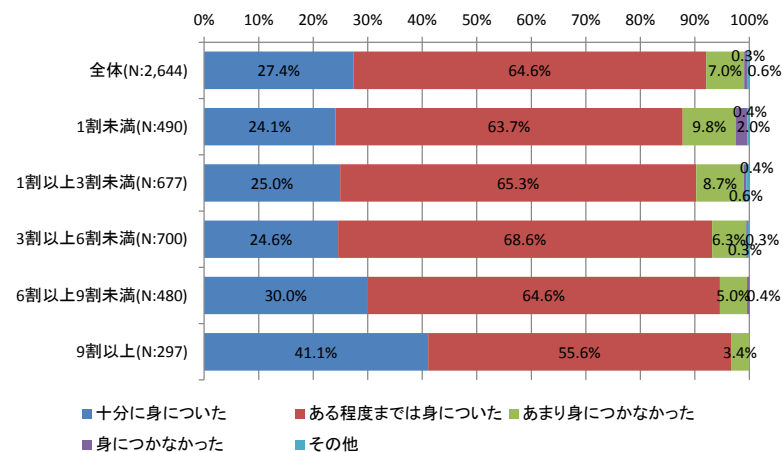


大学院で履修して良かったと思う授業割合と研究能力を身につけたと考える割合との関係について見ると、「自身や他者の発見を批判的に評価できる能力」に関しては、全体では約9割の者が身につけた（「十分身についた」と「ある程度までは身についた」の合計）と考えているが、履修して良かったと思う授業割合が1割未満と少ない者（全体の約2割）では同能力を身につけたと考える割合は8割強である。同能力が「十分身についた」と考える者に着目すると、履修して良かったと思う授業が9割以上と回答した者の場合は4割近いのに対して、履修して良かったと思う授業が6割未満と回答した者は半分の約2割程度に留まる（図表136）。なお、他の2つの研究能力でも同様の傾向が見られる。

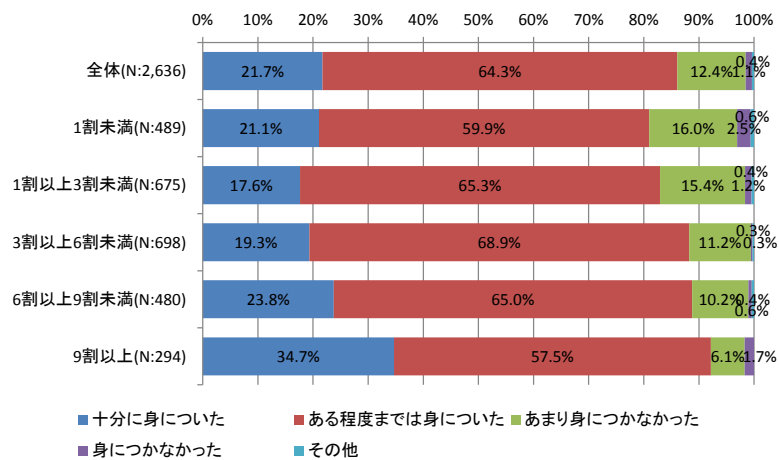
図表 136 大学院で履修した授業のうち良かったと思う授業の割合と「自身や他者の発見を批判的に評価できる能力」を身につけたと考える割合



図表 137 大学院で履修した授業のうち良かったと思う授業の割合と「自身の研究を専門分野の知識体系に位置づけることができる能力」を身につけたと考える割合

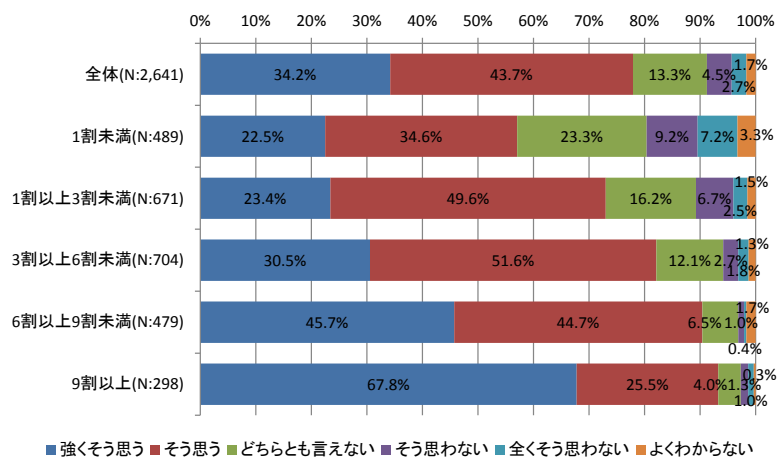


図表 138 大学院で履修した授業のうち良かったと思う授業の割合と「専門分野の議論を批判的に理解し自身の仮説を明確に表現する能力」を身につけたと考える度合い

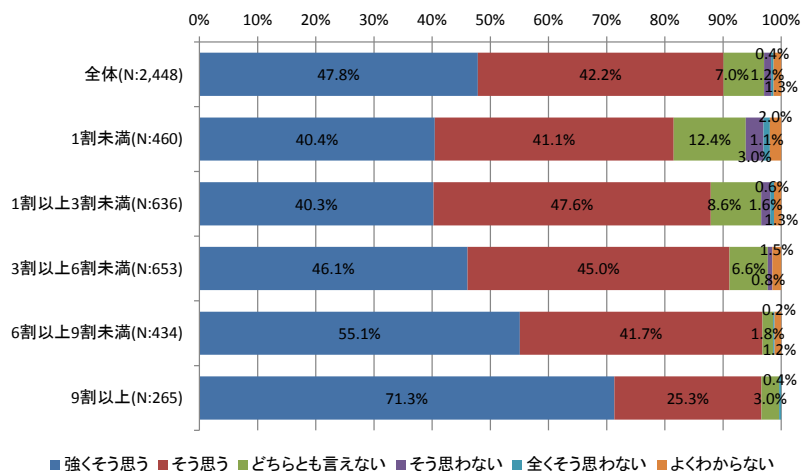


大学院で履修して良かったと思う授業割合と大学院での修学に価値があると思う度合い（修学の満足度）との関係を見ると、履修して良かったと思う授業割合が高い場合に修学に対する満足度も高くなる傾向が示された（図表 139、図表 140、図表 141）。

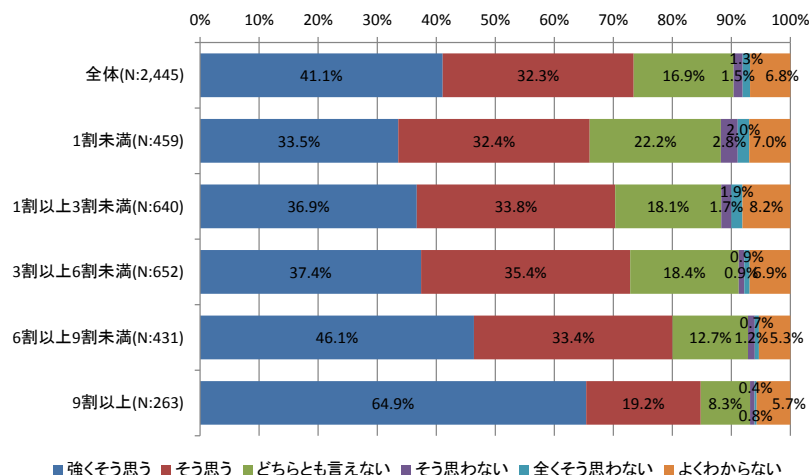
図表 139 大学院で履修した授業のうち良かったと思う授業の割合と「授業や論文指導など提供されたサービス自体」として大学院の価値があると思う度合い



図表 140 大学院で履修した授業のうち良かったと思う授業の割合と「自分自身の身についたもの」として大学院の価値があると思う度合い



図表 141 大学院で履修した授業のうち良かったと思う授業の割合と「10年後の将来」において大学院の価値があると思う度合い

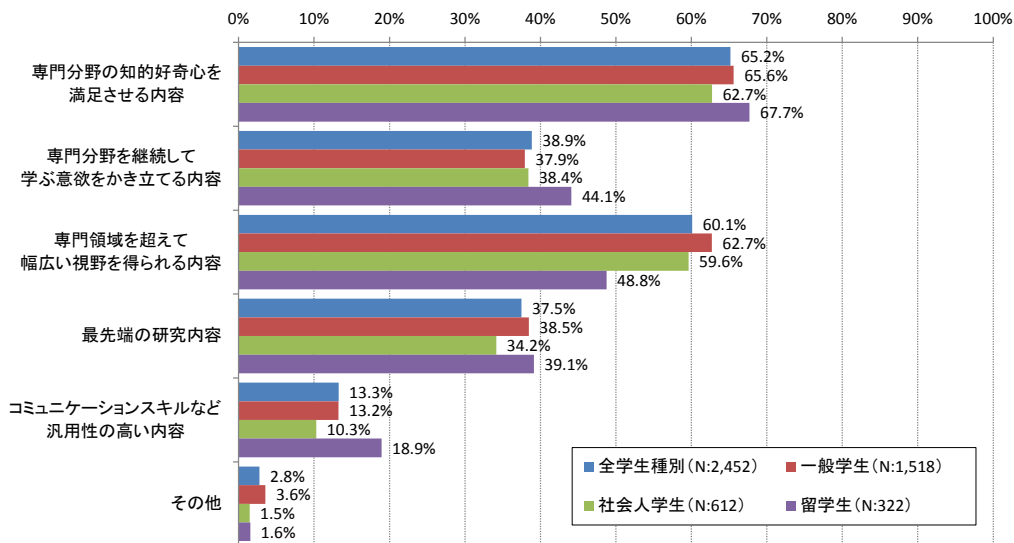


履修して良かった授業の内容

履修して良かったと思える授業の内容を見ると、全体では「専門分野の知的好奇心を満足させる内容」を 65.2%が選択している。「専門領域を超えて幅広い視野を得られる内容」が 60.1%で次に続く。これらに対して「コミュニケーションスキルなどの汎用性の高い内容」は全体でも 13.3%と比率が低い、そもそもこのような授業を履修している率が低い可能性が考えられる。

学生種別に見ると、留学生は一般学生や社会人学生と比較して「専門領域を超えて幅広い視野を得られる内容」と回答した者の割合が、他の学生種別と比べて 48.8%と約 10 ポイント低いが、他の項目は他の学生種別よりも約 5 ポイント高く評価している。

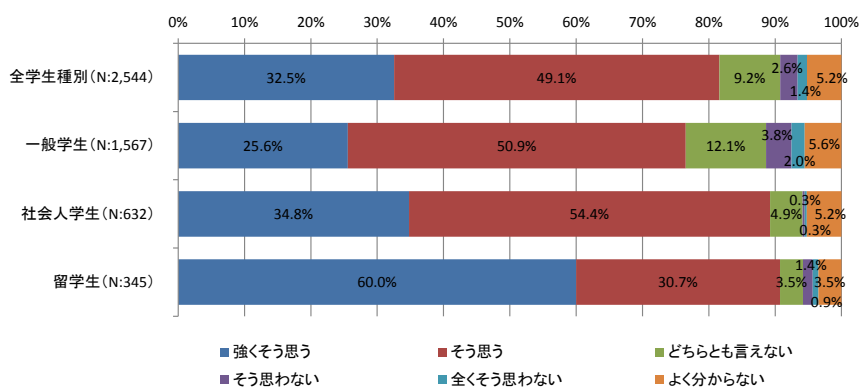
図表 142 履修して良かった授業の内容



8.3 学位論文審査への認識

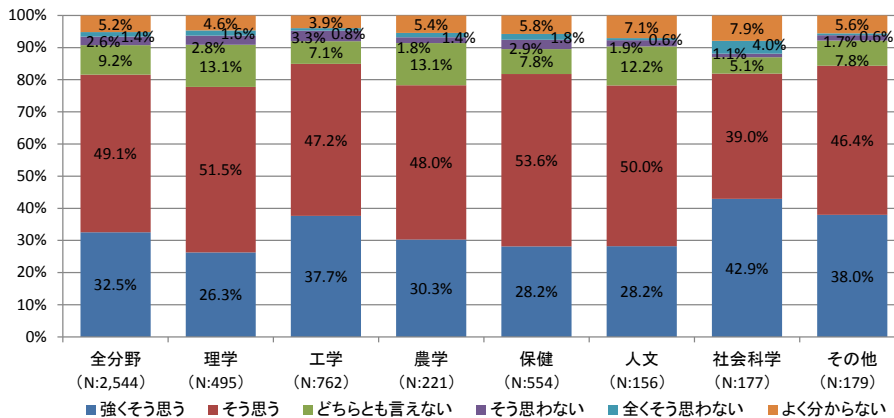
所属する専攻において学位論文の審査が厳正に行われていたと考える度合いを見ると、行われていたと思う(「強くそう思う」と「そう思う」の合計)と回答した者の割合が 80%を超え、そう思わない(「そう思わない」と「全くそう思わない」の合計)と回答した者の割合は 4.0%と少数に留まる。学生種別で見ると、一般学生は学位論文審査が厳正に行われていたと思う者は他種別の学生よりも 15 ポイントほど低く 76.5%である。留学生は一般学生や社会人学生と比べて、博士論文の審査が「厳正に行われていた」と強く認識していた者の割合(「強くそう思う」)が高く、一般学生の倍以上の 60.0%を占める。

図表 143 学位論文の審査の厳正さ(学生種別)



一般学生について学位論文の審査が厳正に行われていたと考える度合いを分野別に見ると、どの分野でも「強くそう思う」と「そう思う」の合計でおよそ 8 割を占め、分野間での大きな差はない。「強くそう思う」と回答した割合は社会科学、「その他」、工学の 3 分野で高く、それぞれ 42.9%、38.0%、37.7%である。

図表 144 学位論文の審査の厳正さ(一般学生・分野別)



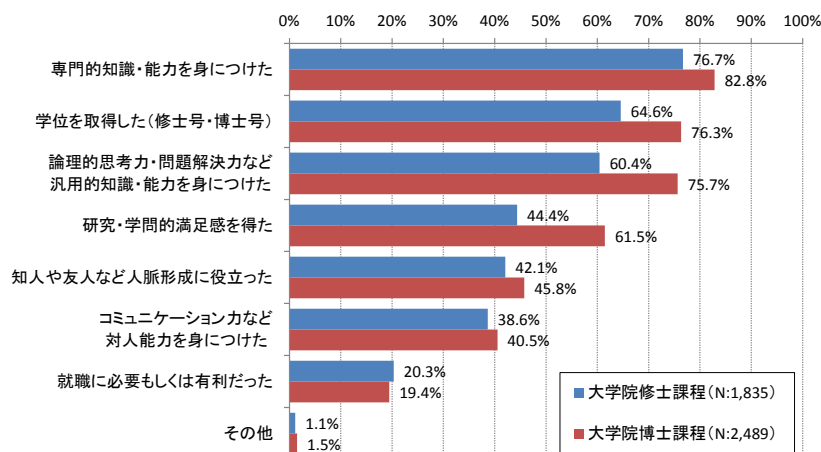
8.4 大学院での修学を通じて良かった点・不満だった点

大学院での修学を通じて良かった点

大学院での修学を通じて良かった点を修士と博士の別に聞いた。まず、課程の別に関係なく最も高いのは「専門的知識・能力を身につけた」であり、「学位を取得した」、「論理的思考力・問題解決力など汎用的知識・能力を身につけた」が続く。また、修士・博士課程に共通して「就職に必要もしくは有利だった」を挙げた学生の割合は 20%程度と低く、続いて「コミュニケーション力などの対人能力を身につけた」(約 40%)、「知人や友人など人脈形成に役立った」(博士で 45.8%、修士で 42.1%)が低い。

また、大学院での修学を通じて良かった点は、修士課程での修学と比較して博士課程の方が、ほぼ全ての項目で同程度か良かったと評価した者の割合が高い傾向にある。特に「論理的思考力や問題解決力が身についた」、「研究・学問的な満足感を得た」の差が大きく、各 15.3 ポイント、17.1 ポイントずつ博士課程での評価が修士課程での評価を上回っている。

図表 145 大学院での修学を通じて良かった点

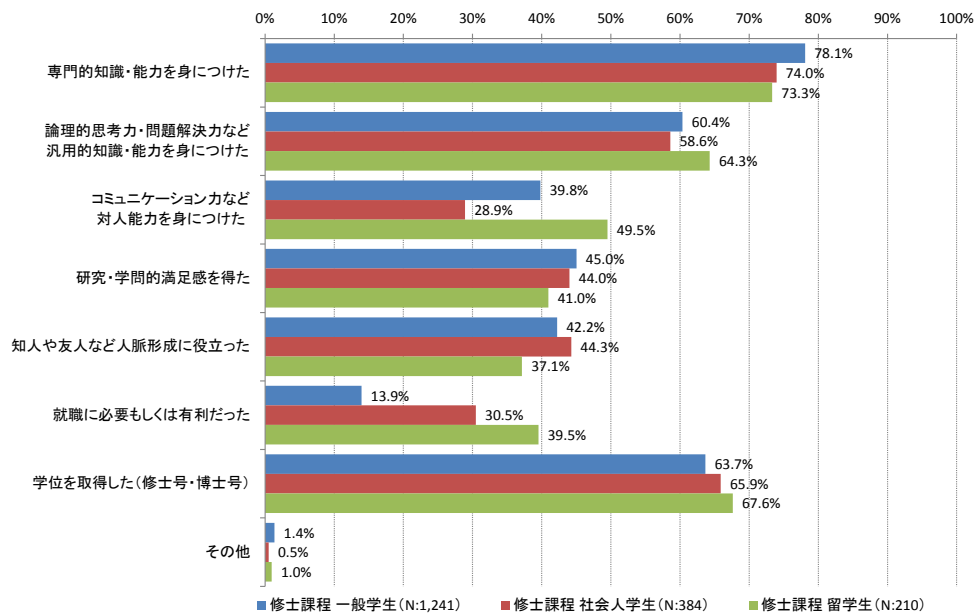


※ 選択肢の順序は大学院博士課程で良かった点として回答した割合が高い順

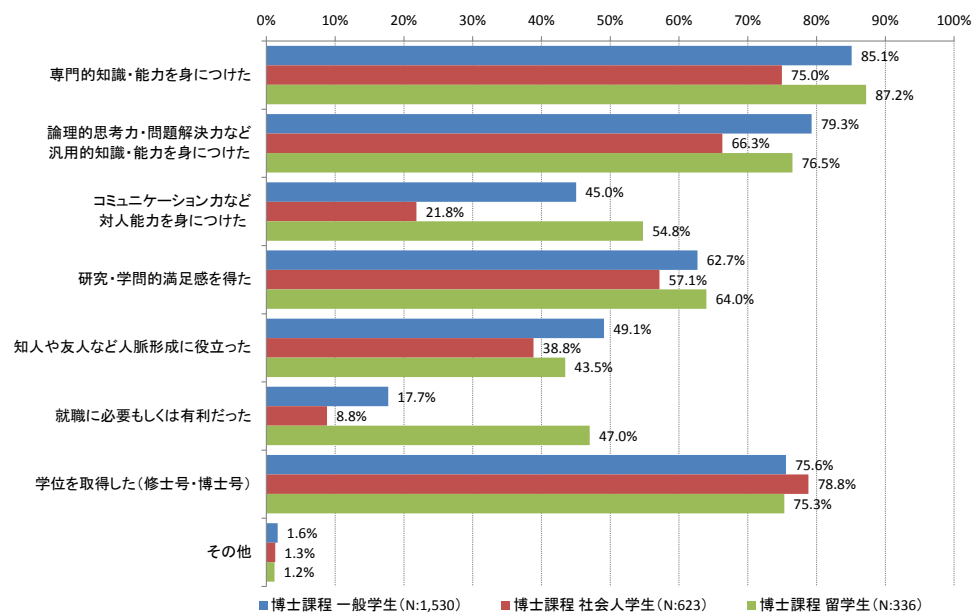
修士・博士課程での修学を通じて良かった点を学生種別で見ると、一般学生では全ての項目で修士課程と比べて博士課程において評価が高い。特に「論理的思考力・問題解決力など汎用的知識・能力を身につけた」と回答した割合は修士課程と博士課程で 18.1 ポイントの差が見受けられる。また、「研究・学問的満足感を得た」と回答した割合についても、博士のほうが 17.7 ポイント高い。

社会人学生は、「研究・学問的満足感を得た」や「学位を取得した」に関しては、博士課程を高く評価するが、「コミュニケーション力を身につけた」や「知人や友人などの人脈形成に役立った」は修士課程の方を高く評価している。留学生の傾向は一般学生と比較的似ており、「研究・学問的満足感を得た」と回答した割合は最も差異が大きく博士課程の方が 23.0 ポイント高い。

図表 146 大学院(修士課程)での修学を通じて良かった点(学生種別)



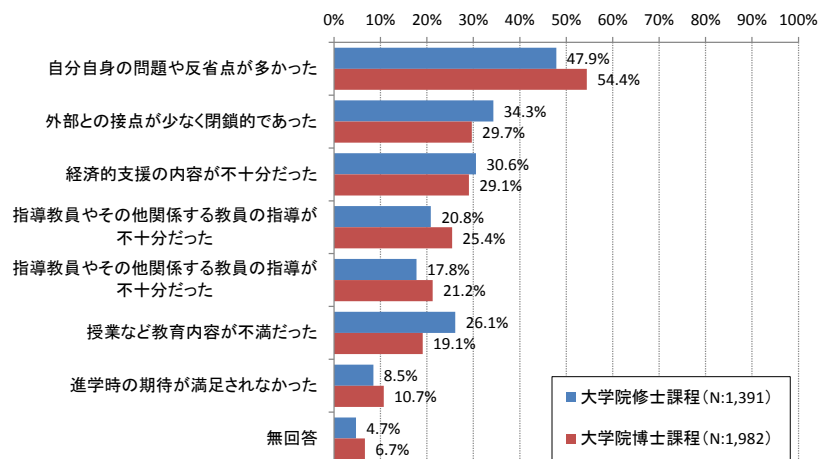
図表 147 大学院(博士課程)での修学を通じて良かった点(学生種別)



大学院での修学を通じて不満だった点

大学院修士課程の修学を通じて不満だった点としては、「自分自身の問題や反省点が多かった」を挙げた者が修士・博士課程ともにそれぞれ 47.9%、54.4%と多い。次いで、「外部との接点が少なく閉鎖的であった」、「経済的支援の内容が不十分だった」と回答した者が多く、修士課程ではそれぞれ 34.3%、30.6%、博士課程では 29.7%、29.1%を占める。進学時の期待が満足されなかったと回答した者の割合は修士で 8.5%、博士では 10.7%であり、他の選択肢と比べて低いことから、進学時の期待はある程度は満たされたと考えられる。

図表 148 大学院での修学を通じて不満だった点



※ 選択肢の順序は大学院博士課程で不満だった点として回答した割合が高い順

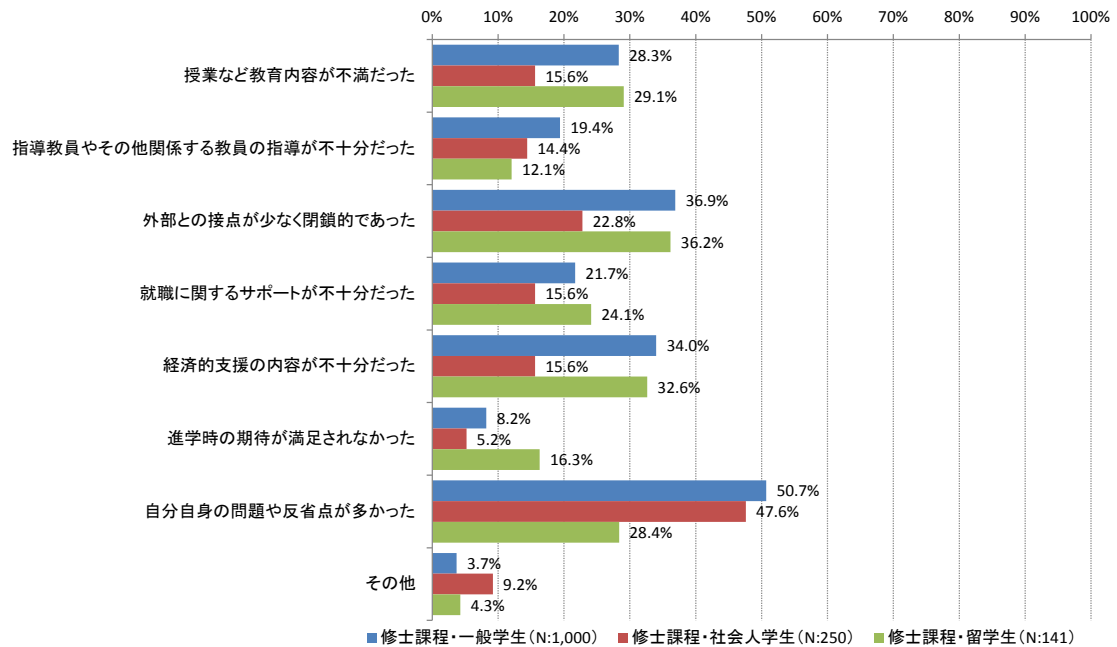
大学院を通じて不満だった点を学生種別に見たところ、種別間の違いは修士と博士課程間で似た傾向にある。修士・博士共に自分自身の問題や反省を挙げた割合が多いが、一般学生と社会人学生は同程度なのに対して留学生では半数程度に留まる。上記以外に目立つ学生種別間の違いは、自分自身の問題や反省を別にすれば社会人学生の不満が少ない傾向である。経済的支援の内容が不十分と考える割合は一般学生や留学生で多いが(各 32.6%、28.3%)、社会人学生でも 19.1%が挙げている。

修士課程において不満だった内容を学生種別で見ると、一般学生では、自分自身の問題や反省を挙げた割合が多く、次いで外部との接点の少なさや経済的支援の内容の不十分さ、授業など教育内容への不満を挙げた者が多い。社会人学生は一般学生と同様、自分自身の問題や反省を挙げた割合が多く、それ以外の要因を挙げた割合はさほど変わらない。ただし、社会人学生は大学院修士課程を修了してからある程度の年数が経過している者が多く、必ずしも現時点の大学院修士課程教育に対する不満点が挙げられてない可能性があることに留意する必要がある。留学生は、一般学生や社会人学生と比べて自分自身の問題や反省を挙げた割合が少なく、外部との接点の少なさや経済的支援の内容の不十分さ、授業など教育内容が主たる不満点として挙げられている。

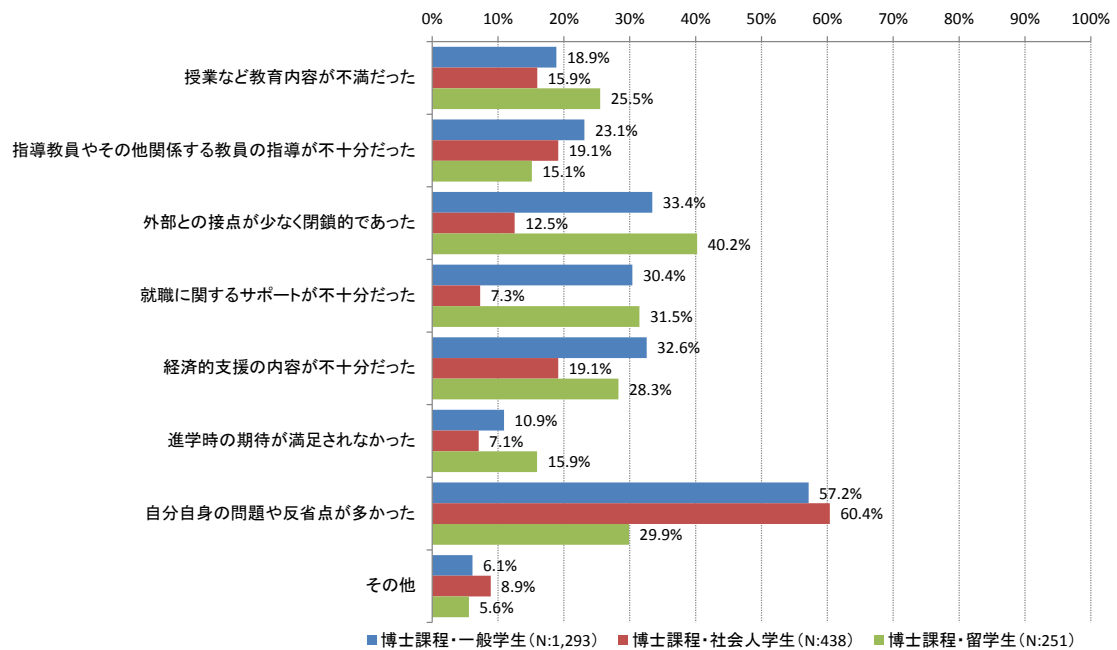
博士課程で不満だった点を見ると、一般学生では自分自身の問題や反省点および就職に対するサポート不足を挙げた割合が修士課程より高い。社会人学生は、修士課程と比べて自分自身の問題や反省点を挙げた者が多い。また、「経済的支援の内容が不十分だった」点を不満として挙げた割合が 19.1%と

全体でも 2 番目に高く、社会人学生でも一定割合は経済的支援を問題点として捉えているものと考えられる。留学生は、外部との接点の少なさを就職に対するサポートを不満点として挙げた割合が高い。

図表 149 大学院(修士課程)での修学を通じて不満だった点(学生種別)



図表 150 大学院(博士課程)での修学を通じて不満だった点(学生種別)

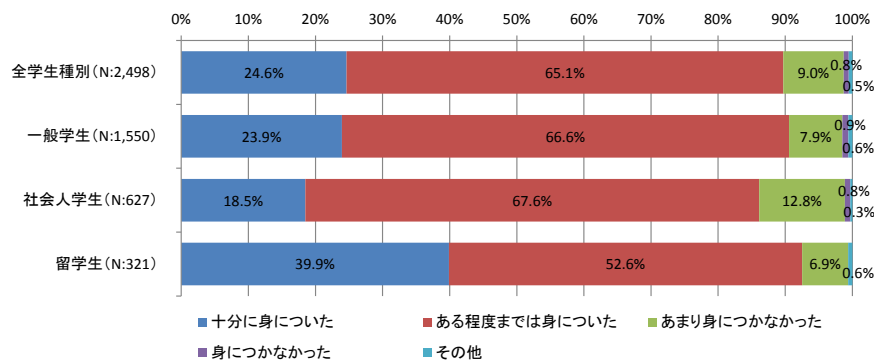


8.5 大学院での修学を通じて身につけた研究能力

自身や他者の発見を批判的に評価できる能力

大学院での履修を通じて「自身や他者の発見を批判的に評価できる」能力を身につけたと考える度合いを見ると、身につけた（「十分に身についた」と「ある程度までは身についた」の合計）と回答した者の割合の合計が9割近くを占める。学生種別に見てもその傾向はほとんど変わらないが、「十分に身についた」と回答した割合は留学生で4割であり、その他の学生種別の倍程度である。

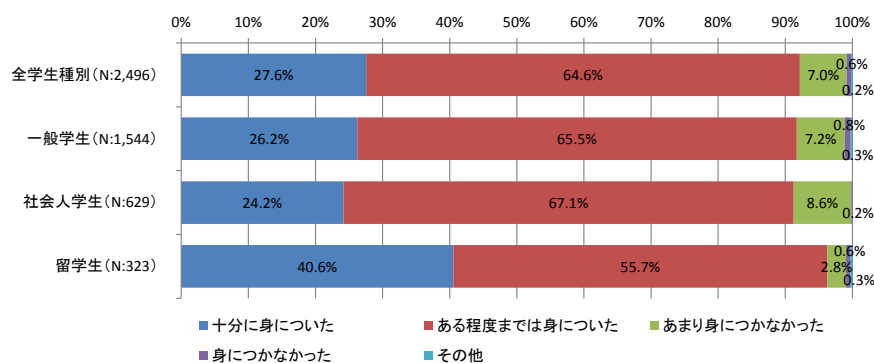
図表 151 「自身や他者の発見を批判的に評価できる能力」を身につけたと考える度合い



自身の研究を専門分野の知識体系に位置づけることができる能力

大学院での履修を通じて「自身の研究を専門分野の知識体系に位置づけることができる」能力を身につけたと考える度合いは、身につけたと回答した者（「十分に身についた」と「ある程度までは身についた」の合計）が9割以上を占める。「十分に身についた」と回答した割合は留学生が高く4割に上り、一般学生や留学生よりも高い。

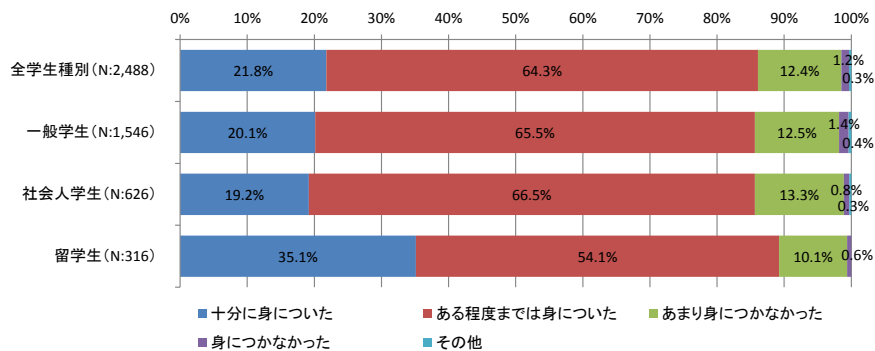
図表 152 「自身の研究を専門分野の知識体系に位置づけることができる能力」を身につけたと考える度合い



専門分野の議論を批判的に理解し自身の仮説を明確に表現する

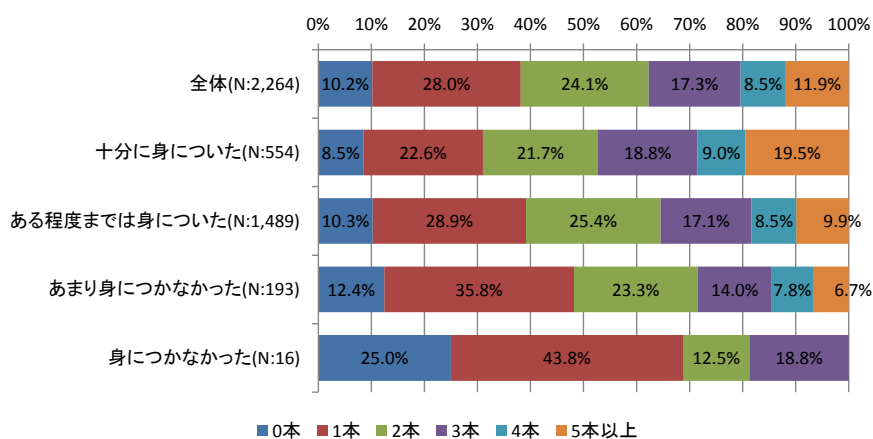
大学院での修学を通じて「専門分野の議論を批判的に理解し自身の仮説を明確に表現する」能力を身につけたと考える度合いを見ると、身につけたと回答した者（「十分に身についた」と「ある程度までは身についた」の合計）が9割弱を占める。上記2つの能力同様に、「十分に身についた」と回答した割合は留学生が高い。

図表 153 「専門分野の議論を批判的に理解し自身の仮説を明確に表現する能力」を身につけたと考える度合い

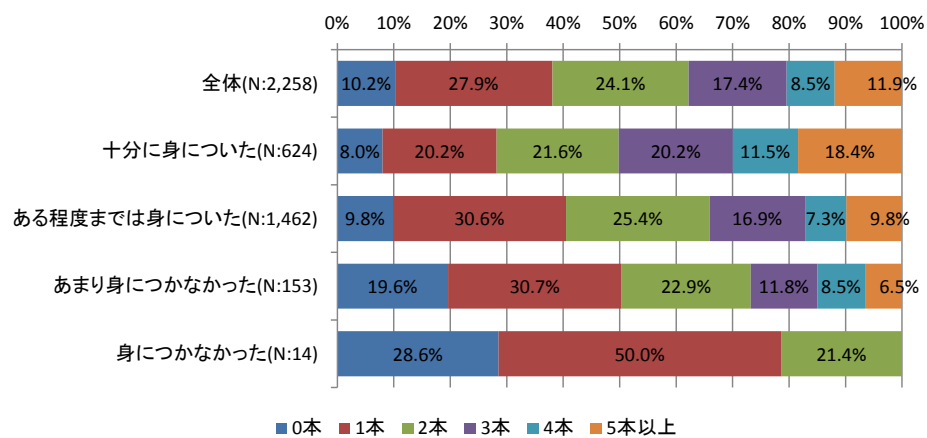


これらの3つの能力を身につけたと考える度合いと、査読付き筆頭著者論文数との関係を見たところ（図表 154、図表 155、図表 156）、いずれの能力においても身につけたと考えるの方が査読付き筆頭著者論文を多く書いていることが示されている。

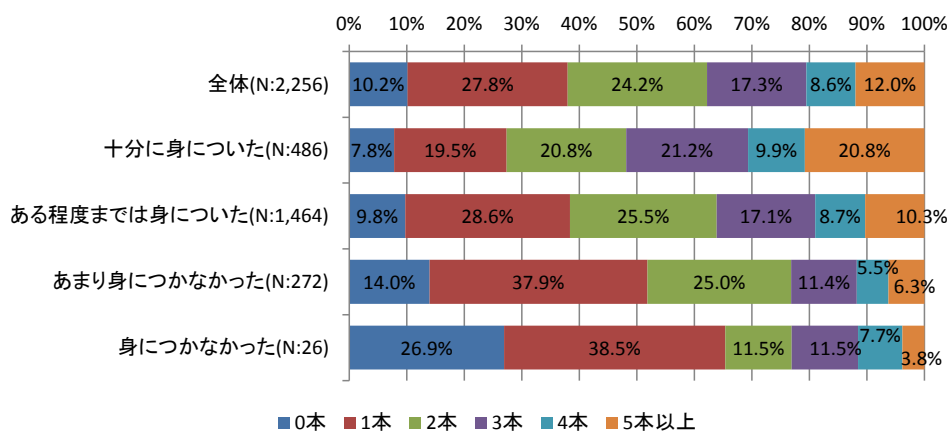
図表 154 「自身や他者の発見を批判的に評価できる能力」を身につけたと考える度合いと査読付き筆頭著者論文数



図表 155 「自身の研究を専門分野の知識体系に位置づけることができる能力」を身につけたと考える割合と査読付き筆頭著者論文数



図表 156 「専門分野の議論を批判的に理解し自身の仮説を明確に表現する能力」を身につけたと考える割合と査読付き筆頭著者論文数

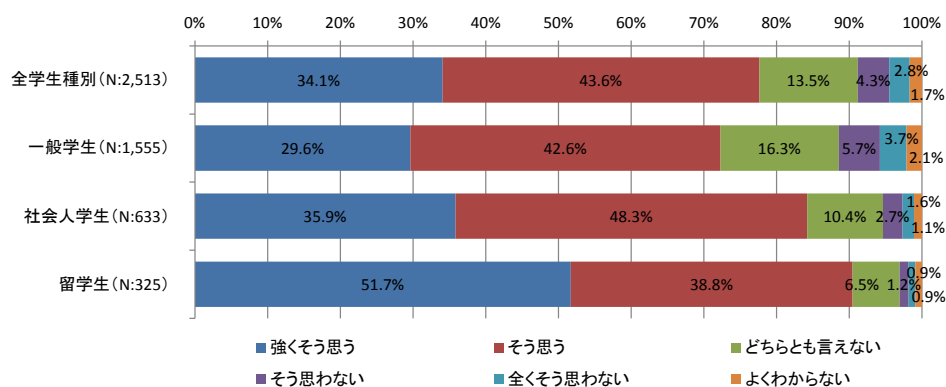


8.6 大学院での修学に価値があると思う度合い

授業や論文指導など提供されたサービス自体として

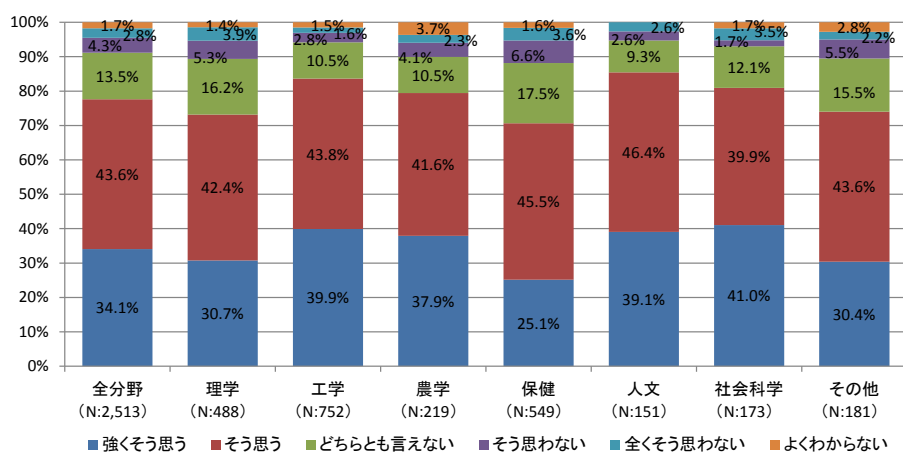
大学院での修学が、授業や論文指導など提供されたサービス自体としての価値があると思うか(満足度)を聞いたところ、全体では「強くそう思う」と回答した割合が 34.1%、「そう思う」と回答した者が 43.6%であり、満足した者の割合が 8 割近くを占める。また、「強くそう思う」と回答した割合は、一般学生や社会人学生と比較して留学生で高い。なお、大学院での修学には修士・博士両方での修学が含まれる。

図表 157 「授業や論文指導など提供されたサービス自体」として大学院の価値があると思う度合い(学生種別)



上記に関連して、分野別に見たところ、どの分野においても「強くそう思う」と「そう思う」との合計が 7 割以上を占める。保健、理学、「その他」の 3 分野では「強くそう思う」と回答した者の割合が若干低いが、大きな違いは見られない。

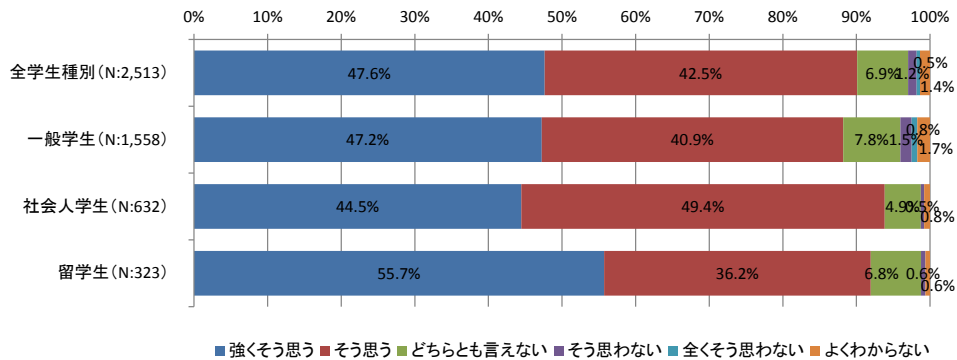
図表 158 「授業や論文指導など提供されたサービス自体」として大学院の価値があると思う度合い(分野別)



自分自身に身についたものとして

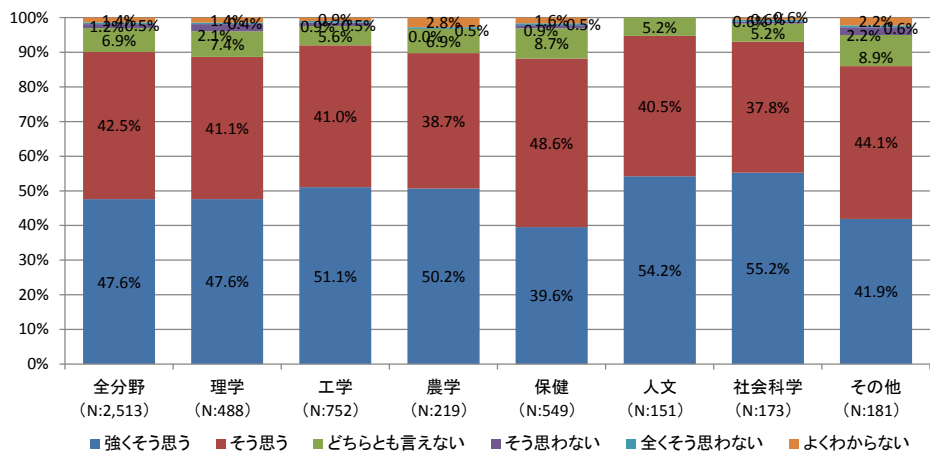
大学院での修学が自分自身に身についたものとして価値があると思うか聞いたところ、全体では「強くそう思う」と回答した割合が47.6%、「そう思う」と回答した者が42.5%であり、満足したと回答した者の割合がほぼ9割を占める。学生種別間では大きく異ならず、全ての学生区分において、大学院での修学を通じて自分自身に身についたものとしての価値があったと認識している。

図表 159 「自分自身に身についたもの」として大学院の価値があると思う度合い(学生種別)



分野別に見たところ、どの分野でも「強くそう思う」、「そう思う」と回答した者の割合の合計が9割程度を占める。分野における差異はさほど見られない。

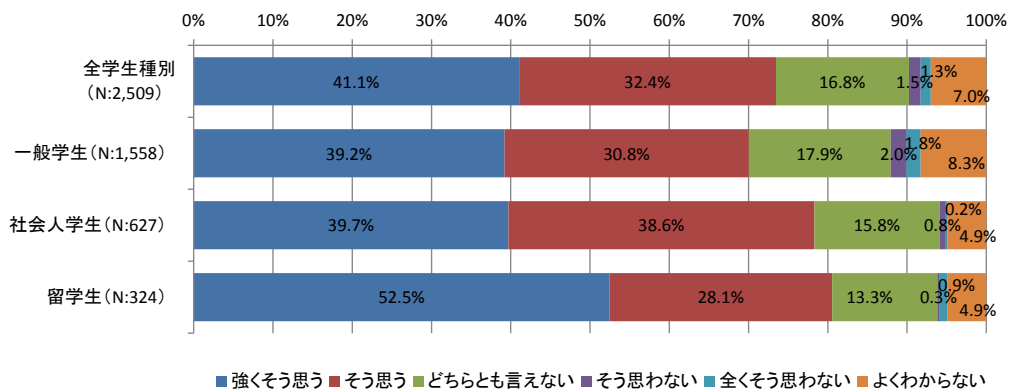
図表 160 「自分自身に身についたもの」として大学院の価値があると思う度合い(分野別)



10年後の将来において

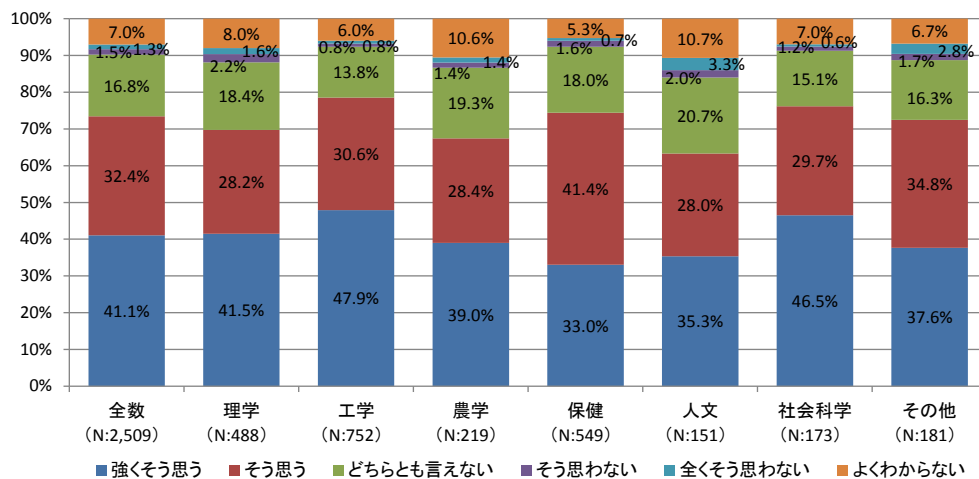
大学院での修学が10年後の将来において価値があると思うかを聞いたところ、全体では「強くそう思う」と回答した割合が41.1%、「そう思う」と回答した者が32.4%であり、満足していると回答した者の割合が73.5%を占める。また、社会人学生と留学生は一般学生よりも肯定的に捉える割合（「強くそう思う」と「そう思う」の合計）が10ポイントほど高い。前出の2つの選択肢と比べると「どちらとも言えない」や「よくわからない」と回答した者の占める割合が高い。

図表 161 「10年後の将来」において大学院の価値があると思う度合い(学生種別)



分野別に見ても全体的な傾向はさほど変わらない。ただし、前述した2つの満足度と比較して、どの分野でも「よくわからない」と回答した者の割合は高い。

図表 162 「10年後の将来」において大学院の価値があると思う度合い(分野別)



9. 結果と考察

博士課程修了者が社会の多様な場で活躍するために、大学院で求められていることは深い専門性と創造性豊かな研究開発能力を持つ人材を養うことである。しかし大学院博士課程での研究指導の実態や課題は十分に明らかにされてこなかった。そこでこれらの把握を目的とし、59 大学を対象に 2011 年度に年 2 回(主に 9 月と 3 月)調査を実施した。分析対象とした博士課程修了者(満期退学者を含む)の回答者数は 2,636 人である(有効回答率 21.9%)。本分析を通じて明らかになったのは主に以下の点である。

博士論文のテーマ決定

- ・ 博士学生が博士論文のテーマについて指導教員と合意した時期を見ると、工学と農学分野では進学以前の者が 6 割を超え、保健や「その他」分野では進学以降の者が 6 割を超える。
- ・ 自然科学系では人文・社会系よりも博士論文のテーマ決定に指導教員が積極的に関わる。
- ・ 博士論文のテーマ決定に学生が積極的に関わった場合に、積極的に関わらない場合よりも研究能力を身につけたと考える割合が多い。
- ・ 博士論文のテーマ決定に指導教員が積極的に関わる場合は、積極的に関わらない場合よりも、大学院で提供されたサービスに対する満足度が高い。

博士論文作成のプロセス管理(スケジュール作成・進捗管理)

- ・ 博士論文を作成するためのプロセス管理(スケジュール作成・進捗管理)は、学生と教員が共同する場合が 6 割近くを占め、分野間でほとんど変わらない。

複数教員による博士論文作成の日常的な指導

- ・ 博士論文作成のための日常的な指導において、およそ 7 割の学生が複数の教員から組織的な指導を受けている。
- ・ 複数教員による論文指導を組織的に受けた者は、大学院での修学を通じて研究能力を身につけたと考える割合や、大学院での修学に対する満足度が高い。

大学院で履修した授業の満足度

- ・ 大学院で履修した授業のうち履修して良かったと思う授業が 6 割以上を占めると回答した学生は 3 割以下に留まる。
- ・ 大学院で履修して良かったと思う授業割合が多い場合に、研究能力が身についたと考える傾向がある。

研究活動や就職活動における社会的つながり

- ・ 一般学生のうち、自身の研究に対して研究室から有益な影響を受けたと考える者は 8 割以上を占め、就職活動は研究室以外のみから有益な影響を受けたと考える者が 4 割を占める。

施策への示唆

近年の大学院では高い専門性とともに幅広い視野を備えた人材を育成するために、複数の教員が博士論文の作成を指導することが重要だと考えられている。今回の調査では、博士論文の作成指導を日常

的に受ける中で、複数指導教員制度や研究室合同のゼミなどの組織的な取り組みによって複数教員から指導を受けていた学生はおよそ7割に上った。彼らは、このような指導を受けなかった者よりも研究能力を身につけたと自己評価する割合が多く、大学院が提供するサービスへの満足度も高くなっている。今後とも学生が複数の教員から組織的に指導を受ける制度や場を整備し、活用することが求められる。

博士論文のテーマ決定に関して、指導教員が提示したテーマをそのまま受け入れるのではなく、学生がテーマを着想したり教員が提示したテーマに対して自身のアイデア・視点を追加したりするなど積極的に関わる場合には、研究能力を身につけたと自己評価する割合が多くなる。また、指導教員がテーマ案の提示や助言・アドバイスをするなど論文テーマの決定に積極的に関わる場合には、大学院が提供したサービスに対する満足度が高くなる。学生が大学院に満足し研究能力を身につけるためには、博士論文のテーマ決定に指導教員と学生が共に関わる重要なことが明らかになった。もっとも本調査は学生の視点を調査したものであり、教育側の視点を踏まえることで、より総合的に研究指導の成果を把握できると考えられる。

大学院ではコースワークの充実が求められている。今回の調査は学生の評価のみに着目した結果を示しているが、大学院の授業のうち履修して良かったと思う割合が6割以上を占めると回答した学生は3割以下に留まった。大学院で履修した授業の満足度は、自然科学系よりも人文・社会系で高いことから、学問分野の特性もあるため一概には言えないが、自然科学系においては授業の改善も重要な課題であると考えられる。

研究者には専門的なネットワークが欠かせないように、博士学生の研究活動やキャリア開拓にも社会的な繋がりが必要である。学生同士の自発的な議論がある研究室に所属していた者は約7割であり、このような場合に研究に有益な影響がある割合が大きい。また就職活動は研究室以外のみから影響を受けた者が多い。しかし大学院課程の不満点としては外部との接点が少ないことが指摘されている。よって研究室内での学生同士の議論はもちろん、分野横断的な取組および産官学の繋がりの中へ博士学生を参加させることなどを通じて博士学生のより広いネットワーク構築作りの支援が考えられる。

今後の調査課題

我が国の博士人材および大学院教育に関する今後の調査研究テーマとしては、まず本調査で結果が示されながらも背景が明らかにならなかった点、例えば大学院での教育に関する分野別の違いの背景等を詳しく調査することが考えられる。人文・社会系は自然科学系よりも授業を高く評価する理由を明らかにすることは、長く日本の大学院の課題と考えられてきた大学院授業の改善に繋がることが期待される。

次に博士課程修了者に対する大学教員からの評価を調査することが挙げられる。今回は学生に対してのみ調査を行ったため研究能力の修得等についても主観的な評価に終始した。これを、教育する側の視点も交えて総合的・多角的に評価することでより客観的な実態に近づけると考えられる。

次に今回調査に参加してくれた回答者の追跡調査が考えられる。今回は能力等の獲得意識について尋ね、指導方法との関係を示した。意識が高いほど自己に対する評価が厳しいというケースも考えられる。よって、キャリアパスの違いと大学院時代に一部を修得した研究能力および指導法との関連を見ることも、より良い大学院の在り方を模索する上での情報として意味があるものだと考えられる。

謝辞

本調査の実施と報告書の作成には、多くの方々のご協力を賜った。まず課程修了もしくは満期退学時の非常に忙しい時期にもかかわらず、インターネット調査に快くご協力頂き自由記述などに率直なご意見を寄せてくださった回答者の皆様に心からお礼を申し上げたい。さらに大学の事務局担当者の方々は、業務多忙の折に、調査対象となる博士課程修了者および論文博士への周知にご協力を頂いた。調査票の設計に当たり、主要大学の複数の先生方にはご多忙の中にも関わらず快く時間を割いて頂き、貴重なご意見を賜った。特に筑波大学 小林信一ビジネス科学研究科教授には報告書執筆においても有益なアドバイスを頂いた。また科学技術政策研究所の方々には様々なご意見やコメントそしてご協力を頂いた。ここに記して感謝の言葉としたい。

調査業務の分担

調査の設計	: 加藤真紀、鐘ヶ江靖史
調査の実施	: 鐘ヶ江靖史、加藤真紀
データ分析	: 加藤真紀、鐘ヶ江靖史
報告書執筆	: 加藤真紀、鐘ヶ江靖史
報告書確認	: 茶山秀一

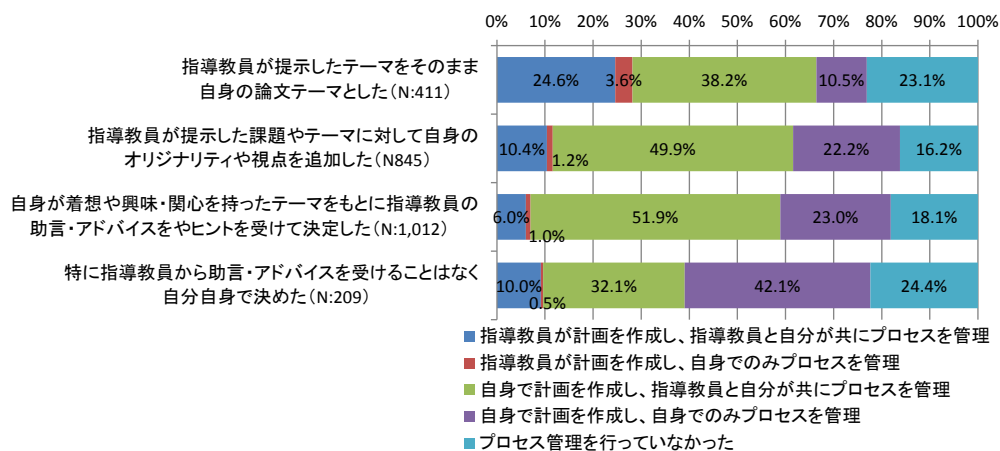
※WEB画面作成およびアンケートデータの回収は株式会社サーベイリサーチセンターに依頼して実施した。

参考資料 2 博士論文のテーマ決定とプロセス管理との関連

博士論文の作成に関わる研究指導を包括的に捉えることを目的に、ここでは両者の関係を把握した上で、論文のテーマ決定とプロセス管理を組み合わせて分析する。

論文作成のプロセス管理の方法を博士論文のテーマ決定の方法別に見ると、指導教員と学生自身の共同によって論文のテーマを決めた（指導教員が提示したテーマに対して自身のオリジナリティを追加、もしくは自身の着想したテーマに対して指導教員のアドバイスを得て決めた）者は、指導教員が提示したテーマをそのまま自身の論文テーマとした者と比べて、論文作成のプロセス管理の計画を自身で作成し、指導教員と共に管理すると回答した者の割合が高い。また、特に指導教員からアドバイスを受けることなく自身で論文テーマを決めた者は、自分自身でプロセス管理計画を作成した割合が高いが、その計画を自身でのみ管理した者が多い。

参考図表 2 博士論文のテーマ決定別に見た論文作成のプロセス管理



ここでは、博士論文のテーマ設定と論文作成のプロセス管理の方法との組み合わせに基づいて検討を行う。博士論文のテーマ設定と論文作成のプロセス管理の方法は、選択肢によって指導教員と学生が関わった度合いが異なる。ここでは論文のテーマ設定と論文作成のプロセス管理の方法それぞれに対して教員の関わった度合いに応じた順序をつけ、テーマ決定とプロセス管理の組み合わせを考える。組み合わせは1に近いほど教員が関わった度合いが強く、4に近いほど学生の関わった度合いが強いものとする。

1. テーマ決定とプロセス管理の両方またはどちらかは教員主体
2. テーマ決定とプロセス管理の両方を学生と教員が共同
3. テーマ決定とプロセス管理のどちらかは学生のみ
4. テーマ決定とプロセス管理の両方が学生のみ

参考 プロセス管理を行っていない

上記に基づいて考えると、博士論文のテーマ決定とプロセス管理の方法の組み合わせは参考図表 3 のように整理される。

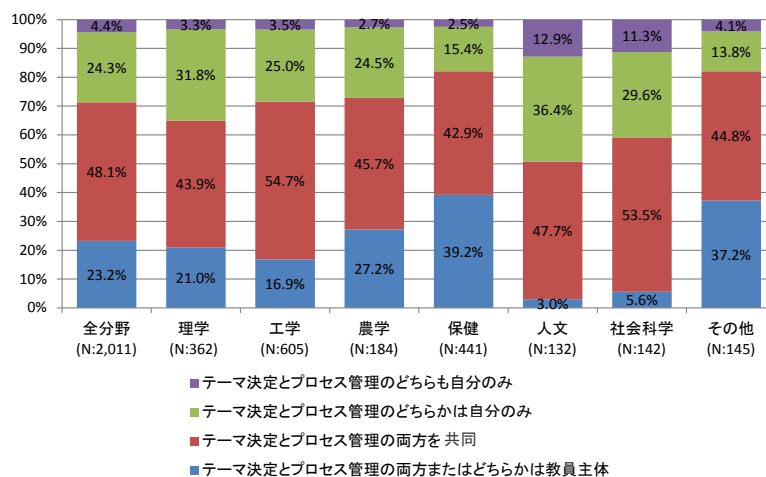
参考図表 3 博士論文のテーマ決定と論文作成のプロセス管理の方法の組み合わせ

		論文のテーマ決定			
		指導教員が提示した テーマをそのまま 自身の 論文テーマとした	指導教員が提示した 課題やテーマに対して 自身のオリジナリティや 視点を追加した	自身が着想や興味・関心を 持ったテーマをもとに 指導教員の助言・アドバイスや ヒントを受けて決定した	特に指導教員から 助言・アドバイスを 受けることはなく 自分自身で決めた
論文作成のプロセス管理	指導教員が計画を作成し 指導教員と自分が共に プロセスを管理	1	1	1	1
	指導教員が計画を作成し 自身でのみ プロセスを管理	1	2	2	1
	自身で計画を作成し 指導教員と自分が共に プロセスを管理	1	2	2	3
	自身で計画を作成し 自身でのみ プロセスを管理	1	3	3	4
	参考: プロセス管理を 行っていなかった	参考	参考	参考	参考

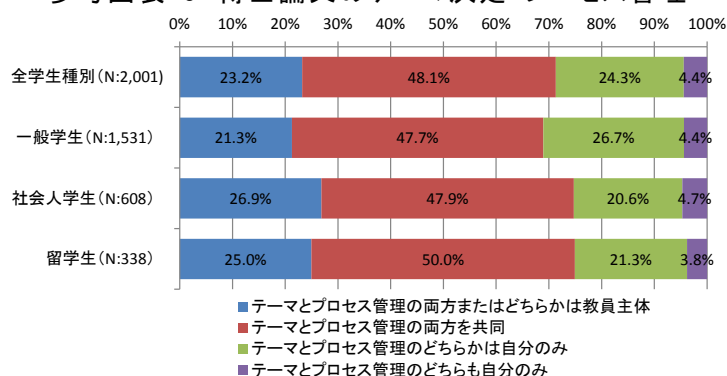
全体では「テーマ決定とプロセス管理の両方を学生と教員が共同」する率が 48.1%と高く、「テーマ決定とプロセス管理の両方またはどちらかは教員主体」が 23.2%「テーマ決定とプロセス管理のどちらかは学生のみ」が 24.3%と続く。「テーマ決定とプロセス管理の両方が自分のみ」であり教員が関わらない割合は 4.4%と少ない。

分野別では、自然科学系が人文・社会科学系と比較して「テーマ決定とプロセス管理の両方またはどちらかは教員主体」が多く、一番少ない工学でも 16.9%、一番多い保健では 39.2%を占める。一方で人文・社会科学系では人文 3.0%、社会科学 5.6%と少ない。人社・社会科学系は自然科学系と比較して「テーマ決定とプロセス管理の両方が自分のみ」の割合が多く、人文は 12.9%、社会科学では 11.3%を占める。これに対して自然科学系ではいずれも 3%程度である。ただし、学生種別に見るとテーマ決定・プロセス管理の方法には大きな差異がないことが分かる。

参考図表 4 博士論文のテーマ決定・プロセス管理(分野別)



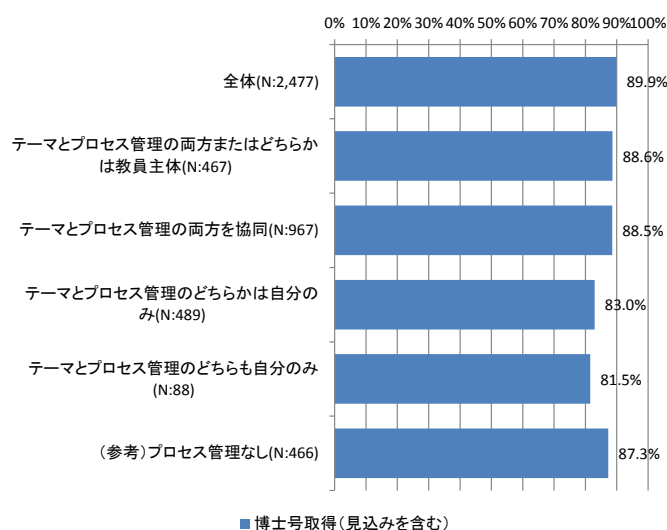
参考図表 5 博士論文のテーマ決定・プロセス管理



博士論文のテーマ決定・プロセス管理と博士号の有無

博士論文のテーマ決定とプロセス管理への教員の関わった度合いと博士号の有無を見ると関わった度合いが強い方が、博士号取得率が高い。「テーマ決定とプロセス管理の両方またはどちらかは教員主体」の場合に博士号取得率は 88.6%なのに対して、「テーマ決定とプロセス管理の両方が自分のみ」の博士号取得率は 81.5%である。なお、プロセス管理が無い場合は 87.3%である。

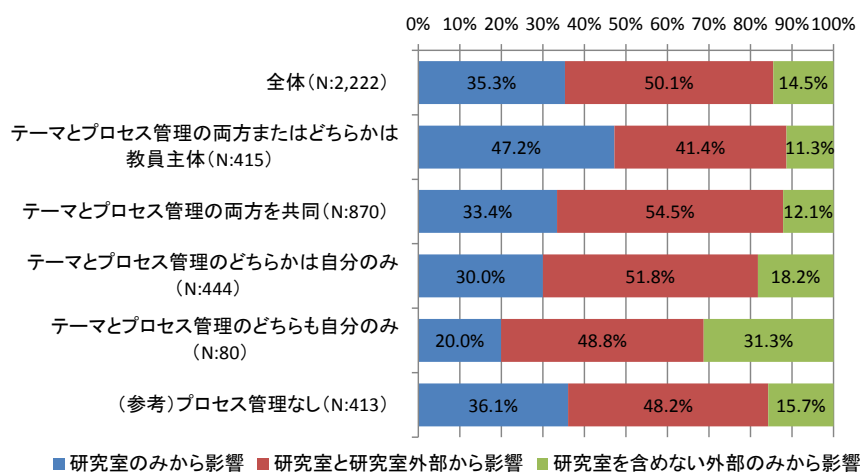
参考図表 6 博士論文のテーマ決定・プロセス管理(研究指導への教員が関わった度合い)と博士号の有無



博士論文のテーマ決定・プロセス管理と研究を受けた範囲

論文のテーマ決定・プロセス管理と研究を受けた範囲との関係を見ると、教員が関わった度合いが高いほど、学生の研究への影響を受けた範囲は研究室のみである率が高い。具体的には「テーマ決定とプロセス管理の両方またはどちらかは教員主体」の場合に研究室のみから影響を受けた割合は 47.2%であり、「テーマ決定とプロセス管理の両方が自分のみ」の場合には 20.0%である。逆に教員の関わった度が低いほど、研究室以外の外部から影響を受ける率が高い。テーマ決定とプロセス管理の両方またはいずれかを教員主体で行った場合や両方を教員と学生の共同で行った場合には外部のみから影響を受けたとする割合は各 11.3%と 12.1%であるが、テーマ決定とプロセス管理の両方を学生のみで実施した場合には 31.3%に上る。

参考図表 7 博士論文のテーマ決定・プロセス管理と研究を受けた範囲

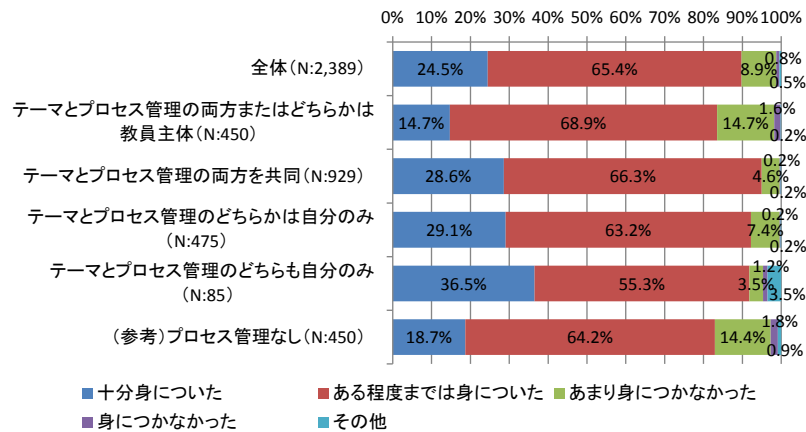


博士論文のテーマ決定・プロセス管理と大学院を通じて獲得した能力

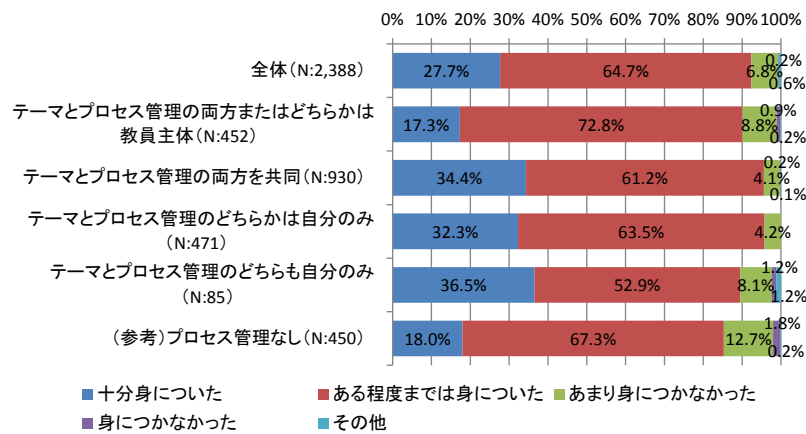
論文のテーマ決定とプロセス管理への教員と学生の関わった度合いと、大学院を通じて身につけたと考える能力の認識度合いの関係を見ると、関わった度合いによる差異が認められる。すなわち3種類の能力において、指導教員の関わった度合いが最も高いと考えられる「テーマ決定とプロセス管理の両方またはどちらかは教員主体」を選択した者は、それ以外の決定経緯を選択した者と比べて、能力を身につけた（「十分身についた」と「身についた」の合計）と考える割合が小さく、身につけなかった（「あまり身につけなかった」と「身につけなかった」の合計）と考える割合が大きい。具体的には、「テーマ決定とプロセス管理の両方またはどちらかは教員主体」である者が「自身や他者の発見を批判的に評価できる」能力で16.3%、「自身の研究を専門分野の知識体系に位置づける」能力で9.7%、「専門分野の議論を批判的に理解し自身の仮説を明確に表現する」能力で20.3%が身につけなかったとしている。これに対して、それ以外の経緯による論文のテーマ決定・プロセス管理を経験した者は、「自身や他者の発見を批判的に評価できる」能力では最大7.6%、専門分野の議論を批判的に理解し自身の仮説を明確に表現する」能力で最大10.7%が身につけなかったとしている。「自身の研究を専門分野の知識体系に位置づけることができる」能力では自分のみでテーマ決定・プロセス管理をした者のうち9.4%が身につけていないと感じるなど、教員の関わった度合いが高い場合と大きく変わらない。

また「十分身についた」割合を見ると、3つの能力に共通して教員の関わった度合いが最も高い「テーマ決定とプロセス管理の両方またはどちらかは教員主体」とプロセス管理がない場合に、それ以外の経緯によるテーマ決定・プロセス管理を経験した者の半分程度の割合であることが分かる。

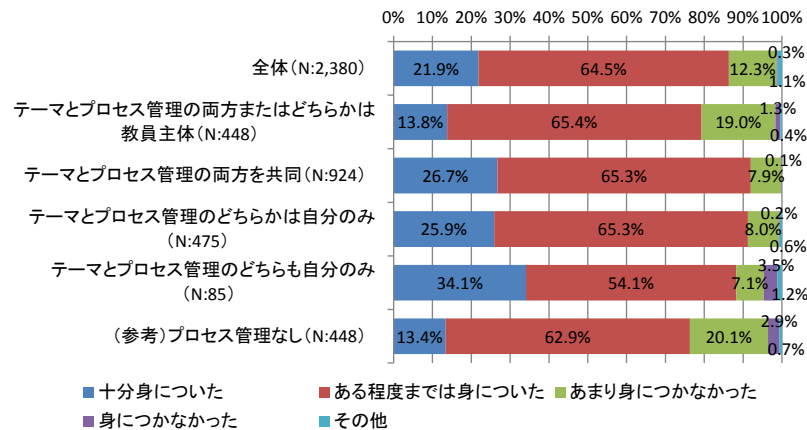
参考図表 8 博士論文のテーマ決定・プロセス管理と「自身や他者の発見を批判的に評価できる能力」を身につけたと考える度合い



参考図表 9 博士論文のテーマ決定・プロセス管理と「自身の研究を専門分野の知識体系に位置づけることができる能力」を身につけたと考える度合い



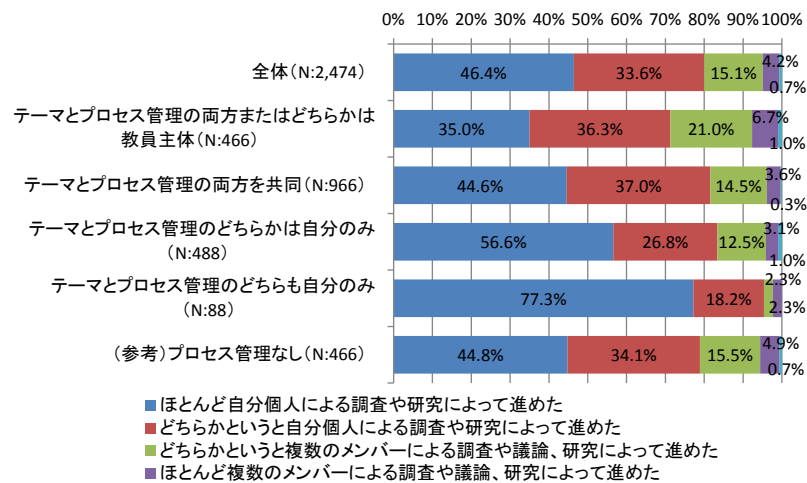
参考図表 10 博士論文のテーマ決定・プロセス管理と「専門分野の議論を批判的に理解し自身の仮説を明確に表現する能力」を身につけたと考える度合い



博士論文のテーマ決定・プロセス管理と研究実施体制

博士論文のテーマ決定とプロセス管理への教員と学生が積極的に関わるほど、複数のメンバーによって研究を進めていたことが示されている。チームで研究を進めた割合は、「テーマ決定とプロセス管理の両方またはどちらかは教員主体」で 27.7%、どちらも自分だけの場合 3.4%である。

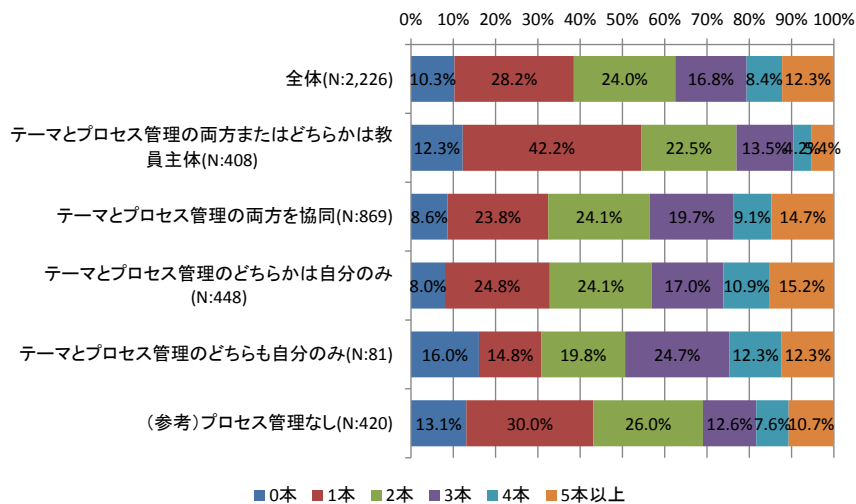
参考図表 11 博士論文のテーマ決定・プロセス管理と研究実施体制



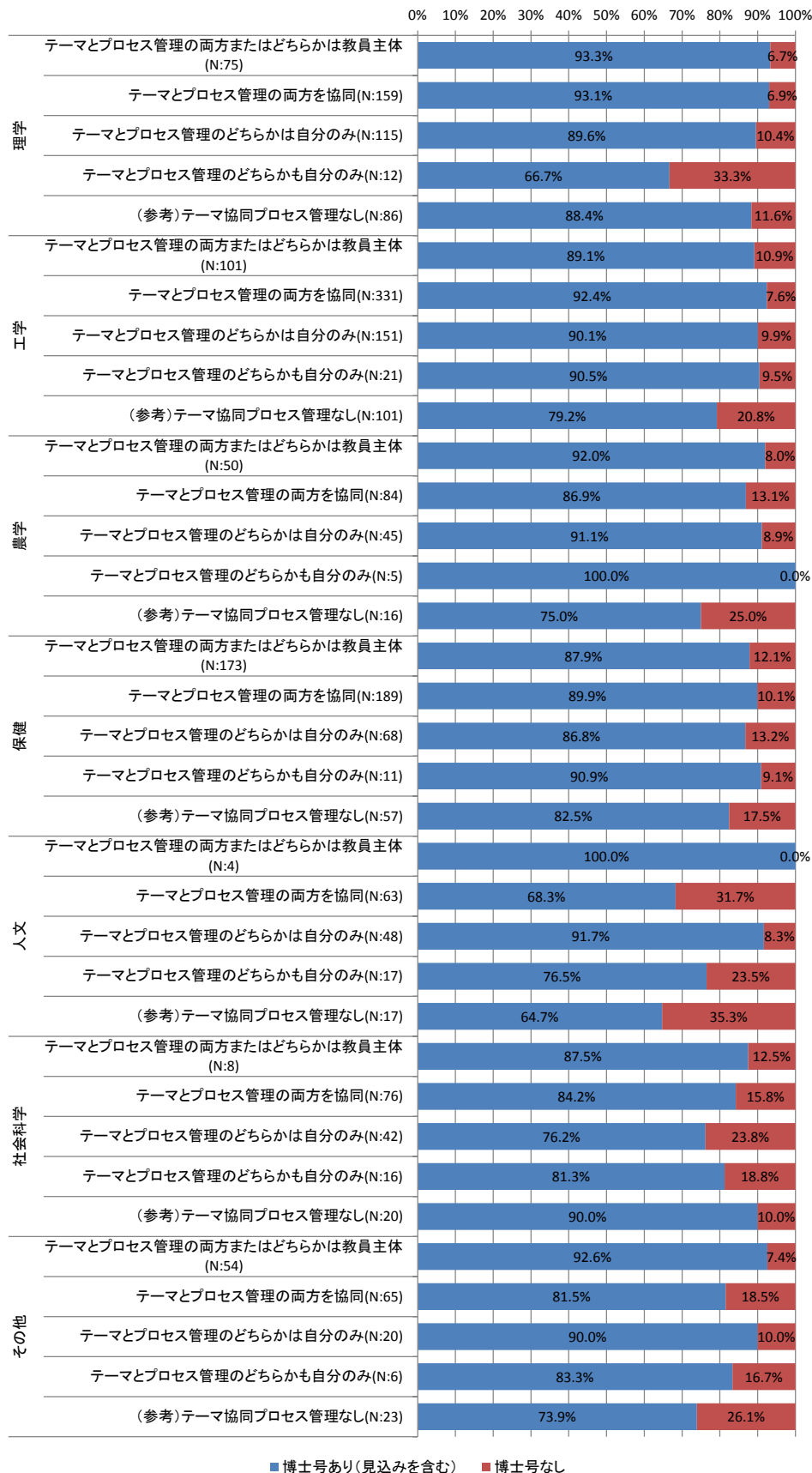
博士論文のテーマ決定・プロセス管理と査読付筆頭著者論文数

論文数は分野に依存する(分野別の査読付き筆頭著者論文数は参考図表 14 参照)。ここでは分野を意識せずに単純に博士論文のテーマ決定とプロセス管理との関係を見ると、学生と教員が共同している場合やどちらかは学生が主体的に関わる場合に、そうでない場合よりも査読付き筆頭著者論文の本数が多い。教員の関わった度合いが強い場合は、教員のプロジェクトに関わったりチームで研究を進めたりすることが多いため規模が大きいプロジェクト全体のスケジュールとの調整があることなどが推察される。

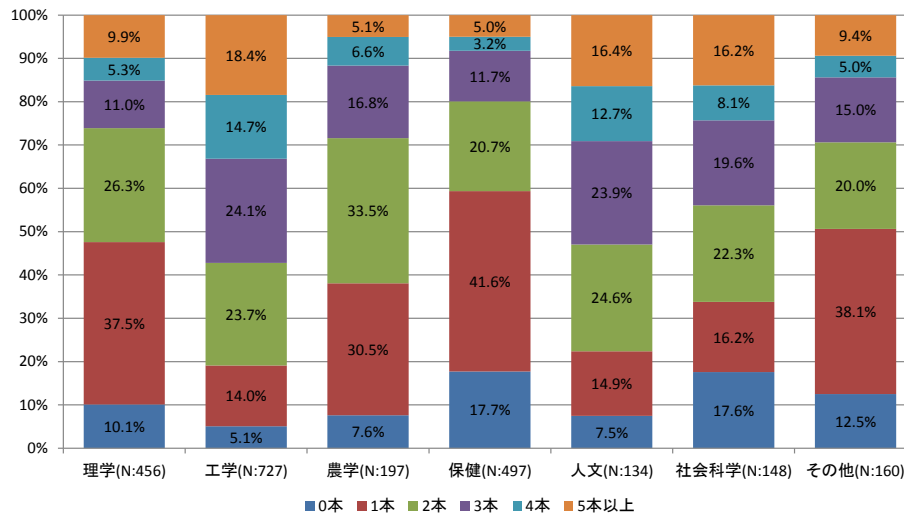
参考図表 12 博士論文のテーマ決定・プロセス管理と査読付筆頭著者論文数



参考図表 13 博士論文のテーマ決定・プロセス管理と学位の有無(分野別)



参考図表 14 査読付き筆頭著者論文数(分野別)



参考資料 3 自身の研究や就職活動および将来の進路に有益な影響を受けた者の所在

ここでは本編の図表 119、図表 122、図表 125 を踏まえて、博士課程在籍時に自身の研究、就職活動や将来の進路に対して有益な影響を受けた者について、研究室内外での所在の状況を分析する。

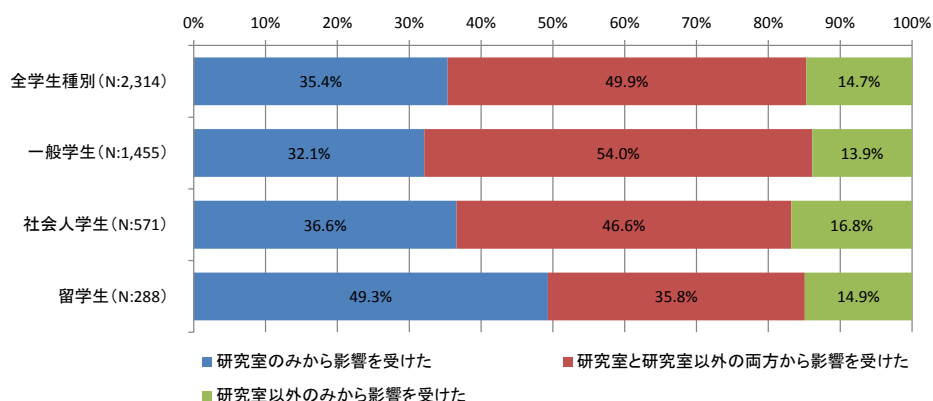
自身の研究や就職活動、将来の進路に影響を受けた者の範囲(研究に影響を与えたネットワークの範囲)を、研究室を基準として3区分に分類した。ここでは、「2. 研究室と研究室以外」と回答した場合が、最も広い範囲から有益な影響を受けたと考えられる。

1. 所属する研究室のみから影響を受けた(②)
2. 所属する研究室と研究室以外からともに影響を受けた(①+⑤+⑦)
3. 研究室以外のみから影響を受けた(③+④+⑥)

自身の研究

上記の3区分で影響を受けた範囲の重複状況を見ると、研究室と研究室以外の両方から影響を受けた者の割合が49.9%と最も多い。学生種別で見ると、一般学生は研究室のみから影響を受けた割合が32.1%であるのに対して留学生は49.3%と多い。学生種別に関わらず、研究室以外のみから有益な影響を受けた割合(研究室からは有益な影響を受けなかった群)は一定程度(15%前後)存在する。

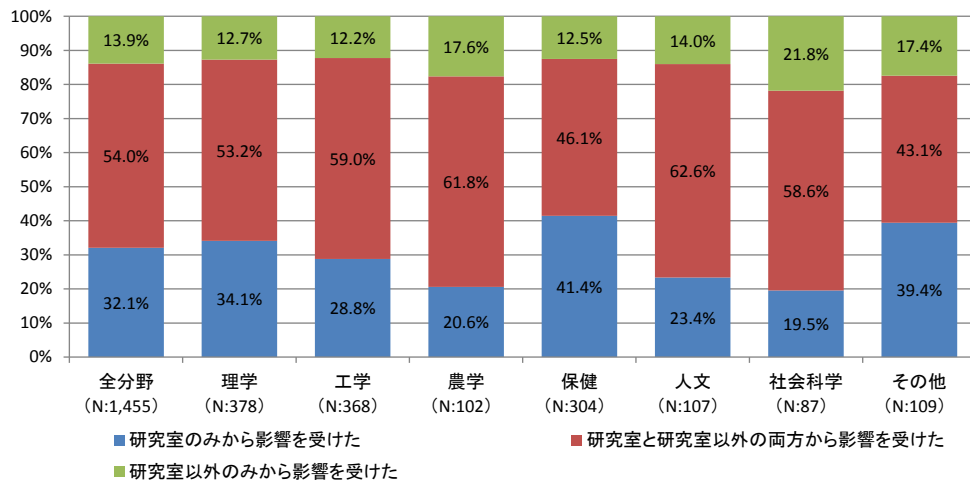
参考図表 15 自身の研究に対して有益な影響を受けた者の所在



※図表 119 で「⑧その他」と回答した者を除いて再分類

一般学生について3区分を分野別に見ると、保健や「その他」分野では研究室のみから影響を受けた割合がそれぞれ41.4%、39.4%であり、同割合が低い人文・社会科学系の倍程度に上る。

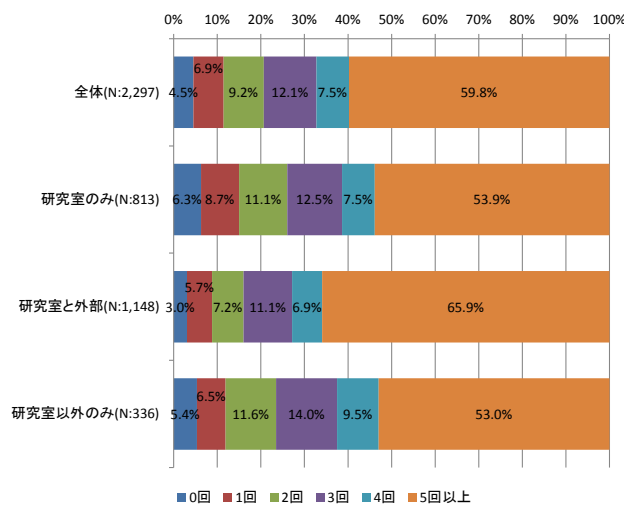
参考図表 16 自身の研究に対して有益な影響を受けた者の所在（一般学生・分野別）



影響を受けた範囲と国内学会発表数

研究に対して影響を受けた範囲と国内学会の発表回数との関係を見た。研究室と研究室以外の両方から影響を受けた者の国内学会発表数は、研究室のみもしくは研究室以外のみから影響を受けた者よりも発表回数が多い。なお、国外学会への登壇回数は研究への影響を受けた違いからはほとんど差異が見られない。

参考図表 17 自身の研究に対して有益な影響を受けた者の所在と国内学会発表数

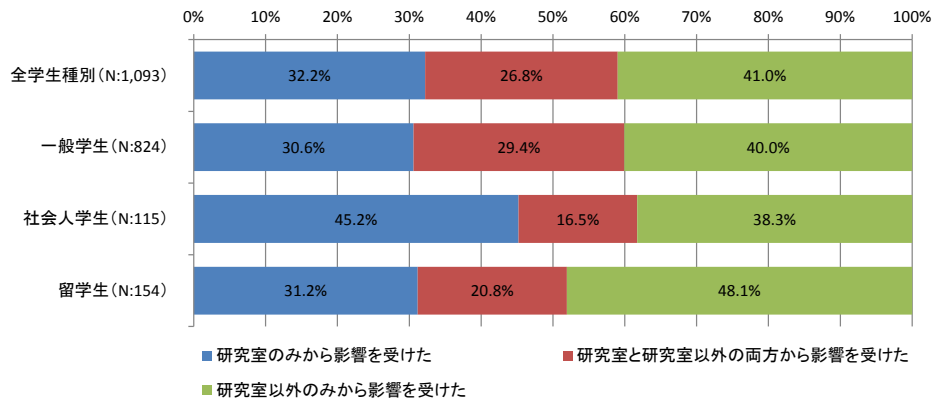


就職活動

就職活動に対して有益な影響を受けた範囲の重複状況を3区分で見ると、研究室以外のみから影響を受けた割合が41.0%と最も多く、研究室のみからが32.2%と続く。社会人学生は、研究室のみから影響を受けた割合が45.2%と高く、留学生では研究室以外のみから影響を受けた割合が48.1%と高い。

自身の研究に対して有益な影響を与えた者の範囲と比べると、研究室と研究室以外の両方から影響を受けた割合が半分程度と低く、研究室以外のみから影響を受けた者の割合が倍以上と高いのが特徴である。

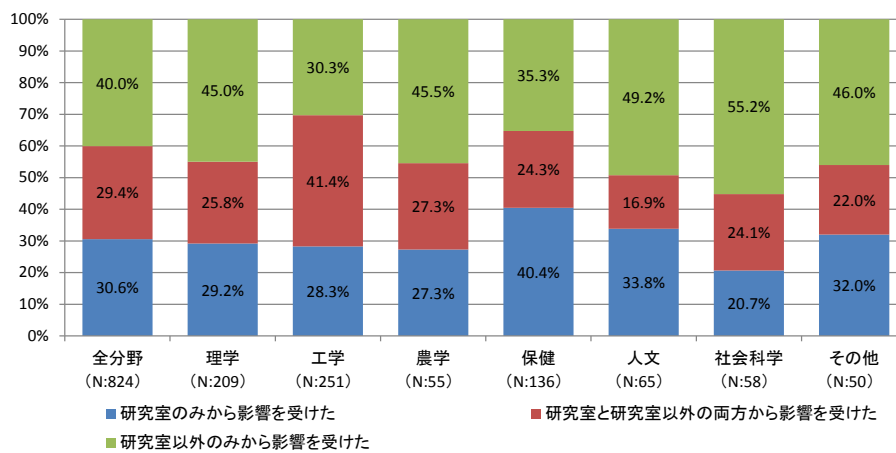
参考図表 18 就職活動に対して有益な影響を受けた者の所在



※図表 122 で「⑧その他」と回答した者を除いて再分類

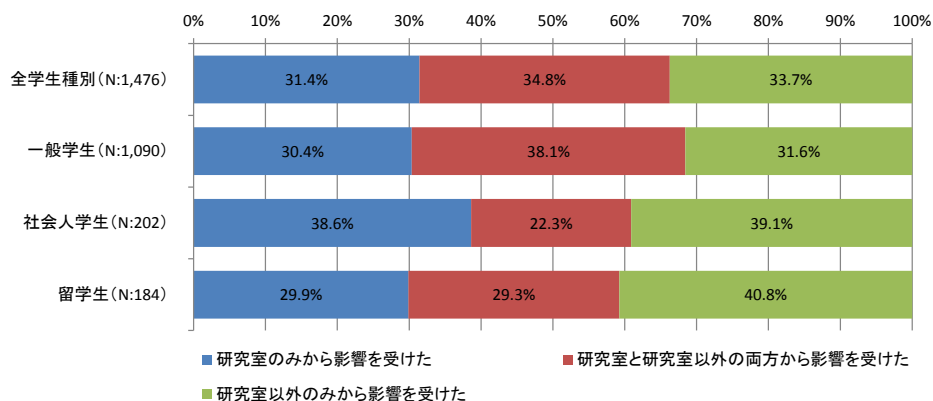
一般学生について分野別に見ると、特に工学分野では研究室と研究室以外の両方から影響を受けた者の割合が 41.4%であり、他分野と比較して 14%から 24%程度高いことから、研究室内外から就職に対する有益な影響を受けていることが分かる。また保健では、研究室のみから影響を受けた者の割合が 40.4%であり、他分野と比べて 10 ポイント程度高い。

参考図表 19 就職活動に対して有益な影響を受けた者の所在(一般学生・分野別)



将来の進路に対して有益な影響を受けた者の重複状況は、研究室と研究室以外の両方から影響を受けた割合が 34.8%を占める。社会人学生は研究室と研究室以外の両方から影響を受けた割合が 22.3%と低く、留学生では研究室以外のみから影響を受けた割合が 40.8%と高い。

参考図表 20 将来の進路に対して有益な影響を受けた者の所在

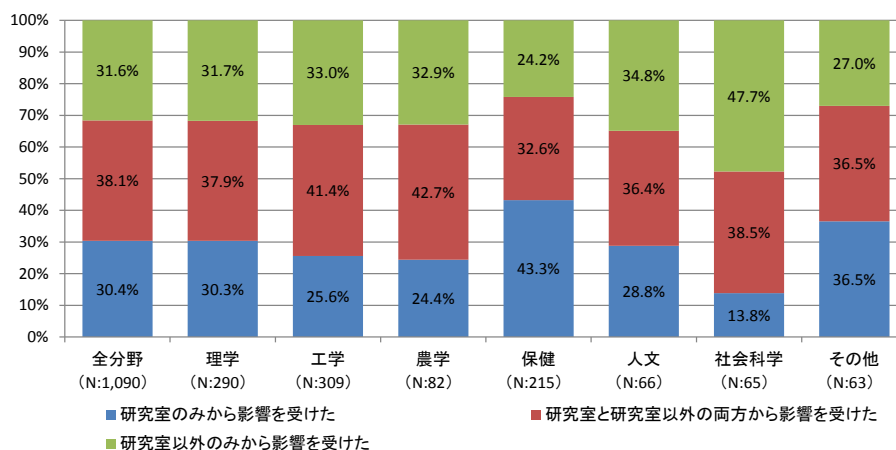


※図表 125 で「⑧その他」と回答した者を除いて再分類

一般学生が将来の進路に対して有益な影響を受けた者を分野別に見ると、保健分野では研究室のみから影響を受けた者の割合が43.3%と高く、一方で社会科学では13.8%と低い。また、研究室以外のみから影響を受けた割合は全分野では31.6%なのに対して社会科学では47.7%と高い。

なお、回答を一般学生のうち博士課程在籍時に研究室に所属していた者のみに限定しても、自身の研究、就職活動、将来の進路とも上記の傾向はほぼ変わらない。

参考図表 21 将来の進路に対して有益な影響を受けた者の所在（一般学生・分野別）



参考資料 4 調査依頼状

23 科政研企第 98 号
平成 23 年 8 月 26 日

大学院博士課程を置く
各 国 公 私立大学の
各 研 究 科 長 殿

文部科学省 科学技術政策研究所
所長 桑原 輝隆

博士課程修了者の教育・研究と進路に関する調査について(依頼)

日頃より、科学技術に関連する調査研究について御理解・御協力をいただきありがとうございます。

今後の我が国の科学技術の発展や国際競争力を維持・強化するためには、優れた資質や能力を有する人材を育成し、博士課程修了者が社会の様々な場面で活躍することが求められます。平成 23 年 1 月の中央教育審議会による答申(グローバル化社会の大学院教育)においては、グローバルに活躍する博士の養成について述べられておりますが、今後の大学院教育の重要性は今まで以上に増すものと推察されます。

これらの諸状況に鑑み、文部科学省科学技術政策研究所では、昨年度に引き続き、日本の主要大学院における博士課程修了者の教育・研究指導の実態、それらの背景や意識を把握することを目的として、貴大学院研究科の博士課程修了予定者に対して標記の調査を実施させていただきたいと考えております。なお、今年度の実施は 2011 年 9 月と 2012 年 3 月を予定しています。

本調査結果につきましては、優れた資質や能力を有する人材が博士課程を修了し活躍できるような教育・研究環境のあり方を検討するための重要な基礎資料として活用していく所存です。また昨年度の報告書も近日中に公刊したいと考えております。

つきましては、業務御多忙の折大変恐縮ではございますが、貴大学院研究科に在籍され、今年度 9 月末までに修了を予定されている博士課程学生の皆様に、標記調査への御協力を頂けますようご配慮のほど宜しくお願い申し上げます。同依頼は貴学学長宛にも送付いたしておりますのでその旨ご了承いただければ幸甚です。

なお、本調査の事前告知・集計等の業務の一部は、株式会社サーベイリサーチセンターの請負業務として実施いたしております。

(請負先参考 <http://www.surece.co.jp/>)

標記調査はインターネット(web)を經由して実施し、第1回調査の実施期間は、平成23年8月下旬から9月末の間を予定いたしております。本調査の大まかなスケジュールにつきましては、別添の「本調査の流れ」をご参照ください。調査結果につきましては、当研究所より報告書として公表させていただきます予定です。

また、博士課程学生からご回答いただいた個別データにつきましては、当研究所において適切に管理・保管することを申し添えます。

本調査への御理解・御協力のほどを何卒よろしくお願い申し上げます。

以上

<本件連絡先>

文部科学省科学技術政策研究所 第1調査研究グループ

担当:鐘ヶ江(かねがえ)、加藤

〒100-0013

東京都千代田区霞ヶ関 3-2-2 中央合同庁舎第7号館東館
16F

TEL :03-3581-2395

FAX :03-3503-3996

<業務請負先>

株式会社サーベイリサーチセンター

担当:社会情報部 村木、山口、水中(みずなか)

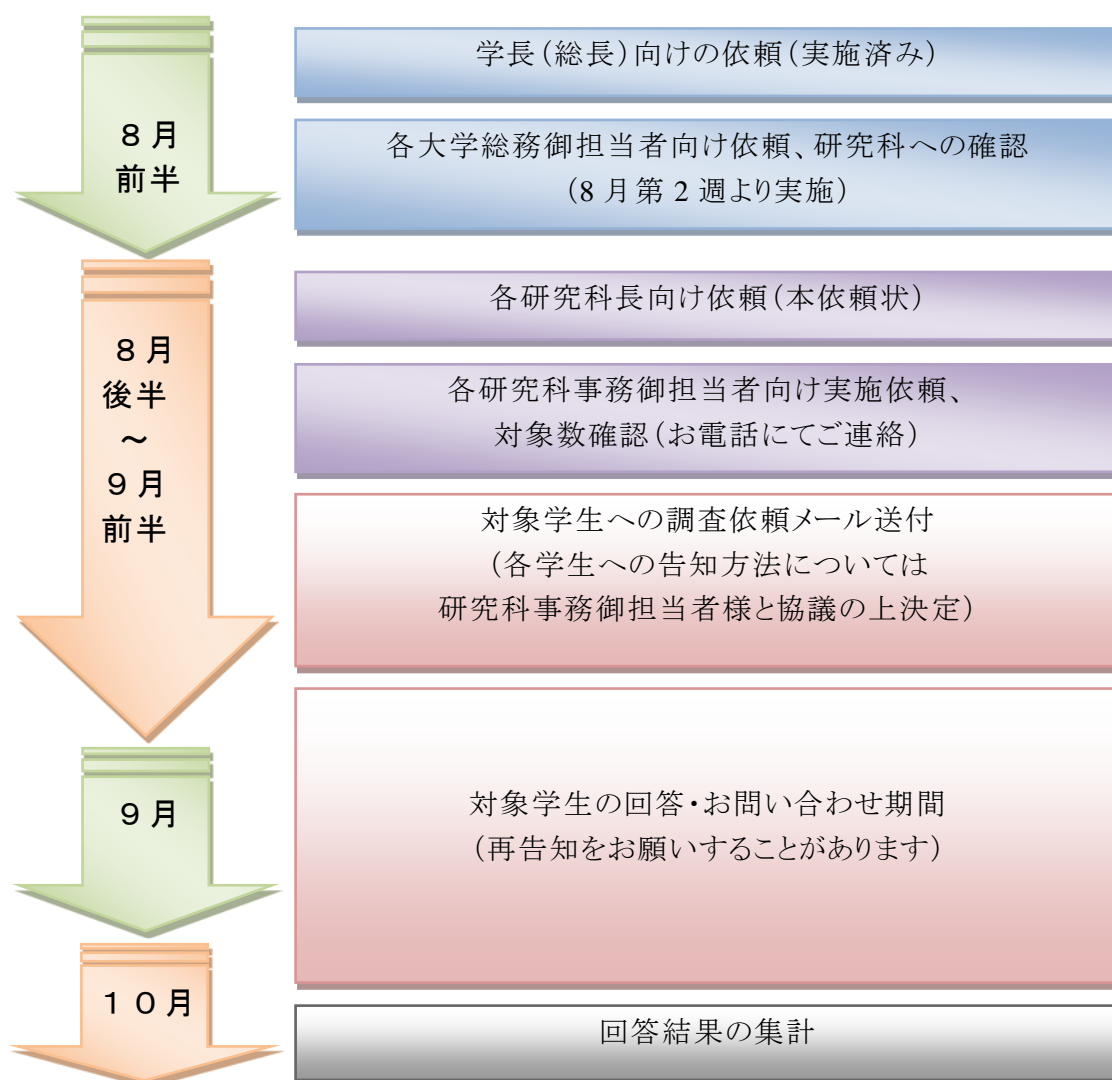
〒114-8519

東京都北区田端1-25-19 サントル田端一丁目1階

TEL :0120-38-0641(本調査専用連絡先)

FAX :03-5832-7060

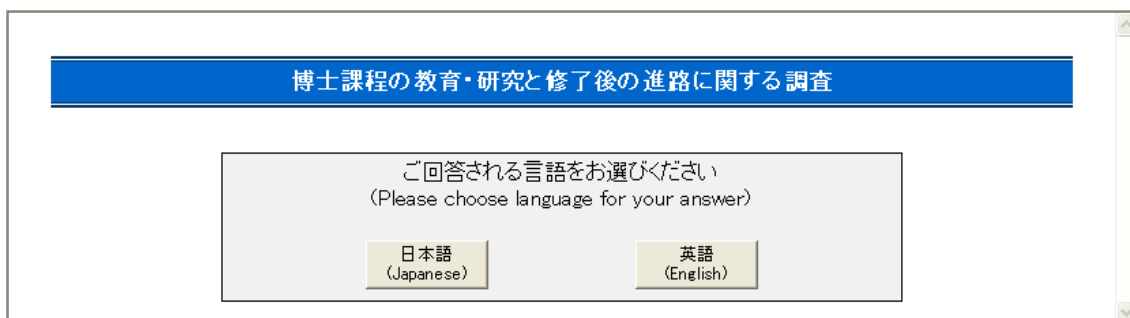
<本調査の流れ（第1回：2011年9月実施）>



※上記は学生への告知を各研究科別に行なっていただく場合の流れをお示ししています。
告知方法によって、流れには若干の変更がありますことをご了承ください。

参考資料 5 質問票(日本語)

なお、プルダウン設問の選択肢一覧は質問票(日本語)の最終頁以降に記載している。



博士課程の教育・研究と修了後の進路に関する調査

ご回答される言語をお選びください
(Please choose language for your answer)

日本語
(Japanese)

英語
(English)

博士課程の教育・研究と修了後の進路に関する調査 ご協力をお願い

文部科学省 科学技術政策研究所
第1調査研究グループ

ご回答にあたって

本調査は、2011年度(2011年(平成23年)4月から9月までの間)に日本の大学院で博士課程(後期及び一貫制、以降は博士課程と表記)を修了されるご予定の皆さまに対して、博士課程で受けられた教育や研究のご経験、修了後の進路に関して伺いするものです。

本調査で皆さまからご回答いただいた情報は、博士課程での教育や研究環境の改善、教員の意識や認識の向上、課程修了後の進路選択・キャリア構築に対する支援を行うための基礎情報として活用させていただきます。

調査結果は、今後博士課程への進学を目指す方々や大学関係者が利用できるように報告書として公開させていただきます。ただし、アンケート内でご回答いただいた情報については、個人が特定されるような情報の漏えいや公開はございません。

本調査は、皆さまに直接伺いすることではしか知ることができない質問を多く含んでいます。ぜひとも本調査研究へのご協力をいただきたく、よろしくお願いたします。

ご回答の際のご注意

- 本調査は「2011年(平成23年)4月から9月までの間」に博士課程を修了されるかたにご回答いただくものです。具体的には、以下の方が該当します。
 - ◇2011年4月から9月末までに博士課程を修了された方(見込みを含む)
 - ◇2011年4月から9月末までに博士課程を満期退学された方(見込みを含む)
- 専門職大学院の方は対象外とさせていただきます。
- 本調査の設問は、論文提出により博士号を取得される方にはお答えしにくい設問があるかと存じます。この点をご了承ください、回答可能な質問のみお答えください。
- アンケートの記入に要する時間は20分～30分程度です。
- 調査票への回答はお1人につき1回とさせていただきます。
- ブラウザの戻るボタンを使用されると、前ページに戻って回答することができますが前ページでいただいた回答がブランクになっている場合がございます。ご了承ください。
- 修正をした場合は『次のページへ』のボタンを押してください。※ボタンを押していただいで初めて回答が保存されます。

お問い合わせ先

■ 本調査の目的や内容、データの取り扱いについては以下までお問い合わせください

文部科学省科学技術政策研究所 第1調査研究グループ
鎌ヶ江(かねがえ)、加藤
E-mail: d-kyoiku@nistep.go.jp

■ アンケート画面や回答の仕方についてのお問合せは、以下のお問合せフォームにご記入ください

[お問い合わせフォームはこちら](#)

(調査請負先:株式会社サーベイリサーチセンター)

■ アンケートIDをご記入ください:

※ 大学ごとのID番号(4ケタ)を記入

■ 調査コードをご記入ください:

※ 大学研究科ごとの調査コードを記入(5ケタ)

■ パスワードをご記入ください(英数の小文字を両方必ず使用して6ケタ以上12ケタ以下)

【初めてご回答いただく場合】①こちらでパスワードの設定を行なってください。

(途中で回答を中断された場合、設定いただいたパスワードを②に記入いただくことでアンケートを続きからご回答いただけます)

パスワードの設定:

※ 確認のためもう一度パスワードをご記入ください

■ お手数ですが、ご回答の前に下記のチェックボックスにご自身の該当する博士の別をご回答下さい。

- 博士課程修了(課程博士もしくは満期退学)に該当する
 論文博士(論文提出による博士号取得)に該当する

【アンケートを続きからご回答いただく場合】②最初に設定いただいたパスワードをご記入ください。

パスワード:

- 本パスワードは、アンケートのご回答を一度中断された場合、再回答いただく際に入力いただけます。
- 個人情報保護の目的から、最初に設定いただいたパスワードをお忘れになった場合に、パスワード内容へのお問い合わせをお受けしていません。一度中断して再開する場合のために、パスワードを確認・保存いただきたくお願いたします。

※推奨ブラウザ:Internet Explorer 8、Firefox 3以降のバージョン

※推奨ブラウザ以外では、見え方が若干異なる可能性があります。

博士課程の教育・研究と修了後の進路に関する調査

設定確認画面

以下の内容でお間違いのないかどうかご確認いただき、引き続きアンケートにご回答ください。
※設定されたパスワードは回答が終了するまで忘れないよう、保管をお願いします

画面印刷

■ アンケートID 1001

■ 調査コード 51381

■ パスワード testdata01

■ 回答区分 博士課程修了に該当する

パスワードを再度設定する

アンケートに進む

進捗状況

1 / 47 ページ

博士課程の教育・研究と修了後の進路に関する調査

取得学位の状況

Q1～Q21 あなたの博士課程(後期、一貫制)以降、博士課程と称します)・修士課程(前期)以降、修士課程と称します)・学士に関して、期間や所属機関等をそれぞれ教えてください。なお、修了した課程が複数ある場合は、最終経歴について記述してください。

設問	博士課程	修士課程 ※学部で「医学」や「歯学」などの6年制の課程を修学した場合は、修士課程での属性は記入不要です	学士課程
課程を開始した年月を教えてください。	必須 [-選択-]年 [-選択-]月 ※論文博士の方は「上記以外」をお選びください	[-選択-]年 [-選択-]月	[-選択-]年 [-選択-]月
課程を修了した年月(見込みを含む)を教えてください。	必須 [2011]年 [-選択-]月 ※論文博士の方は「博士号取得(見込み)年月」をお選びください	[-選択-]年 [-選択-]月	[-選択-]年 [-選択-]月
あなたが学位を取得した機関の所在国はどこですか。	日本 <input type="checkbox"/> 修士課程も同様 <input type="checkbox"/> 学士課程も同様	大分類: [-選択-] 所在国: [-選択-]	大分類: [-選択-] 所在国: [-選択-]
あなたが学位を取得した機関名を教えてください。	必須 機関名(50音): [実行] 機関: [若手大字] <input type="checkbox"/> 修士課程も同様 <input type="checkbox"/> 学士課程も同様	機関名(50音): [-選択-] 機関: [-選択-] 上記選択肢以外: <input type="checkbox"/> その他[]	機関名(50音): [-選択-] 機関: [-選択-] 上記選択肢以外: <input type="checkbox"/> その他[]
あなたが学位を取得した機関の研究科等を選んで下さい。	必須 研究科等: [-選択-] 上記選択肢以外: <input type="checkbox"/> その他[] <input type="checkbox"/> 修士課程も同様	研究科等: [-選択-] 上記選択肢以外: <input type="checkbox"/> その他[]	学部分類: [-選択-] 上記選択肢以外: <input type="checkbox"/> その他[]
あなたが学んだ分野に最も当てはまるものをリストから1つ選んで下さい。	必須 分野(大分類): [-選択-] 分野(中分類): [-選択-] <input type="checkbox"/> 修士課程も同様 <input type="checkbox"/> 学士課程も同様	分野(大分類): [-選択-] 分野(中分類): [-選択-]	分野(大分類): [-選択-] 分野(中分類): [-選択-]
課程中に休学経験がある場合、その年数を教えてください。	必須 <input type="radio"/> 休学経験なし <input type="radio"/> 1年未満 <input type="radio"/> 1年以上2年未満 <input type="radio"/> 2年以上3年未満 <input type="radio"/> 3年以上	<input type="radio"/> 休学経験なし <input type="radio"/> 1年未満 <input type="radio"/> 1年以上2年未満 <input type="radio"/> 2年以上3年未満 <input type="radio"/> 3年以上	<input type="radio"/> 休学経験なし <input type="radio"/> 1年未満 <input type="radio"/> 1年以上2年未満 <input type="radio"/> 2年以上3年未満 <input type="radio"/> 3年以上

チェック初めず

チェック初めず

次のページへ

博士課程の教育・研究と修了後の進路に関する調査

Q22 必須 博士課程在籍時の学生種別を教えてください。留学生の方で途中で私費から国費に変わったなど種別に変更がある場合は、最も長い期間の種別をお選びください。

「社会人学生」とは、経常的な収入を目的とする仕事に就いている者であり、企業等を退職した者、主婦などを含みます。「留学生」とは、日本の大学に留学する目的を持って入国した外国人学生を指します。

- 一般学生(社会人学生・留学生を除く)
 社会人学生
 日本政府国費留学生
 外国政府国費留学生
 私費留学生

Q23 必須 博士課程を2011年9月までに修了される際の、博士号の有無をお選びください。(論文博士の方は2011年9月までの博士号の有無をご回答ください)

- あり(見込みを含む)
 なし

次のページへ

博士課程の教育・研究と修了後の進路に関する調査

Q24 現時点で満期退学等で博士号を取得(見込みを含む)せずに修了される場合、その理由として最も当てはまるものを最大で2つまでお選びください。

- 博士号取得前に就職先が決定
 修業年限の超過
 経済的困難
 業務や家事等の学業以外の多忙
 健康上の理由
 保育・介護等の家庭の事情
 研究課題への興味喪失
 研究課題の実現が困難
 指導の欠如
 その他

その他を選択された場合、具体的な内容をご記入ください(100字以内でお願いします)

次のページへ

博士課程の教育・研究と修了後の進路に関する調査

博士論文の作成に至るまでの研究・教育の状況

Q25 必須 あなたの博士論文テーマの主たる分野と関連する分野に該当するものすべてをお選びください。論文テーマに関連する分野が複数ある場合は、該当するものすべてをお選びください。
※「博士論文テーマ」とは、博士論文の題目ではなく論文内容を意味します。また「関連する分野」とは、主たる分野に付随する分野という意味です。

分野(大分類)	分野(中分類)				
理学	<input type="checkbox"/> 数学 <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 物理	<input type="checkbox"/> 化学	<input type="checkbox"/> 生物	<input type="checkbox"/> 地学
工学	<input type="checkbox"/> 機械・船舶 <input type="checkbox"/> 原子力 <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 電気・通信 <input type="checkbox"/> 材料	<input type="checkbox"/> 土木・建築 <input type="checkbox"/> 繊維	<input type="checkbox"/> 応用化学 <input type="checkbox"/> 航空	<input type="checkbox"/> 応用物理 <input type="checkbox"/> 経営工学
農学	<input type="checkbox"/> 農学 <input type="checkbox"/> 獣医・畜産	<input type="checkbox"/> 農芸化学 <input type="checkbox"/> 水産	<input type="checkbox"/> 農業工学 <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 農業経済	<input type="checkbox"/> 林学
保健	<input type="checkbox"/> 医学	<input type="checkbox"/> 歯学	<input type="checkbox"/> 薬学	<input type="checkbox"/> 看護	<input type="checkbox"/> その他
人文	<input type="checkbox"/> 文学	<input type="checkbox"/> 史学	<input type="checkbox"/> 哲学	<input type="checkbox"/> その他	
社会	<input type="checkbox"/> 法学・政治	<input type="checkbox"/> 商学・経済	<input type="checkbox"/> 社会学	<input type="checkbox"/> その他	
その他	<input type="checkbox"/> 家政	<input type="checkbox"/> 教育	<input type="checkbox"/> 芸術・その他		

Q26 あなたの博士論文テーマはどのような経緯で決まりましたか。自身のご経験に最も近いものをお選びください。

- 指導教員が提示したテーマをそのまま自身の論文テーマとした
- 指導教員が提示した課題やテーマに対して、自身のオリジナリティや視点を追加した
- 自身が着想や興味・関心を持ったテーマをもとに、指導教員の助言・アドバイスやヒントを受けて決定した
- 特に指導教員から助言・アドバイスを受けることはなく、自分自身で決めた
- その他

その他を選択された場合、具体的な内容をご記入ください(100字以内でお願いします)

チェックをします

Q27 あなたの博士論文テーマが決まる背景には、研究施設や設備、研究室のテーマ設定や方針などによる影響はありましたか。該当する選択肢をお選びください。

- テーマが決まる背景に研究施設や設備、研究室のテーマ設定や方針などによる影響はなかった
- テーマが決まる背景には研究施設や設備、研究室のテーマ設定や方針などによる影響があった(複数回答可)
- 研究のための施設や設備による影響
- 研究室のテーマ設定や方針による影響
- 上記以外による影響(自由記述)

自由記述を選択された場合、具体的な内容をご記入ください(100字以内でお願いします)

チェックをします

Q28 あなたが博士論文テーマについて、指導教員との間で合意をしたのはおおよそいつでしたか。該当する選択肢を一つお選び下さい。
※合意とは、例えば研究内容を文書化し担当窓口等へ提出することができる程度に、双方がテーマについて了解したことを指します。

- 博士課程へ進学・入学以前
- 博士課程へ進学・入学以後
- ～1ヶ月以内
- 博士課程進学1ヶ月以降3ヶ月以内
- 博士課程進学3ヶ月以降半年以内
- 博士課程進学半年以降1年以内
- 1年以降
- 特に合意はしていない

チェックをします

次のページへ

博士課程の教育・研究と修了後の進路に関する調査

Q29～Q32 あなたの**博士論文の作成**を指導した教員についてお尋ねします。
 ①博士論文の作成を日常的に指導した教員について、該当する選択肢をお選びください。
 ②博士論文作成のための日常的な指導はせず、論文審査のみを担当した教員について、該当する選択肢をお選びください。

設問 ①博士論文の作成を日常的に指導した教員について ②論文審査のみを担当した教員について

Q29 <人数> [-選択-]	<人数> [-選択-]																																			
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;"></th> <th style="width: 10%;">所属</th> <th style="width: 10%;">主たる指導教員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>所属研究室</td><td><input type="checkbox"/></td><td><input type="radio"/></td></tr> <tr><td>専攻・講座内の他の研究室</td><td><input type="checkbox"/></td><td><input type="radio"/></td></tr> <tr><td>学内の他専攻・講座の研究室</td><td><input type="checkbox"/></td><td><input type="radio"/></td></tr> <tr><td>他大学の研究室</td><td><input type="checkbox"/></td><td><input type="radio"/></td></tr> <tr><td>民間企業・公的研究機関 (かつ上記に当てはまらない)</td><td><input type="checkbox"/></td><td><input type="radio"/></td></tr> <tr><td>その他</td><td><input type="checkbox"/></td><td><input type="radio"/></td></tr> </tbody> </table>		所属	主たる指導教員	所属研究室	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	専攻・講座内の他の研究室	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	学内の他専攻・講座の研究室	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	他大学の研究室	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	民間企業・公的研究機関 (かつ上記に当てはまらない)	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	その他	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;"></th> <th style="width: 10%;">所属</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>所属研究室</td><td><input type="checkbox"/></td></tr> <tr><td>専攻・講座内の他の研究室</td><td><input type="checkbox"/></td></tr> <tr><td>学内の他専攻・講座の研究室</td><td><input type="checkbox"/></td></tr> <tr><td>他大学の研究室</td><td><input type="checkbox"/></td></tr> <tr><td>民間企業・公的研究機関 (かつ上記に当てはまらない)</td><td><input type="checkbox"/></td></tr> <tr><td>その他</td><td><input type="checkbox"/></td></tr> </tbody> </table>		所属	所属研究室	<input type="checkbox"/>	専攻・講座内の他の研究室	<input type="checkbox"/>	学内の他専攻・講座の研究室	<input type="checkbox"/>	他大学の研究室	<input type="checkbox"/>	民間企業・公的研究機関 (かつ上記に当てはまらない)	<input type="checkbox"/>	その他	<input type="checkbox"/>
	所属	主たる指導教員																																		
所属研究室	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>																																		
専攻・講座内の他の研究室	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>																																		
学内の他専攻・講座の研究室	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>																																		
他大学の研究室	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>																																		
民間企業・公的研究機関 (かつ上記に当てはまらない)	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>																																		
その他	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>																																		
	所属																																			
所属研究室	<input type="checkbox"/>																																			
専攻・講座内の他の研究室	<input type="checkbox"/>																																			
学内の他専攻・講座の研究室	<input type="checkbox"/>																																			
他大学の研究室	<input type="checkbox"/>																																			
民間企業・公的研究機関 (かつ上記に当てはまらない)	<input type="checkbox"/>																																			
その他	<input type="checkbox"/>																																			

チェックを必ず

Q31	Q31																																
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">分野 (大分類)</th> <th style="width: 70%;">分野 (中分類)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>理学</td> <td> <input type="checkbox"/> 数学 <input type="checkbox"/> 物理 <input type="checkbox"/> 化学 <input type="checkbox"/> 生物 <input type="checkbox"/> 地学 <input type="checkbox"/> その他 </td> </tr> <tr> <td>工学</td> <td> <input type="checkbox"/> 機械・船舶 <input type="checkbox"/> 電気・通信 <input type="checkbox"/> 土木・建築 <input type="checkbox"/> 応用化学 <input type="checkbox"/> 応用物理 <input type="checkbox"/> 原子力 <input type="checkbox"/> 材料 <input type="checkbox"/> 繊維 <input type="checkbox"/> 航空 <input type="checkbox"/> 経営工学 <input type="checkbox"/> その他 </td> </tr> <tr> <td>農学</td> <td> <input type="checkbox"/> 農学 <input type="checkbox"/> 農芸化学 <input type="checkbox"/> 農業工学 <input type="checkbox"/> 農業経済 <input type="checkbox"/> 林学 <input type="checkbox"/> 獣医・畜産 <input type="checkbox"/> 水産 <input type="checkbox"/> その他 </td> </tr> <tr> <td>保健</td> <td> <input type="checkbox"/> 医学 <input type="checkbox"/> 歯学 <input type="checkbox"/> 薬学 <input type="checkbox"/> 看護 <input type="checkbox"/> その他 </td> </tr> <tr> <td>人文</td> <td> <input type="checkbox"/> 文学 <input type="checkbox"/> 史学 <input type="checkbox"/> 哲学 <input type="checkbox"/> その他 </td> </tr> <tr> <td>社会</td> <td> <input type="checkbox"/> 法学・政治 <input type="checkbox"/> 商学・経済 <input type="checkbox"/> 社会学 <input type="checkbox"/> その他 </td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td> <input type="checkbox"/> 家政 <input type="checkbox"/> 教育 <input type="checkbox"/> 芸術・その他 </td> </tr> </tbody> </table>	分野 (大分類)	分野 (中分類)	理学	<input type="checkbox"/> 数学 <input type="checkbox"/> 物理 <input type="checkbox"/> 化学 <input type="checkbox"/> 生物 <input type="checkbox"/> 地学 <input type="checkbox"/> その他	工学	<input type="checkbox"/> 機械・船舶 <input type="checkbox"/> 電気・通信 <input type="checkbox"/> 土木・建築 <input type="checkbox"/> 応用化学 <input type="checkbox"/> 応用物理 <input type="checkbox"/> 原子力 <input type="checkbox"/> 材料 <input type="checkbox"/> 繊維 <input type="checkbox"/> 航空 <input type="checkbox"/> 経営工学 <input type="checkbox"/> その他	農学	<input type="checkbox"/> 農学 <input type="checkbox"/> 農芸化学 <input type="checkbox"/> 農業工学 <input type="checkbox"/> 農業経済 <input type="checkbox"/> 林学 <input type="checkbox"/> 獣医・畜産 <input type="checkbox"/> 水産 <input type="checkbox"/> その他	保健	<input type="checkbox"/> 医学 <input type="checkbox"/> 歯学 <input type="checkbox"/> 薬学 <input type="checkbox"/> 看護 <input type="checkbox"/> その他	人文	<input type="checkbox"/> 文学 <input type="checkbox"/> 史学 <input type="checkbox"/> 哲学 <input type="checkbox"/> その他	社会	<input type="checkbox"/> 法学・政治 <input type="checkbox"/> 商学・経済 <input type="checkbox"/> 社会学 <input type="checkbox"/> その他	その他	<input type="checkbox"/> 家政 <input type="checkbox"/> 教育 <input type="checkbox"/> 芸術・その他	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">分野 (大分類)</th> <th style="width: 70%;">分野 (中分類)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>理学</td> <td> <input type="checkbox"/> 数学 <input type="checkbox"/> 物理 <input type="checkbox"/> 化学 <input type="checkbox"/> 生物 <input type="checkbox"/> 地学 <input type="checkbox"/> その他 </td> </tr> <tr> <td>工学</td> <td> <input type="checkbox"/> 機械・船舶 <input type="checkbox"/> 電気・通信 <input type="checkbox"/> 土木・建築 <input type="checkbox"/> 応用化学 <input type="checkbox"/> 応用物理 <input type="checkbox"/> 原子力 <input type="checkbox"/> 材料 <input type="checkbox"/> 繊維 <input type="checkbox"/> 航空 <input type="checkbox"/> 経営工学 <input type="checkbox"/> その他 </td> </tr> <tr> <td>農学</td> <td> <input type="checkbox"/> 農学 <input type="checkbox"/> 農芸化学 <input type="checkbox"/> 農業工学 <input type="checkbox"/> 農業経済 <input type="checkbox"/> 林学 <input type="checkbox"/> 獣医・畜産 <input type="checkbox"/> 水産 <input type="checkbox"/> その他 </td> </tr> <tr> <td>保健</td> <td> <input type="checkbox"/> 医学 <input type="checkbox"/> 歯学 <input type="checkbox"/> 薬学 <input type="checkbox"/> 看護 <input type="checkbox"/> その他 </td> </tr> <tr> <td>人文</td> <td> <input type="checkbox"/> 文学 <input type="checkbox"/> 史学 <input type="checkbox"/> 哲学 <input type="checkbox"/> その他 </td> </tr> <tr> <td>社会</td> <td> <input type="checkbox"/> 法学・政治 <input type="checkbox"/> 商学・経済 <input type="checkbox"/> 社会学 <input type="checkbox"/> その他 </td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td> <input type="checkbox"/> 家政 <input type="checkbox"/> 教育 <input type="checkbox"/> 芸術・その他 </td> </tr> </tbody> </table>	分野 (大分類)	分野 (中分類)	理学	<input type="checkbox"/> 数学 <input type="checkbox"/> 物理 <input type="checkbox"/> 化学 <input type="checkbox"/> 生物 <input type="checkbox"/> 地学 <input type="checkbox"/> その他	工学	<input type="checkbox"/> 機械・船舶 <input type="checkbox"/> 電気・通信 <input type="checkbox"/> 土木・建築 <input type="checkbox"/> 応用化学 <input type="checkbox"/> 応用物理 <input type="checkbox"/> 原子力 <input type="checkbox"/> 材料 <input type="checkbox"/> 繊維 <input type="checkbox"/> 航空 <input type="checkbox"/> 経営工学 <input type="checkbox"/> その他	農学	<input type="checkbox"/> 農学 <input type="checkbox"/> 農芸化学 <input type="checkbox"/> 農業工学 <input type="checkbox"/> 農業経済 <input type="checkbox"/> 林学 <input type="checkbox"/> 獣医・畜産 <input type="checkbox"/> 水産 <input type="checkbox"/> その他	保健	<input type="checkbox"/> 医学 <input type="checkbox"/> 歯学 <input type="checkbox"/> 薬学 <input type="checkbox"/> 看護 <input type="checkbox"/> その他	人文	<input type="checkbox"/> 文学 <input type="checkbox"/> 史学 <input type="checkbox"/> 哲学 <input type="checkbox"/> その他	社会	<input type="checkbox"/> 法学・政治 <input type="checkbox"/> 商学・経済 <input type="checkbox"/> 社会学 <input type="checkbox"/> その他	その他	<input type="checkbox"/> 家政 <input type="checkbox"/> 教育 <input type="checkbox"/> 芸術・その他
分野 (大分類)	分野 (中分類)																																
理学	<input type="checkbox"/> 数学 <input type="checkbox"/> 物理 <input type="checkbox"/> 化学 <input type="checkbox"/> 生物 <input type="checkbox"/> 地学 <input type="checkbox"/> その他																																
工学	<input type="checkbox"/> 機械・船舶 <input type="checkbox"/> 電気・通信 <input type="checkbox"/> 土木・建築 <input type="checkbox"/> 応用化学 <input type="checkbox"/> 応用物理 <input type="checkbox"/> 原子力 <input type="checkbox"/> 材料 <input type="checkbox"/> 繊維 <input type="checkbox"/> 航空 <input type="checkbox"/> 経営工学 <input type="checkbox"/> その他																																
農学	<input type="checkbox"/> 農学 <input type="checkbox"/> 農芸化学 <input type="checkbox"/> 農業工学 <input type="checkbox"/> 農業経済 <input type="checkbox"/> 林学 <input type="checkbox"/> 獣医・畜産 <input type="checkbox"/> 水産 <input type="checkbox"/> その他																																
保健	<input type="checkbox"/> 医学 <input type="checkbox"/> 歯学 <input type="checkbox"/> 薬学 <input type="checkbox"/> 看護 <input type="checkbox"/> その他																																
人文	<input type="checkbox"/> 文学 <input type="checkbox"/> 史学 <input type="checkbox"/> 哲学 <input type="checkbox"/> その他																																
社会	<input type="checkbox"/> 法学・政治 <input type="checkbox"/> 商学・経済 <input type="checkbox"/> 社会学 <input type="checkbox"/> その他																																
その他	<input type="checkbox"/> 家政 <input type="checkbox"/> 教育 <input type="checkbox"/> 芸術・その他																																
分野 (大分類)	分野 (中分類)																																
理学	<input type="checkbox"/> 数学 <input type="checkbox"/> 物理 <input type="checkbox"/> 化学 <input type="checkbox"/> 生物 <input type="checkbox"/> 地学 <input type="checkbox"/> その他																																
工学	<input type="checkbox"/> 機械・船舶 <input type="checkbox"/> 電気・通信 <input type="checkbox"/> 土木・建築 <input type="checkbox"/> 応用化学 <input type="checkbox"/> 応用物理 <input type="checkbox"/> 原子力 <input type="checkbox"/> 材料 <input type="checkbox"/> 繊維 <input type="checkbox"/> 航空 <input type="checkbox"/> 経営工学 <input type="checkbox"/> その他																																
農学	<input type="checkbox"/> 農学 <input type="checkbox"/> 農芸化学 <input type="checkbox"/> 農業工学 <input type="checkbox"/> 農業経済 <input type="checkbox"/> 林学 <input type="checkbox"/> 獣医・畜産 <input type="checkbox"/> 水産 <input type="checkbox"/> その他																																
保健	<input type="checkbox"/> 医学 <input type="checkbox"/> 歯学 <input type="checkbox"/> 薬学 <input type="checkbox"/> 看護 <input type="checkbox"/> その他																																
人文	<input type="checkbox"/> 文学 <input type="checkbox"/> 史学 <input type="checkbox"/> 哲学 <input type="checkbox"/> その他																																
社会	<input type="checkbox"/> 法学・政治 <input type="checkbox"/> 商学・経済 <input type="checkbox"/> 社会学 <input type="checkbox"/> その他																																
その他	<input type="checkbox"/> 家政 <input type="checkbox"/> 教育 <input type="checkbox"/> 芸術・その他																																
<主たる指導教員の専門分野> [-選択-]	<主たる指導教員の専門分野> [-選択-]																																
Q32 <博士論文の作成を日常的に指導した教員のうち論文審査をした教員数> [-選択-]	<博士論文の作成を日常的に指導した教員のうち論文審査をした教員数> [-選択-]																																

Q33 Q34 あなたが博士論文を作成する過程での指導形式に該当するものを全てお選びください。
 また、それらの形式によるおおよその指導頻度をお選びください。指導教員が複数人いる場合は、その合計指導回数をお選び下さい。

指導形式	指導頻度
<input type="checkbox"/> 複数研究室などにより複数の教員や学生が集まるミーティング・ゼミ・報告会等が開催され、研究進捗報告や研究指導が行われる	[-選択-]
<input type="checkbox"/> 専攻・研究科等の組織として開催する学内の発表の場が開催され、研究進捗報告や研究指導が行われる	[-選択-]
<input type="checkbox"/> 自身の調整により複数の教員が同時に集まる機会が設けられ、研究進捗報告や研究指導が行われる	[-選択-]
<input type="checkbox"/> 自身の調整により(単数もしくは複数の)指導教員と個別に打ち合わせをする機会が設けられ、研究進捗報告や研究指導が行われる	[-選択-]
<input type="checkbox"/> その他	[-選択-]

その他を選択された場合、具体的な内容をご記入ください(100字以内でお願いします)

次のページへ

博士課程の教育・研究と修了後の進路に関する調査

Q35 あなたは、博士論文の作成指導を複数の教員から受けるメリットとデメリットは何だと考えますか。該当する選択肢を全てお選びください。

<メリット>

- 多様な視点やアプローチを知ることができた
- 指導機会が増えることで研究指導の密度が上がった
- 自分の研究室に無い技術の習得など研究リソースを補完することができた
- 主な指導教員と上手くいっていない時に、別の教員と研究を進めることができた
- その他

その他を選択された場合、具体的な内容をご記入ください(100字以内でお願いします)

<デメリット>

- 指導教員間の方針や意見が異なり、指導内容が混乱した
- 専門分野以外の教員からの指導・アドバイスが必ずしも有用ではなかった
- 指導を受ける全ての教員への連絡や調整の負担が大きかった
- 指導教員間で連携が取れておらず、例えば学生の負荷への配慮がなされない場合などは負担を感じた
- その他

その他を選択された場合、具体的な内容をご記入ください(100字以内でお願いします)

[次のページへ](#)

博士課程の教育・研究と修了後の進路に関する調査

Q36 あなたの所属する専攻・研究科には、「複数教員指導制度」のように博士論文の作成指導を複数の教員から受けるような仕組みはありましたか。また、その仕組みを実際に活用されましたか。該当する選択肢を1つお選びください。

- 仕組みがあった
 - 仕組みがあり、活用した
 - 博士論文の作成に良い影響を与えた
 - 博士論文の作成に影響を与えなかった
 - 博士論文の作成に悪い影響を与えた
 - 仕組みはあったが、活用しなかった
- 仕組みがなかった
- わからない

チェックをはずす

Q37 あなたの主たる指導教員は、あなたが博士論文の作成を進める上で他の教員や研究者からアドバイスや助言を必要とした際に、他の教員や研究者からアドバイスを求めることを後押ししましたか。該当する選択肢を1つお選びください。※他の教員からのアドバイスや助言を必要としなかった場合は「アドバイスを必要としたことはない」をお選びください。

- 積極的に後押しした
- どちらかといえば後押しした
- どちらともいえない
- どちらかといえば反対した
- 強く反対した

- 他の教員や研究者からのアドバイスを必要としたことはない

チェックをはずす

次のページへ

博士課程の教育・研究と修了後の進路に関する調査

Q38 あなたが博士課程在籍時に所属した研究室に今年度4月時点で在籍していた修士・博士課程の学生数および教員数を、種別ごとに教えてください。研究室やラボには所属されていなかった場合は「研究室には所属していない」をお選びください。
 ※人数カウントにはご自身を含みません。
 ※「博士課程在籍時に所属した研究室」が複数ある場合は、主たる所属研究室についてお答え下さい。
 ※「研究室」の定義は、教員の名前の付いた研究室もしくは教員が命名した研究室とします。

研究室に所属していた

	人数(修士課程)	人数(博士課程)
一般学生	-選択-	-選択-
社会人学生	-選択-	-選択-
留学生	-選択-	-選択-

	人数(教員)
教授	-選択-
准教授	-選択-
講師	-選択-
助教	-選択-

※特命や特任等を含む

研究室には所属していなかった

チェックをはずす

次のページへ

博士課程の教育・研究と修了後の進路に関する調査

Q39 あなたの専攻内では、専門的な内容も含めて学生同士が自発的に自由に語り合ったり議論を行ったりすることは日常的に行われていましたか。該当する選択肢を1つお選びください。
 また、「行われていた」を選択された場合は、実施する上での工夫や仕組みの内容、場所について教えてください。

行われていた

行われていなかった

実施する上での工夫や仕組みの内容等をご記入ください(100字以内をお願いします)

チェックをはずす

次のページへ

博士課程の教育・研究と修了後の進路に関する調査

Q40 あなたは、ご自身の博士論文を作成する際に、総じてどのようなスタイルで調査や研究を進めましたか。最も近いものを1つお選びください。
※ただし、あなたが調査や研究を進める際のメンバーからは指導教員を除きます。

- ほとんど自分個人による調査や研究によって進めた
- どちらかというと自分個人による調査や研究によって進めた
- どちらかというと複数のメンバーによる調査や議論、研究によって進めた
- ほとんど複数のメンバーによる調査や議論、研究によって進めた
- その他

その他を選択された場合、具体的な内容をご記入ください(100字以内でお願いします)

チェックをはずす

次のページへ

博士課程の教育・研究と修了後の進路に関する調査

Q41 あなたが調査や研究を進める際のメンバーにはどのような方が含まれていましたか。該当する選択肢を全て選んで下さい。
※ただし、あなたが調査や研究を進める際のメンバーからは指導教員を除きます。

- あなたが所属する研究室の方
- あなたが所属する研究室とは異なるが、同じ専攻に所属する方
- あなたが所属する専攻とは異なるが、同じ研究科に所属する方
- あなたが所属する研究科とは異なるが、同じ大学に所属する方
- あなたが所属する大学とは異なる大学に所属する方
- 民間企業や公的研究機関に所属し、かつ上記に当てはまらない方
- その他

その他を選択された場合、具体的な内容をご記入ください(100字以内でお願いします)

次のページへ

博士課程の教育・研究と修了後の進路に関する調査

Q42 あなたは、博士論文を作成するためのプロセス管理を行っていましたか。また、プロセス管理を行っていた場合には、どのようにして行っていましたか。最も該当する選択肢を1つお選びください。

行っていた

- 自身で計画を作成し、指導教員と自分が共にプロセスを管理した
- 自身で計画を作成し、自身でのみプロセスを管理した
- 指導教員が計画を作成し、指導教員と自分が共にプロセスを管理した
- 指導教員が計画を作成し、自身でのみプロセスを管理した
- その他

その他を選択された場合、具体的な内容をご記入ください(100字以内でお願いします)

行っていなかった

その他

チェックをはずす

次のページへ

博士課程の教育・研究と修了後の進路に関する調査

Q43 Q44 修士課程・博士課程を通じて、あなたが登壇された国内外での学会発表数に該当するものをお選びください。

<国内>

- 0回 1回 2回 3回 4回 5回以上

(うち修士: 回)

<国外>

- 0回 1回 2回 3回 4回 5回以上

(うち修士: 回)

チェックをはずす

Q45 Q46 修士課程・博士課程の在籍時に発表された論文を対象として、査読の有無別の学術論文数を使用言語と併せて教えてください(回答時点で掲載が確定しているものも教えてください)

査読あり: 本

査読あり論文のうち英語: 本

査読あり論文のうち筆頭著者(相当): 本

査読なし: 本

査読なし論文のうち英語: 本

査読なし論文のうち筆頭著者(相当): 本

次のページへ

博士課程の教育・研究と修了後の進路に関する調査

研究に関連した経験

Q47 Q48 あなたは博士課程在籍時に国外(日本以外)での研究経験をお持ちですか。国外での研究経験をお持ちの場合、その期間と受入れ先選択の背景を教えてください。研究経験が複数回に及ぶ場合はその期間の合計を、受入れ先の選択については、最も主要な経験のものをお選びください。

ある

<期間>	<受入れ先の選択>
<input type="radio"/> 1ヶ月未満 <input type="radio"/> 1ヶ月以上2ヶ月未満 <input type="radio"/> 2ヶ月以上3ヶ月未満 <input type="radio"/> 3ヶ月以上6ヶ月未満 <input type="radio"/> 6ヶ月以上1年未満 <input type="radio"/> 1年以上	<input type="radio"/> 自分で調べて受入れ先を見つけた <input type="radio"/> 研究室以外の友人や知人のネットワークを利用した <input type="radio"/> 指導教員や研究室のつてを利用した <input type="radio"/> 大学やプログラムなどで決まっていた <input type="radio"/> その他 その他を選択された場合、具体的な内容をご記入ください (100字以内でお願いします) <div style="border: 1px solid #ccc; height: 20px; margin-top: 5px;"></div>

ない

チェックをはずす

次のページへ

博士課程の教育・研究と修了後の進路に関する調査

Q49 Q50 修士・博士課程を通じて、あなたはインターンシップの経験がありますか。

<修士段階>

1回 2回 3回以上 なし

<博士段階>

1回 2回 3回以上 なし

チェックをはずす

次のページへ

博士課程の教育・研究と修了後の進路に関する調査

Q51 インターシップの受入機関などどのような機関ですか。該当するものを全てお選びください。

大学、大学共同利用機関、高専・短大、幼稚園、養護学校、小・中・高等学校のいずれかに該当する場合は、教育機関をお選びください。

- 教育機関
- 民間企業
- 公的研究機関
- 国際機関
- NPO
- その他

その他を選択された場合、具体的な内容をご記入ください(100字以内でお願いします)

SQ51 ご経験されたインターシップの内容に該当するものをすべてお選びください。

- 業務見学、社員や職員との懇談会
- 個人課題・グループワークの実施
- 業務の疑似体験(ケーススタディ等)
- 実際の業務(現場での研究開発等)
- その他

Q52 インターシップへ参加した期間と、その機関種別をお答えください。なお、インターンへの参加経験を複数お持ちの場合は、最も長い期間を伴うインターシップについてお答えください。

<参加した期間>

- 3日未満
- 3日以上1週間未満
- 1週間以上2週間未満
- 2週間以上3週間未満
- 3週間以上1ヶ月未満
- 1ヶ月以上3ヶ月未満
- 3ヶ月以上6ヶ月未満
- 6ヶ月以上

<機関種別>

-選択-

大学、大学共同利用機関、高専・短大、幼稚園、養護学校、小・中・高等学校のいずれかに該当する場合は、教育機関をお選びください。

チェックをはずす

次のページへ

博士課程の教育・研究と修了後の進路に関する調査

Q53 インターンシップの受入先企業の業種に該当するものをお選びください。
 なお、複数企業のインターンシップに参加した場合は、該当するものを全てお選びください。

- | | | |
|-------------------------------------|--|---------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 農業 | <input type="checkbox"/> 漁業 | <input type="checkbox"/> 鉱業、採石業・砂利採取業 |
| <input type="checkbox"/> 建設業 | <input type="checkbox"/> 電気・ガス・熱供給・水道業 | <input type="checkbox"/> 情報通信業 |
| <input type="checkbox"/> 食料品、飲料・たばこ | <input type="checkbox"/> パルプ・紙 | <input type="checkbox"/> 医薬品・化粧品 |
| <input type="checkbox"/> 化学その他 | <input type="checkbox"/> 石油製品 | <input type="checkbox"/> ゴム・プラスチック |
| <input type="checkbox"/> 鉄鋼 | <input type="checkbox"/> 非鉄金属 | <input type="checkbox"/> 金属製品 |
| <input type="checkbox"/> 業務用機械器具 | <input type="checkbox"/> 電子部品・デバイス | <input type="checkbox"/> 輸送用機械器具 |
| <input type="checkbox"/> 情報通信機器 | <input type="checkbox"/> 電気機械器具 | <input type="checkbox"/> 製造業その他 |
| <input type="checkbox"/> 金融業・保険業 | <input type="checkbox"/> 輸送・郵便業 | <input type="checkbox"/> 教育・学習支援業 |
| <input type="checkbox"/> 医療・福祉 | <input type="checkbox"/> 生活関連サービス業・娯楽業 | <input type="checkbox"/> 複合サービス事業 |
| <input type="checkbox"/> その他 | | |

次のページへ

博士課程の教育・研究と修了後の進路に関する調査

Q54 修士・博士課程を通じて、あなた自身は、民間企業との共同研究に携わったご経験はお持ちですか。

- ある ない

チェックをはずす

次のページへ

博士課程の教育・研究と修了後の進路に関する調査

Q55 共同研究先企業の業種に該当するものを全てお選びください。

- | | | |
|------------------------------------|--|---------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 農業 | <input type="checkbox"/> 漁業 | <input type="checkbox"/> 鉱業、採石業・砂利採取業 |
| <input type="checkbox"/> 建設業 | <input type="checkbox"/> 電気・ガス・熱供給・水道業 | <input type="checkbox"/> 情報通信業 |
| <input type="checkbox"/> 食品、飲料・たばこ | <input type="checkbox"/> パルプ・紙 | <input type="checkbox"/> 医薬品・化粧品 |
| <input type="checkbox"/> 化学その他 | <input type="checkbox"/> 石油製品 | <input type="checkbox"/> ゴム・プラスチック |
| <input type="checkbox"/> 鉄鋼 | <input type="checkbox"/> 非鉄金属 | <input type="checkbox"/> 金属製品 |
| <input type="checkbox"/> 業務用機械器具 | <input type="checkbox"/> 電子部品・デバイス | <input type="checkbox"/> 輸送用機械器具 |
| <input type="checkbox"/> 情報通信機器 | <input type="checkbox"/> 電気機械器具 | <input type="checkbox"/> 製造業その他 |
| <input type="checkbox"/> 金融業・保険業 | <input type="checkbox"/> 輸業・郵便業 | <input type="checkbox"/> 教育・学習支援業 |
| <input type="checkbox"/> 医療・福祉 | <input type="checkbox"/> 生活関連サービス業・娯楽業 | <input type="checkbox"/> 複合サービス事業 |
| <input type="checkbox"/> その他 | | |

[次のページへ](#)

博士課程の教育・研究と修了後の進路に関する調査

Q56 あなたが所属されていた研究室は、あなたの博士課程(後期、一貫制)在籍時に、拠点事業(21世紀COE・グローバルCOE)に採択されていたことがありますか。

- 採択されていた
 採択されていなかった
 分からない

[チェックをはずす](#)[次のページへ](#)

博士課程の教育・研究と修了後の進路に関する調査

Q57 あなた自身は、所属されていた研究室が採択された拠点事業による資金を使用されましたか。使用された場合は、その内容を教えてください。

- 国内外での学会発表に要する費用
 海外での研究経験に要する費用
 あなた自身の研究に使用する費用(実験機材や書籍等)
 TAやRA
 その他
 使用していない

その他を選択された場合、具体的な内容をご記入ください(100字以内をお願いします)

チェックをはずす

Q58 あなたが使用された金額のおおよその総額を教えてください。

- 50万円未満
 50万円以上100万円未満
 100万円以上150万円未満
 150万円以上200万円未満
 200万円以上
 分からない

チェックをはずす

次のページへ

博士課程の教育・研究と修了後の進路に関する調査

研究活動の経済的支援

Q59 修士・博士課程では学費の免除を受けられましたか。

- 受けた
 受けなかった
 分からない

チェックをはずす

次のページへ

博士課程の教育・研究と修了後の進路に関する調査

Q60
Q61

各課程において、学費のどの程度の割合の免除を受けられましたか。

<修士段階>

- 1/3未満 1/3以上2/3未満 2/3以上全額未満 全額 免除を受けていない

<博士段階>

- 1/3未満 1/3以上2/3未満 2/3以上全額未満 全額 免除を受けていない

チェックを必ずす

次のページへ

博士課程の教育・研究と修了後の進路に関する調査

Q62 修士・博士課程に進学し課程を継続するために利用した資金種別を全てお選びください。
 Q63 複数利用された場合は、主要な資金種別についてもお答えください。

	利用した資金種別 複数選択	最も主要な 資金種別	2番目に主要な 資金種別
フェローシップ	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
奨学金(返済義務有)	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
奨学金(返済義務無)	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
TA	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
RA	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
インターンシップ	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
借入金	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
あなた自身の個人資金	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
課程中の上記以外の所得 (アルバイト等)	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
家族の援助	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
雇主の負担	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
日本以外の国からの支援	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
日本学術振興会からの支援	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
その他	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

その他を選択された場合、具体的な内容をご記入ください(100字以内でお願いします)

最も主要な資金種別の
チェックを必ず

2番目に主要な資金種別の
チェックを必ず

Q64 あなたが博士課程を修了した時に、学士および修士・博士課程在籍にかかると借入金がありますか。学生支援機構等
 Q65 からの貸与などの借入金がある場合、その金額を教えてください。

<学士課程>

- 100万円未満 100万円以上200万円未満 200万円以上300万円未満
 300万円以上400万円未満 400万円以上500万円未満 500万円以上
 借入金はない

<修士・博士課程>

- 100万円未満 100万円以上200万円未満 200万円以上300万円未満
 300万円以上400万円未満 400万円以上500万円未満 500万円以上
 借入金はない

チェックを必ず

次のページへ

博士課程の教育・研究と修了後の進路に関する調査

大学院の修学に対する意識・認識

Q66 あなたが博士課程に進学しようとした時期に当てはまる選択肢をお選びください。

- 大学学部/高等専門学校 入学以前
- 大学学部/高等専門学校在籍中
- 大学院修士課程在籍中
- 大学院修士課程修了後
- その他

その他を選択された場合、具体的な内容をご記入ください(100字以内をお願いします)

チェックをはずす

Q67 あなたが今年度修了した(見込みを含む)博士課程に進学した理由として、最も良く当てはまる選択肢と、2番目に良く当てはまる選択肢をお選びください。

	理由	最も当てはまるもの	2番目に当てはまるもの
専門をさらに深めたい	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>
新たな知識の発見を通じて社会に貢献したい	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>
大学の教員や研究者として働きたい	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>
就職する時期を先に延ばしたい	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>
博士号を取得したい	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>
専門的な人的ネットワークを広げたい	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>
国際的な業務には博士課程での修学が必要と感じた	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>
就職先での昇進や昇給が期待される	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>
その他	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>

その他を選択された場合、具体的な内容をご記入ください(100字以内をお願いします)

最も当てはまるもの
チェックをはずす

2番目に当てはまるもの
チェックをはずす

Q68 博士課程に進学を決めた時に懸念された事項として、最も良く当てはまる選択肢と、2番目に良く当てはまる選択肢をお選びください。

	理由	最も当てはまるもの	2番目に当てはまるもの
博士課程在籍中の経済的状況(生活費や学費)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>
博士課程修了後の就職状況	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>
博士課程での不透明な修学プロセス	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>
博士号の取得可能性	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>
自身の能力や資質	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>
指導教員との関係	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>
ワークライフバランス	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>
業務と修学との調整	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>
その他	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>

その他を選択された場合、具体的な内容をご記入ください(100字以内をお願いします)

最も当てはまるもの
チェックをはずす

2番目に当てはまるもの
チェックをはずす

次のページへ

博士課程の教育・研究と修了後の進路に関する調査

Q69 あなたが博士課程を修了するために必要な要件を知ったのはいつですか。以下の2つの要件について最も該当するものを1つお選びください。

<投稿論文数、投稿先学術誌等>

- 博士課程進学以前
 博士課程進学後1ヶ月以内
 博士課程進学後1ヶ月以降3ヶ月以内
 博士課程進学後3ヶ月以降半年以内
 博士課程進学後半年以降
 修了要件を知った時期を覚えていない
 修了要件は現在でも分からない
 その他

その他を選択された場合、具体的な内容をご記入ください(100字以内でお願いします)

<取得単位数>

- 博士課程進学以前
 博士課程進学後1ヶ月以内
 博士課程進学後1ヶ月以降3ヶ月以内
 博士課程進学後3ヶ月以降半年以内
 博士課程進学後半年以降
 修了要件を知った時期を覚えていない
 修了要件は現在でも分からない
 その他

その他を選択された場合、具体的な内容をご記入ください(100字以内でお願いします)

チェックをはずす

次のページへ

博士課程の教育・研究と修了後の進路に関する調査

Q70 あなたは博士課程を修了するために必要な要件を何を通して知りましたか。最も当てはまるものを1つお選びください。当てはまる選択肢が複数の場合は、主要な物を1つ選んで下さい。

- 大学からの配布物・ホームページ
 指導教員
 大学での授業・説明会
 大学の先輩、OB・OG
 その他

その他を選択された場合、具体的な内容をご記入ください(100字以内でお願いします)

チェックをはずす

次のページへ

博士課程の教育・研究と修了後の進路に関する調査

Q71 あなたの所属する専攻では学位論文の審査が厳正に行われていたと思いますか。
また、そのように思う理由について記載下さい。

- 強くそう思う そう思う どちらとも言えない
 そう思わない 全くそう思わない よく分からない

理由について具体的にご記入ください(100字以内をお願いします)

チェックをはずす

次のページへ

博士課程の教育・研究と修了後の進路に関する調査

Q72 大学院での修学に関して、良かった点・不満点を修士課程在籍時、博士課程在籍時の別にご全てお選びください。

<大学院修学を通じて良かった点>

	修士課程	博士課程
専門的知識・能力を身につけた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
論理的思考力・問題解決力など汎用的知識・能力を身につけた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
コミュニケーション力など対人能力を身につけた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
研究・学問的満足感を得た	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
知人や友人など人脈形成に役立った	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
就職に必要もしくは有利だった	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
学位を取得した(修士号・博士号)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
その他	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

その他を選択された場合、具体的な内容をご記入ください(100字以内をお願いします)

<大学院修学を通じて不満だった点>

	修士課程	博士課程
授業など教育内容が不満だった	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
指導教員やその他関係する教員の指導が不十分だった	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
外部との接点が少なく閉鎖的であった	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
就職に関するサポートが不十分だった	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
経済的支援の内容が不十分だった	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
進学時の期待が満足されなかった	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
自分自身の問題や反省点が多かった	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
その他	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

その他を選択された場合、具体的な内容をご記入ください(100字以内をお願いします)

Q73 大学院での修学はあなたにとって価値があると思いますか。該当する選択肢を1つお選びください。

	強くそう思う	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	全くそう思わない	よくわからない
授業や論文指導など提供されたサービス自体として	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
自分自身の身についたものとして	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
10年後の将来において	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

チェックをはずす

次のページへ

博士課程の教育・研究と修了後の進路に関する調査

Q74 博士課程在籍時、あなたは自身の研究、就職活動や将来の進路に対して有益な影響を受けた方がいる場合、それはどのような組織に所属する方ですか。それぞれの項目に対して該当する方をお選びください。
※コミュニケーションの頻度や人数などは問いません。

	自身の研究	就職活動	将来の進路
あなたが所属する研究室の方	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
あなたが所属する研究室とは異なるが、同じ専攻に所属する方	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
あなたが所属する専攻とは異なるが同じ研究科に所属する方	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
あなたが所属する研究科とは異なるが同じ大学に所属する方	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
あなたが所属する大学とは異なる大学に所属する方	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
民間企業や公的研究機関に所属する方	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
その他	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

その他を選んだ場合、影響を受けた方の所属の属性を記載下さい(例:病院、財団法人など)。
(100字以内でお願いします)

Q75 あなたの博士課程での主たる指導教員の教育・研究指導に対する評価をお選びください。
差し支えなければ、その理由を簡潔に記述して下さい。

- 高く評価する
- どちらかという評価する
- どちらとも言えない
- どちらかという評価しない
- 全く評価しない
- その他

理由について具体的にご記入ください(100字以内でお願いします)

チェックをはずす

Q76 あなたは、主たる指導教員との間に対立や軋轢はありましたか。対立や軋轢があった場合は、その内容と対処法を簡潔に記述下さい。
※ ここでの対立や軋轢とは、例えば研究結果の解釈等の食い違いではなく、双方の研究・教育指導に対する姿勢や態度の違いから指導の継続を困難にするような対立を指します。

- あった なかった

対立や軋轢があった場合は、その内容と対処法をを記入ください(100字以内でお願いします)

チェックをはずす

次のページへ

博士課程の教育・研究と修了後の進路に関する調査

Q77 あなたは主に修士課程で履修した授業と研究との関係をどのように捉えていましたか。該当する選択肢を1つお選びください。

研究よりも授業に重きを置くべきだ
 授業よりも研究に重きを置くべきだ
 授業と研究はどちらも重視されるべきだ
 よく分からない
 その他
 その他を選択された場合、具体的な内容をご記入ください(100字以内でお願いします)

チェックをはずす

Q78 あなたが修士・博士課程で履修した授業のうち、あなたが履修して良かったと思えた授業の割合はどの程度ありますか。該当する選択肢を1つお選びください。

1割未満
 1割以上3割未満
 3割以上6割未満
 6割以上9割未満
 9割以上

チェックをはずす

Q79 あなたが履修して良かったと思える授業はどのような内容を含んでいましたか。該当する選択肢を全てお選びください。

専門分野の知的好奇心を満足させる内容
 専門分野を継続して学ぶ意欲をかき立てる内容
 専門領域を超えて幅広い視野を得られる内容
 最先端の研究内容
 コミュニケーションスキルなど汎用性の高い内容
 その他
 その他を選択された場合、具体的な内容をご記入ください(100字以内でお願いします)

Q80 大学院での修学を通じて、あなたは次のような能力がどの程度身についたと思いますか。該当する選択肢を1つお選びください。

	十分に身についた	ある程度までは身についた	あまり身につかなかった	身につかなかった	その他
自身や他者の発見を批判的に評価できる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
自身の研究を専門分野の知識体系に位置づけることができる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
専門分野の議論を批判的に理解し自身の仮説を明確に表現する	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

その他を選択された場合、具体的な内容をご記入ください(100字以内でお願いします)

チェックをはずす

次のページへ

博士課程の教育・研究と修了後の進路に関する調査

Q81 **必須** あなたの性別をお選びください。

男

女

Q82 あなたのご結婚の状態に該当するものをお選びください。

結婚している(同居)

結婚している(別居)

結婚していない

チェックをはずす

Q83 あなたが扶養されている家族(子供と、配偶者以外の大人の双方を含む)はいらっしゃいますか。

いる

いない

チェックをはずす

次のページへ

博士課程の教育・研究と修了後の進路に関する調査

Q84 扶養家族が居る場合、扶養家族の年齢別の人数を教えてください。

5歳以下: 人

6歳以上18歳以下: 人

19歳以上: 人

次のページへ

博士課程の教育・研究と修了後の進路に関する調査

Q85 **必須** あなたの国籍を教えてください。

大分類: 国籍:

Q86 **必須** あなたの生年を教えてください。

年

次のページへ

博士課程の教育・研究と修了後の進路に関する調査

就職活動・進路選択

Q87 必須 あなたは博士課程在籍中に、課程修了後の進路や職に就くための活動(以降、就職活動)をされた経験はありますか。

- ある ない

[次のページへ](#)

博士課程の教育・研究と修了後の進路に関する調査

Q88 必須 博士課程進学に至るまでに社会人としての勤務経験をお持ちですか。勤務経験をお持ちの場合はその期間に該当する選択肢を1つお選びください。また、博士課程修了後は、現在の職の継続や復職を予定されていますか。

※「社会人としての勤務経験」とは経常的な収入を目的とする仕事に就くことであり、アルバイトやパート等の臨時的な収入を目的に仕事に就くことは含みません。

<社会人としての勤務経験>

- 1年未満 1年以上3年未満 3年以上5年未満
 5年以上 なし

<博士課程修了後の予定>

- 現在の職の継続・復職を予定している 継続・復職する予定の職はない

[次のページへ](#)

博士課程の教育・研究と修了後の進路に関する調査

設問2.博士課程修了後の予定

Q89 必須 あなたの博士課程修了後のご予定に当てはまる選択肢を1つお選びください。

アンケート回答時点でのご予定をご記入ください

留学生のかたで、帰国をご予定されている場合は帰国後のご予定についてご記入ください
 社会人学生の方で、博士課程修了後も現在のご所属に勤務されるご予定の場合は「就職予定」をお選びください
 論文提出による博士号取得(論文博士)をご予定の方で、ご勤務されている方は「就職予定」をお選びください

- 就職予定
 就職の予定はない
 現在就職活動中
 今後就職活動を行う予定
 今後就職活動を行う予定はない

[次のページへ](#)

博士課程の教育・研究と修了後の進路に関する調査

Q90 必須 就職活動期間中、あなたは**日本国内**の機関への応募をされましたか。機関別に該当する選択肢を1つお選びください。

	応募した	応募していない
教育機関(大学、大学共同利用機関、高専・短大)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
教育機関(幼稚園、養護学校、小・中・高等学校)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
教育機関(その他)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
公的研究機関	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
民間企業(外国法人および日本企業の外国法人を除く)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
官公庁	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
公益法人(社団法人、財団法人、医療法人、NPO法人等)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
その他	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q91 必須 就職活動期間中、あなたは**日本国外**の機関への応募をされましたか。機関別に該当する選択肢を1つお選びください。

	応募した	応募していない
教育機関(大学相当、付属病院を含む)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
教育機関(その他)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
公的研究機関	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
民間企業(外国法人および日本企業の海外法人)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
官公庁	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
公益法人(社団法人、財団法人、医療法人、NPO法人等)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
その他	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

[次のページへ](#)

博士課程の教育・研究と修了後の進路に関する調査

Q92 必須 あなたの2011年9月以降の進路に当てはまるものを一つお選びください。複数機関で勤務される場合は、最も勤務時間が長いものをお選びください。

<就職先が日本国内の場合>

- 教育機関(国立大学法人、附属病院を含む)
- 教育機関(公立大学、付属病院を含む)
- 教育機関(私立大学、付属病院を含む)
- 教育機関(大学共同利用機関)
- 教育機関(高専・短大)
- 教育機関(幼稚園、養護学校、小・中・高等学校)
- 教育機関(その他)
- 公的研究機関
- 民間企業(外国法人および日本企業の外国法人を除く)
- 官公庁
- 公益法人(社団法人、財団法人、医療法人、NPO法人等)
- その他

<就職先が日本国外の場合>

- 教育機関(大学相当、附属病院を含む)
- 教育機関(その他)
- 公的研究機関
- 民間企業(外国法人および日本企業の外国法人)
- 官公庁
- 公益法人
- その他

[次のページへ](#)

博士課程の教育・研究と修了後の進路に関する調査

Q93
必須

あなたの就職予定先の所属(詳細)に最も当てはまるものを1つお選びください。

- | | | |
|----------------------------------|-------------------------------------|------------------------------------|
| <input type="radio"/> 農業 | <input type="radio"/> 漁業 | <input type="radio"/> 鉱業、採石業・砂利採取業 |
| <input type="radio"/> 建設業 | <input type="radio"/> 電気・ガス・熱供給・水道業 | <input type="radio"/> 情報通信業 |
| <input type="radio"/> 食料品、飲料・たばこ | <input type="radio"/> パルプ・紙 | <input type="radio"/> 医薬品・化粧品 |
| <input type="radio"/> 化学その他 | <input type="radio"/> 石油製品 | <input type="radio"/> ゴム・プラスチック |
| <input type="radio"/> 鉄鋼 | <input type="radio"/> 非鉄金属 | <input type="radio"/> 金属製品 |
| <input type="radio"/> 業務用機械器具 | <input type="radio"/> 電子部品・デバイス | <input type="radio"/> 輸送用機械器具 |
| <input type="radio"/> 情報通信機器 | <input type="radio"/> 電気機械器具 | <input type="radio"/> その他製造業 |
| <input type="radio"/> 金融業・保険業 | <input type="radio"/> 輸業・郵便業 | <input type="radio"/> 教育・学習支援業 |
| <input type="radio"/> 医療・福祉 | <input type="radio"/> 生活関連サービス業・娯楽業 | <input type="radio"/> 複合サービス事業 |
| <input type="radio"/> その他 | | |

[次のページへ](#)

博士課程の教育・研究と修了後の進路に関する調査

Q94
必須

就職予定先でのあなたの職種に最も当てはまるものを1つお選びください。

- 選択 -

- ※1 教育関係職
 - 幼稚園、養護学校、小・中・高等学校の教員
 - 塾・予備校講師、カウンセラーなど
 ※2 上記以外の専門知識を要する職：弁護士、弁理士、公認会計士、産学連携コーディネーター等
 ※3 その他：公務員、企業事務職、営業職、事務職など

Q95

就職予定先での勤務形態をお選びください。

- 常勤 非常勤

[チェックをはずす](#)

Q96

就職予定先での勤務任期の有無をお選びください。

- 任期あり 任期なし

[チェックをはずす](#)[次のページへ](#)

博士課程の教育・研究と修了後の進路に関する調査

Q97 博士課程での教育・研究の現状や、課程修了後の就職や待遇などに関する意見がありましたら記載ください(400字以内でお願いします)

次のページへ

博士課程の教育・研究と修了後の進路に関する調査

Q98 今後、本調査研究でいただいた回答に関するご連絡を差し上げてもよろしいでしょうか。

はい

いいえ

チェックをはずす

次のページへ

博士課程の教育・研究と修了後の進路に関する調査

Q99 差しつかえなければ、ご連絡を差し上げる際のメールアドレス(博士課程修了後もご使用のメールアドレス)を記載ください。

次のページへ

博士課程の教育・研究と修了後の進路に関する調査

Q100 お手数ではございますがその理由を教えてください。

- 問い合わせへの対応が手間・面倒
- 調査内容に関心がない
- 調査に協力するメリット(謝金等)がない
- 調査に協力する必要・義務がない
- その他

[次のページへ](#)

博士課程の教育・研究と修了後の進路に関する調査

Q101 今後、博士課程修了者に関する継続的な調査を実施する際に、ご連絡を差し上げてもよろしいでしょうか。

- はい
- いいえ

[チェックをはずす](#)

[次のページへ](#)

博士課程の教育・研究と修了後の進路に関する調査

Q102 差しつかえなければ、ご連絡を差し上げる際のメールアドレス(博士課程修了後にもご使用のメールアドレス)をご記載ください。

[次のページへ](#)

博士課程の教育・研究と修了後の進路に関する調査

ご回答いただいたデータを受け付けました。

アンケート調査は以上です。

お忙しい中、ご協力いただきありがとうございました。

プルダウン設問の選択肢一覧

設問番号	設問および選択肢	
Q1	課程を開始した年	
	2000年以前	2007年
	2001年	2008年
	2002年	2009年
	2003年	2010年
	2004年	2011年
	2005年	上記以外
	2006年	
Q1.8.15	課程を開始した月	
	1月	17月
	2月	18月
	3月	19月
	4月	10月
	5月	11月
	6月	12月
Q2	課程を修了した年(見込みを含む)	
	2011年	2012年
Q2.9.16	課程を修了した月(見込みを含む)	
	2011年4月	10月
	5月	11月
	6月	12月
	7月	1月
	8月	2月
	9月	3月
	Q4.11.18	学位を取得した機関名(50音)
		あ行
か行		ま行
さ行		や行
た行		ら行
な行		わ行
設問番号	設問および選択肢	
Q4.11.18	学位を取得した機関	
	岩手大学	東京大学
	愛媛大学	東京医科大学
	大阪大学	東京医科歯科大学
	大阪市立大学	東京工業大学
	大阪府立大学	東京農工大学
	岡山大学	東京理科大学
	お茶の水女子大学	同志社大学
	鹿児島大学	東北大学
	金沢大学	徳島大学
	関西学院大学	鳥取大学
	北里大学	富山大学
	岐阜大学	長崎大学
	九州大学	名古屋大学
	九州工業大学	名古屋市立大学
	京都大学	奈良先端科学技術大学院大学
	京都府立医科大学	新潟大学
	熊本大学	日本大学
	群馬大学	一橋大学
	慶應義塾大学	広島大学
	神戸大学	福井大学
	埼玉大学	北陸先端科学技術大学院大学
	順天堂大学	北海道大学
	上智大学	三重大学
	昭和大学	明治大学
	信州大学	山形大学
	総合研究大学院大学	横浜国立大学
	千葉大学	横浜市立大学
	中央大学	立命館大学
	筑波大学	早稲田大学
	東海大学	
	Q5	学位を取得した機関の研究科等
		Q4の個別大学に紐づいて選択肢を表示

設問番号	設問および選択肢				
Q6.13.20	学んだ分野(大分類)に最も当てはまるもの				
	理学 工学 農学 保健				
	人文 社会 その他				
	学んだ分野(中分類)に最も当てはまるもの				
	数学 物理 化学 生物 地学 その他理学 機械・船舶 電気・通信 土木・建築 応用化学 応用物理 原子力 材料 繊維 航空 経営工学 その他工学 農学 農芸化学 農業工学 農業経済				
	林学 獣医・畜産 水産 その他農学 医学 歯学 薬学 看護 その他保健 文学 史学 哲学 その他人文 法学・政治 商学・経済 社会学 その他社会 家政 教育 芸術・その他				
	Q8.15	課程を開始した年			
		1980年以前 1981年 1982年 1983年 1984年 1985年 1986年 1987年 1988年 1989年 1990年 1991年 1992年 1993年 1994年 1995年			
		1996年 1997年 1998年 1999年 2000年 2001年 2002年 2003年 2004年 2005年 2006年 2007年 2008年 2009年 2010年			
		設問番号	設問および選択肢		
		Q9.16	課程を修了した年(見込みを含む)		
			1980年以前 1981年 1982年 1983年 1984年 1985年 1986年 1987年 1988年 1989年 1990年 1991年 1992年 1993年 1994年 1995年		
			1996年 1997年 1998年 1999年 2000年 2001年 2002年 2003年 2004年 2005年 2006年 2007年 2008年 2009年 2010年		
			Q10.17	学位を取得した機関の所在国(大分類)	
				日本 北・中・南米 欧州	
				アジア(中東を含む) オセアニア アフリカ	
				学位を取得した機関の所在国	
				日本 アメリカ合衆国 カナダ ブラジル 北・中・南米 その他 英国 フランス ドイツ ロシア 欧州 その他 中国 韓国 タイ	
				インドネシア ベトナム シンガラデシュ インド フィリピン マレーシア アジア(中東を含む) その他 オーストラリア オセアニア その他 エジプト ケニア アフリカ その他	
				Q12	学位を取得した機関の研究科等
					Q12の個別大学に紐づいて選択肢を表示

設問番号	設問および選択肢	
Q19	学位を取得した機関の研究科等	
	人文科学	工学
	社会科学	農学
	理学	保健
	商船	家政
	教育 芸術	その他
Q29	博士論文の作成を指導した教員の人数(日常的な指導、論文審査のみ)	
	0名	4名
	1名	5名以上
	2名	不明
	3名	
Q32	博士論文の作成を日常的に指導した教員のうち論文審査をした教員数	
	0名	4名
	1名	5名以上
	2名	不明
	3名	
Q34	指導形式ごとの指導頻度	
	1週間に2回以上	3ヶ月に1回以下から半年に2回以上
	1週間に1回以下から1ヶ月に2回以上	半年に1回以下
	1ヶ月に1回以下から3ヶ月に2回以上	
Q38	所属していた研究室の構成人数(一般学生、社会人学生、留学生)	
	0名	6名
	1名	7名
	2名	8名
	3名	9名
	4名	10名以上
Q38	所属していた研究室の構成人数(教授、准教授、講師、助教)	
	0名	3名以上
	1名	不明
	2名	
Q43,44	国内外の学会発表数のうち修士での回数	
	0回	3回
	1回	4回
	2回	5回以上
Q45,46	修士課程・博士課程在籍時に発表した論文の本数	
	0本	3本
	1本	4本
	2本	5本以上

設問番号	設問および選択肢	
Q52	インターンシップへ参加した機関種別	
	教育機関	国際機関
	民間企業	NPO
	公的研究機関	その他
Q84	扶養家族の年齢別の人数	
	0人	13人
	1人	14人
	2人	15人以上
Q85	国籍(大分類)	
	日本	アジア(中東を含む)
	北・中・南米	オセアニア
	欧州	アフリカ
	国籍	
	日本	インドネシア
	アメリカ合衆国	ベトナム
	カナダ	パングラデシュ
	ブラジル	インド
	北・中・南米 その他	フィリピン
	英国	マレーシア
	フランス	アジア その他
	ドイツ	オーストラリア
	ロシア	オセアニア その他
	欧州 その他	エジプト
	中国	ケニア
	韓国	アフリカ その他
タイ		
Q86	生年	
	1960年以前	1976年
	1961年	1977年
	1962年	1978年
	1963年	1979年
	1964年	1980年
	1965年	1981年
	1966年	1982年
	1967年	1983年
	1968年	1984年
	1969年	1985年
	1970年	1986年
	1971年	1987年
	1972年	1988年
	1973年	1989年
	1974年	1990年
	1975年	
Q94	就職予定先での職種に最も当てはまるもの	
	ポストドクター	医師、歯科医師、獣医師、薬剤師
	大学教員(専任)	上記以外の専門知識を要する職
	大学教員(その他)	その他の非研究・開発職
	上記以外の研究・開発職	研究・開発職(ポストドクターを除く)
	教育関係職	

参考資料 6 質問票(英語)

博士課程の教育・研究と修了後の進路に関する調査

ご回答される言語をお選びください
(Please choose language for your answer)

日本語
(Japanese)

英語
(English)

Request for survey on education, research, and post-graduation plans of doctorates.

1st Policy-Oriented Research Group
National Institute of Science and Technology Policy,
Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology

Responding to the survey

This is a survey to ask doctorates who have completed or will complete doctoral program at graduate school in Japan between April and September 2011 about their educational and research experiences during their doctoral program and their future plans.

The information obtained from this survey will be used to support improvements in the education and research of doctoral programs, to raise greater consciousness and awareness of faculty, and to support the post-graduate plans and careers of future doctoral students. All information you provide is protected and personal information will be kept confidential. It is used only for research or statistical purposes by your doctoral institution, the survey sponsors, their contractors and collaborating researchers for the purpose of analyzing data, preparing scientific reports and articles and selecting samples for a limited number of carefully defined follow-up studies.

This survey includes many questions which answers can only be obtained by directly asking. We truly hope for your cooperation with the survey.

Notes on responding to the survey

- The survey is for doctorates who have completed or will complete their doctoral course between April and September 2011. In particular, this refers to the following people:
 - ◇ Doctorates who have completed or will complete their course between April and September 2011 with degree
 - ◇ Doctorates who have completed or will complete their course between April and September 2011 without degree
- Professional Graduate School students are not eligible to reply to the survey.
- Respondents who will obtain a doctorate by only submitting a dissertation may find it difficult to answer certain questions. Keep this in mind when answering questions and only answer questions that you can.
- The survey will take around 20-30 minutes to complete.
- The survey should be completed only once per person.
- **It is possible to return to the previous survey page by using the "back" button on your browser; however, previously provided responses may be lost.**
- **If you make any corrections, please click on the "next" button till reaching this page.**
 - * Your answer in the particular page will be saved only when "next" button is clicked on that page.

Inquiries

- Inquires regarding the purpose or content of this survey and the handling of data should be directed to the following:

1st Policy-Oriented Research Group, National Institute of Science and Technology Policy, Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology
Mr. Kanegae or Dr. Kato
E-mail: d-kyoiku@nistep.go.jp

- Inquires regarding the survey screens and how to answer questions should be submitted using the following form.

[Inquiry form](#)

(Contractor responsible for the survey: Survey Research Center Co., Ltd.)

■ Enter survey ID: <input type="text"/>
* Enter the 4-digit ID number for the particular university.
■ Enter the survey code: <input type="text"/>
* Enter the 5-digit survey code for the particular graduate school.
■ Enter your password (6-12 characters consisting of numbers and lower-case letters)
(1) If this is your first time to respond to the survey, please create a password.
(If you stopped responding midway, you can start where you left off by entering the previously set password in (2).)
Create password: <input type="text"/>
* Reenter password <input type="text"/> <input type="button" value="NEXT"/>
Please check one of the following boxes to clarify the nature of your doctorate:
<input type="radio"/> Doctorates after completing the course of study
<input type="radio"/> Dissertation-only doctorate
(2) Enter your password to continue the survey that you started previously:
Password: <input type="text"/> <input type="button" value="NEXT"/>

- This password is for continuing a survey that you started previously.
- Inquires regarding forgotten passwords are not handled in order to protect personal information. To continue a survey previously started, you should confirm and store your password.

* Recommended browsers: Internet Explorer 8 or Firefox 3 or later.

* If using another browser than the recommended ones, items may appear slightly different.

Survey on education, research, and post-graduation plans of doctorates

Setting confirmation screen

Please confirm that there are no mistakes in the following contents and continue to respond to the survey

* Please keep the password in a safe place and make sure that you do not forget the password until the end of the survey

Print screen

■ Survey ID	1001
■ Survey code	51381
■ password	testdata02
■ Response classification	Applies to the completion of the doctor's course

Resetting a new password

NEXT

Progress 1 / 47 Page

Survey on education, research, and post-graduation plans of doctorates

Situation of degrees you have received

Q1~Q21 The next few questions ask about the degrees you have received. Please provide the following information for this doctoral degree, your most recent master's degree and your first bachelor's degree in the appropriate columns below.

Question	Doctoral program	Master's program * If you graduated from a faculty requiring 6 years, such as medicine and dentistry, it is not needed to fill in a questionnaire about master's course.	Bachelor's program
Month / year that you started your degree	Required [-Select-] Year [-Select-] Month * Dissertation-only doctorate students, please select "Other"	[-Select-] Year [-Select-] Month	[-Select-] Year [-Select-] Month
Month / year degree granted	Required [2011] Year [-Select-] Month	[-Select-] Year [-Select-] Month	[-Select-] Year [-Select-] Month
Country where the institution from which you obtained your degree located	Japan <input type="checkbox"/> Same as master's program <input type="checkbox"/> Same as undergraduate program	Region: [-Select-] Country: [-Select-]	Region: [-Select-] Country: [-Select-]
Institution name	Required Institution's name (a~z): [-F-J] Institution: [teate University] <input type="checkbox"/> Same as master's program <input type="checkbox"/> Same as undergraduate program	Institution's name (a~z): [-Select-] Institution: [-Select-] Not in above options: <input type="checkbox"/> Other []	Institution's name (a~z): [-Select-] Institution: [-Select-] Not in above options: <input type="checkbox"/> Other []
School/Department	Required School: [-Select-] Not in above options: <input type="checkbox"/> Other [] <input type="checkbox"/> Same as master's program	School: [-Select-] Not in above options: <input type="checkbox"/> Other []	Faculty / department: [-Select-] Not in above options: <input type="checkbox"/> Other []
Primary field of study	Required Subject field (main category): [-Select-] Subject field (subcategory): [-Select-] <input type="checkbox"/> Same as master's program <input type="checkbox"/> Same as undergraduate program	Subject field (main category): [-Select-] Subject field (subcategory): [-Select-]	Subject field (main category): [-Select-] Subject field (subcategory): [-Select-]
Did you take a leave of absence during the program? If yes, please provide the number of years	Required <input type="radio"/> Did not take any leave of absences <input type="radio"/> Under one year <input type="radio"/> One year to under two years <input type="radio"/> Two years to under three years <input type="radio"/> Three years or more	<input type="radio"/> Did not take any leave of absences <input type="radio"/> Under one year <input type="radio"/> One year to under two years <input type="radio"/> Two years to under three years <input type="radio"/> Three years or more	<input type="radio"/> Did not take any leave of absences <input type="radio"/> Under one year <input type="radio"/> One year to under two years <input type="radio"/> Two years to under three years <input type="radio"/> Three years or more

NEXT

Survey on education, research, and post-graduation plans of doctorates

Q22
Required What was(is) your type of studentship during the doctoral program?

A "Mid-career student" refers to a person working for the sake of a regular income as well as a retiree and a homemaker. An "International student" refers to a student from another country who has come to Japan for the purpose of study.

- Student in general (excluding mid-career student / international student)
 Mid-career student
 International student subsidized by the Japanese government
 International student subsidized by another government
 International student self-financed

Q23
Required By the end of **September 2011**, will you have received a doctoral degree?

- Yes (including those expecting to receive their degree)
 No

NEXT

Survey on education, research, and post-graduation plans of doctorates

Q24 If you finish your program without obtaining a doctoral degree (or expect to do so), please select the reasons that best explains why this happened. (Please select no more than two reasons.)

- Found work
 Passed the maximum duration of the course
 Financial difficulties
 Busy with work / housework / other things outside of the program
 Health reasons
 Family reasons, e.g. raising children, looking after sick / aged relatives
 Loss of interest in the subject being studied
 Difficulties in fulfilling the program requirements
 Lack of guidance
 Other

If you selected "other", please provide the details (up to 60 words)

NEXT

Survey on education, research, and post-graduation plans of doctorates

Research and education up to writing of your doctoral dissertation.

Q25	Please select the fields of your doctoral dissertation. If there are multiple fields, please select all that apply * "Doctoral dissertation" refers to the content of your dissertation, not its title.																																																
<table border="1"> <thead> <tr> <th>Subject field (main category)</th> <th colspan="5">Subject field (subcategory)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Science</td> <td><input type="checkbox"/> Mathematics <input type="checkbox"/> Other field</td> <td><input type="checkbox"/> Physics</td> <td><input type="checkbox"/> Chemistry</td> <td><input type="checkbox"/> Biology</td> <td><input type="checkbox"/> Geology</td> </tr> <tr> <td>Engineering</td> <td><input type="checkbox"/> Mechanical / marine engineering <input type="checkbox"/> Nuclear energy <input type="checkbox"/> Other field</td> <td><input type="checkbox"/> Electrical engineering / communications <input type="checkbox"/> Materials</td> <td><input type="checkbox"/> Civil engineering/ architecture <input type="checkbox"/> Textiles</td> <td><input type="checkbox"/> Applied chemistry <input type="checkbox"/> Aeronautics</td> <td><input type="checkbox"/> Applied physics <input type="checkbox"/> Administrative engineering</td> </tr> <tr> <td>Agricultural sciences</td> <td><input type="checkbox"/> Agriculture <input type="checkbox"/> Veterinary science / stock breeding</td> <td><input type="checkbox"/> Agricultural chemistry <input type="checkbox"/> Fisheries</td> <td><input type="checkbox"/> Agricultural engineering <input type="checkbox"/> Other field</td> <td><input type="checkbox"/> Agronomy</td> <td><input type="checkbox"/> Forestry</td> </tr> <tr> <td>Health</td> <td><input type="checkbox"/> Medicine</td> <td><input type="checkbox"/> Dentistry</td> <td><input type="checkbox"/> Pharmacology</td> <td><input type="checkbox"/> Nursing</td> <td><input type="checkbox"/> Other field</td> </tr> <tr> <td>Humanities</td> <td><input type="checkbox"/> Literature</td> <td><input type="checkbox"/> History</td> <td><input type="checkbox"/> Philosophy</td> <td colspan="2"><input type="checkbox"/> Other field</td> </tr> <tr> <td>Social sciences</td> <td><input type="checkbox"/> Law / politics</td> <td><input type="checkbox"/> Commerce / economics</td> <td><input type="checkbox"/> Sociology</td> <td colspan="2"><input type="checkbox"/> Other</td> </tr> <tr> <td>Other sciences</td> <td><input type="checkbox"/> Household management</td> <td><input type="checkbox"/> Education</td> <td colspan="3"><input type="checkbox"/> Art / other field</td> </tr> </tbody> </table>		Subject field (main category)	Subject field (subcategory)					Science	<input type="checkbox"/> Mathematics <input type="checkbox"/> Other field	<input type="checkbox"/> Physics	<input type="checkbox"/> Chemistry	<input type="checkbox"/> Biology	<input type="checkbox"/> Geology	Engineering	<input type="checkbox"/> Mechanical / marine engineering <input type="checkbox"/> Nuclear energy <input type="checkbox"/> Other field	<input type="checkbox"/> Electrical engineering / communications <input type="checkbox"/> Materials	<input type="checkbox"/> Civil engineering/ architecture <input type="checkbox"/> Textiles	<input type="checkbox"/> Applied chemistry <input type="checkbox"/> Aeronautics	<input type="checkbox"/> Applied physics <input type="checkbox"/> Administrative engineering	Agricultural sciences	<input type="checkbox"/> Agriculture <input type="checkbox"/> Veterinary science / stock breeding	<input type="checkbox"/> Agricultural chemistry <input type="checkbox"/> Fisheries	<input type="checkbox"/> Agricultural engineering <input type="checkbox"/> Other field	<input type="checkbox"/> Agronomy	<input type="checkbox"/> Forestry	Health	<input type="checkbox"/> Medicine	<input type="checkbox"/> Dentistry	<input type="checkbox"/> Pharmacology	<input type="checkbox"/> Nursing	<input type="checkbox"/> Other field	Humanities	<input type="checkbox"/> Literature	<input type="checkbox"/> History	<input type="checkbox"/> Philosophy	<input type="checkbox"/> Other field		Social sciences	<input type="checkbox"/> Law / politics	<input type="checkbox"/> Commerce / economics	<input type="checkbox"/> Sociology	<input type="checkbox"/> Other		Other sciences	<input type="checkbox"/> Household management	<input type="checkbox"/> Education	<input type="checkbox"/> Art / other field		
Subject field (main category)	Subject field (subcategory)																																																
Science	<input type="checkbox"/> Mathematics <input type="checkbox"/> Other field	<input type="checkbox"/> Physics	<input type="checkbox"/> Chemistry	<input type="checkbox"/> Biology	<input type="checkbox"/> Geology																																												
Engineering	<input type="checkbox"/> Mechanical / marine engineering <input type="checkbox"/> Nuclear energy <input type="checkbox"/> Other field	<input type="checkbox"/> Electrical engineering / communications <input type="checkbox"/> Materials	<input type="checkbox"/> Civil engineering/ architecture <input type="checkbox"/> Textiles	<input type="checkbox"/> Applied chemistry <input type="checkbox"/> Aeronautics	<input type="checkbox"/> Applied physics <input type="checkbox"/> Administrative engineering																																												
Agricultural sciences	<input type="checkbox"/> Agriculture <input type="checkbox"/> Veterinary science / stock breeding	<input type="checkbox"/> Agricultural chemistry <input type="checkbox"/> Fisheries	<input type="checkbox"/> Agricultural engineering <input type="checkbox"/> Other field	<input type="checkbox"/> Agronomy	<input type="checkbox"/> Forestry																																												
Health	<input type="checkbox"/> Medicine	<input type="checkbox"/> Dentistry	<input type="checkbox"/> Pharmacology	<input type="checkbox"/> Nursing	<input type="checkbox"/> Other field																																												
Humanities	<input type="checkbox"/> Literature	<input type="checkbox"/> History	<input type="checkbox"/> Philosophy	<input type="checkbox"/> Other field																																													
Social sciences	<input type="checkbox"/> Law / politics	<input type="checkbox"/> Commerce / economics	<input type="checkbox"/> Sociology	<input type="checkbox"/> Other																																													
Other sciences	<input type="checkbox"/> Household management	<input type="checkbox"/> Education	<input type="checkbox"/> Art / other field																																														
Q26	How did you decide on the subject of doctoral dissertation? Please select the most appropriate answer to describe your experience. <input type="radio"/> Used the subject provided by your advisor as suggested <input type="radio"/> Added your own ideas and perspective to the issue or subject provided by your advisor <input type="radio"/> Decided based on your idea or interest after receiving suggestions and advice from your advisor <input type="radio"/> Decided on your own idea or interests without suggestions or advice from advisor <input type="radio"/> Other If you selected "other", please provide the details (up to 60 words) <input type="text"/> <input type="button" value="Uncheck"/>																																																
Q27	Was your choice of subject for your doctoral dissertation influenced by factors such as the research facilities/equipment or the subject of the research laboratory? Please select applicable response. * Research laboratory refers to the laboratory with the name of the faculty member or named by a faculty member. <input type="radio"/> Decision on subject not influenced by factors such as the research facilities/equipment or the subject of the research laboratory <input type="radio"/> Decision on subject influenced by factors such as the research facilities/equipment or the subject of the research laboratory (multiple answers possible) <input type="checkbox"/> Influenced by research facilities and equipment <input type="checkbox"/> Influenced by research subject or policy of the research laboratory <input type="checkbox"/> Influenced by other factors If you selected "influenced by other factors", please provide the details (up to 60 words) <input type="text"/> <input type="button" value="Uncheck"/>																																																
Q28	Around when did you and your advisor agree on the subject of doctoral dissertation? Please select the most appropriate answer. * "Agree on" refers to the stage where both you and your advisor understood the subject to a degree that it was possible to put it down in writing and submit to the responsible parties. <input type="radio"/> Before enrolling in the doctoral program <input type="radio"/> After enrolled in the doctoral program <input type="radio"/> Within one month <input type="radio"/> One month to three months of starting doctoral program <input type="radio"/> Three months to six months of starting doctoral program <input type="radio"/> Six months to one year of starting doctoral program <input type="radio"/> One year or more <input type="radio"/> No particular agreement upon the subject <input type="button" value="Uncheck"/>																																																
<input type="button" value="NEXT"/>																																																	

Survey on education, research, and post-graduation plans of doctorates

Q29~Q32 The following question is about faculty members who provided advice on **writing your doctoral dissertation**.
 (1) Please select the appropriate response regarding the faculty member(s) who provided regular advising.
 (2) Please select the applicable response for faculty member(s) who graded your dissertation, but who did not provide regular advising on writing your dissertation.

Question	(1) In regards to the faculty member who gave you daily advise on the writing of your dissertation	(2) In regards to the faculty member who graded your dissertation
----------	--	---

Q29	<Number of faculty members> [-Select-]	<Number of faculty members> [-Select-]
-----	--	--

Q30	(1) In regards to the faculty member who gave you daily advise on the writing of your dissertation			(2) In regards to the faculty member who graded your dissertation	
		Affiliation	principle advisers		Affiliation
	research laboratory you belong to	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	research laboratory you belong to	<input type="checkbox"/>
	Other research laboratory for your major/course	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	Other research laboratory for your major/course	<input type="checkbox"/>
	research laboratory for other major/course at your university	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	research laboratory for other major/course at your university	<input type="checkbox"/>
	research laboratory at other university	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	research laboratory at other university	<input type="checkbox"/>
	Private company/public research institute/above except)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	Private company/public research institute (above except)	<input type="checkbox"/>
	Other	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	Other	<input type="checkbox"/>

Q31	Subject field (main category)	Subject field (subcategory)			Subject field (main category):	Subject field (subcategory):		
		Science	<input type="checkbox"/> Mathematics	<input type="checkbox"/> Physics	<input type="checkbox"/> Chemistry	Science	<input type="checkbox"/> Mathematics	<input type="checkbox"/> Physics
		<input type="checkbox"/> Biology	<input type="checkbox"/> Geology	<input type="checkbox"/> Other field		<input type="checkbox"/> Biology	<input type="checkbox"/> Geology	<input type="checkbox"/> Other
	Engineering	<input type="checkbox"/> Mechanical / marine engineering	<input type="checkbox"/> Electrical engineering / communications	<input type="checkbox"/> Civil engineering / architecture	Engineering	<input type="checkbox"/> Mechanical / marine engineering	<input type="checkbox"/> Electrical engineering / communications	<input type="checkbox"/> Civil engineering / architecture
		<input type="checkbox"/> Applied chemistry	<input type="checkbox"/> Applied physics	<input type="checkbox"/> Nuclear energy		<input type="checkbox"/> Applied chemistry	<input type="checkbox"/> Applied physics	<input type="checkbox"/> Nuclear energy
		<input type="checkbox"/> Materials	<input type="checkbox"/> Textiles	<input type="checkbox"/> Aeronautics		<input type="checkbox"/> Materials	<input type="checkbox"/> Textiles	<input type="checkbox"/> Aeronautics
		<input type="checkbox"/> Administrative engineering	<input type="checkbox"/> Other field			<input type="checkbox"/> Administrative engineering	<input type="checkbox"/> Other field	
	Agricultural sciences	<input type="checkbox"/> Agriculture	<input type="checkbox"/> Agricultural chemistry	<input type="checkbox"/> Agricultural engineering	Agricultural sciences	<input type="checkbox"/> Agriculture	<input type="checkbox"/> Agricultural chemistry	<input type="checkbox"/> Agricultural engineering
		<input type="checkbox"/> Agronomy	<input type="checkbox"/> Forestry	<input type="checkbox"/> Veterinary science / stock breeding		<input type="checkbox"/> Agronomy	<input type="checkbox"/> Forestry	<input type="checkbox"/> Veterinary science / stock breeding
		<input type="checkbox"/> Fisheries	<input type="checkbox"/> Other field			<input type="checkbox"/> Fisheries	<input type="checkbox"/> Other field	
	Health	<input type="checkbox"/> Medicine	<input type="checkbox"/> Dentistry	<input type="checkbox"/> Pharmacology	Health	<input type="checkbox"/> Medicine	<input type="checkbox"/> Dentistry	<input type="checkbox"/> Pharmacology
		<input type="checkbox"/> Nursing	<input type="checkbox"/> Other field			<input type="checkbox"/> Nursing	<input type="checkbox"/> Other field	
	Humanities	<input type="checkbox"/> Literature	<input type="checkbox"/> History	<input type="checkbox"/> Philosophy	Humanities	<input type="checkbox"/> Literature	<input type="checkbox"/> History	<input type="checkbox"/> Philosophy
		<input type="checkbox"/> Other field				<input type="checkbox"/> Other field		
	Social sciences	<input type="checkbox"/> Law / politics	<input type="checkbox"/> Commerce / economics	<input type="checkbox"/> Sociology	Social sciences	<input type="checkbox"/> Law / politics	<input type="checkbox"/> Commerce / economics	<input type="checkbox"/> Sociology
		<input type="checkbox"/> Other				<input type="checkbox"/> Other		
	Other sciences	<input type="checkbox"/> Household management	<input type="checkbox"/> Education	<input type="checkbox"/> Art / other field	Other sciences	<input type="checkbox"/> Household management	<input type="checkbox"/> Education	<input type="checkbox"/> Art / other field
	<Specialty area of principle advisers> [-Select-]							

Q32	<Number of faculty members that provided regular advising on your dissertation and also judged your dissertation> [-Select-]
-----	--

Q33	How have you received advice in writing your dissertation? Please select all that apply.
Q34	How often did you receive each kind of advice? If you had multiple advisers, please take all the advice from them into account.

Type of advice	Frequency of advice
<input type="checkbox"/> Meeting, seminars, and briefings that various faculty members and students from multiple research laboratory attended where progress of research was reported on and guidance was provided	[-Select-]
<input type="checkbox"/> Colloquium was held by major/graduate school where progress of your research was reported on and guidance was provided	[-Select-]
<input type="checkbox"/> Gathering hosted by yourself where several instructors got together and progress of research was reported on and guidance was provided	[-Select-]
<input type="checkbox"/> Gathering hosted by yourself where you met with an advisor/multiple advisors separately and progress of research was reported on and guidance was provided	[-Select-]
<input type="checkbox"/> Other	[-Select-]

If you selected "other", please provide the details (up to 60 words)

Survey on education, research, and post-graduation plans of doctorates

Q35 What were the advantages and disadvantages of receiving advising on writing your doctoral dissertation from multiple advisors? Please select all applicable responses.

< Advantages >

- Able to learn various perspectives and approaches
- Have more advising due to increased number of advising opportunities
- Able to supplement research resources, such as gaining technical skills lacking in one's own research laboratory.
- Able to make progress on research with other faculty when things were not going well with main advisor
- Other

If you selected "other", please provide the details (up to 60 words)

< Disadvantages >

- Differences in policies and opinions between advisers caused confusion
- Guidance and advising from faculty in another field is not necessarily useful
- It was such a burden to coordinate or contact all the advisers
- There was no coordination between the advisers and lack of consideration, such as in adjusting the workload of students, made me feel burdened
- Other

If you selected "other", please provide the details (up to 60 words)

NEXT

Survey on education, research, and post-graduation plans of doctorates

Q36 Was there a system in which you were able to get advice on the writing of your dissertation from multiple faculty members such as the "multiple adviser system" in the major and graduate course you were affiliated with? Further, did you actually take advantage of this system? Please select one response that applies.

- Such a system existed
 - Such a system existed and was used
 - Had a positive impact on writing doctoral dissertation
 - Had no impact on writing doctoral dissertation
 - Had a negative impact on doctoral dissertation
 - Such a system existed and was not used
- Such a system did not exist
- Do not know

[Uncheck](#)

Q37 Did your main advisor support you getting advice from other faculty members and researchers when it was important for you to do so for writing your doctoral dissertation? Please select the single most appropriate response. *If advice from other faculty members was not necessary, please select "advice not necessary".

- Strongly supported
- Somewhat supported
- Cannot say either
- Somewhat against
- Strongly against

- Advice not necessary from other faculty members and researchers

[Uncheck](#)[NEXT](#)

Survey on education, research, and post-graduation plans of doctorates

Q38

How many master's or doctoral students (broken down by degree) and faculty members were there, as of April of this year, in the research laboratory that you belonged to during your doctoral program? If you did not belong to a laboratory or research laboratory, please select "did not belong to research laboratory".

* Please do not include yourself in the number.

* If there are more than one research laboratories you belonged to, please give answers regarding the main one.

* Research laboratory refers to the laboratory with the name of the faculty member or named by a faculty member.

Belonged to research laboratory

	Number of persons (master's course)	Number of persons (doctor's course)
Student in general	-Select-	-Select-
Mid-career student	-Select-	-Select-
International students	-Select-	-Select-

	Number of persons (faculty members)
Professor	-Select-
Associate professor	-Select-
Lecturer	-Select-
Assistant professor	-Select-

* Including special assignments, special appointments, etc.

Did not belong to research laboratory

Uncheck

NEXT

Survey on education, research, and post-graduation plans of doctorates

Q39

Within your major, were there any occasions where students can freely and voluntarily exchange their views or debate. If yes, please give the details of these occasions, including ideas, mechanisms or places they took place.

Yes

No

Please give the details (up to 60 words)

Uncheck

NEXT

Survey on education, research, and post-graduation plans of doctorates

Q40

What was your general research style when writing your doctoral dissertation? Please select the single most appropriate response.
* Please do not include the advisor as a member if you conducted a research with multiple people.

- Conducted most investigation and research by myself
- Tended to conduct investigation and research by myself
- Tended to conduct investigation, research and debate with multiple members
- Conducted most investigation, research and debate with multiple members
- Other

If you selected "other", please provide the details (up to 60 words)

[Uncheck](#)[NEXT](#)**Survey on education, research, and post-graduation plans of doctorates**

Q41

What type of members did you work with when conducting investigation and research? Please select all applicable responses.
* Please do not include the advisor as a member if you conducted a research with multiple people.

- Other members from your research laboratory
- Members from the same major but not from your research laboratory
- Members from the same graduate program but not in the same major
- Members from the same university but not in your graduate program
- Members from an different university
- Employee of private company or public research institute (excluding those who apply to the above)
- Other

If you selected "other", please provide the details (up to 60 words)

[NEXT](#)

Survey on education, research, and post-graduation plans of doctorates

Q42 Did you manage the process of writing your doctoral dissertation? If so, how did you manage it? Please select the single most appropriate response.

- Managed
 - Mainly you created the plan and you and your advisor managed the process
 - Mainly you created the plan and managed the process yourself
 - Mainly your advisor created the plan and you and your advisor managed the process together
 - Mainly your advisor created the plan and you managed the process yourself
 - Other

If you selected "other", please provide the details (up to 60 words)

- Not managed
- Other

Uncheck

NEXT

Survey on education, research, and post-graduation plans of doctorates

Q43 Q44 Please state the number of research conferences you have made presentations at as part of your master's / doctoral program, inside or outside of Japan.

< Japan >

- Never
- Once
- Twice
- Three times
- Four times
- Five or more times

(Number of master's included:)

< Overseas >

- Never
- Once
- Twice
- Three times
- Four times
- Five or more times

(Number of master's included:)

Uncheck

Q45 Q46 Please give the number of papers published by you during the period of your master's / doctoral course, and the languages they were written in, both peer reviewed or not-peer reviewed. (Please give the number as confirmable at the time of your answer.)

Peer reviewed:

Peer reviewed, in English:

Peer reviewed, lead author or equivalent:

Not peer reviewed:

Not peer reviewed, in English:

Not peer reviewed, lead author or equivalent:

NEXT

We request your cooperation with this survey on education, research, and post-graduation

Experiences during the doctoral program

Q47 Q48	<p>Did you conduct research outside of Japan during your doctoral program? If you conducted research outside of Japan, how long did you conduct the research and how did you select that particular location? If you conducted research overseas multiple times, please give the total length of time for all overseas research and how to select the place you have conducted the research.</p>
------------	--

Yes

< Period >	< Selection of location >
<input type="radio"/> Less than one month <input type="radio"/> One month or more but less than two months <input type="radio"/> Two months or more but less than three months <input type="radio"/> Three months or more but less than six months <input type="radio"/> Six months or more but less than one year <input type="radio"/> One year or more	<input type="radio"/> Found the location by yourself <input type="radio"/> Used your network of friends outside the research laboratory <input type="radio"/> Used the connections of the faculty and research laboratory <input type="radio"/> Decided based on university, program, etc. <input type="radio"/> Other <p>If you selected "other", please provide the details (up to 60 words)</p> <div style="border: 1px solid black; height: 20px; width: 100%;"></div>

No

Uncheck

NEXT

Survey on education, research, and post-graduation plans of doctorates

Q49 Q50	<p>Have you been on an internship during your master's / doctoral program?</p>
------------	--

< Master's level >

Once Twice Three times or more None

< Doctoral level >

Once Twice Three times or more None

Uncheck

NEXT

Survey on education, research, and post-graduation plans of doctorates

Q51 What sort of institution accepted you as an intern? Please select **all** that apply.

Please select "Educational institution", in the event that any of the following institution : university, inter-university research institute, technical college/two-year college, kindergarten, special support education schools, elementary, middle, or high school.

- Educational institution
- Private corporation
- Public research institution
- International institution
- NPO
- Other

If you selected "other", please provide the details (up to 60 words)

SQ51 Please select the option the closest to the nature of your intern at that institution.

- Observing working operations, talking to employees
- Individual tasks / performing work as a group
- Trial working experience (case studies, etc.)
- Actual work (research work in the laboratory, etc.)
- Other

Q52 Please select the length of time you were on the internship for and for what type of institution. If you have been on several internships, please answer in regard to the longest one.

< Period participated >

- | | | |
|--|--|---|
| <input type="radio"/> Under three days | <input type="radio"/> Three days to under one week | <input type="radio"/> One week to under two weeks |
| <input type="radio"/> Two weeks to under three weeks | <input type="radio"/> Three weeks to under one month | <input type="radio"/> One month to less than three months |
| <input type="radio"/> Three months to less than six months | <input type="radio"/> Six months or more | |

< Organization type >

Please select "Educational institution", in the event that any of the following institution : university, inter-university research institute, technical college/two-year college, kindergarten, special support education schools, elementary, middle, or high school.

Uncheck

NEXT

Survey on education, research, and post-graduation plans of doctorates

Q53 Please select the type of industry of the place where you did your internship. If you have more than one internship experiences, please select **all** that apply.

- | | | |
|---|--|---|
| <input type="checkbox"/> Agriculture | <input type="checkbox"/> Fisheries | <input type="checkbox"/> Mining and Quarrying of Stone and Gravel |
| <input type="checkbox"/> Construction | <input type="checkbox"/> Electricity, Gas, Heat Supply and Water | <input type="checkbox"/> Information and Communications |
| <input type="checkbox"/> Food, beverages, tobacco | <input type="checkbox"/> Pulp and Paper | <input type="checkbox"/> Medicine and Cosmetics |
| <input type="checkbox"/> Chemicals and other | <input type="checkbox"/> Petroleum products | <input type="checkbox"/> Rubber and Plastics |
| <input type="checkbox"/> Iron and Steel | <input type="checkbox"/> Non-ferrous metal | <input type="checkbox"/> Fabricated metal |
| <input type="checkbox"/> Industry machinery and equipment | <input type="checkbox"/> Electronic parts and devices | <input type="checkbox"/> Transportation machinery and equipment |
| <input type="checkbox"/> Information and Communication Equipments | <input type="checkbox"/> Electrical machinery | <input type="checkbox"/> Manufacturing and other |
| <input type="checkbox"/> Finance and Insurance | <input type="checkbox"/> Transport and Postal services | <input type="checkbox"/> Education, Learning support |
| <input type="checkbox"/> Medical, Health care, and Welfare | <input type="checkbox"/> Living-related and Personal Services and Amusement Services | <input type="checkbox"/> Compound Services |
| <input type="checkbox"/> Other | | |

NEXT

Survey on education, research, and post-graduation plans of doctorates

Q54 Have you ever yourself been involved in joint research with a private corporation as a part of your master's / doctoral program?

- Yes No

Uncheck

NEXT

Survey on education, research, and post-graduation plans of doctorates

Q55 Please select **all** the business categories of the place where you involved in a joint research

- Agriculture
- Fisheries
- Mining and Quarrying of Stone and Gravel
- Construction
- Electricity, Gas, Heat Supply and Water
- Information and Communications
- Food, beverages, tobacco
- Pulp and Paper
- Medicine and Cosmetics
- Chemicals and other
- Petroleum products
- Rubber and Plastics
- Iron and Steel
- Non-ferrous metal
- Fabricated metal
- Industry machinery and equipment
- Electronic parts and devices
- Transportation machinery and equipment
- Information and Communication Equipments
- Electrical machinery
- Manufacturing and other
- Finance and Insurance
- Transport and Postal services
- Education, Learning support
- Medical, Health care, and Welfare
- Living-related and Personal Services and Amusement Services
- Compound Services
- Other

NEXT

Survey on education, research, and post-graduation plans of doctorates

Q56 Has your research laboratory been selected as a 21st Century COE Program or Global COE (Centers of Excellence) Program while you were on the doctoral program?

- Yes
- No
- Do not know

Uncheck

NEXT

Survey on education, research, and post-graduation plans of doctorates

Q57 Have you personally used funds obtained by your research laboratory through being selected as a 21st Century COE Program or Global COE (Centers of Excellence) Program? Please give details if so.

- Expenses for research conferences inside / outside Japan Expenses for overseas research experience
- Expenses for your own research (experiment materials / equipment, books, etc.) TA or RA
- Other No, I have not used.

If you selected "other", please provide the details (up to 60 words)

[Uncheck](#)

Q58 If your research laboratory has been selected as a 21st Century COE Program or Global COE (Centers of Excellence) Program and you have used the funds thereby obtained, what is the total amount that you used?

- Under 500,000 yen
- 500,000 yen to under 1 million yen
- 1 million yen to under 1.5 million yen
- 1.5 million yen to under 2 million yen
- 2 million yen or more
- Do not know

[Uncheck](#)[NEXT](#)**Survey on education, research, and post-graduation plans of doctorates****Financial support for research activities**

Q59 Have you ever been given a waiver of tuition fees for the master's / doctoral program?

- Yes No Do not know

[Uncheck](#)[NEXT](#)

Survey on education, research, and post-graduation plans of doctorates

Q60
Q61 If you receive a remission on your academic fees, what was the proportion for each program?

< Master's level >

- Under one third
- One third to under two thirds
- Two thirds to under the full amount
- The full amount
- Did not receive a remission

< Doctoral level >

- Under one third
- One third to under two thirds
- Two thirds to under the full amount
- The full amount
- Did not receive a remission

Uncheck

NEXT

Survey on education, research, and post-graduation plans of doctorates

Q62 Q63 Please select **all** the types of funds you have used to progress to and continue studying in the master's / doctoral programs. Please select the main type of funding

	Types of funding Multiple selection	Main type of funding	Second main type of funding
Fellowship	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Scholarship (obligatory repayment)	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Scholarship (no obligation for repayment)	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
TA	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
RA	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Internship	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Loan	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Personal savings	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Personal earnings during graduate school (other than sources listed above)	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Spouse's, partner's, or family's earnings or savings	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Employer reimbursement/assistance	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Foreign (non-Japanese) support	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Support from the Japan Society for the Promotion of Science	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Other	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

If you selected "Other," enter specific details. (up to 60 words)

Take the check off the main type of fund

Take the check off the second main type of fund

Q64 Q65 When you have completed your doctoral program, will you have any loans from your time as an undergraduate / in the master's / doctoral programs? If you have any loans, such as from the Student Services Association, please tell us the amount.

< Undergraduate >

- Under 1 million yen
- 1 million yen to under 2 million yen
- 2 million yen to under 3 million yen
- 3 million yen to under 4 million yen
- 4 million yen to under 5 million yen
- 5 million yen or more
- None

< Master's / doctoral program >

- Under 1 million yen
- 1 million yen to under 2 million yen
- 2 million yen to under 3 million yen
- 3 million yen to under 4 million yen
- 4 million yen to under 5 million yen
- 5 million yen or more
- None

Uncheck

NEXT

Survey on education, research, and post-graduation plans of doctorates

Awareness and knowledge of postgraduate school study

Q66 When did you decide to enter a doctoral program? Please select the applicable response.

- Before entering in undergraduate program or technical college
- While enrolled in undergraduate program or technical college
- While enrolled in master's program
- After completing master's program
- Other

If you selected "other", please provide the details (up to 60 words)

Uncheck

Q67 Why did you enter the doctoral program that you completed (expect to complete) this year? Please select the two most appropriate responses.

	Reason	Main reason	Second main reason
Wanted to deepen my knowledge	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Wanted to contribute to society through new knowledge and discoveries	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Wanted to work as university faculty or researcher	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Wanted to put off finding a job	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Wanted to obtain a doctoral degree	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Wanted to broaden human network in my specialized field	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Felt that obtaining a doctorate is necessary to work internationally	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Hoped to be promoted and receive a raise at work	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Other	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

If you selected "other", please provide the details (up to 60 words)

Take the check off of the main reason item

Take the check off of the second main reason item

Q68 What concerns did you have when you decided to enter a doctoral program? Please select the two most appropriate responses.

	Reason	Main reason	Second main reason
Finances while enrolled in doctoral program such as living and school expenses	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Employment opportunities after completing doctoral program	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Uncertainty about the school process during the doctoral program	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Possibility of obtaining a doctorate	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
One's own abilities and talents	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Relationship with advisors	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Study-life balance	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Coordinating work and studies	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Other	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

If you selected "other", please provide the details (up to 60 words)

Take the check off of the main reason item

Take the check off of the second main reason item

NEXT

Survey on education, research, and post-graduation plans of doctorates

Q69 When did you learn about the requirements for completing the doctoral program? Please select the most appropriate response for each of the following two requirements.

(number of submitted papers and name or level of publications where papers should be appeared in)

- | | |
|--|---|
| <input type="radio"/> Before starting doctoral program | <input type="radio"/> Within one month of starting doctoral program |
| <input type="radio"/> One month to three months of starting doctoral program | <input type="radio"/> Three months to six months of starting doctoral program |
| <input type="radio"/> More than six months after starting doctoral program | <input type="radio"/> Do not remember when you learned about the requirements |
| <input type="radio"/> Still do not know requirements | <input type="radio"/> Other |

If you selected "other", please provide the details (up to 60 words)

(number of units required)

- | | |
|--|---|
| <input type="radio"/> Before starting doctoral program | <input type="radio"/> Within one month of starting doctoral program |
| <input type="radio"/> One month to three months of starting doctoral program | <input type="radio"/> Three months to six months of starting doctoral program |
| <input type="radio"/> More than six months after starting doctoral program | <input type="radio"/> Do not remember when you learned about the requirements |
| <input type="radio"/> Still do not know requirements | <input type="radio"/> Other |

If you selected "other", please provide the details (up to 60 words)

Uncheck

NEXT

Survey on education, research, and post-graduation plans of doctorates

Q70 How did you find out about the requirements for completing the doctoral program? Please select the single most appropriate response. If more than one response is applicable, please select the most major one.

- University/Graduate school material or website
- Faculty members
- Classes or explanatory meeting at University/Graduate school
- University/Graduate school seniors or OB/OG
- Other

If you selected "other", please provide the details (up to 60 words)

Uncheck

NEXT

Survey on education, research, and post-graduation plans of doctorates

Q71 Do you think that the judging of dissertations was conducted fairly in your major?
And please describe reason for your rating

- Strongly feel so
- Rather feel so
- Cannot say
- Rather do not feel so
- Strongly do not feel so
- Do not know

Please describe reason for your rating (up to 60 words)

Uncheck

NEXT

Survey on education, research, and post-graduation plans of doctorates

Q72 What were the good points and your complaints about studying at a graduate school? Please select all questions for both your master's program and doctoral program

< Good points about studying at graduate school >

	master's program	doctoral program
Gained specialized knowledge and abilities	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Gained general knowledge and abilities such as ability to think logically and solve problems	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Gained interpersonal skills such as communication skills	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Satisfied with research and academic activities	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Useful in terms of forming connections such as acquaintances and friends	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Necessary or useful for work	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Obtained degree (doctorate or master's)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Other	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

If you selected "other", please provide the details (up to 60 words)

▲
▼

< Complaints about studying at graduate school >

	master's program	doctoral program
Unsatisfied with the education such as classes	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Insufficient guidance from advisors and other faculty members	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Insulated and little contact with the outside world	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Insufficient support for finding a job	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Insufficient financial support	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Expectations when entering the program were not met	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
I had many complaints but a good portion of them were my faults	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Other	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

If you selected "other", please provide the details (up to 60 words)

▲
▼

Q73 Do you think that studying at graduate school was valuable for you? Please select the single most appropriate response.

	Strongly feel so	Rather feel so	Cannot say	Rather do not feel so	Strongly do not feel so	Do not know
In terms of services provided such as instruction and dissertation advising	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
In terms of what you acquired	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
In terms of your future in 10 years	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Uncheck

NEXT

Survey on education, research, and post-graduation plans of doctorates

Q74 If someone had a positive influence on your own research, job search activities, or future path while you were enrolled in the doctoral program, what organization was the person affiliated with? Please provide a response for each aspect.
* Regardless of factors such as frequency of communication or number of people.

	Own research	Job search activities	Future path
Other members of your research laboratory	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Not members of your research laboratory but had the same major	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Did not have same major but members of the same graduate program	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Not members of your graduate program but members of the same university	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Members of different university than yours	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Employee of private company or public research institute	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Other	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

If you selected "other", please describe what organization the person was affiliated with (e.g. hospital, foundation, etc.)
(up to 60 words)

Q75 How would you rate the instruction and research advising in your doctoral program provided by the main faculty member? If you do not mind, please provide a reason concisely.

- High
- Rather high
- Cannot say
- Rather low
- Low
- Other

Please describe reason for your rating (up to 60 words)

[Uncheck](#)

Q76 Was there any conflict or discord between you and your main faculty member? If there was conflict or discord, please briefly explain the details and how it was resolved.
* "Conflict and discord" refers to conflict such as difficulty with your advisor continuing to advise you because of differences in attitude and stance toward research and instruction, not differences in items such as interpretation of research results.

- Yes No

If there was a conflict or discord, please provide a description of the problem and how it was resolved.
(up to 60 words)

[Uncheck](#)

[NEXT](#)

Survey on education, research, and post-graduation plans of doctorates

Q77 How did you view the relationship between research and course work during the master's program. Please select the single most appropriate response.

- Should be greater emphasis on course work than research
- Should be greater emphasis on research than course work
- Both course work and research should be emphasized
- Do not know
- Other

If you selected "other", please provide the details (up to 60 words)

Uncheck

Q78 What percentage of the courses you took in your master's/doctoral program that you highly evaluated. Please select the single most appropriate response.

- Less than 10%
- 10% or more but less than 30%
- 30% or more but less than 60%
- 60% or more but less than 90%
- More than 90%

Uncheck

Q79 What was the content of the courses that you were glad you to take? Please select all that apply.

- Content that satisfied your intellectual curiosity about the field
- Content that stoked a desire to continue to study that particular field
- Content that provided a broad perspective beyond one's specialization
- Content on leading research
- General purpose content such as communication skills
- Other

If you selected "other", please provide the details (up to 60 words)

Q80 To what extent did you obtain the following skills while attending graduate school? Please select the single most appropriate response.

	Acquired fully	Acquired some	Acquired barely	Did not acquire	Other
Ability to critically evaluate one's own discoveries and those of others	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Ability to place one's own research within the body of knowledge of the field of specialization	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Ability to critically understand debate in one's field of specialization and to clearly express one's own hypotheses	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

If you selected "other", please provide the details (up to 60 words)

Uncheck

NEXT

Survey on education, research, and post-graduation plans of doctorates

Q81 **Required** Please select your gender.

- Male Female

Q82 Please select your marital status.

- Married and living with spouse, or living together with a partner Married but living separately from spouse or have a steady partner but not living together for now (like being away during school)
- Unmarried

Uncheck

Q83 Do you have any dependents (children and adults other than your partner)?

- Yes No

Uncheck

NEXT

Survey on education, research, and post-graduation plans of doctorates

Q84 If you do, please give us details of their number and ages.

- 5 years of age or younger:
- 6 to 18 years:
- 19 years or older:

NEXT

Survey on education, research, and post-graduation plans of doctorates

Q85 **Required** Please give your nationality.

Category: Nationality:

Q86 **Required** Please give your year of birth.

Year

NEXT

Survey on education, research, and post-graduation plans of doctorates**Job hunting and career selection**

Q87
Required During your doctoral program, do you have any experience of activities relating to job-seeking or your career path for after the completion of your program (hereafter referred to as "employment-seeking activities")?

Yes

No

NEXT

Survey on education, research, and post-graduation plans of doctorates

Q88
Required Did you have a regular job before entering the doctoral program? If you did, how long did you have the job? Please select the term that applies. After completing the doctoral program, do you plan on continuing your current job or returning to your previous job?

* "Regular job" refers to working to earn stable income, not jobs such as part-time jobs to earn temporary income.

< Regular job experience >

less than one year

One year or more but less than three years

Three years or more but less than five years

Five years or more

No, I did not work before

< Plans after completing the doctoral >

Continue current job/return to previous job

Do not have job that plan to continue/return to

NEXT

Survey on education, research, and post-graduation plans of doctorates**The schedule after doctoral course completion****Q89**
Required

Please select one option matching your path after completion of your doctoral program.

Please answer regarding your plans as of the time of this questionnaire.

If you are a international student and plan to return to your home country, please enter your future plans after you return.
If you are a mid-career student and you plan to continue working at your current job after completing your doctor's course, please select " have a plan to get a job ".
If you are a student expecting to acquire a doctoral degree with dissertation and are currently working, please select " have a plan to get a job ".

- Have a plan to get a job
- Do not have a plan to get a job
 - Currently looking for work
 - Planning to look for work in the future
 - No plan of looking for work in the future

NEXT

Survey on education, research, and post-graduation plans of doctorates

Q90 **Required** Did you apply for institutions **inside Japan** during your employment-seeking period? Please select one option for each institution.

	Applied for	Did not apply
Educational institutions (universities, inter-university research institutes, technical college, two-year colleges)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Educational institutions (kindergartens, special needs schools, elementary / junior high / high schools)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Educational institutions (other)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Public research institutions	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Private companies (excepting foreign companies or overseas subsidiaries of Japanese companies)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Government ministries	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Public-interest corporations (incorporated associations, foundations, medical corporations, NPOs, etc.)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Other institutions	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q91 **Required** Did you apply for institutions **outside Japan** during your employment-seeking period? Please select one option for each institution.

	Applied for	Did not apply
Educational institutions (universities or the equivalent, including university hospitals)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Educational institutions (other)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Public research institutions	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Private companies (foreign companies or overseas subsidiaries of Japanese companies)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Government ministries	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Public-interest corporations	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Other institutions	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

NEXT

Survey on education, research, and post-graduation plans of doctorates

Q82

Required

Please select the most appropriate answer describing your career path from **September 2011 onwards**. If you will be working at several institutions, please select the one that you will work for the longest.

<If you have a job at the institutions inside Japan>

- Educational institution (national university or affiliated hospital)
- Educational institution (prefectural/city university or affiliated hospital)
- Educational institution (private university or affiliated hospital)
- Educational institution (inter-university research institute)
- Educational institution (technical college/two-year college)
- Educational institutions (kindergartens, special needs schools, elementary / junior high / high schools)
- Educational institutions (other)
- Public research institutions
- Private companies (excepting foreign companies or overseas subsidiaries of Japanese companies)
- Government ministries
- Public-interest corporations (incorporated associations, foundations, medical corporations, NPOs, etc.)
- Other

<If you have a job at the institutions outside Japan>

- Educational institutions (universities or the equivalent, including university hospitals)
- Educational institutions (other)
- Public research institutions
- Private companies (foreign companies or overseas subsidiaries of Japanese companies)
- Government ministries
- Public-interest corporations
- Other

NEXT

Survey on education, research, and post-graduation plans of doctorates

Q83
Required Which type of industry will you be working in? Please select the most appropriate answer.

- Agriculture
- Fisheries
- Mining and Quarrying of Stone and Gravel
- Construction
- Electricity, Gas, Heat Supply and Water
- Information and Communications
- Food, beverages, tobacco
- Pulp and Paper
- Medicine and Cosmetics
- Chemicals and other
- Petroleum products
- Rubber and Plastics
- Iron and Steel
- Non-ferrous metal
- Fabricated metal
- Industry machinery and equipment
- Electronic parts and devices
- Transportation machinery and equipment
- Information and Communication Equipments
- Electrical machinery
- Manufacturing and other
- Finance and Insurance
- Transport and Postal services
- Education, Learning support
- Medical, Health care, and Welfare
- Living-related and Personal Services and Amusement Services
- Compound Services
- Other

NEXT

Survey on education, research, and post-graduation plans of doctorates

Q84
Required Please select the most appropriate answer describing the work you will do.

-Select-

Note 1) Education-related work
 - Teacher at a kindergarten, special needs school, elementary / junior high / high school
 - Teacher at a private school / preparatory school, counselor etc.
 Note 2) Work requiring specialized knowledge not listed above: lawyer, patent attorney, certified public accountant, academic-industry collaboration coordinator, etc.
 Note 3) Other: public servant, corporate office work, sales work, clerical work, etc.

Q85 Please select the most appropriate answer describing the style of work you will do.

- Full time
- Part time

Uncheck

Q86 Please select the most appropriate answer describing the term contract of your work you will do.

- Fixed term
- Not fixed term

Uncheck

NEXT

Survey on education, research, and post-graduation plans of doctorates

Q97 Please note any opinions regarding issues such as the current state of education and research at the doctoral program, or job search, or treatment after completing your program. (in 200 words)

NEXT

Survey on education, research, and post-graduation plans of doctorates

Q98 May we contact you in the future regarding your answers to this survey?

Yes

No

Uncheck

NEXT

Survey on education, research, and post-graduation plans of doctorates

Q99 If possible, please give us your email address (an email address you will continue to use after your program is completed) so that we may contact you.

NEXT

Survey on education, research, and post-graduation plans of doctorates

Q100 If possible, please give the reason for not wanting to be contacted by us.

- I don't want to be bothered replying to queries
- I am not interested in this survey
- There is no advantage in me complying with this survey (recompense, etc.)
- I am not obliged to comply with this survey
- Other

NEXT

Survey on education, research, and post-graduation plans of doctorates

Q101 May we contact you in the future for further investigation regarding people who have completed their doctoral programs?

- Yes No

Uncheck

NEXT

Survey on education, research, and post-graduation plans of doctorates

Q102 If possible, please give us your email address (an email address you will continue to use after your program is completed) so that we may contact you.

NEXT

Survey on education, research, and post-graduation plans of doctorates

We have received your response data.

The questionnaire is now complete.

Thank you for your time.

参考資料 7 設問の回答率一覧

設問番号	設問詳細	有効回答率	備考
	博士課程修士・論文博士の別	100.0%	
※以下、有効回答率は博士課程修了者に占める割合とする			
Q1	課程(博士)を開始した年・月	99.8%	
Q2	課程(博士)を修了した年・月(見込みを含む)	100.0%	
Q3.1	学位を取得した機関の所在国(修士課程)		設問の性質上、回答率は算出しない
Q3.2	学位を取得した機関の所在国(博士課程)		
Q4.1	学位を取得した機関名(50音)	100.0%	
Q4.2	学位を取得した機関名(名称)	100.0%	
Q5	学位を取得した機関の研究科	100.0%	
Q6.1	博士課程で学んだ分野(大分類)に最も当てはまるもの	100.0%	
Q6.2	博士課程で学んだ分野(中分類)に最も当てはまるもの	99.5%	Q6.1の回答者に占める割合
Q7	博士課程中に休学経験がある場合の年数	100.0%	
Q8	課程(修士)を開始した年・月	55.7%	
Q9	課程(修士)を修了した年・月(見込みを含む)	55.0%	
Q10.1	学位を取得した機関の所在国(大分類)	76.5%	
Q10.2	学位を取得した機関の所在国	99.0%	Q10.1の回答者に占める割合
Q11.1	学位を取得した機関名(50音)	64.5%	Q4で修士課程も同様にチェック、もしくはQ11.1で回答した者の割合
Q11.2	学位を取得した機関名(名称)	93.8%	Q11.1の回答者に占める割合
Q12	学位を取得した機関の研究科	54.9%	Q5で修士課程も同様にチェック、もしくはQ12で回答した者の割合
Q13.1	修士課程で学んだ分野(大分類)に最も当てはまるもの	72.3%	
Q13.2	修士課程で学んだ分野(中分類)に最も当てはまるもの	84.3%	Q13.1の回答者に占める割合
Q14	修士課程中に休学経験がある場合の年数	52.0%	
Q15	課程(学士)を開始した年・月	56.8%	
Q16	課程(学士)を修了した年・月(見込みを含む)	58.0%	
Q17.1	学位を取得した機関の所在国(大分類)	80.3%	
Q17.2	学位を取得した機関の所在国	99.6%	
Q18.1	学位を取得した機関名(50音)	60.7%	Q4で学士課程も同様にチェック、もしくはQ18.1で回答した者の割合
Q18.2	学位を取得した機関名(名称)	83.8%	Q18.1の回答者に占める割合
Q19	学位を取得した機関の学部分類	48.3%	
Q20.1	学士課程で学んだ分野(大分類)に最も当てはまるもの	73.0%	
Q20.2	学士課程で学んだ分野(中分類)に最も当てはまるもの	88.2%	Q20.1の回答者に占める割合
Q21	学士課程中に休学経験がある場合の年数	55.3%	
Q22	博士課程在籍時の学生種別	100.0%	
Q23	博士課程を2011年9月までに修了の際の博士号の有無	100.0%	
Q24	現時点で満期退学等で博士号を取得せずに修了する理由	73.3%	Q23で博士号の有無を「なし」と回答し、Q24で選択肢を1つ以上選んだ者の割合
Q25	博士論文テーマの主たる分野と関連分野に該当するもの	100.0%	
Q26	博士論文テーマが決まった経緯	99.0%	
Q27	博士論文テーマが決まった背景(研究施設や設備、研究室のテーマ設定や方針などによる影響)	98.7%	
Q28.1	博士論文テーマについて、指導教員との間で合意した時期	99.0%	
Q28.2	博士論文テーマについて、指導教員との間で合意した時期(詳細)	98.1%	Q28.1で博士課程進学・入学以後を選択した回答者に占める割合
Q29.1	博士論文の作成を日常的に指導した教員の人数(日常的な指導)	96.8%	
Q29.2	博士論文の作成を日常的に指導した教員の人数(論文審査)	83.5%	
Q30.1.1	博士論文の作成を日常的に指導した教員の所属	98.6%	Q29.1で日常的に指導した教員の人数を選択した回答者に占める割合
Q30.1.2	博士論文の作成を日常的に指導した教員のうち主たる指導教員の所属	95.0%	
Q30.2	論文審査のみを担当した教員の所属	95.1%	
Q31.1	博士論文の作成を日常的に指導した教員の専門分野	97.0%	
Q31.2	博士論文の作成を日常的に指導した主たる指導教員の専門分野	80.4%	
Q31.2	論文審査のみを担当した教員の専門分野	93.3%	
Q32	博士論文の作成を日常的に指導した教員のうち論文審査をした教員数	91.9%	
Q33	博士論文を作成する過程での指導形式	96.3%	
Q34.1	博士論文を作成する過程での指導頻度(ミーティング・ゼミ)	94.5%	
Q34.2	博士論文を作成する過程での指導頻度(組織として開催する学内の発表の場)	94.9%	
Q34.3	博士論文を作成する過程での指導頻度(複数の教員が同時に集まる機会)	95.2%	Q33でそれぞれの指導形式について当てはまると回答した者に占める割合
Q34.4	博士論文を作成する過程での指導頻度(教員と個別に打ち合わせをする機会)	95.2%	
Q34.5	博士論文を作成する過程での指導頻度(その他)	72.9%	
Q35	博士論文の作成指導を複数の教員から受けるメリットとデメリット	79.0%	Q34の回答者のうち、1もしくは2に当てはまると回答した者に占める割合
Q36.1	複数の教員から受けるような仕組み(複数教員指導制度)の有無	98.0%	
Q36.2	仕組みの活用の有無	92.0%	Q36.1で仕組みがあったと回答した者に占める割合
Q36.3	仕組みの活用による論文作成への影響	97.5%	Q36.2で仕組みがあり、活用した回答した者に占める割合
Q37	他の教員や研究者からアドバイスを求めることに対する指導教員の後押しの有無	98.0%	
Q38.1	博士課程在籍時の研究室やラボへの所属	97.2%	

設問番号	設問詳細	有効 回答率	備考
Q38.2	学生別にみた所属人数の内訳	本文参照	※無回答率については本文中で提示
Q39	学生同士による日常的な議論の有無	97.2%	
Q40	博士論文を作成する際の調査・研究スタイル	98.0%	
Q41	博士論文を作成する際の調査・研究に含まれていたメンバー	99.6%	Q40で(どちらかという、ほとんど)複数のメンバーによる調査や議論、研究によって進めたと回答した者に占める割合
Q42.1	博士論文を作成するためのプロセス管理の実施有無	97.4%	
Q42.2	プロセス管理の実施方法	99.3%	Q42.1でプロセス管理を行っていたと回答した者に占める割合
Q43.1	修士・博士を通じて登壇した国内での学会発表数	97.0%	
Q43.2	うち修士での国内学会発表数	67.5%	Q43.1の回答者に占める割合
Q44.1	修士・博士を通じて登壇した国内での学会発表数	90.3%	
Q44.2	うち修士での国内学会発表数	73.7%	Q44.1の回答者に占める割合
Q45.1	修士課程・博士課程在籍時に発表の論文数<査読あり>	94.2%	
Q45.2	修士課程・博士課程在籍時に発表の論文数<査読あり論文のうち英語>	96.7%	Q45.1の回答者に占める割合
Q45.3	修士課程・博士課程在籍時に発表の論文数<査読あり論文のうち筆頭著者(相当)>	93.4%	Q45.1の回答者に占める割合
Q46.1	修士課程・博士課程在籍時に発表の論文数<査読なし>	94.2%	
Q46.2	修士課程・博士課程在籍時に発表の論文数<査読なし論文のうち英語>	96.7%	Q46.1の回答者に占める割合
Q46.3	修士課程・博士課程在籍時に発表の論文数<査読なし論文のうち筆頭著者(相当)>	93.4%	Q46.1の回答者に占める割合
Q47	博士課程在籍時に(国外(日本以外)での)研究経験	97.1%	
Q48.1	国外での研究経験がある場合の期間	98.9%	
Q48.2	国外での研究経験がある場合の受入れ先選択の背景	97.4%	Q47で国外研究経験があると回答した者に占める割合
Q49	インターンシップの経験(修士課程)	85.9%	
Q50	インターンシップの経験(博士課程)	96.0%	
Q51	インターンシップの受入機関	98.0%	
Q51	インターンシップの内容	98.3%	Q49もしくはQ50でインターンシップ経験があると回答した者に占める割合
Q52.1	インターンシップへ参加した期間	97.3%	
Q52.2	インターンシップ先の機関種別	90.7%	
Q53	インターンシップの受入先企業の業種	100.0%	Q51で民間企業を選択した者に占める割合
Q54	民間企業との共同研究に携わった経験(修士・博士課程)	97.1%	
Q55	共同研究先企業の業種	99.1%	Q54で共同研究経験があると回答した者に占める割合
Q56	所属していた研究室の博士課程(後期、一貫制)在籍時における拠点事業(21世紀COE・グローバルCOE)への採択有無	97.0%	
Q57	所属していた研究室が採択された拠点事業による資金の使用	30.5%	
Q58	使用した金額のおおよその総額	28.0%	
Q59	修士・博士課程での学費の免除	97.4%	
Q60	学費の免除割合(修士課程)	82.9%	
Q61	学費の免除割合(博士課程)	99.2%	
Q62	修士・博士課程に進学し課程を継続するために利用した資金種別	95.2%	
Q63.1	修士・博士課程に進学し課程を継続するために複数利用した最も主要な資金種別	87.9%	Q62で利用した資金種別に1つ以上回答した者に占める割合
Q63.2	修士・博士課程に進学し課程を継続するために複数利用した2番目に主要な資金種別	84.1%	Q62で利用した資金種別に2つ以上回答した者に占める割合
Q64	博士課程を修了した時の修士課程在籍にかかる借入金の有無	82.6%	
Q65	博士課程を修了した時の修士・博士課程在籍にかかる借入金の有無	82.3%	
Q66	博士課程に進学しようとした時期	97.1%	
Q67.1	今年度修了した(見込みを含む)博士課程に進学した理由	97.0%	
Q67.2	今年度修了した(見込みを含む)博士課程に進学した理由として、最も良く当てはまる選択肢	91.2%	Q67.1で1つ以上回答した者に占める割合
Q67.3	今年度修了した(見込みを含む)博士課程に進学した理由として、2番目に良く当てはまる選択肢	88.3%	Q67.1で2つ以上回答した者に占める割合
Q68.1	博士課程に進学を決めた時に懸念された事項	95.7%	
Q68.2	博士課程に進学を決めた時に懸念された事項として、最も良く当てはまる選択肢	91.6%	Q68.1で1つ以上回答した者に占める割合
Q68.3	博士課程に進学を決めた時に懸念された事項として、2番目に良く当てはまる選択肢	90.0%	Q68.1で2つ以上回答した者に占める割合
Q69.1	博士課程を修了するために、投稿論文数、投稿先学術誌等の必要な要件を知った時期	96.5%	
Q69.2	博士課程を修了するために、所得単位数の必要な要件を知った時期	94.6%	
Q70	博士課程を修了するために必要な要件を知った媒体	95.9%	Q69.1,2でともに修了要件は現在でも分からないと回答した者に占める割合
Q71	学位論文の審査の厳正さ	96.5%	
Q72.1	大学院修学を通じて良かった点(修士課程)	69.6%	
Q72.2	大学院修学を通じて良かった点(博士課程)	94.4%	
Q72.3	大学院修学を通じて不満だった点(修士課程)	52.8%	
Q72.4	大学院修学を通じて不満だった点(博士課程)	75.2%	
Q73.1	大学院の価値(授業や論文指導など提供されたサービス自体として)	95.3%	
Q73.2	大学院の価値(自分自身の身についたものとして)	95.3%	
Q73.3	大学院の価値(10年後の将来において)	95.2%	
Q74.1	博士課程在籍時、有益な影響を受けた方【自身の研究】	88.2%	
Q74.2	博士課程在籍時、有益な影響を受けた方【就職活動】	42.9%	
Q74.3	博士課程在籍時、有益な影響を受けた方【将来の進路】	57.5%	
Q75	博士課程での主たる指導教員の教育・研究指導に対する評価	95.4%	

設問番号	設問詳細	有効 回答率	備考
Q76	主たる指導教員との間の対立や乱線の有無	95.0%	
Q77	主に修士課程で履修した授業と教育との関係	89.2%	
Q78	修士・博士課程で履修した授業のうち、履修して良かったと思えた授業の割合	93.9%	
Q79	履修して良かったと思える授業の内容	99.0%	Q78に回答した者に占める割合
Q80_1	修学を通じて身についた能力(自身や他者の意見を批判的に評価できる)	94.6%	
Q80_2	修学を通じて身についた能力(自身の研究を専門分野の知識体系に位置づけることができる)	94.5%	
Q80_3	修学を通じて身についた能力(専門分野の議論を批判的に理解し自身の仮説を明確に表現する)	94.2%	
Q81	性別	97.6%	
Q82	結婚の状態	95.4%	
Q83	扶養されている家族(子供と、配偶者以外の大人の双方を含む)の有無	95.3%	
Q84_1	扶養家族の年齢別の人数 5歳以下	75.7%	
Q84_2	扶養家族の年齢別の人数 6歳以上18歳以下	53.5%	Q82で扶養家族がいると回答した者に占める割合
Q84_3	扶養家族の年齢別の人数 19歳以上	59.5%	
Q85_1	国籍(大分類)	97.4%	
Q85_2	国籍	100.0%	Q85_1に回答した者に占める割合
Q86	生年	97.4%	
Q87	博士課程在籍中の課程修了後の進路や職に就くための活動(以降、就職活動)経験の有無	97.4%	
Q88_1	博士課程進学に至るまでの社会人としての勤務経験	97.3%	
Q88_2	博士課程修了後の職の継続・復職の予定	97.3%	
Q89_1	博士課程修了後の予定	99.9%	Q88_2で、課程修了後に職の継続・復職の予定がないと回答した者に占める割合
Q89_2	博士課程修了後の予定 就職予定なし	100.0%	Q89_1で、課程修了後に就職の予定がないと回答した者に占める割合
Q90	就職活動期間中に応募した機関(日本国内)	99.4%	Q87であると回答した者に占める割合
Q91	就職活動期間中に応募した機関(日本国外)	99.4%	Q87であると回答した者に占める割合
Q92	2011年9月以降の進路	100.0%	Q88_2で職の継続・復職予定がある、もしくはQ89で就職予定と回答した者の合計に占める割合
Q93	就職予定先の所属(詳細)に最も当てはまるもの	100.0%	Q92で民間企業を選択した者に占める割合
Q94	就職予定先でのあなたの職種に最も当てはまるもの	99.9%	
Q95	就職予定先での勤務形態	98.0%	Q92を回答した者に占める割合
Q96	就職予定先での勤務任期の有無	97.8%	
Q97	博士課程での教育・研究の現状や、課程修了後の就職や待遇などに関する意見	32.1%	
Q98	今後、本調査研究の回答に関する連絡可否	95.6%	
Q99	連絡の際のメールアドレス	90.7%	Q98ではいと回答した者に占める割合
Q100	連絡否の理由	98.0%	Q98でいいと回答した者に占める割合
Q101	今後、博士課程修了者に関する継続的な調査を実施する際の連絡可否	94.6%	
Q102	連絡の際のメールアドレス	90.1%	Q98ではいと回答した者に占める割合

参考資料 8 アンケート単純集計データ一覧

		Q 1. 博士開始月											
		1月 度数	2月 度数	3月 度数	4月 度数	5月 度数	6月 度数	7月 度数	8月 度数	9月 度数	10月 度数	11月 度数	12月 度数
Q 1. 博士 開始年	2000年以前	0	0	0	3	0	0	1	0	0	0	0	0
	2001年	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0
	2002年	0	0	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0
	2003年	0	0	0	22	0	0	0	0	0	2	0	0
	2004年	0	0	0	34	0	0	0	0	3	1	0	0
	2005年	0	0	0	55	0	0	1	0	4	6	0	0
	2006年	0	0	0	131	0	0	0	0	2	8	0	0
	2007年	0	0	1	186	0	0	0	0	6	52	0	0
	2008年	0	0	4	714	1	0	1	0	20	193	0	0
	2009年	0	0	4	1047	0	0	2	0	5	37	0	0
	2010年	1	0	0	50	0	0	0	0	0	4	0	0
	2011年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	上記以外	0	0	0	11	0	0	0	0	0	0	0	0

		Q 2. 博士修了月											
		4月 度数	5月 度数	6月 度数	7月 度数	8月 度数	9月 度数	10月 度数	11月 度数	12月 度数	1月 度数	2月 度数	3月 度数
Q 2. 博士 修了年	2011年	0	1	0	38	19	23	35	3	491	7	12	9
	2012年	4	13	1980	0	0	0	0	0	1	0	0	0

Q 7. 博士休学経験年数		
	度数	有効パーセント
休学経験なし	2351	89.2
1年未満	80	3.0
1年以上2年未満	100	3.8
2年以上3年未満	63	2.4
3年以上	42	1.6
合計	2636	100.0

		Q 8. 修士開始月											
		1月 度数	2月 度数	3月 度数	4月 度数	5月 度数	6月 度数	7月 度数	8月 度数	9月 度数	10月 度数	11月 度数	12月 度数
Q 8. 修士開 始年	1980年以前	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	1981年	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	1982年	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	1983年	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0
	1984年	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	1985年	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0
	1986年	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0
	1987年	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0
	1988年	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0
	1989年	0	0	0	4	0	0	1	0	0	0	0	0
	1990年	0	0	0	4	0	0	0	1	1	0	0	0
	1991年	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0
	1992年	0	0	0	8	0	0	1	0	0	1	0	0
	1993年	1	0	0	4	0	0	0	0	1	0	0	0
	1994年	0	0	0	12	0	0	0	0	1	0	0	0
	1995年	0	0	0	6	0	0	0	0	1	0	0	0
	1996年	0	0	0	19	0	1	0	0	1	0	0	0
	1997年	0	0	1	3	0	0	0	0	1	0	0	0
	1998年	0	0	0	13	0	0	0	0	1	0	1	0
	1999年	0	0	0	17	0	0	0	0	1	0	1	0
	2000年	1	0	0	20	0	0	0	0	2	0	1	0
2001年	1	1	0	27	1	2	1	0	5	1	0	0	
2002年	1	0	2	42	1	0	0	0	10	3	0	0	
2003年	2	0	0	47	0	0	0	3	5	2	0	0	
2004年	1	0	4	84	0	1	1	2	6	0	0	0	
2005年	0	0	2	99	0	2	1	2	29	7	0	0	
2006年	0	0	4	209	0	1	0	2	10	24	0	0	
2007年	1	0	3	604	0	0	0	0	1	8	0	0	
2008年	0	0	0	34	0	0	0	0	0	0	0	0	
2009年	0	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	
2010年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

		Q 9. 修士修了月											
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
		度数	度数	度数	度数	度数	度数	度数	度数	度数	度数	度数	度数
Q 9. 修士修了年	1980年以前	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	1981年	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	1982年	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	1983年	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	1984年	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	1985年	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	1986年	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	1987年	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	1988年	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	1989年	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	1990年	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	1991年	0	0	5	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	1992年	0	0	3	0	1	1	0	0	0	0	0	0
	1993年	0	0	7	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	1994年	0	0	7	0	1	1	0	1	0	0	0	0
	1995年	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	1996年	0	0	12	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	1997年	0	1	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	1998年	0	0	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	1999年	0	0	5	1	0	0	1	0	0	0	0	0
	2000年	0	0	10	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	2001年	0	0	15	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	2002年	0	0	20	0	0	1	1	0	0	1	0	0
	2003年	1	0	25	5	0	2	2	0	2	0	1	0
	2004年	0	0	41	0	2	1	5	0	2	0	1	1
	2005年	0	0	46	1	3	3	2	0	4	0	0	2
	2006年	0	4	82	0	2	4	1	0	0	1	0	0
	2007年	1	2	102	0	2	3	12	3	16	0	0	1
	2008年	0	3	207	0	2	0	17	4	35	0	0	0
	2009年	0	4	601	0	0	0	0	1	9	0	0	0
	2010年	0	0	22	0	0	0	0	0	0	0	0	0

Q 10. 修士機関の所在国（大分類）		
	度数	有効パーセント
日本	1864	93.1
北・中・南米	17	.8
欧州	19	.9
アジア（中東を含む）	97	4.8
オセアニア	2	.1
アフリカ	4	.2
合計	2003	100.0

Q 10. 修士機関の所在国		
	度数	有効パーセント
日本	1863	94.0
アメリカ合衆国	15	.8
ブラジル	1	.1
北・中・南米 その他	1	.1
英国	10	.5
フランス	2	.1
ドイツ	2	.1
欧州 その他	3	.2
中国	38	1.9
韓国	8	.4
タイ	5	.3
インドネシア	6	.3
ベトナム	2	.1
バングラデシュ	7	.4
インド	1	.1
フィリピン	1	.1
マレーシア	1	.1
アジア（中東を含む）その他	11	.6
オーストラリア	2	.1
エジプト	2	.1
アフリカその他	1	.1
合計	1982	100.0

	度数	有効パーセント
理学	466	24.5
工学	634	33.3
農学	159	8.3
保健	216	11.3
人文	153	8.0
社会	161	8.5
その他	116	6.1
合計	1905	100.0

	度数	有効パーセント
数学	38	2.4
物理	109	6.8
化学	82	5.1
生物	146	9.1
地学	26	1.6
理学その他	12	.7
機械・船舶	61	3.8
電気・通信	120	7.5
土木・建築	61	3.8
応用化学	88	5.5
応用物理	39	2.4
原子力	13	.8
材料	52	3.2
航空	9	.6
経営工学	7	.4
工学その他	65	4.0
農学	32	2.0
農芸化学	44	2.7
農業工学	5	.3
農業経済	5	.3
林学	12	.7
獣医・畜産	11	.7
水産	15	.9
農学その他	13	.8
医学	89	5.5
歯学	3	.2
薬学	70	4.4
看護	16	1.0
保健その他	16	1.0
文学	18	1.1
史学	25	1.6
哲学	15	.9
人文その他	64	4.0
法学・政治	23	1.4
商学・経済	55	3.4
社会学	21	1.3
社会その他	30	1.9
家政	5	.3
教育	36	2.2
芸術・その他	56	3.5
合計	1607	100.0

	度数	有効パーセント
有効	1348	98.4
休学経験なし		
1年未満	9	.7
1年以上2年未満	11	.8
2年以上3年未満	1	.1
3年以上	1	.1
合計	1370	100.0

	Q15. 学士開始月											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
	度数	度数	度数	度数	度数	度数	度数	度数	度数	度数	度数	度数
Q15. 学士開始年												
1980年以前	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
1981年	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0
1982年	0	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0
1983年	0	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0
1984年	0	0	0	14	0	0	0	0	0	0	0	0
1985年	0	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0
1986年	0	0	1	8	0	0	0	0	1	0	0	0
1987年	0	0	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0
1988年	0	0	1	10	0	0	0	0	0	0	0	0
1989年	0	0	1	8	0	0	1	0	1	1	0	0
1990年	0	0	0	21	0	2	0	0	0	0	0	0
1991年	0	0	0	10	0	2	0	0	4	1	0	0
1992年	0	0	0	20	0	0	1	0	4	0	0	0
1993年	0	0	0	3	0	1	0	0	8	1	0	0
1994年	0	0	1	25	0	1	0	1	3	0	0	0
1995年	0	0	1	27	1	2	1	0	5	1	0	1
1996年	1	0	3	32	0	1	1	1	8	2	1	0
1997年	0	0	1	38	1	2	1	1	10	2	0	0
1998年	0	0	4	50	1	1	0	0	9	3	0	0
1999年	0	0	5	57	0	3	2	2	16	0	0	1
2000年	2	1	2	81	0	0	1	1	18	1	0	0
2001年	1	0	3	96	1	5	0	1	23	1	0	0
2002年	1	0	4	177	0	0	1	1	14	0	0	0
2003年	0	0	0	489	0	0	0	0	0	1	0	0
2004年	0	0	0	48	0	0	0	0	1	1	0	0
2005年	1	0	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0
2006年	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0
2007年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2008年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2009年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2010年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

		Q 1 6. 学士修了年											
		1月 度数	2月 度数	3月 度数	4月 度数	5月 度数	6月 度数	7月 度数	8月 度数	9月 度数	10月 度数	11月 度数	12月 度数
Q 1 6. 学士修了年	1980年以前	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	1981年	0	0	7	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	1982年	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	1983年	0	0	6	0	0	0	1	0	0	0	0	0
	1984年	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	1985年	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	1986年	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	1987年	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	1988年	0	0	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	1989年	0	0	7	0	0	0	1	0	0	0	0	0
	1990年	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	1991年	0	0	10	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	1992年	0	0	13	0	0	1	0	0	1	0	0	0
	1993年	0	1	10	0	0	0	1	0	0	0	0	0
	1994年	0	1	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	1995年	0	0	11	1	0	2	0	0	0	0	0	0
	1996年	0	0	20	3	0	1	3	0	0	0	0	0
	1997年	0	1	7	0	0	3	6	0	0	0	0	0
	1998年	1	0	21	1	1	1	2	1	0	0	0	0
	1999年	0	0	23	0	1	3	1	0	0	0	0	0
	2000年	0	2	23	1	0	2	5	1	2	1	0	2
	2001年	0	0	44	3	3	0	5	1	1	0	2	1
	2002年	0	3	43	2	2	5	4	1	2	0	0	1
	2003年	1	1	54	0	0	4	7	1	3	1	1	0
	2004年	0	1	85	2	1	6	12	3	0	1	0	4
	2005年	0	4	91	0	1	6	20	5	1	0	0	0
	2006年	0	6	176	1	1	4	13	2	2	0	0	1
	2007年	0	2	529	0	0	0	0	0	2	0	0	0
	2008年	0	0	51	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2009年	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2010年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

Q 1 7. 学士機関の所在国 (大分類)		
	度数	有効パーセント
日本	1885	89.5
北・中・南米	15	.7
欧州	11	.5
アジア (中東を含む)	187	8.9
オセアニア	1	.0
アフリカ	6	.3
合計	2105	100.0

Q 1 7. 学士機関の所在国		
	度数	有効パーセント
日本	1884	89.8
アメリカ合衆国	8	.4
カナダ	1	.0
ブラジル	4	.2
北・中・南米 その他	2	.1
英国	2	.1
フランス	2	.1
ドイツ	1	.0
欧州 その他	6	.3
中国	82	3.9
韓国	19	.9
タイ	12	.6
インドネシア	9	.4
ベトナム	10	.5
バングラデシュ	8	.4
インド	3	.1
フィリピン	8	.4
アジア (中東を含む) その他	29	1.4
オーストラリア	1	.0
エジプト	2	.1
アフリカ その他	4	.2
合計	2097	100.0

Q20. 学士分野（大分類）		
	度数	有効パーセント
理学	459	23.9
工学	614	31.9
農学	176	9.2
保健	281	14.6
人文	144	7.5
社会	134	7.0
その	115	6.0
合計	1923	100.0

Q20. 学士分野（中分類）		
	度数	有効パーセント
数学	39	2.3
物理	116	6.8
化学	91	5.4
生物	130	7.7
地学	27	1.6
理学その他	16	.9
機械・船舶	66	3.9
電気・通信	137	8.1
土木・建築	68	4.0
応用化学	90	5.3
応用物理	39	2.3
原子力	7	.4
材料	51	3.0
航空	9	.5
経営工学	4	.2
工学その他	59	3.5
農学	35	2.1
農芸化学	50	2.9
農業工学	3	.2
農業経済	5	.3
林学	8	.5
獣医・畜産	33	1.9
水産	11	.6
農学その他	11	.6
医学	133	7.8
歯学	15	.9
薬学	83	4.9
看護	8	.5
保健その他	15	.9
文学	29	1.7
史学	28	1.6
哲学	12	.7
人文その他	53	3.1
法学・政治	34	2.0
商学・経済	36	2.1
社会学	17	1.0
社会その他	28	1.6
家政	9	.5
教育	28	1.6
芸術・その他	64	3.8
合計	1697	100.0

Q 2 1. 学士休学経験年数			
		度数	有効パーセント
休学経験なし	1年未満	1412	96.8
	1年以上2年未満	19	1.3
	2年以上3年未満	11	.8
	3年以上	11	.8
	合計	1458	100.0

Q 2 3. 博士号の有無			
		度数	有効パーセント
有効	あり(見込みを含む)	2277	86.4
	なし	359	13.6
	合計	2636	100.0

		Q 1 3. 修士分野(大分類)						
		理学	工学	農学	保健	人文	社会	その他
		度数	度数	度数	度数	度数	度数	度数
Q 2 3. 博士号の有無	あり(見込みを含む)	418	564	139	194	113	130	95
	なし	48	70	20	22	40	31	21

Q24. 博士号を取得せずに修了する理由

博士号取得前に就職先が決定			
		度数	有効パーセント
該当しない	該当する	190	72.2
	合計	73	27.8
	合計	263	100.0

健康上の理由			
		度数	有効パーセント
該当しない	該当する	253	96.2
	合計	10	3.8
	合計	263	100.0

業務や家事等の学業以外の多忙			
		度数	有効パーセント
該当しない	該当する	214	81.4
	合計	49	18.6
	合計	263	100.0

研究課題の実現が困難			
		度数	有効パーセント
該当しない	該当する	226	85.9
	合計	37	14.1
	合計	263	100.0

研究課題への興味喪失			
		度数	有効パーセント
該当しない	該当する	257	97.7
	合計	6	2.3
	合計	263	100.0

経済的困難			
		度数	有効パーセント
該当しない	該当する	210	79.8
	合計	53	20.2
	合計	263	100.0

修業年限の超過			
		度数	有効パーセント
該当しない	該当する	191	72.6
	合計	72	27.4
	合計	263	100.0

保育・介護等の家庭の事情			
		度数	有効パーセント
該当しない	該当する	257	97.7
	合計	6	2.3
	合計	263	100.0

指導の欠如			
		度数	有効パーセント
該当しない	該当する	237	90.1
	合計	26	9.9
	合計	263	100.0

その他			
		度数	有効パーセント
該当しない	該当する	207	78.7
	合計	56	21.3
	合計	263	100.0

Q43 修士・博士を通じて登壇した国内での学会発表数		
	度数	有効パーセント
0回	125	4.9
1回	182	7.1
2回	245	9.6
3回	301	11.8
4回	201	7.9
5回以上	1503	58.8
合計	2557	100.0

Q43. 国外学会発表数		
	度数	有効パーセント
0回	695	29.2
1回	533	22.4
2回	423	17.8
3回	256	10.8
4回	130	5.5
5回以上	344	14.4
合計	2381	100.0

Q43. 修士国内学会発表数		
	度数	有効パーセント
0回	514	29.8
1回	346	20.1
2回	283	16.4
3回	205	11.9
4回	95	5.5
5回以上	282	16.3
合計	1725	100.0

		Q43. 修士国内学会発表数			
		0回	2回	4回	5回以上
		度数	度数	度数	度数
Q34 修士・博士を通じて登壇した国内での学会発表数	0回	91	0	0	0
	1回	62	0	0	0
	2回	62	14	0	0
	3回	73	27	0	0
	4回	47	23	1	0
	5回以上	179	219	94	282

Q44. 修士国外学会発表数		
	度数	有効パーセント
0回	1315	75.0
1回	271	15.5
2回	102	5.8
3回	31	1.8
4回	12	.7
5回以上	23	1.3
合計	1754	100.0

		Q44. 修士国外学会発表数			
		0回	2回	4回	5回以上
		度数	度数	度数	度数
Q45. 国外学会発表数	0回	579	0	0	0
	1回	290	0	0	0
	2回	208	9	0	0
	3回	122	5	0	0
	4回	40	17	1	0
	5回以上	73	70	11	23

Q45. 論文数<査読筆頭著者>		
	度数	有効パーセント
0本	242	10.4
1本	645	27.8
2本	559	24.1
3本	401	17.3
4本	197	8.5
5本以上	275	11.9
合計	2319	100.0

Q 4 5. 論文数<査読あり論文のうち英語>			
		度数	有効パーセント
	0本	493	20.5
	1本	537	22.4
	2本	410	17.1
	3本	316	13.2
	4本	194	8.1
	5本以上	451	18.8
	合計	2401	100.0

Q 4 5. 論文数<査読あり>			
		度数	有効パーセント
	0本	155	6.2
	1本	441	17.8
	2本	471	19.0
	3本	444	17.9
	4本	271	10.9
	5本以上	702	28.3
	合計	2484	100.0

Q 4 7. 国外研究経験			
		度数	有効パーセント
有効	ある	460	18.0
	ない	2099	82.0
	合計	2559	100.0

Q 4 8. 国外研究経験の期間			
		度数	有効パーセント
有効	1ヶ月未満	97	21.3
	1ヶ月以上	66	14.5
	2ヶ月未満		
	2ヶ月以上	75	16.5
	3ヶ月未満		
	3ヶ月以上	79	17.4
	6ヶ月未満		
	6ヶ月以上1年未満	45	9.9
	1年以上	93	20.4
	合計	455	100.0

Q 4 8. 国外受入れ先選択の背景			
		度数	有効パーセント
有効	自分で調べて受入れ先を見つけた	122	27.2
	研究室以外の友人や知人のネットワークを利用した	33	7.4
	指導教員や研究室のつてを利用した	213	47.5
	大学やプログラムなどで決まっていた	57	12.7
	その他	23	5.1
	合計	448	100.0

Q 4 9. 修士インターンシップ			
		度数	有効パーセント
	1回	142	6.3
	2回	15	.7
	3回以上	12	.5
	なし	2096	92.5
	合計	2265	100.0

Q 5 0. 博士インターンシップ			
		度数	有効パーセント
	1回	135	5.3
	2回	26	1.0
	3回以上	13	.5
	なし	2357	93.1
	合計	2531	100.0

		Q 6. 博士分野 (大分類)						
		理学	工学	農学	保健	人文	社会	その他
		度数	度数	度数	度数	度数	度数	度数
Q 4 9. 修士インターンシップ	1回	15	88	13	6	3	8	9
	2回	1	10	2	0	0	2	0
	3回以上	5	3	0	2	0	2	0
	なし	452	604	182	413	153	156	136

		Q 6. 博士分野 (大分類)						
		理学	工学	農学	保健	人文	社会	その他
		度数	度数	度数	度数	度数	度数	度数
Q 5 0. 博士インターンシップ	1回	24	60	14	15	2	9	11
	2回	7	10	2	3	1	3	0
	3回以上	3	5	0	4	0	1	0
	なし	460	681	202	529	154	164	167

		Q49. 修士インターンシップ			
		1回	2回	3回以上	なし
		度数	度数	度数	度数
Q50. 博士インターンシップ	1回	31	0	1	70
	2回	2	1	1	12
	3回以上	0	2	4	5
	なし	87	11	6	2002

Q51. インターンシップの受入機関とインターンシップの内容

教育機関			業務見学、社員や職員との懇談会		
	度数	有効パーセント		度数	有効パーセント
該当しない	226	74.6	該当しない	208	68.9
該当する	77	25.4	該当する	94	31.1
合計	303	100.0	合計	302	100.0
民間企業			個人課題・グループワークの実施		
	度数	有効パーセント		度数	有効パーセント
該当しない	127	41.9	該当しない	208	68.9
該当する	176	58.1	該当する	94	31.1
合計	303	100.0	合計	302	100.0
公的研究機関			業務の疑似体験（ケーススタディ等）		
	度数	有効パーセント		度数	有効パーセント
該当しない	253	83.5	該当しない	220	72.8
該当する	50	16.5	該当する	82	27.2
合計	303	100.0	合計	302	100.0
国際機関			実際の業務（現場での研究開発等）		
	度数	有効パーセント		度数	有効パーセント
該当しない	290	95.7	該当しない	124	41.1
該当する	13	4.3	該当する	178	58.9
合計	303	100.0	合計	302	100.0
NPO			その他		
	度数	有効パーセント		度数	有効パーセント
該当しない	296	97.7	該当しない	288	95.4
該当する	7	2.3	該当する	14	4.6
合計	303	100.0	合計	302	100.0
その他					
	度数	有効パーセント			
該当しない	286	94.4			
該当する	17	5.6			
合計	303	100.0			

農業			
		度数	有効パーセント
有効	該当しない	172	96.1
	該当する	7	3.9
	合計	179	100.0

石油製品			
		度数	有効パーセント
有効	該当しない	176	98.3
	該当する	3	1.7
	合計	179	100.0

製造業その他			
		度数	有効パーセント
有効	該当しない	160	89.4
	該当する	19	10.6
	合計	179	100.0

漁業			
		度数	有効パーセント
有効	該当しない	178	99.4
	該当する	1	.6
	合計	179	100.0

ゴム・プラスチック			
		度数	有効パーセント
有効	該当しない	177	98.9
	該当する	2	1.1
	合計	179	100.0

金融業・保険業			
		度数	有効パーセント
有効	該当しない	173	96.6
	該当する	6	3.4
	合計	179	100.0

鉱業・採石業・砂利採取業			
		度数	有効パーセント
有効	該当しない	178	99.4
	該当する	1	.6
	合計	179	100.0

鉄鋼			
		度数	有効パーセント
有効	該当しない	173	96.6
	該当する	6	3.4
	合計	179	100.0

輸送・郵便業			
		度数	有効パーセント
有効	該当しない	177	98.9
	該当する	2	1.1
	合計	179	100.0

建設業			
		度数	有効パーセント
有効	該当しない	170	95.0
	該当する	9	5.0
	合計	179	100.0

非鉄金属			
		度数	有効パーセント
有効	該当しない	179	100.0
	該当する	0	.0
	合計	179	100.0

教育・学習支援業			
		度数	有効パーセント
有効	該当しない	169	94.4
	該当する	10	5.6
	合計	179	100.0

電気・ガス・熱供給・水道業			
		度数	有効パーセント
有効	該当しない	176	98.3
	該当する	3	1.7
	合計	179	100.0

金属製品			
		度数	有効パーセント
有効	該当しない	176	98.3
	該当する	3	1.7
	合計	179	100.0

医療・福祉			
		度数	有効パーセント
有効	該当しない	173	96.6
	該当する	6	3.4
	合計	179	100.0

情報通信業			
		度数	有効パーセント
有効	該当しない	144	80.4
	該当する	35	19.6
	合計	179	100.0

業務用機械器具			
		度数	有効パーセント
有効	該当しない	173	96.6
	該当する	6	3.4
	合計	179	100.0

生活関連サービス業・娯楽業			
		度数	有効パーセント
有効	該当しない	178	99.4
	該当する	1	.6
	合計	179	100.0

食料品・飲料・たばこ			
		度数	有効パーセント
有効	該当しない	176	98.3
	該当する	3	1.7
	合計	179	100.0

電子部品・デバイス			
		度数	有効パーセント
有効	該当しない	159	88.8
	該当する	20	11.2
	合計	179	100.0

複合サービス事業			
		度数	有効パーセント
有効	該当しない	171	95.5
	該当する	8	4.5
	合計	179	100.0

パルプ・紙			
		度数	有効パーセント
有効	該当しない	179	100.0
	該当する	0	.0
	合計	179	100.0

輸送用機械器具			
		度数	有効パーセント
有効	該当しない	172	96.1
	該当する	7	3.9
	合計	179	100.0

医薬品・化粧品			
		度数	有効パーセント
有効	該当しない	159	88.8
	該当する	20	11.2
	合計	179	100.0

情報通信機器			
		度数	有効パーセント
有効	該当しない	170	95.0
	該当する	9	5.0
	合計	179	100.0

その他			
		度数	有効パーセント
有効	該当しない	166	92.7
	該当する	13	7.3
	合計	179	100.0

化学その他			
		度数	有効パーセント
有効	該当しない	166	92.7
	該当する	13	7.3
	合計	179	100.0

電気機械器具			
		度数	有効パーセント
有効	該当しない	166	92.7
	該当する	13	7.3
	合計	179	100.0

Q 5 2. インターンシップ期間			
		度数	有効パーセント
有効	3日未満	27	9.1
	1週間未満	21	7.0
	1週間以上2週間未満	28	9.4
	2週間以上3週間未満	39	13.1
	3週間以上1ヶ月未満	36	12.1
	1ヶ月以上3ヶ月未満	51	17.1
	3ヶ月以上6ヶ月未満	38	12.8
	6ヶ月以上	58	19.5
	合計	298	100.0

Q 5 2. インターンシップ機関種別			
		度数	有効パーセント
有効	教育機関	59	21.1
	民間企業	160	57.3
	公的研究機関	40	14.3
	国際機関	8	2.9
	NPO	6	2.2
	その他	6	2.2
	合計	279	100.0

		Q 5 2. インターンシップ機関種別					
		教育機関	民間企業	公的研究機関	国際機関	NPO	その他
		度数	度数	度数	度数	度数	度数
Q 5 2. インターンシップ期間	3日未満	7	17	0	0	1	0
	1週間未満	4	11	2	0	0	0
	1週間以上2週間未満	7	17	3	0	0	0
	2週間以上3週間未満	5	24	6	1	1	0
	3週間以上1ヶ月未満	3	27	3	1	0	0
	1ヶ月以上3ヶ月未満	9	25	8	2	0	3
	3ヶ月以上6ヶ月未満	9	17	7	2	0	3
	6ヶ月以上	15	22	11	2	3	0

		Q 6. 博士分野（大分類）						
		理学	工学	農学	保健	人文	社会	その他
		度数	度数	度数	度数	度数	度数	度数
Q 5 4. 民間企業との共同研究	ある	70	330	70	119	9	24	28
	ない	427	441	151	437	149	153	152

Q55. 共同研究先企業の業種

Q55-1 共同研究先企業の業種			
	度数	有効パーセント	
該当しない	612	94.9	
該当する	33	5.1	
合計	645	100.0	

Q55-11 共同研究先企業の業種			
	度数	有効パーセント	
該当しない	630	97.7	
該当する	15	2.3	
合計	645	100.0	

Q55-21 共同研究先企業の業種			
	度数	有効パーセント	
該当しない	564	87.4	
該当する	81	12.6	
合計	645	100.0	

Q55-2 共同研究先企業の業種			
	度数	有効パーセント	
該当しない	640	99.2	
該当する	5	.8	
合計	645	100.0	

Q55-12 共同研究先企業の業種			
	度数	有効パーセント	
該当しない	622	96.4	
該当する	23	3.6	
合計	645	100.0	

Q55-22 共同研究先企業の業種			
	度数	有効パーセント	
該当しない	642	99.5	
該当する	3	.5	
合計	645	100.0	

Q55-3 共同研究先企業の業種			
	度数	有効パーセント	
該当しない	639	99.1	
該当する	6	.9	
合計	645	100.0	

Q55-13 共同研究先企業の業種			
	度数	有効パーセント	
該当しない	623	96.6	
該当する	22	3.4	
合計	645	100.0	

Q55-23 共同研究先企業の業種			
	度数	有効パーセント	
該当しない	641	99.4	
該当する	4	.6	
合計	645	100.0	

Q55-4 共同研究先企業の業種			
	度数	有効パーセント	
該当しない	615	95.3	
該当する	30	4.7	
合計	645	100.0	

Q55-14 共同研究先企業の業種			
	度数	有効パーセント	
該当しない	631	97.8	
該当する	14	2.2	
合計	645	100.0	

Q55-24 共同研究先企業の業種			
	度数	有効パーセント	
該当しない	625	96.9	
該当する	20	3.1	
合計	645	100.0	

Q55-5 共同研究先企業の業種			
	度数	有効パーセント	
該当しない	609	94.4	
該当する	36	5.6	
合計	645	100.0	

Q55-15 共同研究先企業の業種			
	度数	有効パーセント	
該当しない	622	96.4	
該当する	23	3.6	
合計	645	100.0	

Q55-25 共同研究先企業の業種			
	度数	有効パーセント	
該当しない	554	85.9	
該当する	91	14.1	
合計	645	100.0	

Q55-6 共同研究先企業の業種			
	度数	有効パーセント	
該当しない	584	90.5	
該当する	61	9.5	
合計	645	100.0	

Q55-16 共同研究先企業の業種			
	度数	有効パーセント	
該当しない	630	97.7	
該当する	15	2.3	
合計	645	100.0	

Q55-26 共同研究先企業の業種			
	度数	有効パーセント	
有効	該当しない	639	99.1
	該当する	6	.9
	合計	645	100.0

Q55-7 共同研究先企業の業種			
	度数	有効パーセント	
該当しない	592	91.8	
該当する	53	8.2	
合計	645	100.0	

Q55-17 共同研究先企業の業種			
	度数	有効パーセント	
該当しない	571	88.5	
該当する	74	11.5	
合計	645	100.0	

Q55-27 共同研究先企業の業種			
	度数	有効パーセント	
有効	該当しない	636	98.6
	該当する	9	1.4
	合計	645	100.0

Q55-8 共同研究先企業の業種			
	度数	有効パーセント	
該当しない	641	99.4	
該当する	4	.6	
合計	645	100.0	

Q55-18 共同研究先企業の業種			
	度数	有効パーセント	
該当しない	619	96.0	
該当する	26	4.0	
合計	645	100.0	

Q55-28 共同研究先企業の業種			
	度数	有効パーセント	
有効	該当しない	601	93.2
	該当する	44	6.8
	合計	645	100.0

Q55-9 共同研究先企業の業種			
	度数	有効パーセント	
該当しない	518	80.3	
該当する	127	19.7	
合計	645	100.0	

Q55-19 共同研究先企業の業種			
	度数	有効パーセント	
該当しない	603	93.5	
該当する	42	6.5	
合計	645	100.0	

Q55-10 共同研究先企業の業種			
	度数	有効パーセント	
該当しない	558	86.5	
該当する	87	13.5	
合計	645	100.0	

Q55-20 共同研究先企業の業種			
	度数	有効パーセント	
該当しない	593	91.9	
該当する	52	8.1	
合計	645	100.0	

		Q 6. 博士分野 (大分類)						
		理学	工学	農学	保健	人文	社会	その他
		度数	度数	度数	度数	度数	度数	度数
Q 5 6. 拠点事業採択	採択されていた	239	286	38	133	31	37	51
	採択されていなかった	156	224	106	200	76	87	63
	分からない	100	258	77	225	50	53	68

Q 5 7. 拠点事業による資金使用			
		度数	有効パーセント
有効	国内外での学会発表に要する費用	160	19.9
	海外での研究経験に要する費用	51	6.3
	あなた自身の研究に使用する費用 (実験機材や書籍等)	135	16.8
	TAやRA	280	34.8
	その他	35	4.4
	使用していない	143	17.8
	合計	804	100.0

Q 5 8. 拠点使用金額			
		度数	有効パーセント
有効	50万円未満	230	31.2
	50万円以上	138	18.7
	100万円未満		
	100万円以上	64	8.7
	150万円未満		
	150万円以上	35	4.7
	200万円未満		
	200万円以上	127	17.2
	分からない	144	19.5
	合計	738	100.0

		Q 6. 博士分野 (大分類)						
		理学	工学	農学	保健	人文	社会	その他
		度数	度数	度数	度数	度数	度数	度数
Q 5 9. 学費の免除	受けた	245	319	94	152	68	73	51
	受けなかった	244	436	120	403	89	101	128
	分からない	11	15	5	4	1	3	5

		学生3種別		
		一般学生	社会人学生	留学生
		度数	度数	度数
Q 5 9. 学費の免除	受けた	639	144	219
	受けなかった	929	494	98
	分からない	13	2	29

Q60. 学費の免除割合			
		度数	有効パーセント
有効	1/3未満	48	5.8
	1/3以上2/3未満	178	21.4
	2/3以上全額未満	32	3.9
	全額	112	13.5
	免除を受けていない	461	55.5
	合計	831	100.0

Q61. 博士課程段階学費免除の割合			
		度数	有効パーセント
有効	1/3未満	126	12.7
	1/3以上2/3未満	511	51.4
	2/3以上全額未満	126	12.7
	全額	168	16.9
	免除を受けていない	63	6.3
	合計	994	100.0

		Q60. 学費の免除割合				
		1/3未満	1/3以上2/3未満	2/3以上全額未満	全額	免除を受けていない
		度数	度数	度数	度数	度数
Q61. 博士課程段階学費免除の割合	1/3未満	15	8	2	5	66
	1/3以上2/3未満	11	123	8	18	275
	2/3以上全額未満	7	15	16	23	47
	全額	3	11	5	57	55
	免除を受けていない	12	20	1	9	17

		Q6. 博士分野（大分類）						
		理学	工学	農学	保健	人文	社会	その他
		度数	度数	度数	度数	度数	度数	度数
Q61. 博士課程段階学費免除の割合	1/3未満	25	29	14	27	11	11	9
	1/3以上2/3未満	136	153	49	89	25	33	26
	2/3以上全額未満	31	38	10	15	15	10	7
	全額	36	74	18	13	7	13	7
	免除を受けていない	17	19	3	8	10	5	1

Q62-1 課程継続の資金種別		
	度数	有効パーセント
利用しなかった	2404	95.8
利用した	105	4.2
合計	2509	100.0

Q62-2 課程継続の資金種別		
	度数	有効パーセント
利用しなかった	1569	62.5
利用した	940	37.5
合計	2509	100.0

Q62-3 課程継続の資金種別		
	度数	有効パーセント
利用しなかった	1978	78.8
利用した	531	21.2
合計	2509	100.0

Q62-4 課程継続の資金種別		
	度数	有効パーセント
利用しなかった	1413	56.3
利用した	1096	43.7
合計	2509	100.0

Q62-5 課程継続の資金種別		
	度数	有効パーセント
利用しなかった	1462	58.3
利用した	1047	41.7
合計	2509	100.0

Q62-6 課程継続の資金種別		
	度数	有効パーセント
利用しなかった	2469	98.4
利用した	40	1.6
合計	2509	100.0

Q62-7 課程継続の資金種別		
	度数	有効パーセント
利用しなかった	2112	84.2
利用した	397	15.8
合計	2509	100.0

Q62-8 課程継続の資金種別		
	度数	有効パーセント
利用しなかった	1458	58.1
利用した	1051	41.9
合計	2509	100.0

Q62-9 課程継続の資金種別		
	度数	有効パーセント
利用しなかった	1569	62.5
利用した	940	37.5
合計	2509	100.0

Q62-10 課程継続の資金種別		
	度数	有効パーセント
利用しなかった	1476	58.8
利用した	1033	41.2
合計	2509	100.0

Q62-11 課程継続の資金種別		
	度数	有効パーセント
利用しなかった	2381	94.9
利用した	128	5.1
合計	2509	100.0

Q62-12 課程継続の資金種別		
	度数	有効パーセント
利用しなかった	2482	98.9
利用した	27	1.1
合計	2509	100.0

Q62-13 課程継続の資金種別		
	度数	有効パーセント
利用しなかった	1941	77.4
利用した	568	22.6
合計	2509	100.0

Q62-14 課程継続の資金種別		
	度数	有効パーセント
利用しなかった	2423	96.6
利用した	86	3.4
合計	2509	100.0

Q63_1 最も主要な資金種別			
		度数	有効パーセント
	フェローシップ	41	1.9
	奨学金（返済義務有）	370	16.8
	奨学金（返済義務無）	205	9.3
	TA	15	.7
	RA	124	5.6
	インターンシップ	5	.2
	借入金	69	3.1
	自身の個人資金	335	15.2
	課程中の上記以外の所得（アルバイト等）	270	12.2
	家族の援助	246	11.2
	雇用主の負担	64	2.9
	日本以外の国からの支援	11	.5
	日本学術振興会からの支援	427	19.4
	その他	24	1.1
	合計	2206	100.0

		Q6. 博士分野（大分類）						
		理学	工学	農学	保健	人文	社会	その他
		度数	度数	度数	度数	度数	度数	度数
Q63_1 最も主要な資金種別	フェローシップ	16	15	3	3	0	3	1
	奨学金（返済義務有）	95	87	44	55	34	26	29
	奨学金（返済義務無）	31	85	30	26	13	13	7
	TA	6	2	1	2	2	0	2
	RA	42	62	3	12	0	4	1
	インターンシップ	0	4	0	1	0	0	0
	借入金	15	20	9	9	5	11	0
	自身の個人資金	26	112	21	96	16	36	28
	課程中の上記以外の所得（アルバイト等）	18	11	10	167	14	12	38
	家族の援助	56	61	24	39	29	22	15
	雇用主の負担	1	46	8	4	2	1	2
	日本以外の国からの支援	1	8	2	0	0	0	0
	日本学術振興会からの支援	145	151	34	48	17	21	11
その他	3	15	2	2	0	0	2	

Q64. 学士借入金			
		度数	有効パーセント
有効	100万円未満	49	2.3
	100万円以上	93	4.3
	200万円未満		
	200万円以上	172	7.9
	300万円未満		
	300万円以上	46	2.1
	400万円未満		
	400万円以上	37	1.7
	500万円未満		
	500万円以上	35	1.6
	借入金はない	1745	80.2
	合計	2177	100.0

Q65. 修士・博士借入金			
		度数	有効パーセント
有効	100万円未満	56	2.3
	100万円以上	160	6.6
	200万円未満		
	200万円以上	158	6.5
	300万円未満		
	300万円以上	84	3.5
	400万円未満		
	400万円以上	147	6.0
	500万円未満		
	500万円以上	209	8.6
	借入金はない	1619	66.5
	合計	2433	100.0

		Q 6. 博士分野 (大分類)						
		理学	工学	農学	保健	人文	社会	その他
		度数	度数	度数	度数	度数	度数	度数
Q 6 4. 学士借入金	100万円未満	9	15	7	6	2	5	5
	100万円以上200万円未満	22	29	10	15	8	2	7
	200万円以上300万円未満	50	40	10	30	20	13	9
	300万円以上400万円未満	19	3	4	14	1	3	2
	400万円以上500万円未満	9	14	5	7	0	1	1
	500万円以上	5	8	2	7	0	8	5
	借入金はない	343	554	157	346	118	123	104

		Q 6. 博士分野 (大分類)						
		理学	工学	農学	保健	人文	社会	その他
		度数	度数	度数	度数	度数	度数	度数
Q 6 5. 修士・博士借入金	100万円未満	13	15	7	7	2	9	3
	100万円以上200万円未満	49	45	11	20	17	11	7
	200万円以上300万円未満	50	44	16	21	16	7	4
	300万円以上400万円未満	17	24	7	14	6	11	5
	400万円以上500万円未満	44	32	20	22	6	11	12
	500万円以上	37	50	14	44	23	26	15
	借入金はない	271	525	136	383	85	99	120

		Q 6 4. 学士借入金						
		100万円未満	100万円以上200万円未満	200万円以上300万円未満	300万円以上400万円未満	400万円以上500万円未満	500万円以上	借入金はない
		度数	度数	度数	度数	度数	度数	度数
Q 6 5. 修士・博士借入金	100万円未満	7	4	5	2	0	1	27
	100万円以上200万円未満	7	21	22	5	5	3	88
	200万円以上300万円未満	4	11	39	6	3	2	87
	300万円以上400万円未満	5	3	9	4	0	2	59
	400万円以上500万円未満	2	8	21	3	8	2	93
	500万円以上	7	19	32	14	11	16	97
	借入金はない	14	23	36	8	6	5	1261

Q 8 2. 結婚の状態			
		度数	有効パーセント
有効	結婚している (同居)	910	36.2
	結婚している (別居)	111	4.4
	結婚していない	1493	59.4
	合計	2514	100.0

Q 8 3. 扶養されている家族			
		度数	有効パーセント
有効	いる	666	26.5
	いない	1845	73.5
	合計	2511	100.0

Q 8 4 . 扶養家族の年齢別の人数 5歳以下			
		度数	有効パーセント
有効	0人	84	16.7
	1人	296	58.7
	2人	111	22.0
	3人	10	2.0
	4人	2	.4
	5人以上	1	.2
	合計	504	100.0

Q 8 4 . 扶養家族の年齢別の人数 19歳以上			
		度数	有効パーセント
有効	0人	113	28.5
	1人	218	55.1
	2人	44	11.1
	3人	15	3.8
	4人	3	.8
	5人以上	3	.8
	合計	396	100.0

Q 8 4 . 扶養家族の年齢別の人数 6歳以上18歳以下			
		度数	有効パーセント
有効	0人	129	36.2
	1人	132	37.1
	2人	83	23.3
	3人	10	2.8
	4人	1	.3
	5人以上	1	.3
	合計	356	100.0

			Q 8 4 . 扶養家族の年齢別の人数 19歳以上				
			0人	2人	3人	4人	5人以上
			度数	度数	度数	度数	度数
Q 8 4 . 扶養家族の年齢別の人数 5歳以下	0人	Q 8 4 . 扶養家族の年齢別の人数 6歳以上18歳以下	0	6	5	1	0
			7	2	0	0	0
			13	2	0	0	0
			4	0	0	0	0
			0	0	0	0	0
			0	0	0	0	0
			0	0	0	0	0
	1人	Q 8 4 . 扶養家族の年齢別の人数 6歳以上18歳以下	55	1	0	0	1
			7	1	0	0	0
			2	0	0	0	0
			0	0	0	0	0
			0	0	0	0	0
			0	0	0	0	0
			0	0	0	0	0
	2人	Q 8 4 . 扶養家族の年齢別の人数 6歳以上18歳以下	13	1	1	0	0
			8	0	0	0	0
			0	0	0	0	0
			0	0	0	0	0
			0	0	0	0	0
			0	0	0	0	0
			0	0	0	0	0
3人	Q 8 4 . 扶養家族の年齢別の人数 6歳以上18歳以下	1	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	
4人	Q 8 4 . 扶養家族の年齢別の人数 6歳以上18歳以下	1	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	
5人以上	Q 8 4 . 扶養家族の年齢別の人数 6歳以上18歳以下	1	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	

Q 8 5 . 国籍			
		度数	有効パーセント
有効	日本	2202	85.7
	アメリカ合衆国	1	.0
	ブラジル	8	.3
	北・中・南米 その他	4	.2
	英国	1	.0
	フランス	4	.2
	ドイツ	1	.0
	ロシア	1	.0
	欧州 その他	7	.3
	中国	151	5.9
	韓国	39	1.5
	タイ	14	.5
	インドネシア	19	.7
	ベトナム	16	.6
	バングラデシュ	15	.6
	インド	3	.1
	フィリピン	10	.4
	マレーシア	10	.4
	アジア（中東を含む）	50	1.9
	エジプト	5	.2
ケニア	1	.0	
アフリカ その他	6	.2	
合計		2568	100.0

Q 8 6 . 生年			
		度数	有効パーセント
有効	1960年以前	95	3.7
	1961年	23	.9
	1962年	19	.7
	1963年	23	.9
	1964年	18	.7
	1965年	21	.8
	1966年	22	.9
	1967年	26	1.0
	1968年	26	1.0
	1969年	24	.9
	1970年	39	1.5
	1971年	42	1.6
	1972年	42	1.6
	1973年	57	2.2
	1974年	55	2.1
	1975年	80	3.1
	1976年	101	3.9
	1977年	105	4.1
	1978年	133	5.2
	1979年	148	5.8
1980年	163	6.3	
1981年	186	7.2	
1982年	242	9.4	
1983年	352	13.7	
1984年	394	15.3	
1985年	120	4.7	
1986年	10	.4	
1987年	1	.0	
1988年	1	.0	
合計		2568	100.0

		Q 6 . 博士分野（大分類）						
		理学	工学	農学	保健	人文	社会	その他
		度数	度数	度数	度数	度数	度数	度数
Q 8 7 . 就職活動	ある	320	409	115	190	90	101	82
	ない	179	362	107	365	67	77	104

		学生3種別		
		一般学生	社会人学生	留学生
		度数	度数	度数
Q 8 7 . 就職活動	ある	1010	139	158
	ない	570	502	189

		学生3種別					
		一般学生		社会人学生		留学生	
		Q 8 1 . 性別		Q 8 1 . 性別		Q 8 1 . 性別	
		男	女	男	女	男	女
		度数	度数	度数	度数	度数	度数
Q 8 7 . 就職活動	ある	806	204	94	45	102	56
	ない	423	147	410	92	105	84

Q 8 8 . 社会人としての勤務経験			
		度数	有効パーセント
有効	1年未満	95	3.7
	1年以上3年未満	270	10.5
	3年以上5年未満	214	8.3
	5年以上	747	29.1
	なし	1240	48.3
	合計	2566	100.0

Q 8 8 . 博士課程修了後の予定			
		度数	有効パーセント
有効	現在の職の継続・復職を予定している	1018	39.7
	継続・復職する予定の職はない	1548	60.3
	合計	2566	100.0

		Q 8 7 . 就職活動	
		ある	ない
		度数	度数
Q 8 8 . 博士課程修了後の予定	現在の職の継続・復職を予定している	240	778
	継続・復職する予定の職はない	1065	483

		学生3種別		
		一般学生	社会人学生	留学生
		度数	度数	度数
Q 8 8 . 博士課程修了後の予定	現在の職の継続・復職を予定している	325	580	113
	継続・復職する予定の職はない	1253	61	234

Q 8 9 . 博士課程修了後の予定			
		度数	有効パーセント
有効	就職予定	1115	72.1
	就職の予定はない	432	27.9
	合計	1547	100.0

Q 8 9 . 博士課程修了後の予定 就職予定なし			
		度数	有効パーセント
有効	現在就職活動中	239	55.3
	今後就職活動を行う予定	138	31.9
	今後就職活動を行う予定はない	55	12.7
	合計	432	100.0

Q90. 就職活動期間中の日本国内の機関への応募

Q90_1国内・教育機関（大学、大学共同利用機関、高専・短大）			
		度数	有効パーセント
有効	応募した	618	47.5
	応募していない	683	52.5
	合計	1301	100.0

Q90_1国内・教育機関（幼稚園、養護学校、小・中・高等学校）			
		度数	有効パーセント
有効	応募した	44	3.4
	応募していない	1257	96.6
	合計	1301	100.0

Q90_1国内・教育機関（その他）			
		度数	有効パーセント
有効	応募した	40	3.1
	応募していない	1261	96.9
	合計	1301	100.0

Q90_4国内・公的研究機関			
		度数	有効パーセント
有効	応募した	278	21.4
	応募していない	1023	78.6
	合計	1301	100.0

Q90_5国内・民間企業（外国法人および日本企業の外国法人を除く）			
		度数	有効パーセント
有効	応募した	549	42.2
	応募していない	752	57.8
	合計	1301	100.0

Q90_6 国内・官公庁			
		度数	有効パーセント
有効	応募した	81	6.2
	応募していない	1220	93.8
	合計	1301	100.0

Q90_7国内・公益法人			
		度数	有効パーセント
有効	応募した	112	8.6
	応募していない	1189	91.4
	合計	1301	100.0

Q90_8 国内・その他			
		度数	有効パーセント
有効	応募した	76	5.8
	応募していない	1225	94.2
	合計	1301	100.0

Q91. 就職活動期間中の日本国外の機関への応募

Q91_1 国外・教育機関（大学相当、付属病院を含む）			
		度数	有効パーセント
有効	応募した	189	14.5
	応募していない	1112	85.5
	合計	1301	100.0

Q91_2 国外・教育機関（その他）			
		度数	有効パーセント
有効	応募した	36	2.8
	応募していない	1265	97.2
	合計	1301	100.0

Q91_3 国外・公的研究機関			
		度数	有効パーセント
有効	応募した	71	5.5
	応募していない	1230	94.5
	合計	1301	100.0

Q91_4 国外・民間企業（外国法人および日本企業の海外法人）			
		度数	有効パーセント
有効	応募した	74	5.7
	応募していない	1227	94.3
	合計	1301	100.0

Q91_5 国外・官公庁			
		度数	有効パーセント
有効	応募した	11	.8
	応募していない	1290	99.2
	合計	1301	100.0

Q91_6 国外・公益法人			
		度数	有効パーセント
有効	応募した	13	1.0
	応募していない	1288	99.0
	合計	1301	100.0

Q91_7 国外・その他			
		度数	有効パーセント
有効	応募した	32	2.5
	応募していない	1269	97.5
	合計	1301	100.0

		Q6. 博士分野（大分類）						
		理学	工学	農学	保健	人文	社会	その他
		度数	度数	度数	度数	度数	度数	度数
Q92. 2011年9月以降の進路	<就職先が日本国内>教育機関（国立大学法人、附属病院を含む）	109	112	27	177	19	28	56
	<就職先が日本国内>教育機関（公立大学、附属病院を含む）	5	5	1	19	3	3	6
	<就職先が日本国内>教育機関（私立大学、附属病院を含む）	26	33	7	75	28	33	30
	<就職先が日本国内>教育機関（大学共同利用機関）	7	3	1	0	1	0	0
	<就職先が日本国内>教育機関（高専・短大）	1	11	1	1	2	5	3
	<就職先が日本国内>教育機関（幼稚園、養護学校、小・中・高等学校）	11	0	0	0	4	4	6
	<就職先が日本国内>教育機関（その他）	0	3	0	5	2	1	0
	<就職先が日本国内>公的研究機関	31	53	25	11	7	5	11
	<就職先が日本国内>民間企業（外国法人および日本企業の外国法人を除く）	123	326	54	71	6	15	13
	<就職先が日本国内>官公庁	3	11	5	9	1	7	5
	<就職先が日本国内>公益法人（社団法人、財団法人、医療法人、NPO法人等）	10	13	5	56	2	5	12
	<就職先が日本国内>その他	14	13	6	38	4	4	15
	<就職先が日本国外>教育機関（大学相当、附属病院を含む）	29	62	29	33	9	12	8
	<就職先が日本国外>教育機関（その他）	2	3	0	1	0	0	0
	<就職先が日本国外>公的研究機関	8	10	6	2	0	0	0
	<就職先が日本国外>民間企業（外国法人および日本企業の外国法人）	1	22	2	2	0	1	1
	<就職先が日本国外>官公庁	1	2	5	1	0	2	1
	<就職先が日本国外>公益法人	1	0	0	0	0	0	0
<就職先が日本国外>その他	3	3	0	4	0	1	2	

		Q 6. 博士分野 (大分類)						
		理学	工学	農学	保健	人文	社会	その他
		度数	度数	度数	度数	度数	度数	度数
Q 9 3. 就職予定先の所属(詳細)	農業	0	0	6	0	0	0	0
	漁業	0	0	0	0	0	0	0
	鉱業、採石業・砂利採取業	0	0	0	0	0	1	0
	建設業	0	27	4	1	1	0	0
	電気・ガス・熱供給・水道業	1	16	0	0	0	0	0
	情報通信業	16	42	2	0	0	3	1
	食料品、飲料・たばこ	1	2	8	1	0	0	0
	パルプ・紙	2	0	0	0	0	0	0
	医薬品・化粧品	30	6	15	37	0	1	1
	化学その他	22	41	6	3	0	0	1
	石油製品	1	2	0	0	0	0	0
	ゴム・プラスチック	0	2	0	0	0	0	0
	鉄鋼	2	15	0	0	0	0	0
	非鉄金属	0	5	0	0	0	0	0
	金属製品	1	4	0	0	0	0	0
	業務用機械器具	3	12	1	0	0	0	0
	電子部品・デバイス	7	46	1	0	0	0	0
	輸送用機械器具	4	18	1	1	0	1	0
	情報通信機器	1	24	0	0	0	2	0
	電気機械器具	11	32	0	0	0	2	0
	その他製造業	4	30	1	0	0	0	0
金融業・保険業	5	4	0	0	0	3	0	
輸業・郵便業	0	0	1	0	0	1	0	
教育・学習支援業	0	2	3	1	1	0	0	
医療・福祉	4	2	0	27	0	0	8	
生活関連サービス業・娯楽業	0	0	1	0	0	0	0	
複合サービス事業	3	8	3	1	0	1	1	
その他	6	8	3	1	4	1	2	

		Q 6. 博士分野 (大分類)						
		理学	工学	農学	保健	人文	社会	その他
		度数	度数	度数	度数	度数	度数	度数
Q 9 4. 就職予定の職種	ポストドクター	164	139	47	69	17	21	19
	大学教員(専任)	30	101	26	70	27	53	27
	大学教員(その他)	9	14	3	29	14	12	10
	上記以外の研究・開発職	3	15	8	11	6	0	3
	教育関係職	14	5	2	6	5	6	6
	医師、歯科医師、獣医師、薬剤師	16	1	7	237	0	1	83
	上記以外の専門知識を要する職	14	25	7	23	7	5	7
	その他の非研究・開発職	20	63	16	11	5	19	6
	研究・開発職(ポストドクターを除く)	114	321	58	49	7	9	8

		Q 6. 博士分野（大分類）						
		理学	工学	農学	保健	人文	社会	その他
		度数	度数	度数	度数	度数	度数	度数
Q 9 5. 就職予定先での勤務形態	常勤	310	622	148	403	63	106	131
	非常勤	65	51	22	95	24	15	35

		Q 6. 博士分野（大分類）						
		理学	工学	農学	保健	人文	社会	その他
		度数	度数	度数	度数	度数	度数	度数
Q 9 6. 就職予定先での勤務任期の有無	任期あり	210	249	76	238	50	65	74
	任期なし	165	421	93	256	37	58	93

調査資料-217

博士課程修了者調査 2011:
我が国の博士課程における研究指導・教育に関する調査研究

2012年12月

文部科学省 科学技術政策研究所
第1調査研究グループ

〒100-0013

東京都千代田区霞が関 3-2-2 中央合同庁舎第7号館 東館 16階

TEL:03-3581-2395 FAX:03-3503-3996